

2019年度

# 履修要項

文学部

(2015年度以前入学者用)

立教大学

## 教務事項の伝達について

### I 掲示

大学から学生への連絡は、原則として掲示によって行う。掲示を確認しなかったために生じる不利益は、本人の責任となるので、登校時には必ず掲示を確認する習慣をつけること。掲示した事項については学生に伝達したものとみなす。掲示内容に疑問がある場合は、教務窓口で直接問い合わせる。電話や電子メールによる問い合わせには、一切応じない。

種類	設置場所	掲載内容
各学部・研究科掲示板	池袋キャンパス 教務事務センター前	■各学部生・各研究科学生への伝達事項
全学共通科目掲示板		■各学部科目・各研究科科目にかかわる伝達事項
教務全学用掲示板	新座キャンパス 7号館と4号館の間	■全学共通科目にかかわる伝達事項
f-Campus掲示板		■公示・学年暦等全学にかかわる伝達事項 ■f-Campusにかかわる伝達事項
インフォメーションボード	池袋キャンパス 5/8/14号館1階	■全学の休講
	新座キャンパス 1号館1階/4号館2階	■全学の教室変更(2週間分)・学生呼出

### II 教務関連ホームページ

#### ●SPIRIT 教務部ページ

⇒ [https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic\\_affairs/](https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/)

教務からのお知らせ、履修要項、シラバス・時間割、履修・成績参照、休講情報などが確認できる。

#### ●シラバス・時間割検索

⇒ <https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/>

開講科目のシラバス・時間割・科目コード・科目名・担当者・教室が確認できる。

#### ●履修登録/成績参照/履修登録状況

⇒ <https://r.rikkyo.ac.jp/> (ログイン時のID・パスワードはV-Campusと同じ)

履修登録(抽選登録・科目コード登録)、成績参照および当年度の履修登録状況について確認することができる。

※開講科目の変更内容・各登録システムマニュアルについても閲覧が可能。

### III 緊急時連絡

台風の接近等により、授業を平常通り行うことができないと判断した場合は、休講などの特別措置をとることがある。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認すること。

立教大学ホームページ

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

立教大学公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

立教大学 Twitter

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

※試験期間についても前記の措置をとることがある。

※大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示によって周知する。



## 履修要項は卒業まで大切に保管すること



この『2019年度 履修要項』は卒業まで使用します。大切に保管して活用してください。  
 また、学年暦や年度ごとに発生する変更、『2019年度 履修要項』配付後に発生した変更等については、履修ガイダンスや本学ホームページの教務部ページ等を通じてお伝えします。  
[https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic\\_affairs/](https://spirit.rikkyo.ac.jp/academic_affairs/)

## 2019年度 教務窓口について

学部・研究科等	窓口	場所	窓口時間 <sup>※1</sup> (授業期間中)
文・経済・理・社会・法・経営の各学部・研究科学生 異文化コミュニケーション学部・異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者を除く)の学生 グローバル・リベラルアーツ・プログラムの学生 キリスト教学研究科学生	池袋キャンパス 教務事務センター	池袋キャンパス タッカーホール1階	月～金 8:50～17:30 土 8:50～12:30
観光・コミュニティ福祉・現代心理の各学部・研究科学生	新座キャンパス 教務事務センター	新座キャンパス 7号館1階	
ビジネスデザイン・21世紀社会デザインの各研究科学生 異文化コミュニケーション研究科 (2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者)の学生	独立研究科事務室	池袋キャンパス 11号館4階	月～金 12:30～20:30 土 10:00～17:00
法務研究科学生	法務研究科事務室 <sup>※2</sup>	池袋キャンパス 11号館4階	月～金 8:50～17:00 土 8:50～12:30
教職・学芸員・司書・社会教育主事課程登録者	池袋キャンパス 学校・社会教育講座 事務室	池袋キャンパス 2号館1階	
	新座キャンパス 学校・社会教育講座 事務室	新座キャンパス 7号館1階	月～金 9:00～17:00 土 閉室

※1 授業期間中の通常窓口時間は上記のとおりである。授業期間とは、春学期・秋学期の授業開始日から最終授業日までをいう（オリエンテーション期間および定期試験期間は除く）。授業期間以外の窓口時間は、原則 月～金9:00～17:00、土9:00～12:30となる。また、特別な場合の窓口時間については、ホームページおよび掲示によって周知する。

※2 学生証・学籍に関する事項は、池袋キャンパス教務事務センターにて取り扱う。

## 2016年度以降の科目変更・廃止等について

2016年度以降の入学者を対象に、各学科および全学共通カリキュラムにおいて、新カリキュラムが導入されました。2015年度以前の入学者に適用されるカリキュラムは変わりませんが、2016年度以降、科目の変更・廃止等が生じる場合があります。この点に留意し、計画的な履修を心がけてください。

# 2019年度 文学部 行事予定 (春学期)

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定																																																	
2019 <b>3</b> March <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							28日(木) 27日(水)~29日(金)	成績発表 (Web) 履修要項配付
日	月	火	水	木	金	土																																													
					1	2																																													
3	4	5	6	7	8	9																																													
10	11	12	13	14	15	16																																													
17	18	19	20	21	22	23																																													
24	25	26	27	28	29	30																																													
31																																																			
<b>4</b> April <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30					1日(月)または3日(水) 3日(水) 2日(火)~11日(木) 2日(火)~5日(金) 7日(日) 7日(日)・8日(月) 9日(火) 12日(金)18:00~ 4日(木)~6日(土) 10日(水) 16日(火)・17日(水) 18日(木)18:00~ 25日(木) 29日(月) 30日(火)	履修ガイダンス 2~4年次 ※学科・専修により異なる 英語単位認定試験 試験時間・試験場発表 (予定) 4月期 履修登録期間 科目コード登録期間 抽選登録1次申込期間 抽選登録1次結果発表 抽選登録2次申込期間 抽選登録2次結果発表 履修登録科目の確認 ★1 入学式 ※学部により異なる <b>春学期・春学期1 授業開始</b> 4月期 履修登録修正期間 履修登録科目の確認 ★1 申し出期限 <b>授業日 ★2</b> <b>授業日 ★2</b>							
日	月	火	水	木	金	土																																													
	1	2	3	4	5	6																																													
7	8	9	10	11	12	13																																													
14	15	16	17	18	19	20																																													
21	22	23	24	25	26	27																																													
28	29	30																																																	
<b>5</b> May <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		4日(土) 6日(月) 11日(土)3時限以降 18日(土) 31日(金)	<b>授業日 ★2</b> <b>授業日 ★2</b> 補講日 *実施科目発表は5月4日(土) 春学期1末試験 実施方法発表 (予定) 春学期1 授業終了							
日	月	火	水	木	金	土																																													
			1	2	3	4																																													
5	6	7	8	9	10	11																																													
12	13	14	15	16	17	18																																													
19	20	21	22	23	24	25																																													
26	27	28	29	30	31																																														

- ★1 履修登録状況画面 (Web) にて確認すること。
  - ★2 各祝日にその曜日の授業を行う。
- ・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。  
 ・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー ■ 休日・祝日    ◯ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定																																																	
<div style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">6</div> <div style="text-align: center;">June</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							1日(土)～7日(金) 1日(土) 1日(土)3時限以降 8日(土) 29日(土)3時限以降	春学期1 レポート提出期間 春学期2 授業開始 補講日 *実施科目発表は5月24日(金) 英語単位認定試験実施 補講日 *実施科目発表は6月21日(金)
日	月	火	水	木	金	土																																													
						1																																													
2	3	4	5	6	7	8																																													
9	10	11	12	13	14	15																																													
16	17	18	19	20	21	22																																													
23	24	25	26	27	28	29																																													
30																																																			
<div style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">7</div> <div style="text-align: center;">July</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				1日(月) 15日(月) 19日(金) 2日(火) 13日(土)～19日(金) 20日(土)～26日(金) 20日(土)～31日(水)	英語単位認定試験合格者発表 <b>授業日★2</b> <b>春学期・春学期2 授業終了</b> 日程・実施方法・試験場発表(予定) <b>春学期末試験</b> 最終授業時試験期間 レポート提出期間(春学期1開講科目を除く) 定期試験期間							
日	月	火	水	木	金	土																																													
	1	2	3	4	5	6																																													
7	8	9	10	11	12	13																																													
14	15	16	17	18	19	20																																													
21	22	23	24	25	26	27																																													
28	29	30	31																																																
<div style="text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">8</div> <div style="text-align: center;">August</div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1日(木)～9月19日(木) 27日(火)	夏季休業期間 春学期末追試験 対象者・試験方法・時間割発表							
日	月	火	水	木	金	土																																													
				1	2	3																																													
4	5	6	7	8	9	10																																													
11	12	13	14	15	16	17																																													
18	19	20	21	22	23	24																																													
25	26	27	28	29	30	31																																													

★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

# 2019年度 文学部 行事予定 (秋学期)

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定																																										
9 September <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						5日(木)	春学期成績発表 (Web)
	日	月	火	水	木	金	土																																					
	1	2	3	4	5	6	7																																					
	8	9	10	11	12	13	14																																					
	15	16	17	18	19	20	21																																					
	22	23	24	25	26	27	28																																					
	29	30																																										
	5日(木)~12日(木)	春学期末追試験 試験期間																																										
	12日(木)	英語単位認定試験試験時間・試験場発表 (予定)																																										
	12日(木)~21日(土)	9月期 履修登録 期間	科目コード登録期間																																									
	12日(木)~15日(日)		抽選登録1次申込期間																																									
	17日(火)		抽選登録1次結果発表																																									
	17日(火)・18日(水)		抽選登録2次申込期間																																									
	19日(木)		抽選登録2次結果発表																																									
23日(月)18:00~	履修登録科目の確認 ★1																																											
19日(木)	特別卒業式																																											
20日(金)	<b>秋学期・秋学期1 授業開始</b>																																											
23日(月)	<b>授業日 ★2</b>																																											
26日(木)・27日(金)	9月期 履修登録 修正期間	履修登録修正期間																																										
28日(土)18:00~		履修登録科目の確認 ★1																																										
10月5日(土)		申し出期限																																										
10 October <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table>	日	月	火	水	木	金	土			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			4日(金)	全日休講
	日	月	火	水	木	金	土																																					
			1	2	3	4	5																																					
	6	7	8	9	10	11	12																																					
	13	14	15	16	17	18	19																																					
	20	21	22	23	24	25	26																																					
	27	28	29	30	31																																							
	14日(月)	<b>授業日 ★2</b>																																										
	16日(水)	全日休講 (スポーツフェア)																																										
	19日(土)3時限以降	補講日 *実施科目発表は10月11日(金)																																										
22日(火)	<b>授業日 ★2</b>																																											
30日(水)	秋学期1末試験 実施方法発表(予定)																																											
31日(木)~11月5日(火)	秋季臨時休業期間(学園祭)																																											
11 November <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> </table> ※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	9日(土)	英語単位認定試験実施
	日	月	火	水	木	金	土																																					
						1	2																																					
	3	4	5	6	7	8	9																																					
	10	11	12	13	14	15	16																																					
	17	18	19	20	21	22	23																																					
	24	25	26	27	28	29	30																																					
	15日(金)	秋学期1 授業終了																																										
18日(月)~23日(土)	秋学期1 レポート提出期間																																											
16日(土)	<b>秋学期2 授業開始</b>																																											
16日(土)	秋季入学試験 ※池袋キャンパス開講科目のみ全日休講																																											
23日(土)	<b>授業日 ★2</b>																																											
23日(土)3時限以降	補講日 *実施科目発表は11月15日(金)																																											
26日(火)	全日休講																																											

- ★1 履修登録状況画面 (Web) にて必ず確認すること。
- ★2 各祝日にその曜日の授業を行う。

・次年度の学年始め行事予定の詳細は1月中旬に各学部等掲示板にて発表する。  
 ・各種申込の受付時間については、必ず別途確認すること。

カレンダー ■ 休日・祝日 □ 休日・祝日授業日 ▲ 全日休講日	日程	行事予定																																										
<div style="text-align: center;"> <h1>12</h1> <p>December</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>▲4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>▲23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	▲4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	▲23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月) 4日(水) 7日(土)～16日(月) 12日(木) 14日(土)3時限以降 23日(月) 24日(火)～1月4日(土)	英語単位認定試験合格者発表 <b>全日休講</b> 卒業論文提出期間 *受付最終日は15:00締切 秋学期末・学年末試験 日程・実施方法・試験場発表(予定) 補講日 *実施科目発表は12月6日(金) <b>全日休講</b> 冬季休業期間
日	月	火	水	木	金	土																																						
1	2	3	▲4	5	6	7																																						
8	9	10	11	12	13	14																																						
15	16	17	18	19	20	21																																						
22	▲23	24	25	26	27	28																																						
29	30	31																																										
<div style="text-align: center;"> <h1>1</h1> <p>January</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18*</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr> </table> <p><small>※新座キャンパス開講科目のみ全日休講</small></p> </div>	日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18*	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		18日(土) 22日(水) 16日(木)～22日(水) 23日(木)～29日(水) 23日(木)～2月3日(月) 17日(金) 27日(月)～2月1日(土)	大学入試センター試験 ※新座キャンパス開講科目のみ全日休講 <b>秋学期・秋学期2 授業終了</b> 秋学期末・学年末試験 最終授業時試験期間 レポート提出期間(秋学期1開講科目を除く) 定期試験期間 卒業論文最終面接日程発表 卒業論文最終面接期間
日	月	火	水	木	金	土																																						
			1	2	3	4																																						
5	6	7	8	9	10	11																																						
12	13	14	15	16	17	18*																																						
19	20	21	22	23	24	25																																						
26	27	28	29	30	31																																							
<div style="text-align: center;"> <h1>2</h1> <p>February</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> </table> </div>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	18日(火) 28日(金)	秋学期末・学年末追試験 対象者・試験方法・時間割発表 卒業合格者(在学8学期以上の者)発表(Web)
日	月	火	水	木	金	土																																						
						1																																						
2	3	4	5	6	7	8																																						
9	10	11	12	13	14	15																																						
16	17	18	19	20	21	22																																						
23	24	25	26	27	28	29																																						
<div style="text-align: center;"> <h1>3</h1> <p>March</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr><th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> </div>	日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					2日(月)～7日(土) 13日(金) 23日(月) 24日(火) 24日(火)・25日(水)	秋学期末・学年末追試験 試験期間 成績発表(Web) 卒業礼拝(新座) 卒業礼拝(池袋) 卒業式 ※学部により異なる
日	月	火	水	木	金	土																																						
1	2	3	4	5	6	7																																						
8	9	10	11	12	13	14																																						
15	16	17	18	19	20	21																																						
22	23	24	25	26	27	28																																						
29	30	31																																										

## 2019年度 文学部 ガイダンス日程

### ◇2～4年次ガイダンス

履修要項 [各学部・全学共通カリキュラム] は3月27日(水)～3月29日(金)に10号館1階X105教室で配付します。  
ガイダンス会場では配付しませんので、必ずガイダンス会場に持参してください。

#### 4月1日(月)

学科・専修	年次	時間	教室
ドイツ文学	2	13:30～14:30	5221
	3・4	14:30～15:30	

#### 4月3日(水)

学科・専修	年次	時間	教室
キリスト教	2・3・4	13:00～14:00	D301
英米文学	2・3・4	13:00～14:00	5123
フランス文学	2・3・4	13:00～14:00	7102
日本文学	2・3・4	13:00～14:00	5121
文芸・思想	2・3・4	13:00～14:00	7101
史	2・3・4	13:00～14:00	4402

学科・専修	年次	時間	教室
教育	2・3・4 下記のうち、所属の課程のガイダンスに出席のこと。 2年次生は両方とも出席することが望ましい。		
	【教育学】	13:00～14:00	D401
	【初等教育】	14:00～15:00	

※「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」を履修する4年次生は、必ずガイダンスに出席すること。



2019年度  
**履修要項**  
文学部

文学部基幹科目

キリスト教学科

英米文学専修

ドイツ文学専修

フランス文学専修

日本文学専修

文芸・思想専修

史学科

教育学科

諸規則

個人情報保護

各種案内

教員一覧

案内図

文  
学  
科

# 目次

教務事項の伝達について  
教務窓口について  
行事予定  
ガイダンス日程  
文学部で学ぶということ  
学位授与方針

## 文学部全学生にかかわる事項

I-1	カリキュラムのしくみ（2012～2015年度1年次入学者に適用）	16
I-2	カリキュラムのしくみ（2010・2011年度1年次入学者に適用）	18
I-3	カリキュラムのしくみ（2006～2009年度1年次入学者に適用）	20
II	授業（学習生活）	22
	1 学期・授業	
	2 授業時間	
	3 休講	
	4 補講	
	5 授業の欠席について	
	6 学校感染症に罹患した場合の措置について	
	7 裁判員制度に伴う場合の措置について	
III-1	履修規定（単位）	25
	1 単位制度	
	2 卒業要件単位	
	3 科目区分	
III-2	履修規定（履修についての注意事項）	27
	1 全体についての注意事項	
	2 卒業論文（制作）各種規定	
	3 他学部等科目・他学科科目・他専修科目・f-Campus科目・大学院科目の履修について	
	4 派遣留学生・認定校留学生の履修	
	5 全学共通カリキュラム言語教育科目「言語副専攻」学部展開科目について	
III-3	履修規定（カリキュラムの一部改定について）	36
III-4	履修規定（単位認定）	49
	1 派遣留学制度による単位認定	
	2 認定校留学制度・文学部留学プログラムによる単位認定	
	3 3年次編入学者、転部・転科・転専修者の履修免除・単位認定について	
	4 入学後に他大学等で修得した単位の認定	
IV	学習計画の立て方・アドバイザー	52
	1 学習計画の立て方	
	2 アカデミックアドバイザー・オフィスアワー	
V	履修登録	53
	1 履修登録とは	
	2 履修登録の流れ	
	3 履修届出方法	
	4 登録科目の確認について	
	5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認	
	6 必修科目履修辞退制度	

VI	試験・成績	64
	1 試験に関する規定	
	2 試験方法	
	3 筆記試験	
	4 口頭試問	
	5 レポート	
	6 追試験	
	7 試験時間重複特別試験	
	8 不正行為	
	9 成績	
VII	卒業に関する事項	76
	1 卒業および学位に関する規定	
	2 最長在学年数	
	3 卒業合否の発表	
	4 卒業の延期（希望留年）	
	5 特別卒業	
VIII	学生証・学籍・学費	78
	1 学生証	
	2 学籍	
	3 休学・復学	
	4 退学	
	5 希望留年（学部4年次生のみ）	
	6 特別卒業	
	7 再入学	
	8 学費	
IX	5大学間単位互換制度（通称f-Campus）	84
	1 履修登録	
	2 授業	
	3 試験・成績・単位認定	
	4 学費等	
	5 その他	

**学科・専修ごとの履修規定・カリキュラム（2010～2015年度1年次入学者，2012～2017年度3年次編入学者）**

文学部専門教育課程について	88
文学部基幹科目	92
キリスト教学科	94
文学科 英米文学専修	102
文学科 ドイツ文学専修	112
文学科 フランス文学専修	122
文学科 日本文学専修	132
文学科 文芸・思想専修	142
史学科	152
教育学科	168
教育学専攻課程	170
初等教育専攻課程	178

## 諸 規 則

1 立教大学学則（抜粋）	191
2 立教大学学位規則（抜粋）	194
3 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書	196
4 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書	197

## 個人情報保護

プライバシーポリシー 立教大学における個人情報の取扱いについて	201
---------------------------------	-----

## 各 種 案 内

1 教務部案内	205
2 パソコン教室、貸出パソコン利用案内	206
3 V-Campus案内	207
4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置	208
5 地震発生時の心得	208
6 台風の接近が予想される場合の措置	208
7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応	208
8 緊急連絡システムについて	209

## 教 員 一 覧

文学部担当専任教員一覧	212
-------------	-----

## 案 内 図

構内案内図・教室案内図（池袋キャンパス）	217
構内案内図・教室案内図（新座キャンパス）	222

---

こんなときは

# 文学部で学ぶということ

文学部長 西原 廉太

立教大学はリベラルアーツ (Liberal Arts) を大切にしている大学です。リベラルアーツとは、人間とは何か、世界とは何かを読み解く学問の技法です。立教大学文学部の英語表記は“College of Arts”といいます。すなわち文学部はリベラルアーツそのものを徹底して探求する“College”であり、そういう意味では立教大学の根幹を支える学部でもあるのです。ぜひともそのようなプライドをもって学んでいただければと思います。立教大学文学部には、キリスト教学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、日本文学、文芸・思想、世界史、日本史、超域文化学、教育学、それぞれの学問領域を代表する一線級の教授陣が揃っています。つまり、時代を超え、空間を超えて真理を探究することのできる「場」が立教大学文学部です。文学部のカリキュラムは、学科・専修の枠を超えた履修が可能ないようにつくられています。文学部が用意しているこれらのリソース (学問的資源) をフルに活用し尽くしてください。

2005年に、立教大学文学部は、立教を創設した米国聖公会を代表するフランク・グリズウォルド総裁主教に名誉博士学位 (Doctor of Humanities) を授与いたしました。そのグリズウォルド総裁主教は、聖公会が大学を設立する意味をこのように述べておられます。「大学とは真理を味わう場であり、学生、教員とは真理を探究する旅人だ。大学は学生の“character”を形成する場だ。“character”とは単に、性格とか人格ということではなく、〈自らの弱さや不確かさを自覚する変化を恐れない精神〉を意味する。だからこそ大学は真理を探究するために常に開かれていなければならない。閉じられてはならない。自らが試される、自らが否定されることを恐れてはならない。ことにキリスト教を規範とする大学はそのような意味で〈危険な場〉でなければならないのだ」。

立教大学文学部の課題とは、まさしくこのような意味において、〈危険な場〉となることです。批判すること、批判されることを恐れず、真理とは何かにこだわり続けること。自己の存在を知り、他者の存在に気づき、人間を学び、世界を読み解くこと。いわゆる「常識」「定説」を疑うこと。「権威」を問い、相対化させること。教授の語ることもすらも鵜呑みにするのではなく、自らオリジナルの原書・原文、第一次資料にあたり、読み、確かめること。そのためにも、必要な言語を修得する必要があります。日本にないものであれば、実際に海外にまで出かけていき、自分の目で確かめなければなりません。立教大学文学部の学生のみなさんには、そのようにして“character”をつくりあげていただきたいと願います。

このことは、教員と学生との協働的営為があって初めて実現するものです。最初に紹介したように、立教大学文学部は“College”です。“College”とは、12、13世紀に修道院から派生したもので、教員と学生が共に祈り、共に生活し、共に学ぶ空間のことでした。現在、立教は残念ながら全寮制ではありませんが、わたしたちは、“College”の理念を大切にしたいと思います。ご一緒に、真理を探究する無限の旅を楽しみましょう。

2019年4月1日

## 文学部 学位授与方針

### 教育目的

世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや事象に触れることを通じて、幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされ、主体的な批評精神をもって社会に貢献できる人間を育てる。

### 学修成果

「学士（文学）」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

1. キリスト教精神に裏打ちされた人文学の発想を幅広く深く身につけること
2. テキストを正確に読解できること
3. テキストについての自らの解釈を説得的かつ論理的に口頭ならびに文章で表現できること
4. 複数のテキストや事象にわたる主題について、その細部を首尾一貫して分析しさらにその成果を総合する思考力を持つこと
5. 他者を理解するための柔軟かつ粘り強い思考力を持つこと

以上に加えて、各学科・専修ごとにそれぞれの教育目標を記せば、

1. キリスト教学科ではキリスト教の歴史と文化について広く深い理解を持ち、宗教と社会の関連性を洞察できる能力を身につけることを目標とする。
2. 文学科は、言葉による人類の遺産を知り、文化創造の源に参加する。  
英米文学専修では、英語および英米文学・文化について広く深い理解を持つ。  
ドイツ文学専修では、ドイツ語およびドイツ語圏の文学・文化について広く深い理解を持つ。  
フランス文学専修では、フランス語およびフランス語圏の文学・文化について広く深い理解を持つ。  
日本文学専修では、古今の日本語および日本文学・文化について広く深い理解を持つ。  
文芸・思想専修では、言語表現力に広く深い理解を持ち、哲学的思考を行い、それを論理的あるいは文芸的形式をもって表現できる。
3. 史学科は、過去を知り未来を志向するなかで、総合的な人間理解に達することを目標とする。  
日本史学専修では、日本に関する史料に基づく歴史研究の手法および発想を身につける。  
世界史学専修では、大陸世界と海域世界の史料に基づく歴史研究の手法および発想を身につける。  
超域文化学専修では、複合社会文化論、文化人類学、アメリカ社会史、地域研究論、文化環境学の研究手法および発想を身につける。
4. 教育学科では、深く思考するための視点と研究方法を身につけ、幅広く教育学及び教育事象について理解する。とりわけ、教育学専攻課程では教育学の方法論について理解し、基礎的な研究方法と思考方法を身につける。初等教育専攻課程では、教育学についての理解をもとに、小学校教員としての知識と技能を身につけることを目標とする。

### 学修環境

上記のような学修成果をもたらすために、以下のような学修環境を提供する。

#### 【正課】

文学部では、学生の自主性・主体性を重視し、教員とともに学問に取り組み、自ら問題を発見してそれを解決する経験を積ませ、その能力を育てることをカリキュラム作成の基本精神としている。すなわち、広く複合的学問体験を持たせ、各自の学問的関心を喚起し、その知的主体性を涵養するために、文学部は正課において以下の工夫を行っている。

1. 入試を学科ごとあるいは専修ごと（史学科を除く）に行うことによって、入学時から学生の学問的関心を明確化させ出発点の基盤を自覚させる。
2. 全学科・専修共通の「基幹科目」を独自の科目群として設定すると同時に、すべての学科・専修の講義科目を文学部学生全体が受講できるような体制を取っている。
3. 「基幹科目」の「合同講義」では、複数教員担当による複合授業も展開されている。他学部科目や大学院科目も所属学科・専修の承認があれば、一定範囲内で卒業要件に組み入れることができる。
4. 4年間の幅広い一方で各自の関心によって特化され深化された学習に基づき、出発点からの学習軌跡によって必然性が認められれば、最終成果としての卒業論文・制作は所属学科・専修以外の専任教員の指導も受けることがで

きるようにしている。

5. 通常の学生指導は、1年次から4年次まで毎学年履修可能な演習科目群、特定の教員の指導の下に自主研究で単位取得を目指す「フィールドワーク」科目群などを中心に行われる。それ以外に恒常的なオフィスアワーや教員研究室近くに設けられた学生の自由研究スペースなどの活用により多彩な指導が行われている。それによって、学生教員間の距離が限りなく小さく、顔の見えるコミュニケーション頻度の高い教育が展開されている。
6. 卒業後の将来や人文的教養を持って社会的貢献する方法を考えさせる「職業と人文学」を2年次必修で課し、3年次・4年次には「インターンシップ」科目を選択できるように用意し、学生たちが学習と実生活とのつながりを主体的に自ら構築するよう促している。

#### 【正課外】

文学部は正課外活動に関しては学生の自主性に任せているが、伝統的に学生をよく把握しており、正課外での学生との接触機会が多いのが特色である。

1. 文学部関係の各種講演会、シンポジウム、そのほかの学術的行事は年間30件程度催されており、高い頻度で学生たちに学内外の高い学問・文化に接する機会を提供している。
2. 文学部教員が引率する学外行事も数多く開催され、ゼミ合宿などの国内での研究・研修ツアーや海外での語学研修あるいは発掘・見学などの学習ツアーも多くの参加学生を得て実施されている。
3. 海外留学の機会も多く提供されており、協定校留学では留学先の授業料が免除される。それ以外の大学に留学する学生にも独自の奨学金を与えるなどして、学生の海外体験を促進している。
4. 学内での学生部をはじめ各部局が主催する多様な学生参加プログラムには積極的に参加するよう促しており、多様な経験を積ませている。その中には学内でのボランティア活動、大学が所属する地域貢献のための活動や、地方や海外での多様なボランティア活動がある。
5. 文学部教員の多くが学生の組織する体育会運動部や文化系研究会・サークルの部長・顧問を務めており、文学部教員は他学部学生を含めて日ごろから正課外においても学生と接する機会が多い。





# 文学部 全学生に かかわる事項

2006～2015年度1年次入学者に適用  
(2008～2017年度3年次編入学者に適用)

文学部で学ぶということ

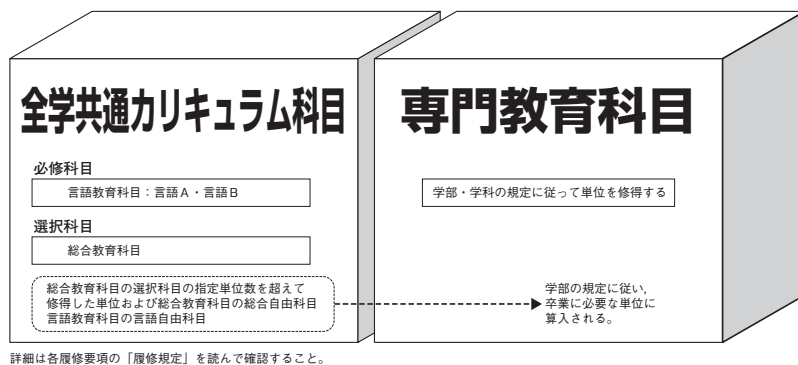
学位授与方針

- I-1 カリキュラムのしくみ (2012～2015年度1年次入学者に適用)
- I-2 カリキュラムのしくみ (2010・2011年度1年次入学者に適用)
- I-3 カリキュラムのしくみ (2006～2009年度1年次入学者に適用)
- II 授業 (学習生活)
- III-1 履修規定 (単位)
- III-2 履修規定 (履修についての注意事項)
- III-3 履修規定 (カリキュラムの一部改定について)
- III-4 履修規定 (単位認定)
- IV 学習計画の立て方・アドバイザー
- V 履修登録
- VI 試験・成績
- VII 卒業に関する事項
- VIII 学生証・学籍・学費
- IX 5大学間単位互換制度 (通称f-Campus)

# カリキュラムのしくみ

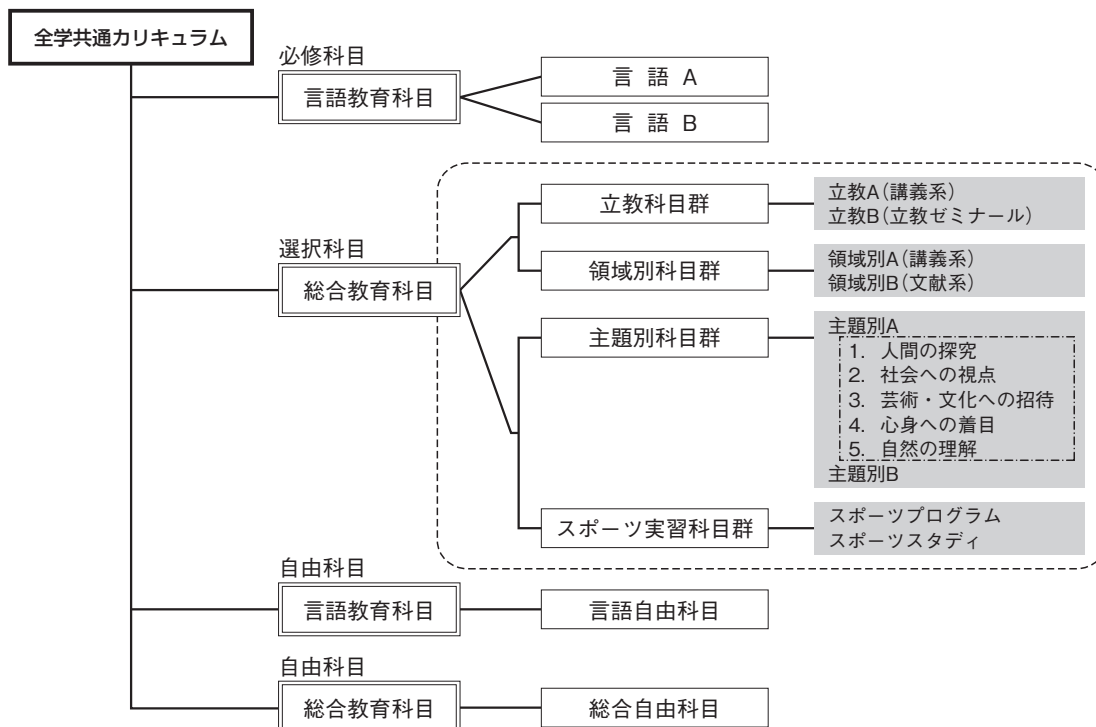
## 1 カリキュラム体系

本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目の双方から修得しなければならない。



## 2 全学共通カリキュラム科目の構成

全学共通カリキュラム科目（以下全カリ科目）は次のように必修科目・選択科目・自由科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。なお、総合教育科目として選択科目以外に総合自由科目が開講されており、言語教育科目として必修科目以外に言語自由科目が10言語について開講されている。



### 3 全カリ科目の履修の仕方

必修科目は、1年次に履修する「言語教育科目」の「言語A」、「言語B」の2言語について修得しなければならない。言語教育科目には、さらに学習を深めたり、新しい言語に挑戦したりするための「言語自由科目」も設置されている。詳細は、全学共通カリキュラム履修要項を確認すること。

「総合教育科目」には、選択科目と自由科目（2012年度以降1年次入学者・2014年度以降3年次編入学者対象）とがあり、選択科目は「立教科目群」「領域別科目群」「主題別科目群」「スポーツ実習科目群」の4科目群で構成されている。選択科目は1～4年次すべての学年において履修が認められている。[注意]

総合自由科目は、立教大学の社会的な使命や課題を強く意識した全学的な取り組み（プロジェクト）のために設けられているもので、履修できる学部・学年等が制限されたり、先修規定があったり、語学能力に一定の制限が設けられたりすることがある（2 全学共通カリキュラム科目の構成 の図を参照）。

履修にあたっては、下表のように定められたそれぞれの区分から、卒業に必要な単位数を修得しなければならない。

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
必修科目	10	言語教育科目 言語A	6
		言語教育科目 言語B	4
選択科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6
		総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）	
		総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B	14
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ	

[注意] 「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリ言語自由科目および総合自由科目で修得した単位および全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規程の範囲内で卒業要件単位として認められる。

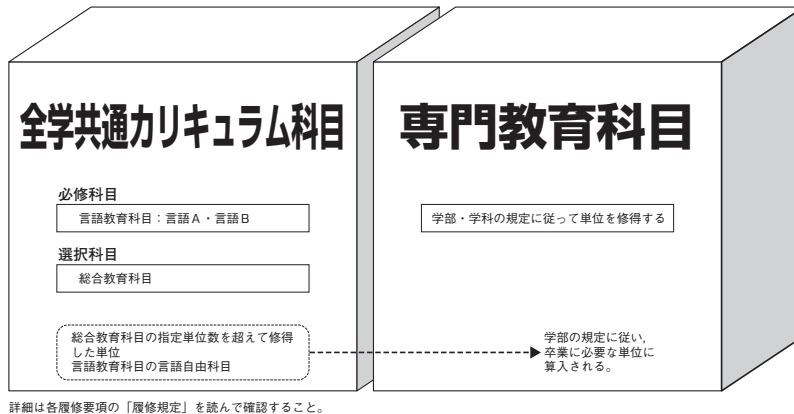
### 4 専門教育科目の構成

所属学部・学科の専門教育科目については、この履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規程・カリキュラム」を参照すること。

## カリキュラムのしくみ

### 1 カリキュラム体系

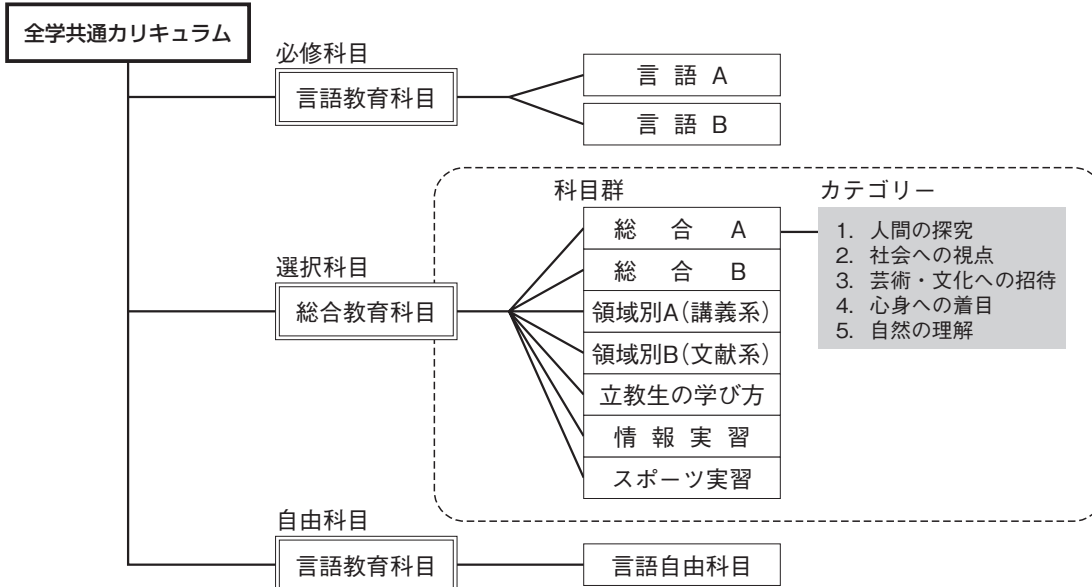
本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は、全ての学部において、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラム科目と専門教育科目の双方から修得しなければならない。



詳細は各履修要項の「履修規定」を読んで確認すること。

### 2 全学共通カリキュラム科目の構成

全学共通カリキュラム科目（以下全カリ科目）は次のように必修科目・選択科目・自由科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。なお、言語教育科目として必修科目以外に言語自由科目が10言語について開講されている。



### 3 全カリ科目の履修の仕方

必修科目は、1年次に履修する「言語教育科目」の「言語A」、「言語B」の2言語について修得しなければならない。言語教育科目には、さらに学習を深めたり、新しい言語に挑戦したりするための「言語自由科目」も設置されている。詳細は、全学共通カリキュラム履修要項を確認すること。

選択科目である「総合教育科目」は、科目の内容により「総合A」「総合B」「領域別A（講義系）」「領域別B（文献系）」「立教生の学び方」「情報実習」「スポーツ実習」の7科目群に分かれ、さらに総合Aは5つのカテゴリーに分かれる（2 全学共通カリキュラム科目の構成 の図を参照）。なお、1～4年次すべての学年において履修が認められている。[注意]

履修にあたっては、下表のように定められたそれぞれの区分から、卒業に必要な単位数を修得しなければならない。

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数
必修科目	10	言語教育科目 言語A	6
		言語教育科目 言語B	4
選択科目	20	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6
		総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4
		総合教育科目全体 【総合A（1, 2, 3）】 6単位を超えて修得した単位 【総合A（4, 5）】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10

[注意] 「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリの総合教育科目の選択科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位および言語自由科目で修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規程の範囲内で卒業要件単位として認められる。

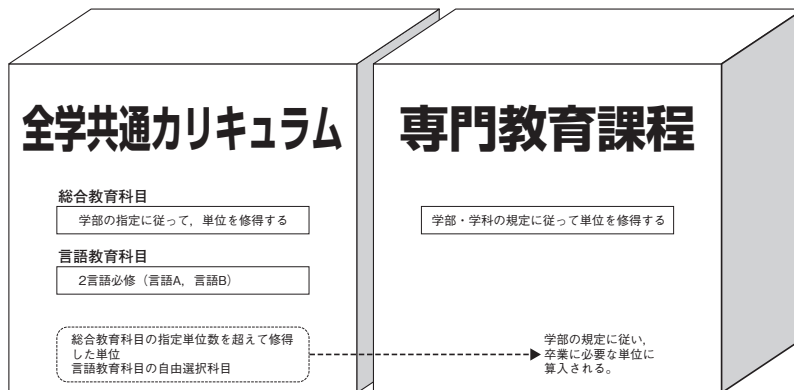
### 4 専門教育科目の構成

所属学部・学科の専門教育科目については、この履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規程・カリキュラム」を参照すること。

## カリキュラムのしくみ

### 1 カリキュラム体系

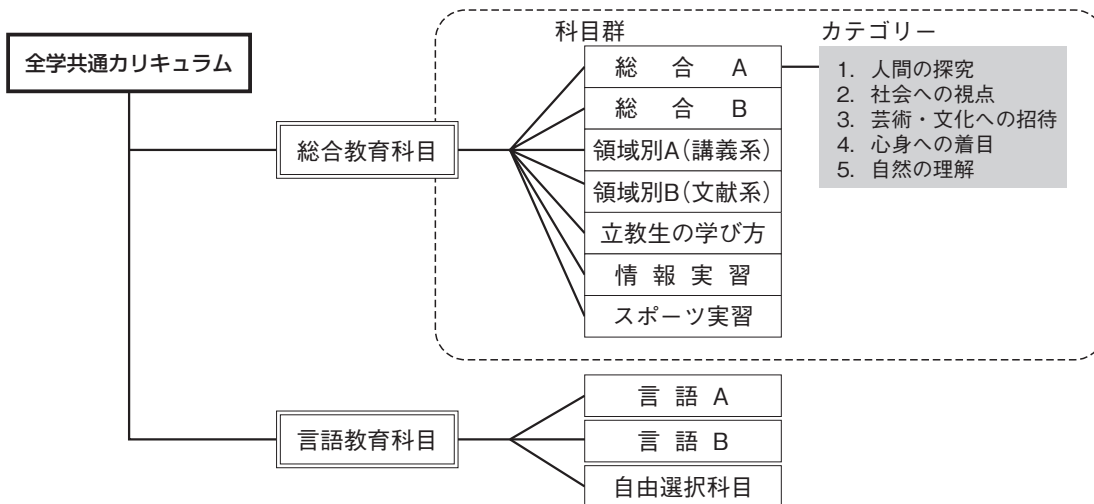
本学を卒業するためには、本学の学部にて4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。本学の教育課程（カリキュラム）は全学共通カリキュラムと専門教育課程により構成されている。よって卒業要件単位は、学部（学科）ごとに定められている教育課程に従い、全学共通カリキュラムと専門教育課程の双方から修得しなければならない。



詳細は各履修要項の「履修規定」を読んで確認すること。

### 2 全学共通カリキュラムの構成

全学共通カリキュラム（以下全カリ）は次のように総合教育科目と言語教育科目に分かれており、それぞれ履修の仕方が定められている。



### 3 全カリ科目の履修の仕方

総合教育科目は科目の内容により総合A、総合B、領域別A（講義系）、領域別B（文献系）、立教生の学び方、情報実習、スポーツ実習の7科目群に分かれ、さらに、総合Aは5つのカテゴリーに分かれる（2 全学共通カリキュラムの構成の図を参照）。

履修にあたっては、下表のように定められたそれぞれの区分から、卒業に必要な単位数を修得しなければならない。

なお、1～4年次すべての学年において履修が認められている。[注意]

教育科目	履修区分		卒業要件単位	合計	
総合教育科目	総合A	1 人間の探究 2 社会への視点 3 芸術・文化への招待	6	20	
		4 心身への着目 5 自然の理解	4		
	総合教育科目全体 【総合A（1, 2, 3）】6単位を超えて修得した単位 【総合A（4, 5）】4単位を超えて修得した単位				
	総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習		10		

[注意] 「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

言語教育科目は、1年次で履修する言語A（英語）と1～2年次で履修する言語Bの2言語について必修科目として修得しなければならない。さらに学習を深めたり、新しい言語に挑戦する自由選択科目も設置されている。詳細は、全学共通カリキュラム履修要項を確認すること。

履修上の注意に従い、全カリの卒業要件単位数を超えて修得した単位（全カリの総合教育科目で卒業要件単位数を超えて修得した単位および言語自由選択科目で修得した単位）については、各学部（学科・専修）の規定の範囲内で卒業要件単位として認められる。

### 4 専門教育課程の構成

所属学部・学科の専門教育課程については、この履修要項の該当入学年度の「学科ごとの履修規定・カリキュラム」を参照すること。

## 1 学期・授業

- 学期** (1) 本学の授業は1年を2学期に分けて行われ、それぞれを春学期、秋学期と呼ぶ。  
 (2) 本年度の春学期の授業開始日は2019年4月10日（水）、秋学期の授業開始日は2019年9月20日（金）である。

**授業** 授業には以下の種類がある。

通年科目	
通年開講科目	春学期・秋学期通して行われるもの
通年他科目	学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期科目	
春学期開講科目	春学期で完結するもの
春学期1開講科目	春学期前半で完結するもの
春学期2開講科目	春学期後半で完結するもの
春学期他科目	春学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
春学期期間外科目	春学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)
秋学期科目	
秋学期開講科目	秋学期で完結するもの
秋学期1開講科目	秋学期前半で完結するもの
秋学期2開講科目	秋学期後半で完結するもの
秋学期他科目	秋学期に学部・学科で期間を定めて行われるもの
秋学期期間外科目	秋学期期間外に学部・学科で期間を定めて行われるもの (履修登録時期が通常より遅れる科目)

## 2 授業時間

本学における授業時間は次のとおりである。

〈時限・授業時間〉

時限	1	2	3	4	5	6
授業時間	8:50 }	10:45 }	13:25 }	15:20 }	17:10 }	18:55 }
	10:30	12:25	15:05	17:00	18:50	20:35

経済学研究科、ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科のG5、G6時限の授業時間は次のとおりである。

G5時限	18:30~20:10	G6時限	20:15~21:55
------	-------------	------	-------------

## 3 休講

大学または各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがある。

**休講掲示** 休講は、大学としての決定または科目担当者からの届出があり次第、掲示板（インフォメーションボード）に表示する。

〈掲示板（インフォメーションボード）設置場所〉

池袋キャンパス：5号館1階、8号館1階、14号館1階
新座キャンパス：1号館1階、4号館2階

**休講情報** 休講情報は、SPIRIT Mobileからも確認することが可能である。

- \* 休講の掲示がないにもかかわらず、始業時刻後30分以上経過しても担当教員が入室しない場合は、教務事務センター（池袋：タッカーホール1階／新座：7号館1階）に連絡し、その指示に従うこと。
- \* 大規模地震の警戒宣言が発令された場合、および台風の接近が予想される場合等、緊急時の休講の措置については、表紙裏および巻末の各種案内を参照すること。



4 補 講

休講等により講義の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがあり、これを補講という。下記の日程を補講日として設定している。

学期	補 講 日 (*1)	発表時期 (*2)	発表場所
春学期	2019年 5月11日 (土)	2019年 5月 4日 (土) 2019年 5月17日 (金) 2019年 6月22日 (金)	池袋キャンパス開講科目： 8号館インフォメーション ボード下(池袋キャンパス) 新座キャンパス開講科目： 各学部掲示板(新座キャン パス) SPIRIT 教務部ページ
	2019年 6月 1日 (土)		
	2019年 6月29日 (土)		
秋学期	2019年10月19日 (土)	2019年10月11日 (金) 2019年11月15日 (金) 2019年12月 6日 (金)	
	2019年11月23日 (土)		
	2019年12月14日 (土)		

\*1) この期間以外に補講を行う場合もあるので教員の指示に従うこと。あわせて、上記発表場所も随時確認すること。

\*2) 発表後に変更・追加がある場合、随時更新されるので注意すること。

5 授業の欠席について

本学では、学校感染症により出校停止となった場合、裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭する場合以外の事由による欠席は認めていない（いわゆる公欠制度は設けていない）。

6 学校感染症に罹患した場合の措置について

学校感染症第1種・2種に罹患した場合は、出校を停止する。速やかに各教務窓口連絡し、指示を受けること。

1. 対象となる  
学校感染症  
第1種・2種

	疾患名
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふく）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

2. 授業欠席の  
扱い

学校保健安全法によって定められた学校感染症のうち第1種および2種に該当するものに罹患した場合の授業欠席については、以下のとおりとする。

- (1) 学校感染症第1種・2種に罹患したことにより、授業を欠席した学生が、所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。
- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

① 登校可能となった日を含む7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、「学校感染症第1種・2種に罹患した学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要な事項を記入し、医療機関が発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」\*1、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」\*2とともに、各教務窓口へ提出する。

申請手続科目を確認するため、履修登録状況画面のコピーも提出すること。

\*1 罹患開始時と治癒時の診療医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合がある。その場合は、罹患開始時の医療機関が発行する『罹患日記載がある「診断書』』と、治癒時の医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書』』の2種類をもって「罹患期間事項についての証明」とすることができる。

\*2 「治癒証明書」の書式はSPIRIT 教務部ページからダウンロードできる。

## II 授業（学習生活）

- ② 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書および診断書もしくは治癒証明書（コピー）を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

### 3. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

## 7 裁判員制度に伴う場合の措置について

### 1. 授業欠席の扱い

裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生の扱いについては、以下のとおりとする。

- (1) 裁判員選任手続期日または裁判員に選任された公判のため裁判所へ出頭し、授業を欠席した学生が所定の申請手続きを行った場合は、欠席扱いとはならない。

- (2) 申請手続きは以下のとおりである。

#### ① 裁判員に選任された場合

公判終了日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判員の職務従事期間についての「証明書\*」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

\*「証明書」は出頭先の裁判所に申し込み、発行を受けること。

#### ② 裁判員に選任されなかった場合

選任手続期日の翌日から7日以内（締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に、裁判所出頭日の証明\*を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」を持参し、「裁判員制度による学生の欠席について」（各教務窓口で交付）に必要事項を記入し、履修登録状況画面のコピーとともに各教務窓口へ提出する。

\*裁判所出頭日の証明は出頭先の裁判所で受けることができる。

- ③ 申請者は、各教務窓口にて受付印を押印された申請書類を受取り、各授業時間に担当教員に提出する。

### 2. 試験欠席の扱い

定期試験に関する事項は「VI 試験・成績」を確認すること。

## 1 単位制度

### 1. 単位制度

大学での学修は、すべて単位制になっている。すべての科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録をし、授業を受け、かつ、試験に合格した場合、当該科目の単位が与えられる。その単位の合計が卒業に必要な単位（卒業要件単位）を満たした者に対して卒業の資格が与えられる。

### 2. 単位の数え方

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 前述の(1)(2)にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

## 2 卒業要件単位

(1) 文学部の卒業に必要な単位数（卒業要件単位）は、各学科・専修の定めるところによる。入学年度によっても異なるので注意すること。

☞ 所属学科・専修の該当入学年度の履修規定を参照

(2) 「随意科目」として指定される科目は、卒業要件単位に含めることはできない。

☞ 随意科目とは、①随意科目として設定している科目と、②科目自体が随意科目というわけではなく、重複履修や教職のために設置している科目等を履修した結果、履修規定により卒業に必要な単位数に算入されない科目の2種類がある。

## 3 科目区分

文学部の専門教育科目は下記の区分に分けられる（入学年度によって異なるので注意すること）。「基幹科目」「指定科目」という科目群の名称についての詳細は当該入学年度の「文学部専門教育課程について」を参照のこと。

〈2010～2015年度1年次入学者に適用〉

区分名	区分についての説明
必修科目	卒業要件として単位の修得が義務づけられている科目。他の科目では代替できない。
選択科目	一定単位数の修得が義務づけられている指定された科目の枠内で規定の単位数になるまで、修得しなくてはならない科目。卒業に必要な単位数に算入される。
自由科目	必修、選択等の枠内にとられない科目。卒業に必要な単位数に算入される。

### Ⅲ-1 履修規定（単位）

〈2006～2009年度1年次入学者に適用〉

区分名	区分についての説明
必修科目	卒業要件として単位の修得が義務づけられている科目。他の科目では代替できない。
選択必修科目	一定単位数の修得が義務づけられている指定された科目の枠内で規定の単位数になるまで、修得しなくてはならない科目。卒業に必要な単位数に算入される。
選択科目	必修、選択必修等の枠内にとられない科目。卒業に必要な単位数に算入される。

### 1 全体についての注意事項

#### 1. 学年配当

- (1) 科目の履修は、原則として当該科目の配当されている年次において行うものとする。
  - (2) 特に指示のない限り、高学年次の者が低学年次に配当されている科目を履修することはできない。
  - (3) 低学年次の者が高学年次に配当されている科目を履修することはできない。ただし、資格要件等により、履修が認められる科目についてはこの限りではない。
- ※配当年次の他に、履修の前提となる条件が定められている場合がある。

#### \*2010年度以降休学した学生の履修の原則について

2010年度以降休学した学生は、在学学期数にかかわらず、年次は4年次まで自動的に進む。この場合、特に学部・学科・専修等で定める場合を除き、進んだ年次の配当科目について履修登録が認められる。

#### 2. 履修登録上限 単位数

1年間に履修登録できる単位数は、全学共通カリキュラム科目、文学部専門教育科目（他学部履修科目を含む）について、春学期・秋学期・通年を合計して登録できる単位数が所属学科および在籍の年次によって定められている。

学科	学年	履修登録上限単位数				履修登録上限に 含む科目	履修登録上限に 含まない科目	
		通年	春学期		秋学期			
			春1	春2	秋1			秋2
キリスト教学科 文学科 史学科	1	42	30		30		・文学部専門教育科目 ・他学部科目 ・全学共通カリキュラム科目 ・教職関連科目 ・5大学単位互換制度 (f-Campus) 科目	・随意科目 (「世界史」・「日本史」) ・学校・社会教育講座科目 (科目コードがG～で始まる科目)
			16	16	16	16		
	2	42	30		30			
			16	16	16	16		
	3	44	30		30			
			16	16	16	16		
	4	46	30		30			
			16	16	16	16		
教育学科	1	44	30		30			
			16	16	16	16		
	2	48	30		30			
			16	16	16	16		
	3	48※	30		30			
			16	16	16	16		
	4	48※	30		30			
			16	16	16	16		

※教育学科初等教育専攻課程に3年次編入学（転部・転科含む）した者は3年次、4年次とも60単位とする（半期・4半期は記載のとおり）。

春1：春学期1，春2：春学期2，秋1：秋学期1，秋2：秋学期2

単位認定により修得した単位については、「入学後に他大学で修得した単位を除き、履修登録上限単位数には含まれない。

- \* 通年科目の単位は、半期（春学期・秋学期）それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入され（例1参照）、4半期（春1・春2・秋1・秋2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/4が算入される（例2参照）。  
 (例1) 通年科目（4単位）は、春学期・秋学期に2単位ずつ算入  
 (例2) 通年科目（4単位）は、春学期1・春学期2・秋学期1・秋学期2に1単位ずつ算入
- \* 春学期科目・秋学期科目の単位は、4半期（春1・春2，秋1・秋2）科目を履修した場合、4半期それぞれの履修登録上限単位数にその単位数の1/2が算入される（例3参照）。  
 (例3) 春学期科目（2単位）は、春学期1・春学期2に1単位ずつ算入  
 秋学期科目（2単位）は、秋学期1・秋学期2に1単位ずつ算入
- \* 春・秋学期期間外科目は、年間の履修上限単位数に参入される（学期ごとの上限には含まれない）。

### Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

いずれの学科・年次も、各学期30単位まで履修登録をすることができるが、年間履修登録単位数（春学期と秋学期を合計したもの）は上記の上限単位数を超えることは認められない。

履修登録した科目で、単位を修得できなかった科目も履修登録上限に含まれる。

例えば、1年次で春学期に30単位登録すると、秋学期には12単位（教育学科は14単位）しか登録することができなくなる。したがって、4月に履修計画を立てる際には、春学期・秋学期のバランスを考え、偏らないよう注意すること。

#### 3. 必修科目

文学部における必修科目は下表のとおりである。単位が未修得となった場合は再度履修し、単位を修得しなければならない。配当年次の履修、再履修いずれにおいても自動登録される。

必修科目	履修登録方法
基幹科目A(「人文学とキャリア形成」(旧:職業と人文学))	2019年度開講科目は 「V 履修登録」で確認すること
指定科目Aのすべての科目	
ただし、教育学科初等教育専攻課程の学生は、指定科目A1・A2	

#### 4. 履修資格の制限

基幹科目、所属する学科・専修内の科目であっても、教職課程登録者以外は履修できない科目がある。下表を確認しておくこと。

他学科・他専修の学生に履修を認める科目は、**3 他学部等科目・他学科科目・他専修科目・5 大学間単位互換制度の科目・大学院科目の履修について**を確認すること。

（教職課程登録者のみ履修できる科目）

（文学部の英米文学・ドイツ文学・フランス文学専修にはない）

開講学科等 科目区分「科目名」	学生の所属学科等
基幹科目 基幹科目B 「書道1・2」	文学部 (日本文学専修, 文芸・思想専修のみ)
キリスト教・史・教育 教職関連科目「民法1・2」 「社会学原論1・2」※ 「社会政策論1・2」 「経済原論A・B」 「国際政治」	キリスト教学科 史学科（全専修） 教育学科

※「社会学原論」の単位を修得済の者は、「社会学原論1」および「社会学原論2」を履修することはできない。

#### 5. 履修者人数の制限

基幹科目またはそれぞれの学科・専修において科目の性格により履修するクラスを指定、あるいは履修者の人数を制限することがある。

講義および演習科目等によって、履修者の範囲および人数を制限することがある。

履修登録方法の詳細について「V 履修登録」の指示に従うこと。

クラスを指定される科目は、指定以外のクラスの授業に出席、試験を受験しても単位を修得することはできないので注意すること。希望を受け付けたいうえで、履修クラスを決定する人数制限科目は、いずれも当該授業開始前の定められた時期に希望を受け付ける。

科目により前年度中に希望を受け付ける科目もあるので、注意すること。

#### 6. 同一曜日時限の履修

同一曜日時限に2科目以上にわたり履修をすることはできない。授業が集中形式で行われる科目については、実施日時が他の履修科目と一部でも重なる場合は履修することはできない。



Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

7. キャンパス間の移動にかかわる措置

同一日の異なるキャンパスでの授業については、移動の必要上、連続した時限の履修は不可能であるから、その場合の履修登録は認めない。ただし、昼休みをはさむ場合を除く。

8. 重複履修

重複履修とは、同一名称\*（同単位数）の科目を単位修得後に再び履修することである。

文学部の各科目については、下表に定める場合を除き、重複履修は認めない（入学年度によって異なるので注意すること）。

重複履修により修得した文学部科目の単位は、同じ区分の卒業要件単位となる。

なお、同一名称の科目が同一学期に複数クラス開講されている場合、1学期に1科目（1クラス）しか履修できない。

\*同一名称についての補足（他学部科目の同一名称の定義は各学部の定めるところに従う）

科目名「○○○a」「○○○b」など「○○○（番号または大文字アルファベットまで含む）」が同一である場合、これを同一名称とみなす。なお、上記「a」「b」のような小文字のアルファベットはクラス名を表す。

〈2010～2015年度1年次入学者に適用〉

重複履修が認められている科目区分	修得単位の算入先
基幹科目B （「海外フィールドスタディ1～3」, 「ケンブリッジ・サマープログラム」のみ）	基幹科目B
指定科目B1（史学科を除く）	指定科目B1
指定科目B2 （ドイツ文学専修：「ドイツ語表現演習1A／1B, 2A／2B」以外の科目） （日本文学専修：「卒業論文（制作）予備研究1・2」以外の科目）	指定科目B2

〈2006～2009年度1年次入学者に適用〉

重複履修が認められている科目区分	修得単位の算入先
基幹科目B （「書道1・2」以外の科目）	基幹科目B
指定科目B1 （史学科を除く）	指定科目B1
指定科目B2 （キリスト教学科：「ヘブライ語1・2」以外の科目） （ドイツ文学専修：「ドイツ語表現演習1A／1B, 2A／2B」以外の科目） （日本文学専修：「卒業論文（制作）予備研究1・2」以外の科目）	指定科目B2

9. 超過履修

超過履修とは同一区分内の科目を、卒業に必要な単位数を超えて履修することである。

超過履修が認められる科目区分は、学科・専修により異なるので、以下の表で確認すること（入学年度によって異なるので注意すること）。なお修得した単位は、自由科目（2010～2015年度1年次入学者）もしくは選択科目（2006～2009年度1年次入学者）の単位となる。

〈2010～2015年度1年次入学者に適用〉

超過履修が認められている科目区分	修得単位の算入先
基幹科目B 基幹科目C 基幹科目D	自由科目 ★教育学科初等教育専攻課程の学生が指定科目C1を超過履修した場合は、指定科目C2になる。
指定科目B1（史学科を除く*） 指定科目B2 指定科目C（教育学科初等教育専攻課程の学生は指定科目C1・C2）	
*史学科の学生は、指定科目B1を所定単位数（8単位）を超えて履修することができない。	

### Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

〈2006～2009年度1年次入学者に適用〉

超過履修が認められている科目区分	修得単位の算入先
基幹科目B 基幹科目C	<b>選択科目</b> ★教育学科初等教育専攻課程の学生が指定科目C1を超過履修した場合は、指定科目C2になる。
指定科目B1（史学科を除く※1） 指定科目B2（文学科英米文学専修を除く※2） 指定科目C（教育学科初等教育専攻課程の学生は指定科目C1・C2） ※1 史学科の学生は、指定科目B1を所定単位数（8単位）を超えて履修することができない。 ※2 文学科英米文学専修の学生は指定科目B2を所定単位数（6単位）を超えて履修することができない。	

## 2 卒業論文（制作）各種規定

### 1. 卒業論文の位置付け

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」は、3年次までの学習を踏まえつつ、自ら設定した研究課題に対する問題解決学習の集大成の機会であり、4年次カリキュラムの中核をなすものである。その学習上の意義を深めるために、3年次から卒業論文（制作）演習の予備的な科目を置く学科・専修もある。

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」を履修する場合、所属学科・専修で卒業論文（制作）を執筆・作成できるが、所属学科・専修以外で卒業論文（制作）を執筆・作成することも可能である。すなわち、自らのテーマに最もふさわしい学科・専修のもとで、卒業論文（制作）の執筆・作成に取り組むことができる。

### 2. 履修手続

(1) 「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」は、6学期以上在学した学生が7学期目以降の4月期に履修登録できる（通年科目）。

履修開始前の学期に手続きが必要な場合、履修開始時に上記条件が満たされるか確認すること。

(2) 所属学科・専修で卒業論文（制作）を執筆・作成する場合は、学科・専修の指示に従って手続きを行うこと。

所属学科・専修で  
執筆・作成する場合

学科・専修	履修の手続き	履修登録方法
キリスト教学科 文学科 フランス文学専修 日本文学専修 教育学科	履修年度の4月に科目コード登録をする。	科目コード登録
文学科 英米文学専修	履修前年度の10月に「卒業論文指導申請」を行い、さらに履修開始前の4月に「卒業論文履修登録票（4年次生）」を提出する。※	「その他」登録
文学科 ドイツ文学専修	履修前年度の6～7月の卒業論文シンポジウムで「卒業論文（制作）執筆・作成希望届」を提出する。	
文学科 文芸・思想専修	履修前年度の1月に予備論文と履修希望届を提出する。	
史学科	履修前年度の秋学期末試験のレポート提出期間に卒業論文登録届を提出する。※	

※ 詳細は各学科・専修の「履修上の注意」を参照すること。

(3) また、履修開始時に上記条件が満たされるが手続きすべき学期に休学中であった場合、所属学科・専修の教務委員に復学した年度の4月のガイダンスで申し出ること（ドイツ文学専修の学生で秋学期に復学した場合は、復学後速やかに所属専修の教務委員に申し出ること）。



所属学科・専修  
以外で執筆・作  
成する場合

なお、派遣留学生・認定校留学生で「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」の履修を希望する者は、池袋キャンパス教務事務センターに相談すること。また、4 派遣留学生・認定校留学の履修について も確認すること。

- (4) 所属学科・専修以外で卒業論文（制作）を執筆・作成する場合は、履修前年度において次のような履修の手続きをとる必要がある。

- ① **説明会** 下記日程で説明相談会を開くので、希望者は出席すること。

説明相談会：9月下旬または10月上旬を予定（文学部掲示板にて案内する）

- ② **研究計画書** あらかじめ研究内容に関して執筆・作成を希望する学科・専修の学科長・専修主任の承諾を得たうえで、研究計画書を提出する。

提出期間：2019年10月15日（火）～18日（金）17：30

提出先：池袋キャンパス教務事務センターレポートBOX

- ③ **審査レポート** 1月末に提出する「審査レポート」（12,000字以上 [文末に文字数を明記のこと]）によって、卒業論文（制作）の執筆・作成の可否を決定する。

提出期間：2020年1月14日（火）～17日（金）17：00

提出先：池袋キャンパス教務事務センターレポートBOX

- ④ **結果発表** 審査結果を3月下旬に文学部掲示板に発表する（「その他登録」として履修登録される）。

文学部のすべての学生は、(2)の手続きをとると同時に(4)の手続きをとることができる。なお、文学部文芸・思想専修の学生および史学科の学生は1月に(2)の手続きをとるとともに、(4)③を提出することができる。ただし、所属学科・専修の卒業論文（制作）と所属学科・専修以外の卒業論文（制作）を同時に履修することはできない。審査レポートによって卒業論文（制作）の執筆・作成が可となった場合は所属学科・専修以外の「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」が登録され、否となった場合は所属学科・専修の「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」が登録される。

### 3. 提出時の注意

- (1) 卒業論文・卒業制作は、全学科・専修とも2部提出すること。全学科・専修で仮製本\*可。  
\*ここでいう仮製本とは、背綴糊付けによる上製本ではないが、本文に表紙を付し、紐やホチキスまたは2穴以上の綴じ具を用いた紙ファイル等で散逸しない状態に綴じられた状態のことを指す。
- (2) 要旨等細部の規定については、各学科・専修の指示による。不明な点は各学科長・専修主任に確認し、その指示に従うこと。
- (3) 提出する論文のすべての表紙に以下を必ず明記すること。

#### 【2010～2015年度1年次入学者】

論文の表紙に 記載する事項	提出年度（2019年度）
	題目
	指導教授
	学部・学科・専修※
	学生番号
	氏名

※教育学科の学生は課程を明記すること。

#### 【2006～2009年度1年次入学者】

論文の表紙に 記載する事項	提出年度（2019年度）
	題目
	学部・学科・専修※
	学生番号
	氏名

※教育学科の学生は課程を明記すること。

- (4) 当該科目の履修登録を完了していない者は卒業論文（制作）の提出資格を持たない。万一、卒業論文（制作）が提出された場合、その卒業論文（制作）は無効とする。
- (5) 卒業論文（制作）は、複数提出することはできない。万一、複数提出された場合は、最初の1件のみを採点の対象とする。また、一度提出された卒業論文（制作）の返却はしないので、不備がないか十分確認のうえ提出すること。

### 4. 提出日

- (1) **提出期間** 2019年12月7日（土）～16日（月）15：00
- (2) **提出場所** 2019年12月に掲示により指示する。

※学校感染症のため出校停止となった場合、不測の事態が発生した場合の卒業論文（制作）の提出については「Ⅵ試験・成績 5 レポート」参照。

### Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

#### 5. 最終面接 （必修）

各学科・専修の学生は以下の日程で最終面接を行う。時間等の詳細は、学科・専修別に文学部掲示板に掲示されるので、論文を提出した者は、注意すること（2019年度は2020年1月17日（金）に発表）。

対象学生	最終面接期間
全学科（詳細は学科ごとに指示）	2020年1月27日（月）～2月1日（土）

## 3 他学部等科目・他学科科目・他専修科目・5大学間単位互換制度の科目・大学院科目の履修について

### 3-1 他学部等科目の履修

#### 修得単位の扱い

他学部等科目を履修して修得した単位は、5大学間単位互換制度を利用して他大学で修得した単位とあわせて12単位まで卒業要件単位に算入することができる。2010～2015年度1年次入学者は自由科目、2006～2009年度1年次入学者は選択科目の単位に算入される。

#### 履修登録に関する注意事項

- (1) 他学部等科目は、配当年次などによって履修登録ができない場合がある（ただし先修規定は問わない）。履修登録しようとしてもエラーになるので注意すること。
- (2) あらかじめ定められている「他学部学生履修不許可科目」は配当年次が合っても履修できない。対象科目は当該科目を設置している学部等の掲示板（ただし、新座キャンパス開講科目については、教務事務センター内の掲示板）または履修登録システムで確認しておくこと。
- (3) 履修登録方法については、当該学部の履修要項を確認すること。
- (4) 届け出た他学部等科目は、当該学部からの承認を受け、はじめて正式に履修許可となる。履修の可否については、教授会審議後、4月期履修登録では5月下旬に、9月期履修登録では10月下旬に文学部掲示板で発表する。  
 △不許可となった場合、時間割のその部分は「空き時間」となり、新たな科目の追加によってこれを埋めることはできない。履修登録の際はこの点に留意の上登録すること。

### 3-2 他学科科目・他専修科目の履修

他学科・他専修が開講する科目のうち、履修を認められない科目は、下表を参照のこと。ただし、教職等免許取得のため必要な場合はこの限りではない。

学科等	他学科・他専修の学生が履修できない科目
キリスト教学科	指定科目A 指定科目B1
文学科（全専修）	
史学科（全専修）	
教育学科（教育学専攻）	指定科目A1・A2 指定科目B1
教育学科（初等教育専攻）	

#### 指定科目B2に関する例外

また、指定科目B2設置科目の履修の可否は次頁表の通りである（入学年度によって異なるので注意すること）。

Ⅲ-2 履修規定（履修についての注意事項）

〈2010～2015年度1年次入学者に適用〉

学科	専修	指定科目B2 設置科目	配当年次	他専修学生	他学科学生		
キリスト教		フィールドワークA1・A2	2～4	—	×		
		キリスト教原典講読〈全科目〉	2～4		○		
		ヘブライ語原典講読	2～4		○		
		ギリシア語原典講読	2～4		○		
		ラテン語原典講読	2～4		○		
文学科	英米文学	英語表現演習〈全科目〉	3・4	○ 英語教職免許取得のための講座登録者のみ	×		
	ドイツ文学	ドイツ語表現演習〈全科目〉	2～4	○ 入学時に、全カリドイツ語教育研究室・フランス語教育研究室において既習者として必修科目の単位認定を受けた者のみ認める。履修科目は面談のうえ決定する。			
		ドイツ文学・文化演習〈全科目〉	2～4				
	フランス文学	フランス語表現演習〈全科目〉	3・4				
		フランス文学・文化演習〈全科目〉	2～4				
	日本文学	日本文学講読〈全科目〉	2～4			○	○
		漢文学講読〈全科目〉	2～4			○ 国語教職免許取得のための講座登録者のみ	×
		研究小論文〈全科目〉	1～2			×	×
		卒業論文（制作）予備研究〈全科目〉	3・4			×	×
	文芸・思想	文芸・思想文献講読〈全科目〉	2～4			○	○
全専修	専門基礎〈全科目〉	2～4	○			○	
史	日本史学	フィールドワークH1・H2〈全科目〉	2～4	○	△(自学科優先)		
	超域文化学	フィールドワークI1・I2〈全科目〉	2～4	○	△(自学科優先)		
教育	教育調査実習〈全科目〉	3・4	—	×			
	教育実践研究〈全科目〉	2～4		×			

〈2006～2009年度1年次入学者に適用〉

学科	専修	指定科目B2 設置科目	配当年次	他専修学生	他学科学生		
キリスト教		フィールドワークA1・A2	2～4	—	×		
		ヘブライ語1・2	1～4		○		
		ヘブライ語原典講読	2～4		○		
		ギリシア語原典講読	2～4		○		
		ラテン語原典講読	2～4		○		
文学科	英米文学	英語表現演習〈全科目〉	3・4	○ 英語教職免許取得のための講座登録者のみ	×		
	ドイツ文学	ドイツ語表現演習〈全科目〉	2～4	○ 入学時に、全カリドイツ語教育研究室・フランス語教育研究室において既習者として必修科目の単位認定を受けた者のみ認める。履修科目は面談のうえ決定する。			
		ドイツ文学・文化演習〈全科目〉	2～4				
	フランス文学	フランス語表現演習〈全科目〉	3・4				
		フランス文学・文化演習〈全科目〉	2～4				
	日本文学	日本文学講読〈全科目〉	2～4			○	○
		漢文学講読〈全科目〉	2～4			○ 国語教職免許取得のための講座登録者のみ	×
		研究小論文〈全科目〉	1～2			×	×
		卒業論文（制作）予備研究〈全科目〉	3・4			×	×
	文芸・思想	フィールドワークF1・F2〈全科目〉	2～4			×	×
全専修	専門基礎〈全科目〉	2～4	○			○	
史	日本史学	フィールドワークH1・H2〈全科目〉	2～4	○	△(自学科優先)		
	超域文化学	フィールドワークI1・I2〈全科目〉	2～4	○	△(自学科優先)		
教育	教育調査実習〈全科目〉	3・4	—	×			
	教育実践研究〈全科目〉	2～4		×			

文学部全学生にかかわる事項 2006年度～2015年度1年次入学者に適用

### 3-3 5大学間単位互換制度（f-Campus）による科目の履修

登録等の詳細は「Ⅸ 5大学間単位互換制度（通称f-Campus）」を参照すること。

5大学間単位互換制度を利用して他大学で修得した単位は、他学部科目を履修して修得した単位とあわせて12単位まで卒業要件単位に算入することができる。2010～2015年度1年次入学者は自由科目、2006～2009年度1年次入学者は選択科目の単位に算入される。

### 3-4 大学院科目の履修（学部4年次生のみ）

学科・専修および教授会が申請者にとっての学習の必要性を認め、許可した4年次生に限り、大学院文学研究科およびキリスト教学研究科の科目を、自由科目（2010～2015年度1年次入学者）もしくは選択科目（2006～2009年度1年次入学者）として履修することが認められる（上限8単位）。

履修を希望する者は、池袋キャンパス教務事務センター窓口で配付する「4年次生大学院科目履修希望届」を持参して4月期の各学科・専修のガイダンスにて教務委員と相談すること。教務委員の指導のもと履修する科目を決定し、下記期日までに「4年次生大学院科目履修希望届」を池袋教務事務センター窓口へ提出すること。

締切日：2019年4月6日（土）12：30

\*秋学期科目についても、4月期に届け出ること

なお、春学期休学者および派遣（認定校）留学のために上記の手続きが取れない者に限り、秋学期に履修の申請を認める。各学科・専修の教務委員と相談の上、2019年9月18日（水）17：00までに希望届を池袋キャンパス教務事務センターに提出すること。

## 4 派遣留学生・認定校留学生の履修

派遣留学・認定校留学\*が決定した者は、ただちに所属キャンパスの教務窓口で、出国年度・帰国年度の履修について説明を受けること。

※「派遣留学」とは、1. 大学間協定に基づく「派遣留学制度」、2. ケント州立大学留学プログラム、3. セントクラウド州立大学留学プログラム、4. 学部間協定等に基づく海外研修・留学プログラムによる留学をさす。また、「認定校留学」とは5. 認定校留学制度による留学をさす。なお、1～4の制度により留学する学生を「派遣留学生」、5の制度による留学生を「認定校留学生」という。

派遣留学生および認定校留学生は本学の履修科目において、下記の特別措置の対象となる。派遣留学生および認定校留学生以外は、下記の特別措置の対象とはならない。

#### 1. 出国年度の履修と単位修得

留学開始が本学の定める春学期（または秋学期）の試験期間終了後の学生は、「在学留学」・「休学留学」のどちらを選択しても、出国年度の春学期（または秋学期）の科目を履修し、単位を修得することができる。

#### 2. 通年科目の接続

派遣留学生および認定校留学生については、本学における通年科目の履修に関し学年暦の国際的差異による支障がある場合、教授会または研究科委員会の議により、教授会または研究科委員会が認めた科目については、同一の通年科目の出国年度の春学期における履修と帰国年度の秋学期における履修を接続し、通年で履修したものとすることができる。派遣留学・認定校留学が決定し、上記の通年科目の接続を希望する学生は、所属キャンパスの教務窓口で、手続き方法などについて説明を受けること。

注意点

- (1) 「通年科目の接続」は、原則として翌年度の履修に限るものとし、翌々年度に亘ることはできない。
- (2) 個人都合による休学を挟むと「通年科目の接続」は適用されない。

3. 帰国年度の履修登録

- (1) 5月末日（秋学期は10月末日）までに帰国届の提出および履修登録をした場合、帰国年度の春学期科目および通年科目（秋学期は秋学期科目）を履修することができる（春学期1開講科目，秋学期1開講科目は，対象外）。ただし，抽選登録科目等，履修登録できない科目もあるので，必ず所属キャンパスの教務窓口を確認すること。  
※全学共通カリキュラム総合教育科目の抽選登録科目は，科目コード登録対象科目に移行した科目のみ履修することができる。
  - (2) 「在学留学」を選択した学生は留学期間の終了時期が6月以降の場合でも，秋学期授業開始前までに留学期間を終了して帰国届を提出し，学部の許可を得た場合，通年の「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」については特別に履修を認めることがある。
- ㊦ その他，詳細については国際センターが発行する「STUDY ABROAD」を参照すること。

5

全学共通カリキュラム言語教育科目「言語副専攻」学部展開科目について

\*2010～2015年度入学者に適用

学部専門教育科目の一部を，全学共通カリキュラム言語教育科目「言語副専攻」の修了要件として算入することができる。

「言語副専攻」のカリキュラム概要ならびに「言語副専攻」に算入できる学部展開科目の一覧については，全学共通カリキュラム履修要項の該当頁で確認すること。

## 履修規定(カリキュラムの一部改定について)

### 1 2007年度～2019年度における各カリキュラムの一部改定

#### 1-1 2019年度のカリキュラムの一部改定

- |                  |  |
|------------------|--|
| 1. 基幹科目          | <p>科目の新設</p> <p>以下の科目を新設し、「基幹科目D」、「半期2単位」、「抽選登録科目(定員10名)」とする。<br/>(2019年度より変更)</p> <p>「Japan in Asian Context」<br/>「Traditional Arts in Japan」<br/>「Postmodern Turn in Japanese Arts」<br/>「Development of Gender Studies」<br/>「Intellectual History of Japan」<br/>(2020年度より変更)</p> <p>「Christianity in Japan」<br/>「Japanese Literature in the World」<br/>「Rethinking European Literatures」</p> <p>履修登録方法の変更<br/>(2019年度より変更)</p> <p>「ドイツ語文献講読1・2」, 「フランス語文献講読1・2」, 「英語文献講読1～16」は, 「その他登録または抽選登録」から「科目コード登録」へ変更する。<br/>また, 「英語文献講読10・12」については「上級レベル」から「中級レベル」に変更する。</p> |
| 2. 文学科<br>英米文学専修 | <p>履修登録方法の変更<br/>(2019年度より変更)</p> <p>「文学講義29(英語構造論1)」および「文学講義30(英語構造論2)」は, 「抽選登録」から, 「科目コード登録」へ変更する。</p>   |
| 3. 教育学科          | <p>科目の廃止<br/>(2020年度より変更)</p> <p>「現代教育の諸問題3・4」を廃止する。</p>   |

#### 1-2 2018年度のカリキュラムの一部改定

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 基幹科目 | <p>履修登録方法の変更<br/>(2018年度より変更)</p> <p>「英語文献講読9, 11, 13, 15」は, 上級レベルから中級レベルへ変更となり, それに伴い「その他登録」から, 「抽選登録」へ変更になった。</p> <p>配当年次の変更<br/>(2018年度より変更)</p> <p>「海外フィールドスタディ〈2. 海外ASD〉」および「海外フィールドスタディ〈3. 海外SLV〉」は, 配当年次「2・3・4」から「1・2・3・4」へ変更になった。<br/>※1年次生は既習者に限る</p> |
|---------|--|



### Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

2. 文学科 ドイツ文学専修	科目名（副題），単位数，配当年次の変更 (2019年度より変更) 科目名を「ドイツ文学・文化演習4（音楽・造形芸術）」⇒「ドイツ文学・文化演習4（日独比較文化タンデム）」に変更する。単位数を「2単位」⇒「4単位」へ変更する。配当年次を「3・4」から「1・2・3」へ変更になった。
3. 文学科 文芸・思想専修	履修登録方法の変更 (2018年度より変更) 「文学講義407（マンガ／アニメ表現論1）」および「文学講義408（マンガ／アニメ表現論2）」は、「科目コード登録」から、「抽選登録」へ変更になった。

#### 1-3 2017年度のカリキュラムの一部改定

1. 基幹科目	単位数の変更 (2017年度より変更) 「ケンブリッジ・サマープログラム」 通年4単位 ⇒ 通年6単位  (2018年度より変更) 「海外フィールドスタディ〈1. 海外EAP〉」 通年6単位 ⇒ 通年4単位  履修登録方法の変更 (2017年度より変更) 「日本文学概論」は、「科目コード登録」から、「抽選登録」に変更になった。
2. 文学科 文芸・思想専修	履修登録方法の変更 (2017年度より変更) 「文学講義417（現代歌謡論）」は、「科目コード登録」から、「抽選登録」に変更になった。 「卒業論文（制作）予備演習」は、「その他登録」から、「自動登録」に変更になった。
3. 史学科	履修登録方法の変更 (2017年度より変更) 「フィールドワークI 1・2」は、「科目コード登録」から、「その他登録」に変更になった。

#### 1-4 2016年度のカリキュラムの一部改定

1. 基幹科目	以下の科目が新設された。 <b>新設</b> ※2010～2015年度1年次入学者 基幹科目B「ケンブリッジ・サマープログラム」（通年 4単位)  以下のとおり科目名が変更になった。なお、同一科目であるため、重複履修不可の科目については、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することはできない。 (2016年度より変更) ※2006～2009年度1年次入学者 (旧) AL215「ドイツ語圏文化概論」 ⇒ (新) 「ドイツ語圏文化概論1」
---------	---

### Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

(2017年度より変更)

(旧) 自動登録「職業と人文学a・b」⇒(新)「人文学とキャリア形成a・b」

以下の科目の配当年次が変更となった。

基幹科目B「海外フィールドスタディ〈1. 海外EAP〉」

(旧)「2・3・4年次」⇒「1・2・3・4年次」

## 2. キリスト教学科

以下の科目を廃止する。

廃止

(2019年度より廃止)

※2010～2015年度1年次入学者

指定科目C AA383「キリスト教学講義29（キリスト教と文学1）」

指定科目C AA384「キリスト教学講義30（キリスト教と文学2）」

※2006～2009年度1年次入学者

指定科目C AA311「キリスト教文化講義11（キリスト教と文学1）」

指定科目C AA312「キリスト教文化講義12（キリスト教と文学2）」

以下のとおり科目名が変更になった。

(2016年度より変更)

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) AA301「キリスト教文化講義1」⇒(新)「キリスト教学入門講義1」

(旧) AA302「キリスト教文化講義2」⇒(新)「キリスト教学入門講義2」

(旧) AA303「キリスト教文化講義3」⇒(新)「キリスト教学入門講義3」

(旧) AA304「キリスト教文化講義4」⇒(新)「キリスト教学入門講義4」

(2017年度より変更)

(旧) AA337「日本宗教史1（日本のキリスト教）」⇒(新)「キリスト教学講義37（日本キリスト教史）」

(旧) AA338「日本宗教史2（日本の宗教）」⇒(新)「キリスト教学講義38（日本宗教史）」

※2010～2015年度1年次入学者

(旧) AA211「キリスト教学文献講読1」⇒(新)「キリスト教学原典講読1」

(旧) AA212「キリスト教学文献講読2」⇒(新)「キリスト教学原典講読2」

(旧) AA213「キリスト教学文献講読3」⇒(新)「キリスト教学原典講読3」

(旧) AA214「キリスト教学文献講読4」⇒(新)「キリスト教学原典講読4」

(旧) AA215「キリスト教学文献講読5」⇒(新)「キリスト教学原典講読5」

(旧) AA216「ヘブライ語文献講読」⇒(新)「ヘブライ語原典講読」

(旧) AA217「ギリシア語文献講読」⇒(新)「ギリシア語原典講読」

(旧) AA218「ラテン語文献講読」⇒(新)「ラテン語原典講読」

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) AA205「ヘブライ語3」⇒(新)「ヘブライ語原典講読」

(旧) AA206「ギリシア語3」⇒(新)「ギリシア語原典講読」

(旧) AA207「ラテン語3」⇒(新)「ラテン語原典講読」

(旧) AA323「キリスト教神学講義1」⇒(新)「キリスト教学講義1」

(旧) AA324「キリスト教神学講義2」⇒(新)「キリスト教学講義2」

(旧) AA325「キリスト教神学講義3」⇒(新)「キリスト教学講義3」



### Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

- (旧) AA326「キリスト教神学講義4」⇒(新)「キリスト教学講義4」  
(旧) AA327「キリスト教神学講義5」⇒(新)「キリスト教学講義5」  
(旧) AA328「キリスト教神学講義6」⇒(新)「キリスト教学講義6」  
(旧) AA329「キリスト教神学講義7」⇒(新)「キリスト教学講義9」  
(旧) AA330「キリスト教神学講義8」⇒(新)「キリスト教学講義10」  
(旧) AA331「キリスト教神学講義9」⇒(新)「キリスト教学講義11」  
(旧) AA332「キリスト教神学講義10」⇒(新)「キリスト教学講義12」  
(旧) AA333「キリスト教神学講義11」⇒(新)「キリスト教学講義25」  
(旧) AA334「キリスト教神学講義12」⇒(新)「キリスト教学講義27」  
(旧) AA335「キリスト教と教育1」⇒(新)「キリスト教学講義15」  
(旧) AA336「キリスト教と教育2」⇒(新)「キリスト教学講義16」  
(旧) AA305「キリスト教文化講義5」⇒(新)「キリスト教学講義13」  
(旧) AA306「キリスト教文化講義6」⇒(新)「キリスト教学講義14」  
(旧) AA307「キリスト教文化講義7」⇒(新)「キリスト教学講義21」  
(旧) AA308「キリスト教文化講義8」⇒(新)「キリスト教学講義22」  
(旧) AA309「キリスト教文化講義9」⇒(新)「キリスト教学講義23」  
(旧) AA310「キリスト教文化講義10」⇒(新)「キリスト教学講義24」  
(旧) AA311「キリスト教文化講義11」⇒(新)「キリスト教学講義29」  
(旧) AA312「キリスト教文化講義12」⇒(新)「キリスト教学講義30」  
(旧) AA313「キリスト教文化講義13」⇒(新)「キリスト教学講義19」  
(旧) AA314「キリスト教文化講義14」⇒(新)「キリスト教学講義20」  
(旧) AA315「キリスト教文化講義15」⇒(新)「キリスト教学講義17」  
(旧) AA316「キリスト教文化講義16」⇒(新)「キリスト教学講義18」  
(旧) AA317「キリスト教文化講義17」⇒(新)「キリスト教学講義31」  
(旧) AA318「キリスト教文化講義18」⇒(新)「キリスト教学講義32」  
(旧) AA319「キリスト教文化講義19」⇒(新)「キリスト教学講義33」  
(旧) AA320「キリスト教文化講義20」⇒(新)「キリスト教学講義34」  
(旧) AA321「キリスト教文化講義21」⇒(新)「キリスト教学講義35」  
(旧) AA322「キリスト教文化講義22」⇒(新)「キリスト教学講義36」

以下のとおりサブタイトルが変更になった。なお、同一科目であるため、重複履修不可の科目については、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することはできない。

(2017年度より変更)

※2010～2015年度1年次入学者

(旧) AA367「キリスト教学講義13(宗教人間学1)」⇒(新)「キリスト教学講義13(宗教社会学)」

(旧) AA368「キリスト教学講義14(宗教人間学2)」⇒(新)「キリスト教学講義14(宗教心理学)」

### 3. 文学科

#### ドイツ文学専修

以下の科目を廃止した。

廃止

(2017年度より廃止)

※2010～2015年度1年次入学者

指定科目B2 その他「ドイツ文学・文化演習19(検定ドイツ語・上級)」

以下のとおり科目名を変更した。

(2016年度より変更)

### Ⅲ-3 履修規定 (カリキュラムの一部改定について)

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) AN302「文学講義102」⇒(新)「ドイツ語圏文化概論2」

(2018年度より変更)

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習4(身体文化・表象文化)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習103(身体文化・表象文化)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習5(音楽・造形芸術)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習4(音楽・造形芸術)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習6(ドイツ文化論)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習5(ドイツ文化論)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習8(メディアのドイツ語)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習7(メディアのドイツ語)」

※2010～2015年度1年次入学者

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習2(散文)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習111(比較文化)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習3(メルヘン)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習109(伝承・物語)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習7(現代ドイツ語研究)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習107(言語文化)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習9(検定ドイツ語・中級)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習8(検定ドイツ語)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習12(思想・評論)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習2(思想・評論)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習13(児童文学)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習3(児童文学)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習16(ドイツ文化遺産研究)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習101(日独比較文化)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習17(中・近世ドイツ語研究)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習6(中・近世ドイツ語研究)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習18(ニュースのドイツ語)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習105(メディア文化・ユダヤ文化)」

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習7(ドイツ語研究)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習6(中・近世ドイツ語研究)」

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習9(検定ドイツ語)」⇒(新)「ドイツ文学・文化演習8(検定ドイツ語)」

以下のとおりサブタイトルを変更する。なお、同一科目であるため、重複履修不可の科目については、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することはできない。

(2017年度より変更)

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) その他「演習C3(身体文化)」⇒(新)「演習C3(身体文化・表象文化)」

(旧) その他「演習C4(身体文化)」⇒(新)「演習C4(身体文化・表象文化)」

(旧) その他「演習C9(メルヘン・児童文化)」⇒(新)「演習C9(伝承・物語)」

### Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

(旧) その他「演習C10（メルヘン・児童文化）」⇒（新）「演習C10（伝承・物語）」  
(旧) AN303「文学講義103（ドイツの文学・思想）」⇒（新）「文学講義103（ドイツの思想論）」  
(旧) AN308「文学講義108（ドイツ語と日本語）」⇒（新）「文学講義108（日独文化交流）」  
(旧) AN314「文学講義114（ドイツの音楽・演劇・映像文化）」⇒（新）「文学講義114（ドイツの音楽・舞台芸術）」  
(旧) AN318「文学講義118（ドイツの中世文化）」⇒（新）「文学講義118（ドイツ中世の文学・文化）」

(2018年度より変更)

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) その他「ドイツ文学・文化演習2（散文）」⇒（新）「ドイツ文学・文化演習2（思想・評論）」  
(旧) その他「ドイツ文学・文化演習3（メルヘン・児童文学）」⇒（新）「ドイツ文学・文化演習3（児童文学）」

#### 4. 文学科 日本文学専修

指定科目B2「研究小論文」は、「科目コード登録」から「その他登録」に変更になった。

以下のとおり科目名を変更した。

(2018年度より変更)

(旧) 「研究小論文3a」⇒（新）「卒業論文（制作）予備研究1」  
(旧) 「卒業予備論文（制作）」⇒（新）「卒業論文（制作）予備研究2」

#### 5. 史学科

以下の科目が新設された。

**新設**

指定科目B1「演習H23」・「演習H24」・「演習I23」・「演習I24」（半期2単位）

以下の科目を廃止した。

**廃止**

(2017年度より廃止)

指定科目C AC401「イタリア語1」  
指定科目C AC402「イタリア語2」

(2018年度より廃止)

指定科目B2「専門基礎14（スワヒリ語）」※2010～2015年度1年次入学者  
指定科目B2「専門基礎言語8（スワヒリ語）」※2006～2009年度1年次入学者

指定科目B1「演習H11」・「演習H12」・「演習I11」・「演習I12」は、配当年次が「3年次以上」から「2年次以上」に変更になった。

以下のとおり科目名が変更になった。

(2017年度より変更)

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) AC211「専門基礎言語1（インドネシア語1）」⇒（新）「専門基礎1（アジア・アフリカ系言語1）」  
(旧) AC217「専門基礎言語7（イスラム関係諸言語3）」⇒（新）「専門基礎13（アジア・アフ

### Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

リカ系言語3）」

(旧) AC221「古文書1」⇒(新)「専門基礎11(古文書1)」

(旧) AC222「古文書2」⇒(新)「専門基礎12(古文書2)」

(旧) 抽選登録「史学講義53(史科学1)」⇒(新)「専門基礎15(カルトグラフィ)」

以下のとおりサブタイトルを変更した。なお、それぞれ同一科目であるため、重複履修不可の科目については、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することはできない。

(2016年度より変更)

※2010～2015年度1年次入学者

(旧) AC239「専門基礎9(基礎英語2)」⇒(新)「専門基礎9(近代史料論)」

(旧) AC240「専門基礎10(中級英語2)」⇒(新)「専門基礎10(現代史料論)」

(2017年度より変更)

(旧) AC307「史学講義7(近代世界システム1)」⇒(新)「史学講義7(グローバルヒストリー)」

(旧) AC308「史学講義8(近代世界システム2)」⇒(新)「史学講義8(地域からの歴史)」

(旧) AC309「史学講義9(古代中華帝国1)」⇒(新)「史学講義9(前近代東アジア・ユーラシア1)」

(旧) AC310「史学講義10(古代中華帝国2)」⇒(新)「史学講義10(前近代東アジア・ユーラシア2)」

(旧) AC313「史学講義13(近代中国1)」⇒(新)「史学講義13(近代東アジア・ユーラシア1)」

(旧) AC314「史学講義14(近代中国2)」⇒(新)「史学講義14(近代東アジア・ユーラシア2)」

(旧) AC323「史学講義23(比較都市史論)」⇒(新)「史学講義23(人間と都市)」

(旧) AC324「史学講義24(比較農村史論)」⇒(新)「史学講義24(人間と環境)」

(旧) AC325「史学講義25(精神とマンタリテの歴史1)」⇒(新)「史学講義25(信仰と知の歴史1)」

(旧) AC326「史学講義26(精神とマンタリテの歴史2)」⇒(新)「史学講義26(信仰と知の歴史2)」

(旧) AC350「史学講義50(日本の文化)」⇒(新)「史学講義50(日本の思想・文化)」

※2010～2015年度1年次入学者

(旧) AC231「専門基礎1(インドネシア語)」⇒(新)「専門基礎1(アジア・アフリカ系言語1)」

(旧) AC232「専門基礎2(中国語)」⇒(新)「専門基礎2(アジア・アフリカ系言語2)」

(旧) AC233「専門基礎3(基礎英語)」⇒(新)「専門基礎3(ヨーロッパ系言語1)」

(旧) AC234「専門基礎4(中級英語)」⇒(新)「専門基礎4(イングリッシュ・コンプリヘンジョン)」

(旧) AC236「専門基礎6(フランス語)」⇒(新)「専門基礎6(ヨーロッパ系言語2)」

(旧) AC237「専門基礎7(ロシア語)」⇒(新)「専門基礎7(ヨーロッパ系言語3)」

(旧) AC243「専門基礎13(トルコ語)」⇒(新)「専門基礎13(アジア・アフリカ系言語3)」

(旧) AC311「史学講義11(中世東アジア)」⇒(新)「史学講義11(前近代における法と国家)」

(旧) AC319「史学講義19(東ヨーロッパとロシア)」⇒(新)「史学講義19(近現代における法と社会)」

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) AC311「史学講義11（中世東アジア1）」⇒（新）「史学講義11（前近代における法と国家）」

(旧) AC354「史学講義54（史料学2）」⇒（新）「史学講義54（史料学）」

## 6. 教育学科

以下のとおり科目名が変更になった。なお、同一科目であるため、重複履修不可の科目については、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することはできない。

(旧) 自動登録（AF012）「特別活動の研究」⇒（新）「特別活動の理論と方法」

(旧) 自動登録（AF005）「道德教育の研究」⇒（新）「道德教育の理論と方法」

(2017年度より変更)

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) AE316「現代教育の諸問題1（特別支援教育）」⇒（新）「現代教育の諸問題1」

(旧) AE317「現代教育の諸問題2（教育問題の社会学）」⇒（新）「現代教育の諸問題2」

(旧) AE318「現代教育の諸問題3（教育改革の現在）」⇒（新）「現代教育の諸問題3」

(旧) AF201「国語教育論」⇒（新）「国語科教育論」

(旧) AF203「数学教育論」⇒（新）「算数科教育論」

(旧) AF204「自然科学教育論」⇒（新）「理科教育論」

(旧) AF205「生活教育論」⇒（新）「生活科教育論」

(2018年度より変更)

※2006～2009年度1年次入学者

(旧) AE201「教育調査実習1a」⇒（新）「教育調査実習1」

(旧) AE202「教育調査実習2a」⇒（新）「教育調査実習2」

(旧) AE211「教育調査実習1b」⇒（新）「教育調査実習3a」

(旧) AE212「教育調査実習2b」⇒（新）「教育調査実習4a」

(旧) AE213「教育調査実習1c」⇒（新）「教育調査実習3b」

(旧) AE214「教育調査実習2c」⇒（新）「教育調査実習4b」

### (初等教育専攻)

以下のとおり科目名が変更になった。なお、同一科目であるため、重複履修不可の科目については、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することはできない。

(旧) 自動登録「国語科教材研究a・b」⇒（新）「国語科教育法a・b」

(旧) 自動登録「社会科教材研究a・b」⇒（新）「社会科教育法a・b」

(旧) 自動登録「算数科教材研究a・b」⇒（新）「算数科教育法a・b」

(旧) 自動登録「理科教材研究a・b」⇒（新）「理科教育法a・b」

(旧) 自動登録「生活科教材研究a・b」⇒（新）「生活科教育法a・b」

(旧) 自動登録「家庭科教材研究a・b」⇒（新）「家庭科教育法a・b」

(旧) 自動登録「音楽科教材研究a・b」⇒（新）「音楽科教育法a・b」

(旧) 自動登録「図画工作教材研究a・b」⇒（新）「図画工作科教育法a・b」

(旧) 自動登録「体育教材研究」⇒（新）「体育科教育法」

## 1-5 2015年度のカリキュラムの一部改定

### 1. 全学科・専修

学部4年次生の大学院科目の履修について、文学研究科組織神学専攻科目の履修は不可となり、キリスト教学研究科科目の履修を認めることになった。

### Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

2. キリスト教学科・教育学科 (2010年度以降 1 年次入学者)  
AA369「キリスト教学講義15（キリスト教と教育1）」は、AE323「キリスト教と教育1」と同一科目であり、教育学科学生はAE323「キリスト教と教育1」の科目コードのみで履修登録することができる。
- AA370「キリスト教学講義16（キリスト教と教育2）」は、AE324「キリスト教と教育2」と同一科目であり、教育学科学生はAE324「キリスト教と教育2」の科目コードのみで履修登録することができる。
- (2006～2009年度 1 年次入学者)  
指定科目C「キリスト教文化講義21・22」は、「抽選登録」から「科目コード登録」に変更になった。
3. 文学科 日本文学専修 指定科目C「文学講義342」は、「抽選登録」から「科目コード登録」に変更になった。
4. 文学科 文芸・思想専修 指定科目C「文学講義407・408」は、「抽選登録」から「科目コード登録」に変更になった。
5. 史学科 以下のとおりサブタイトルを変更する。なお、それぞれ同一科目であるため、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することはできない。
- (2015年度より変更)  
(旧) AC233「専門基礎3（基礎英語1）」⇒(新)「専門基礎3（基礎英語）」  
(旧) AC234「専門基礎4（中級英語1）」⇒(新)「専門基礎4（中級英語）」
- (2016年度より変更)  
(旧) AC239「専門基礎9（基礎英語2）」⇒(新)「専門基礎9（近代史料論）」  
(旧) AC240「専門基礎10（中級英語2）」⇒(新)「専門基礎10（現代史料論）」

## 1-6 2014年度のカリキュラムの一部改定

1. 基幹科目 (2010年度以降 1 年次入学者)  
基幹科目D「英語文献講読9～16」は、「抽選登録」から「その他登録」に変更になった。
2. 文学科 日本文学専修 指定科目C「文学講義342」は、「科目コード登録」から「抽選登録」に変更になった。
3. 史学科 (2010年度以降 1 年次入学者)  
以下の科目が廃止された。  
**廃止**  
指定科目C「専門基礎8」（半期 2 単位）
- (2006～2009年度 1 年次入学者)  
以下の科目が廃止された。  
**廃止**  
指定科目C「専門基礎言語4」（半期 2 単位）
4. キリスト教学科・教育学科 AA369「キリスト教学講義15（キリスト教と教育1）」とAE323「キリスト教と教育1」は同一科目であるため、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することは不可となった。



AA370「キリスト教学講義16（キリスト教と教育2）」とAE324「キリスト教と教育2」は同一科目であるため、すでに一方の科目の単位を修得済みの場合はもう一方の科目を履修することは不可となった。

## 1-7 2013年度のカリキュラムの一部改定

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 1. 基幹科目            | 基幹科目C「情報処理1・2」は、「科目コード登録」から「抽選登録」に変更になった。   |
| 2. キリスト教学科         | (2010年度以降1年次入学者)<br>指定科目C「キリスト教学講義35・36」は、「科目コード登録」から「抽選登録」に変更になった。<br>(2006～2009年度1年次入学者)<br>指定科目C「キリスト教文化講義21・22」は、「科目コード登録」から「抽選登録」に変更になった。  |
| 3. 文学科<br>英米文学専修   | (2006～2009年度1年次入学者)<br>以下の科目が新設された。<br><b>新設</b><br>指定科目B1「演習B25」・「演習B26」・「演習B27」・「演習B28」（半期 2単位）   |
| 4. 文学科<br>ドイツ文学専修  | 以下の科目が新設された。<br><b>新設</b><br>指定科目B1「演習C11」・「演習C12」（半期 2単位）  |
| 5. 文学科<br>フランス文学専修 | (2006～2009年度1年次入学者)<br>以下の科目が新設された。<br><b>新設</b><br>指定科目B1「演習D11」・「演習D12」（半期 2単位）   |
| 6. 文学科<br>文芸・思想専修  | 指定科目A「卒業論文（制作）予備演習」は、「自動登録」から「その他登録」に変更になった。<br>指定科目C「文学講義407・408」は、「科目コード登録」から「抽選登録」に変更になった。   |
| 7. 史学科             | (2006～2009年度1年次入学者)<br>以下の科目が廃止された。<br><b>廃止</b><br>指定科目C「史学講義20・52」（半期 2単位）・「超域文化学講義6」（半期 2単位）   |
| 8. 教育学科            | 指定科目C（初等教育専攻は指定科目C1）「体育実技」は、「その他登録」から「抽選登録」に変更になった。<br><br>(2010年度以降1年次入学者)<br>指定科目B2「教育調査実習1～4」は、配当年次が「2年次以上」から「3年次以上」に変更になった。<br><br>(初等教育専攻)<br>(2010年度以降1年次入学者)<br>指定科目A2「教職実践演習（小学校）」に以下の履修規定を設ける。<br>「教職実践演習（小学校）」は、「初等教育実習」を履修中もしくは単位修得済みの者のみ履修可とする。 |

## 1-8 2012年度のカリキュラムの一部改定

- |                   |  |
|-------------------|--|
| 1. 基幹科目           | <p>基幹科目 A 「職業と人文学」が2クラス開講となった。</p> <p>(2010年度以降1年次入学者)</p> <p>基幹科目 D 「ヘブライ語1・2」「ギリシア語1・2」「ラテン語1・2」は、「抽選登録」から「科目コード登録」に変更になった。</p> <p>(2006～2009年度1年次入学者)</p> <p>基幹科目 C 「ギリシア語1・2」「ラテン語1・2」は、「抽選登録」から「科目コード登録」に変更になった。</p>      |
| 2. 文学科<br>英米文学専修  | <p>(2010年度以降1年次入学者)</p> <p>指定科目 A 「入門演習 B 1・B 2」「基礎演習1・2」「英語基礎演習1・2」の再履修者の履修登録方法が、「科目コード登録」から「自動登録」に変更になった。</p> <p>(2006～2009年度1年次入学者)</p> <p>指定科目 A 「入門演習 B 1」「基礎演習1・2」「英語基礎演習1・2」の再履修者の履修登録方法が、「科目コード登録」から「自動登録」に変更になった。</p> |
| 3. 文学科<br>文芸・思想専修 | <p>(2010年度以降1年次入学者)</p> <p>指定科目 B 2 「文芸・思想文献講読1～4」は、「抽選登録」から「科目コード登録」に変更になった。</p>  |
| 4. 史学科            | <p>指定科目 C 「史学講義54」は、「抽選登録」から「科目コード登録」に変更になった。</p> <p>(2006～2009年度1年次入学者)</p> <p>以下の科目が廃止された。</p> <p><b>廃止</b></p> <p>指定科目 B 2 「専門基礎言語2・3・5・6」（半期 2単位）</p> <p>指定科目 C 「史学講義12」（半期 2単位）・「超域文化学講義10」（半期 2単位）</p>                   |
| 5. 教育学科           | <p>指定科目 C （初等教育専攻は指定科目 C 2）「情報教育論」は、「その他登録」から「科目コード登録」に変更になった。</p>   |

## 1-9 2011年度のカリキュラムの一部改定

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 1. 基幹科目            | <p>(2010年度以降1年次入学者)</p> <p>基幹科目 D は全て「抽選登録」に変更になった。</p> <p>(2006～2009年度1年次入学者)</p> <p>基幹科目 C 「ギリシア語1・2」「ラテン語1・2」は「科目コード登録」から「抽選登録」に変更になった。</p> |
| 2. 文学科<br>フランス文学専修 | <p>(2011年度以降1年次入学者)</p> <p>フランス語の既習者に対し、指定科目 A 「フランス語入門1～4」の単位認定・履修免除の制度を新設した。</p>   |



Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

3. 文学科 文芸・思想専修	(2010年度以降1年次入学者) 指定科目B2「文芸・思想文献講読1～4」は「科目コード登録」から「抽選登録」に変更になった。
4. 教育学科  (初等教育専攻)	編入学生に対し、以下のとおり指定科目C（初等教育専攻は指定科目C1）「体育実技」の先修規定の例外措置を設ける。 「体育実技」を履修するためには、以下の5科目中4科目以上の単位を修得していなければならない。 ただし、3年次編入学生は除く。 「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」
	編入学生に対し、以下のとおり指定科目A2「音楽実技」「美術教育」の先修規定の例外措置を設けた。 「音楽実技」「美術教育」を履修するためには、以下の5科目中4科目以上の単位を修得していなければならない。ただし、3年次編入学生は除く。 「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」

1-10 2010年度のカリキュラムの一部改定（2006～2009年度1年次入学者のみ）

1. 文学科 日本文学専修	指定科目B2「日本文学講読1～8」の他学科・他専修履修は「不可」から「可」に変更になった。
2. 文学科 文芸・思想専修	指定科目B1「演習F1～F16」は「自動登録」から「その他登録」に変更になった。
3. 教育学科  (初等教育専攻)	指定科目C（初等教育専攻は指定科目C1・C2）「体育実技」「情報教育論」の教育学科学生の履修手続が以下のように変更になった。 (旧) 履修希望用紙を教務事務センターレポートBOXに提出 ↓ (新) 4月の学科ガイダンスでなされる指示に従い、学科に申し込む。
	指定科目A2の履修登録方法が「科目コード登録」から「自動登録」に変更になった。  指定科目A2「音楽実技」「美術教育」に以下の先修規定を設ける。 「音楽実技」「美術教育」を履修するためには、以下の5科目中4科目以上の単位を修得していなければならない。 「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」  指定科目A2「初等教育実習」に以下の先修規定を設けた。 「初等教育実習」を履修するためには、以下の単位を修得していなければならない。 「教育学」「教育社会学1」「教育心理学1」「教育哲学1」「教育史1」, 教材研究7科目以上（「教職研究」を含む） (ただし3年次編入学生は「教育学」「教育社会学1」「教育心理学1」, および「教職研究」を含む教材研究5科目以上)  指定科目C1「体育実技」に以下の先修規定を設けた。 「体育実技」を履修するためには、以下の5科目中4科目以上の単位を修得していなければならない。 「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」

1-11 2009年度のカリキュラムの一部改定

1. キリスト教学科 | 指定科目A「キリスト教学基礎演習」が2クラス開講となった。

### Ⅲ-3 履修規定（カリキュラムの一部改定について）

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 2. 文学科<br>ドイツ文学専修  | 指定科目B2「ドイツ語表現演習5・9」の履修登録方法が「科目コード登録」から「その他登録」に変更になった。<br><br>指定科目C「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」の履修手続が以下のように変更になった。<br>（旧）3年次10月に「卒業論文指導教授登録」を行い、さらに4年次の4月に登録票を提出する。<br>↓<br>（新）3年次7月の卒業論文シンポジウムで「卒業論文（制作）執筆・作成希望届」を提出する。<br>繰上履修・履修免除について、許可される科目区分が指定科目B2から、指定科目A・指定科目B2に変更になった。 |
| 3. 文学科<br>フランス文学専修 | 繰上履修・履修免除について、許可される科目区分が指定科目B2から、指定科目A・指定科目B2に変更になった。   |
| 4. 文学科<br>文芸・思想専修  | 指定科目A「卒業論文（制作）予備演習」は「その他登録」から「自動登録」に変更になった。   |
| 5. 史学科             | 指定科目A「入門演習G1・G2」未修得者は、指定科目A「卒業論文（制作）予備演習」を登録できない（2008年度入学者より適用）。  |
| 6. 教育学科            | 教育実習について、特例として、東京都教師養成塾の特別教育実習、埼玉県教師養成セミナーの学校体験実習を終えた場合は、通常の実習を行ったものとして読み替える。   |

#### 1-12 2008年度のカリキュラムの一部改定

- |                   |   |
|-------------------|---|
| 1. 文学科<br>ドイツ文学専修 | 指定科目B2「ドイツ語表現演習3A・3B」「同4A・4B」はA・Bの2科目を同時に履修することが指示されていたが、指定された1科目のみ履修することになった。<br><br>指定科目B2のうち以下の科目の配当年次が「2～4年次」から「3・4年次」に変更になった。また、登録方法も「その他登録」に変更になった。<br>「ドイツ語表現演習6」 (旧) 2～4年次 ⇒ (新) 3・4年次<br>「ドイツ文学・文化演習1～8」 (旧) 2～4年次 ⇒ (新) 3・4年次 |
| 2. 文学科<br>文芸・思想専修 | 指定科目B1のうち「演習F1～16」（2年次配当科目）については、4単位以上の修得を認めないことになった。<br>また、演習の登録方法が「自動登録」に変更になった。  |
| 3. 史学科<br>超域文化学専修 | 以下の科目の配当年次が変更になった。<br>「地理学概説1・2」 (旧) 2～4年次 ⇒ (新) 1～4年次  |
| 4. 教育学科           | 「情報教育論」の履修登録方法が「Web登録」から「その他登録」に変更になった。   |

#### 1-13 2007年度のカリキュラムの一部改定

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 基幹科目 | 「合同講義1・2」の配当年次が変更になった。(旧) 2～4年次 ⇒ (新) 1～4年次                          |
| 2. 史学科  | 指定科目B1の単位修得後の重複履修は認められないことになった。また、所定単位数（8単位）を超えて修得することは認められないことになった。 |

通常の履修による単位修得以外に、下記のとおり、単位が認定される場合がある。詳細は以下の各制度の内容を確認のこと。なお、単位認定の上限は学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」参照）により合計60単位までと定められている（ただし3年次編入学または転部・転科等による単位認定、入学前に本学で修得した単位の認定などについてはこの上限に含まない）。

### 1 派遣留学制度による単位認定

本学部の学生が、国際交流制度による派遣留学生（在学留学生）として外国の大学で修得した単位は以下のとおり扱う。

㊦ 認定の上限については、「立教大学学則第2章第10条の2第1項から第10条の4第3項」を参照すること。

(1) 在学留学の学生が外国の大学で修得した科目の単位の認定を申し出る場合、下記①～⑥の書類を、派遣留学期間終了後1ヵ月以内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。派遣留学期間終了後1ヵ月を過ぎると一切受け付けないので注意すること。

- ①立教大学派遣留学生単位認定願
- ②留学先大学・機関等が発行した成績証明書（原本）
- ③留学先大学の学年暦（授業開始日・終了日・試験期間・休祝日を示す書類）
- ④学業成績評価の基準を示す書類（合否の基準が明記されているもの）
- ⑤シラバス等、授業内容がわかる書類

※言語教育科目についてはシラバスの提出がない限り単位認定できないため、シラバスがない場合は科目担当教員に事情を説明して必ず作成してもらうこと（科目名・目的・内容・成績評価基準・テキスト・使用言語が記載されたものであり、担当者のサインがあることが望ましい）。

※言語Bの単位認定を希望する場合は、シラバスに加え、授業で使用したテキスト及びノート等授業内容詳細が分かるものを提出すること。

⑥各科目の総授業時間数を示す書類

※シラバス等に記載がない場合は、最終試験を除く授業回数・1回あたりの授業時間・授業実施曜日を示す書類（コーススケジュール、時間割など）

提出された書類に基づき、文学部および全学共通カリキュラム運営センターが審査を行う。その結果単位認定を受けられないこともある。なお、5月末日までの申請受付分が当該年度の特別卒業判定の対象となり、10月末日までの申請受付分が当該年度の卒業判定の対象となる。

※派遣留学期間後の学籍が休学であっても申請は有効となる。

※申請した単位が認定される以前に退学した場合は、派遣留学単位認定の申請が無効になる。

#### 郵送（書留相当）による派遣留学単位認定申請について

以下の条件すべてに該当する場合は、派遣留学単位認定の申請について郵送（書留相当）で行うことができる。

- ①派遣留学期間終了後、引き続き現地で研究・勉学等を継続して行う者で、1ヵ月以内に帰国できない者
- ②派遣留学期間終了日以前に、①の内容について所属キャンパスの教務事務センターに申し出た者
- ③大学側からの連絡に回答可能な方法を構築できる者
- ④以下の条件を了解できる者
  - ・手続書類の不備がないよう申請すること
  - ・手続書類不備については、派遣留学単位認定の申請が無効になる場合があること

(2) 原則、以下の基準により単位数を計算する。

講義：11.25時間＝1単位

語学・実習・体育実技：22.5時間＝1単位

ECTS<sup>※1</sup>を採用している欧州の大学：ECTS単位数の1/2単位数を算出。但しスペインの大学のみの時間数により換算する。

※1 ECTS：European Credit Transfer System（欧州単位互換制度）

### Ⅲ-4 履修規定（単位認定）

- (3) 文学部専門教育科目として認定を受けた科目は、卒業要件単位に算入できる。履修区分は、留学先大学の授業内容をもとに決定する。
- (4) 全学共通カリキュラムの科目として認定を受けた科目は、認定を受けたカテゴリーに応じて卒業要件単位に算入することができる。卒業要件単位への算入については全学共通カリキュラム、および所属学科の履修規定を参照すること。
- (5) 認定を受けた科目の単位は、留学先大学の授業時間数を考慮して決定する。
- (6) 留学認定科目の成績評価は「認定」とする。

## 2 認定校留学制度・文学部留学プログラムによる単位認定

本学部の学生が認定校留学制度または文学部留学プログラムにより在学留学中に外国の大学で修得した科目の単位は、国際交流制度による派遣留学生の単位認定に準じて扱う。

## 3 3年次編入学者、転部・転科・転専修者の履修免除・単位認定について

### 1. 3年次編入学者

※単位認定手続き・編入後の履修科目等詳細については、編入学年度始めの3年次ガイダンスに出席し、指示を受けること。

#### (1) 全学共通カリキュラム

本学部に編入学した者は、全学共通カリキュラムの卒業要件単位（30単位）の履修を免除する。なお、編入学後に全学共通カリキュラムの科目を履修した場合は、文学部の自由科目として卒業に必要な単位に算入される。

#### (2) 専門教育科目

認定対象	本学部への編入学以前に立教大学を卒業するまでに修得した単位のうち、卒業要件単位数を超えて修得した単位。
認定方法	各学科・専修の一定の基準に基づき審議し、本学部の1年次または2年次の専門教育科目（必修科目に重点をおく）に相当する科目であると認められた場合、専門教育科目の履修を免除してその単位を認定する。 *文学科フランス文学専修においては、必修科目に関する特別措置が設けられている。同専修の履修規定を参照のこと。
認定科目名	①必修科目に相当するとして認定された科目 本学部開講の科目名に振り替える。 ②選択科目・自由科目に相当するとして認定された科目 1) 本学部で単位を修得した科目：本学部開講の科目名。 2) 1) 以外の科目：科目名「専門自由科目□」（□は認定単位数の合計）に振り替える。

### 2. 学内転部・転科・転専修者

※編入後の履修科目等詳細については、転部・転科・転専修した年度始めの3年次ガイダンスに出席し、指示を受けること。

#### (1) 全学共通カリキュラム

新所属学部（学科・専修）ごとの卒業要件単位を修得しなければならない。

\*文学科ドイツ文学専修およびフランス文学専修における、言語教育科目、言語Bの履修免除に関しては全学共通カリキュラム履修要項の該当頁を参照すること。

#### (2) 専門教育科目

先に所属した本学他学部・他学科・他専修において修得した単位は、新しい所属学科・専修で審議後、卒業要件単位として認められる場合がある。

特に、転部者については、新しい所属学科・専修が定めた範囲でのみ卒業要件単位として認定され、その他の科目は卒業要件単位として認められないので注意すること。

\*文学科フランス文学専修においては、必修科目に関する特別措置が設けられている。同専修の履修規定を参照のこと。

## 4 入学後に他大学等で修得した単位の認定

### 入学後に他大学等で修得した単位の認定

入学後に他大学（本学以外の大学・短期大学）等で修得した単位について、認定を希望する場合は、以下のとおり認定することがある。認定対象者は学部1～3年次生で、4年次生は対象外とする。

他大学等の範囲は立教大学学則第2章第10条の2、および第10条の3において規定されているものとする。ただし、海外の大学等での修得単位の単位認定については、派遣留学、認定校留学の認定制度を適用し、本単位認定制度の対象外とする。

#### (1) 申込時期・方法

入学後に他大学等での修得単位の認定を申し出る場合、事前申請は特に設けず、他大学等での成績確定後に認定の申請を行う。また単位認定の申請は、単位を修得した年度のみ行うことができるものとし、過年度に修得した単位は単位認定の対象外とする。ただし、成績評価が年度を越えて（次年度4月）発表になる科目の場合は、次年度春学期授業開始日までに申請しなければならない。

申請にあたって、下記①～③の書類を、所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

- ① 単位認定申請書（所属キャンパスの教務窓口で配付）
- ② 単位修得先の大学等が発行した成績証明書
- ③ シラバス等、授業内容がわかる書類

提出された書類に基づき、全学共通カリキュラム運営センターまたは学科等が審査を行う。その際、必要に応じて当該学科教員との面談も実施する。また、その結果単位認定を受けられないこともある。結果は認定作業が完了次第通知するが、成績評価が年度を越えて発表になる科目は履修登録修正期間の初日までに通知する。

#### (2) 認定対象の範囲

一定の基準に基づき、専門教育科目（全科目対象）と同一の科目を履修したと認められた場合は、その単位を認定する。ただし、原則として、卒論、演習科目は認定の対象外。

全学共通カリキュラム科目に相当する科目を修得したと認められた場合には、全学共通カリキュラムの規定によりその単位を認定する（詳細は全学共通カリキュラム履修要項参照）。

#### (3) 認定科目名・履修区分

専門教育科目として認定する場合は、その内容から本学部開講の科目名に振り替えて認定する。認定を受けた科目の履修区分は、修得先の授業内容をもとに決定する。

また、全学共通カリキュラム科目として認定する場合は、全学共通カリキュラムの規定により認定する（詳細は全学共通カリキュラム履修要項参照）。

#### (4) 認定単位数の換算

認定を受けた科目の単位は、修得先の授業時間数を考慮して決定する。

#### (5) 認定科目の単位の扱い

認定を受けた科目は、認定された履修区分に従って卒業要件単位に算入する。また、認定を受けた科目は、単位を修得した年度における本学の履修登録上限単位数の計算に含まれるので、履修計画を立てる際に十分注意すること。

#### (6) 認定の上限単位数

学則（「立教大学学則第2章第10条の2第1項～第10条の4第3項」）で定められている単位認定の上限60単位に含まれるが、「入学後に他大学等で修得した単位の認定」としての上限はない。

なお、全学共通カリキュラム科目について、総合教育科目の卒業要件単位数を超えて単位認定された場合、その履修区分の扱いについては、各学科等の定めるところによる。

#### (7) 認定科目の成績表示

成績評価は「認定」とする。



## 1 学習計画の立て方

大学における学習の特徴は、自分で履修計画を立て、受講する科目を選択し、卒業に必要な単位を満たしていく点にある。そのため、時間割は各自異なったものとなる。

学習の成果をあげるためには、たとえば1時間の講義に対して、その倍の時間の予習と復習が必要である。この主旨からすれば、1年間で履修することができる授業科目の単位数にはおのずと限界がある。そこで、履修登録には上限が設定されている。

履修計画を立てるにあたっては、下記の学部ガイダンスに出席し、また必要に応じて「履修相談」を利用してほしい。

## 1. ガイダンス

各ガイダンスで、授業科目や単位修得、履修登録などの説明が行われるので、履修要項を持参のうえ、必ず出席すること。

📖 3年次に編入学した学生の日程については、『2019年度新入生オリエンテーション行事表』を参照のこと。

## 2. 「履修相談」

「履修相談」では、履修要項記載内容についての疑問点などに関して、教員が相談・質問に応じる。

## 日程

学科・専修	実施日	時間	場所
キリスト教	2019年4月 3日 (水)	14:00~15:00	D301教室
英米文学	2019年4月 3日 (水)	17:00~18:00	ロイドホール5階 第2会議室
ドイツ文学	2019年4月 4日 (木)	10:30~12:00	ロイドホール5階 第1・2会議室
		14:30~16:00	
フランス文学	2019年4月 3日 (水)	11:00~12:00	桑瀬章二郎研究室
日本文学	2019年4月 3日 (水)	17:00~18:00	ロイドホール5階 第3会議室
文芸・思想	2019年4月 3日 (水)	17:30~18:00	林みどり研究室
史	2019年4月 2日 (火)	16:00~17:00	X107教室
	2019年4月 3日 (水)	13:30~14:10	X102教室
	2019年7月17日 (水)	12:25~13:25	ロイドホール5階 人文研究センター
	2020年1月22日 (水)	12:25~13:25	
教育	2019年4月 5日 (金)	13:00~15:00	市川誠研究室

## 2 アカデミックアドバイザー・オフィスアワー

1. アカデミック  
アドバイザー

アカデミックアドバイザー制度は、学生一人ひとりに対して担当者（専任教員）を定め、本学における学習全般に関する助言・指導や情報提供を行う制度である。アカデミックアドバイザーは学生にとって身近な相談相手となるので、学習に関する悩みや相談がある場合には、気軽に連絡を取ること。

2019年度文学部アカデミックアドバイザーについては、学科・専修ガイダンス時に説明する。

## 2. オフィスアワー

オフィスアワーは、それぞれの専任教員\*が、主として担当する授業に関する質問や勉学の相談等に応じることを目的として、授業期間中の毎週決まった時間帯に研究室で待機する制度である。授業内容等に関する質問がある場合には、オフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室を訪ね質問することができる。

オフィスアワーの一覧は、4月はじめに文学部掲示板にて発表する。

※ 兼任講師の担当する授業に関する質問は、授業終了後の時間等を利用して質問すること。

## 1 履修登録とは

履修登録は、学生がその年度に自分が履修しようとする科目を届け出る手続きであり、学習計画の出発点となるものである。定期試験期間の試験は、全学共通カリキュラム科目、専門教育科目、学校・社会教育講座科目いずれも同一期間内に、1時限目から5時限目まで行われる。そのことも考慮して、無理のない履修計画を立て、登録してほしい。

学生は自己の責任において履修する科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければならない。履修登録をしていない科目は、授業に出席し、また試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできない。履修登録は、年2回、4月に春学期科目と通年科目、9月に秋学期科目を届け出る。登録のあとは、履修登録状況画面が更新されるので、必ず内容を確認すること。登録科目に変更の必要がなければ履修登録は完了する。

## 履修登録届出時期

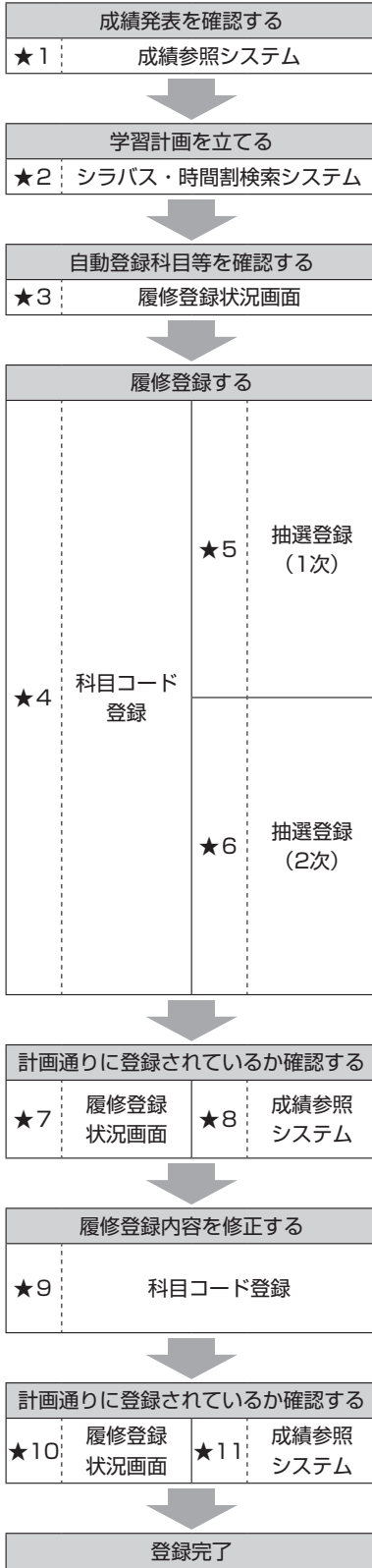
履修登録届出時期と対象科目は以下の通り。

- 4月期 ⇒ 春学期科目，通年科目
- 9月期 ⇒ 秋学期科目

※春学期期間外科目，秋学期期間外科目については履修登録届出時期が異なるので，別途確認すること。

2 履修登録の流れ

2019年度 履修登録スケジュール



	春学期	秋学期
★1 成績発表	3月13日(水) 10:00	9月5日(木) 10:00
★2 シラバス・時間割検索システムHP公開	3月19日(火)	
★3 履修登録状況画面の更新	3月30日(土) 18:00	9月5日(木) 10:00
★4 科目コード登録期間①	4月2日(火)、3日(水) 各日11:00~26:00	9月12日(木)、13日(金) 各日11:00~26:00
	★5 抽選登録期間(1次)	9月14日(土)~15日(日) 14日11:00~15日17:00
★4 科目コード登録期間②	4月4日(木)~5日(金) 4日11:00~17:00、 4日20:00~5日17:00 ※4日17:00~20:00は休止	9月14日(土)~15日(日) 14日11:00~15日17:00
★4 科目コード登録期間③	4月7日(日)~8日(月) 7日11:00~8日15:00	9月17日(火)、18日(水) 17日11:00~18日15:00
★5 抽選登録期間(1次)	4月7日(日) 11:00	9月17日(火) 11:00
★6 抽選登録期間(2次)	4月9日(火) 18:00	9月19日(木) 18:00
★7 履修登録状況画面の更新	4月9日(火) 18:00~26:00	9月19日(木) 18:00~26:00
★8 成績参照システムの更新	4月10日(水) 11:00~26:00	9月20日(金) 11:00~26:00
★9 履修登録修正期間	4月11日(木) 11:00~18:00	9月21日(土) 11:00~18:00
	★10 履修登録状況画面の更新	4月12日(金) 18:00
★11 成績参照システムの更新	4月13日(土) 10:00	9月24日(火) 10:00
	★11 成績参照システムの更新	4月16日(火) 11:00~26:00
★12 履修登録状況画面の更新	4月17日(水) 11:00~18:00	9月27日(金) 11:00~18:00
	★13 履修登録状況画面の更新	4月18日(木) 18:00
★14 履修登録状況画面の更新	4月20日(土) 10:00	10月1日(火) 10:00

各履修届出方法の詳細については、次頁以降を必ず確認すること。



## 3 履修届出方法

履修登録には科目の性格によって、自動登録、「その他」登録、抽選登録、科目コード登録の方法がある。届出方法がそれぞれ異なるので、指示に従うこと。抽選登録、科目コード登録の届出は履修登録システム (<https://r.rikkyo.ac.jp/>) により行うこと。このシステムは大学内のコンピュータ教室の他、自宅等からもアクセス可能だが、ブラウザの種類、バージョン等により一部使用できない場合もある。

## 1. 自動登録

## (1) 対象科目

学科課程表の科目コード欄に「自動登録」と記載されている科目。

## (2) 履修登録・注意事項

- ① 大学であらかじめ登録しているため、履修登録に関する手続きは原則として不要である。
- ② 配当年次に自動登録される必修科目を修得できずに再履修する場合は、次の年度も自動登録される。
- ③ 自動登録科目の変更・取消は原則として認めない。(必修科目履修辞退制度については「6 必修科目履修辞退制度」を参照すること。)
- ④ クラス分けをする科目については、各学科・専修のガイダンス時に振り分けの指示を行う。

## 2. 「その他」登録

- (1) あらかじめ定められた期間に所定の希望届を提出、あるいは指定された手続きを行い、履修が認められた科目、振り分けられたクラスについては、大学が登録を行う科目である。

希望届提出後の変更・取消、および結果発表後の変更・取消は原則として認められない。

また、前年度中に次年度からの演習について希望を受け付ける場合がある。その場合は、必修の授業科目の時間を通じて、または掲示によりアナウンスする。

## (2) 対象科目

学科課程表の科目コード欄に「その他」と記載されている科目。次表も確認すること。

※入学年度や履修年度によって異なるので注意すること。2020年度以降については当該年度に、大学ホームページの教務部ページ等を確認すること。

<2010～2015年度1年次入学者および2006～2009年度1年次入学者共通>

学科・専修等	科 目
基幹科目	基幹科目B「海外フィールドスタディ(1. EAP・2. ASD・3. SLV)」 1. EAP (イギリス) 説明会：2019年4月3日(水) 16:00～17:00 X204教室 受付：2019年4月4日(木) 9:00～8日(月) 17:00 受付場所：学部事務1課窓口(ロイドホール5階) *結果発表：2019年4月10日(水) 12:00
	2. ASD (ドイツ) 説明会：2019年4月1日(月) 16:30～17:00 5221教室 受付：2019年4月2日(火) 9:00～3日(水) 17:00 受付場所：学部事務1課窓口(ロイドホール5階) *結果発表：2019年4月4日(木) 10:00
	3. SLV (フランス) 説明会：2019年4月3日(水) 16:00～17:30 X202教室 受付：2019年4月4日(木) 9:00～6日(土) 12:30 受付場所：学部事務1課窓口(ロイドホール5階) 面接：2019年4月8日(月) 14:00～ ロイドホール第3会議室にて *結果発表：2019年4月9日(火) 12:00
	基幹科目B「ケンブリッジ・サマープログラム」 説明会：2019年4月2日(火) 15:30～17:00 X201教室 受付：2019年4月3日(水) 9:00～6日(土) 12:30 受付場所：学部事務1課窓口(ロイドホール5階) *結果発表：2019年4月8日(月) 16:00
	基幹科目B「書道1」「書道2」 (文学科日本文学専修、文芸・思想専修の教職課程登録者のみ) 届用紙配付：2019年4月3日(水) ガイダンス時 受付：2019年4月4日(木) 9:00～6日(土) 12:30 受付場所：池袋キャンパス教務事務センターレポートBOX *結果発表：2019年4月9日(火) 12:00

※結果発表はいずれの科目も文学部掲示板にて行う。

V 履修登録

基幹科目	基幹科目B「インターンシップ」 説明会：2019年4月5日(金) 11:30~12:30 X107教室 受付：2019年4月6日(土) 9:00~11日(木) 17:00 受付場所：学部事務1課窓口(ロイドホール5階) *履修登録予定者発表：4月15日(月) 12:00 *以降のスケジュールについては、掲示を確認すること。	
キリスト教学科	指定科目B1(全科目) 前年度中に希望受付済み。	
文学科	英米文学専修	指定科目B1(全科目) 指定科目B2(全科目) 受付：2019年3月19日(火)~26日(火) 16:30 受付場所：池袋キャンパス教務事務センター窓口 *結果発表：2019年3月30日(土) 12:00 指定科目C「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」 届用紙配付：2019年4月3日(水) ガイダンス時 受付：2019年4月3日(水) 9:00~8日(月) 17:00 受付場所：池袋キャンパス教務事務センターレポートBOX *結果発表：2019年4月10日(水) 15:00
	ドイツ文学専修	指定科目B1(全科目) 前年度中に希望受付済み。次年度の履修については、11月~12月中に希望受付を行う。 指定科目B2「ドイツ語表現演習1A・1B, 2A・2B」 6月中に希望受付を行う。掲示に注意すること。 届用紙配付：6月中 届用紙提出：6月中 *結果発表：7月中 指定科目B2「ドイツ語表現演習1A・1B, 2A・2B」以外の科目 前年度中に希望受付済み。次年度の履修については、11月下旬~12月中に希望受付を行う。掲示に注意すること。 「ドイツ文学・文化演習4(日独比較文化タンドム)」については、7月に開催する説明会に参加すること。掲示に注意すること。 なお、2年次生で「ドイツ語表現演習6」、「ドイツ文学・文化演習8(旧：ドイツ文学・文化演習9)」の履修希望者は、「学科・専修ごとの履修規定 カリキュラム」頁を参照すること。 指定科目C「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」 履修前年度の6~7月の卒業論文シンポジウムで「卒業論文(制作)執筆・作成希望届」を提出する。
文学科	フランス文学専修	指定科目B1(全科目) 前年度中に希望受付済み。
	日本文学専修	指定科目B2「研究小論文」 受付 春学期分：2019年4月2日(火)~16日(火) 17:00 受付 秋学期分：2019年9月12日(木)~26日(木) 17:00 指導教員に承認を得た上で「研究小論文履修希望届」を池袋キャンパス教務事務センターに提出する。 指定科目B2「卒業論文(制作) 予備研究」 受付 春学期分：2019年4月2日(火)~16日(火) 17:00 受付 秋学期分：2019年9月12日(木)~26日(木) 17:00 指導教員に承認を得た上で「卒業論文(制作) 予備研究履修希望届」を池袋キャンパス教務事務センターに提出する。
		文芸・思想専修
史学科	指定科目B2「フィールドワークI1・2」 春学期の初回授業時にガイダンスおよび履修登録申請受付を行うため、必ず出席すること。 指定科目C「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」 履修前年度の秋学期末試験のレポート提出期間に卒業論文登録届を提出する。	
教育学科	指定科目B1(全科目) 履修登録の詳細は、2年次に「課程選択ガイダンス」と同時に開かれる「3年次演習選択ガイダンス」で指示する。なお、4年次で履修をしたい場合は、4月の学科ガイダンスにて指示に従うこと。	

## 3. 抽選登録

## (1) 対象科目

学科課程表の科目コード欄に「抽選登録」と記載されている科目。

※入学年度によって異なるので注意すること。

<2010～2015年度1年次入学者に適用>

区分	科目名	定員
基幹科目B	「音楽学演習1・2」	各定員30名
	「実作・実践研究1・2」	各定員30名
	「情報処理3a～3d, 4a～4d」	各定員70名
基幹科目C	「情報処理1・2」	各定員190名
	「日本文学概論」	定員250名 ※日本文学専修3・4年次, 文芸・思想 専修3・4年次生は科目コード登録
基幹科目D	「Japan in Asian Context」	定員10名
	「Traditional Arts in Japan」	定員10名
	「Postmodern Turn in Japanese Arts」	定員10名
	「Development of Gender Studies」	定員10名
	「Intellectual History of Japan」	定員10名
指定科目C /C1/C2	「キリスト教学講義35・36」	各定員250名
	「文学講義407」	定員200名
	「文学講義408」	定員150名
	「専門基礎15」	定員200名
	「文学講義417」	定員150名
	「体育実技」	定員20名
	「教育と表現」	定員60名

<2006～2009年度1年次入学者に適用>

区分	科目名	定員
基幹科目B	「音楽学演習1・2」	各定員30名
	「実作・実践研究1・2」	各定員30名
基幹科目C	「情報処理1・2」	各定員190名
	「情報処理3a～3d・4a～4d」	各定員70名
	「日本文学概論」	定員250名 ※日本文学専修3・4年次, 文芸・思想 専修3・4年次生は科目コード登録
指定科目C /C1/C2	「文学講義407」	定員200名
	「文学講義408」	定員150名
	「専門基礎15」	定員200名
	「文学講義417」	定員150名
	「体育実技」	定員20名
	「教育と表現」	定員60名

## (2) 履修登録・注意事項

- ① 履修可否は、履修登録システムで発表する。履修を許可された場合は、大学が登録する。
- ② 履修を許可された科目は、原則として履修登録の取消はできない。
- ③ 1次申込において抽選定員に達しなかった科目のみ、2次申込受付を行う。
- ④ 必修科目などすでに登録されている科目や、抽選登録申込期間後に登録を予定している科目と重複する曜日・時限には、抽選登録科目の申込を行わないこと。

抽選登録期間内は、何度でも申請科目の確認、修正ができる。

4. 科目コード登録

(1) 対象科目

履修登録方法が、自動登録、「その他」登録、抽選登録以外の科目。なお、5大学間単位互換制度による他大学科目は、科目コード登録では登録できない。

(2) 履修登録・注意事項

- ① 病気等やむを得ない理由により、期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。また、疑問がある場合は、事前に所属キャンパスの教務窓口で相談してから手続きすること。
- ② 届出科目が確定したら、「登録内容送信」ボタンを必ずクリックし、届出内容およびエラー状況を確認すること。
- ③ 科目コード登録期間内に、「エラー」の無い状態で完了すること。エラーが出た際は【エラーメッセージ対処法】を参照すること。
- ④ 科目コード登録期間中に、登録が正常に行われたことを確認するために、「履修登録」画面に再度ログインし、登録内容を確認すること。
- ⑤ 「履修登録」画面は、科目コード登録期間あるいは履修登録修正期間以外は使用できない。
- ⑥ 履修登録修正期間後、「履修照会」画面に申請内容が反映されるので、申請内容を必ず確認すること。
- ⑦ 科目コード登録で届け出る科目が1科目もない場合も、科目コード登録期間内にアクセスして、大学に届け出ている連絡先が正しいかを確認すること。

科目コード登録期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。

4 登録科目の確認について

1. 登録科目の確認方法について

履修登録の内容は、履修登録状況画面により確認できる。これらが正規の登録科目となるため記載事項の誤りの有無を確認すること。更新日程は、履修登録システムで確認すること。

また、履修登録の内容と併せて、成績参照画面の更新結果（履修登録後に単位計算した結果）も確認すること。更新日程等詳細は、成績参照システムで確認すること。

Blackboard及びSPIRIT Mobile (mobile V-Campus) の時間割は正式な登録科目の確認には使用できないので注意すること。

〈履修登録状況画面の表示内容と更新日〉

履修登録状況画面は、教務の窓口に提示する際の資料として使用できる。

履修登録状況画面の確認

履修登録状況画面は、履修登録された科目が曜日・時限順に表示されている。下部に「エラー科目」として記載されているものは無効となり、登録されていない（ただし「～上限オーバー」エラーを除く）。

記載事項に誤りがある場合、「～上限オーバー」などのエラー表示がある場合は、5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認を参照し、所定の期間内に手続きをとること。

【表示方法】

- 履修登録システムにアクセスする。
- メニューから『履修登録状況画面』をクリックする (Aの①)。
- 『⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン』をクリックする (Aの②)。
- ログイン画面が表示されるので、V-CampusID (学生番号) とパスワード (V-Campusと同じ。新入生については、学生証等交付の際に配付される) でログインする。
- 履修登録状況画面が表示される。(B)

**A**

立教大学  
メニュー  
履修登録 (抽選登録・科目コード登録)  
履修登録状況画面  
履修中止  
成績参照

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン  
②↑ここをクリック

**B**

メニュー  
履修登録 (抽選登録・科目コード登録)  
履修登録状況画面  
①↑ここをクリック  
履修中止  
成績参照

必ず一番下までスクロールして、エラー表示が出ていないかチェック

予定している科目がすべて正しく登録されているかをチェック

立教大学 履修登録システム / 成績参照システム  
Webサイトから履修登録、成績参照等を行うためには、V-CampusのIDとパスワードが必要になります。パスワード紛失時は、所属キャンパスのメディアセンターカウンターへ学生証を持参して再発行を受けてください。

履修登録状況画面について

履修登録状況画面の更新日

更新日	更新時間
9月06日(火)	11:00(予定)
9月17日(土)	11:00(予定)
9月19日(月)	21:00(予定)
9月22日(木)	18:00(予定)
9月28日(水)	21:00(予定)

⇒「WEB履修・成績参照サイト」ログイン  
\*履修登録状況サイトがリニューアルしました。  
\*上記にアクセス後「履修登録状況」タブをクリックしてください。\*

立教大学

基本情報 履修登録状況 成績参照

経済学部 経済政策学科 138A999A 立教 太郎 2015 04 2 0

2016年度

表示科目	科目コード	科目名	単位	担当教員	学期	教室
履日	2-2	BX199	2	部 洋香	秋学期	
	4-4	BX144	2	森 康	秋学期	
	5-5	BX176	2	森 博之	秋学期	
火	2-2	BX025	2	太田 健之	春学期	550
	3-3	FA136	2	山本 薫	春学期	5121
	4-4	FE131	2	多田 多美子	春学期	0501
	5-5	FY114	2	藤 真樹	春学期	4411
水	1-1	BX184	2	田島 寛寿	春学期	8101
	1-1	BX185	2	田島 寛寿	秋学期	8101
	2-2	BX082	4	大友 敏明	通年	7102
木	1-1	BX139	2	櫻井 公人	春学期	0301
	2-2	BX055	2	新藤 亮之	春学期	5210
	2-2	AT304	2	本條 昭彦	秋学期	8202
	3-3	BX104	2	伊藤 隆広	秋学期	4402
	4-4	BX102	2	吉川 崇也	秋学期	8201

エラー情報

曜日	時限	科目コード	科目名	担当教員	学期	教室	メッセージ
		DH021	基礎演習2				必修科目未履修?
		DH081	C 5 2 C (英語)				必修科目未履修?

Copyright © Rikkyo University. All Rights Reserved.



**!** **重要** 履修登録状況画面・成績参照画面の記載事項について誤りの有無を必ず確認すること。

**注意** 履修登録の誤りや、エラー表示への対処は、履修登録修正期間に履修登録システムで行うこと。

2. 登録の完了  
履修登録状況画面を確認した結果、修正する必要がない（自分が履修する予定の科目がすべて間違いなく記載されている）場合、登録は完了となる。
3. 登録の無効について  
履修登録状況画面でエラーに表示された科目に対して所定の期間内に履修登録修正の手続きをしなかった場合、その届出科目は無効となり、本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。  
なお、「～上限オーバー」エラーに対して所定の期間内に手続きを行わなかった場合には大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除する。  
⊖ 履修登録修正期間以外の修正は原則として認めない。

## 5 科目コード登録における履修登録の修正と修正内容の確認

1. 履修登録の修正  
修正対象となる科目は「科目コード登録」で登録した科目に限られる。また、科目コード登録の科目であれば、新たな科目の追加も可能である。  
履修登録状況画面の表示内容を確認し、登録内容の修正が必要な場合は、履修登録修正期間に履修登録システムで手続きを行うこと。  
なお、エラー表示された科目は、登録無効となっている（ただし、「～上限オーバー」エラーを除く）。
2. 修正についての注意点  
(1) 履修登録状況画面上に記載され、登録無効となった科目については、エラーになった理由を調べ、エラーへの対処を行うこと。【エラーメッセージと対処法】を参照すること。  
(2) 履修登録修正期間内に、エラーの無い状態で完了すること。  
履修登録修正期間内は、何度でも科目コード登録科目の確認、修正ができる。  
(3) 履修登録修正期間後の修正は原則として認めない。期日に手続きできない場合は、必ず期日前に所属キャンパスの教務窓口に連絡し、指示を受けること。
3. 履修登録修正結果の確認  
(1) 履修登録修正期間に届出科目の修正を行った者は、履修登録状況画面で履修登録内容の修正手続きが正しく行われたかを確認すること。履修登録状況画面に記載されている科目が履修登録修正者の正規登録科目となる。したがって、必ず記載事項の誤りの有無を確認すること。  
(2) 履修登録システムや履修登録状況画面上で、エラー表示のまま修正しなかった科目は登録無効となり、削除されている。また、「～上限オーバーエラー」が発生したまま修正しなかった場合は、大学が無作為にオーバー単位数分の科目を削除している。各自が行った修正手続き終了時点の申請状況は申し出期限までに履修登録システムの履修照会画面で確認すること。
4. 申し出期限  
履修登録の内容に関する疑問がある場合は、下記の申し出期限までに申し出ること。ただし、新たに科目を追加ならびに取消すことはできない。
- | 時期  | 申し出期限              | 申し出場所            |
|-----|--------------------|------------------|
| 4月期 | 2019年4月25日（木）17：30 | 所属キャンパスの<br>教務窓口 |
| 9月期 | 2019年10月5日（土）12：30 |                  |
- 申し出の際には以下2点を持参すること。

## V 履修登録

- ① 履修登録状況画面のコピー
- ② 履修登録システムの履修照会画面のコピー

「履修照会画面」には、履修登録システムで、各自が行った手続き終了時点の申請状況が、各学期の申し出期限まで表示される。

### 5. 登録の無効について

履修登録状況画面の確認を怠り、届け出たつもりの科目が正しく履修登録されていなかった場合、その科目は無効であり、本学期または本年度の履修はできない。したがって授業に出ても試験を受けても無効となる。

## V 履修登録

### 【エラーメッセージと対処法】

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
[A] 校地移動時間不足	池袋キャンパス開講科目と新座キャンパス開講科目、池袋キャンパス開講科目と明治大学開講科目、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目の授業は1時限分（または昼休み分）の移動時間が必要です。なお、新座キャンパス開講科目と明治大学開講科目などにおいて、実際の移動時間が不足する場合でも自己責任となるので、登録の前に移動に要する時間を必ず確認してください。※明治大学開講科目は全学共通カリキュラム総合教育科目です。 ⇒連続した時限では履修登録できませんので、一方を削除し、どちらか一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[B] 人数制限科目	この科目は科目コード登録では登録できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[C] 履修対象者以外	履修できる学生は学部・学科・年次・クラス・入学年度などによって決まっており、該当しない学生は履修できません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[D] 同時履修不可	同一年度または同一学期に複数登録できない科目です。 ⇒履修要項を確認して、一科目のみ登録してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[E] 履修要件単位の不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たすことが必要です。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
[F] 履修登録単位数不足	この科目を履修するためには、履修要項に示されている要件を満たすことが必要です。 ⇒要件（****を～単位同時に登録が必要）を満たすことができるか確認して、対処（追加・変更・削除）してください。
[G] 講座未登録課程の履修	学校・社会教育講座の各講座課程（教職課程、学芸員課程、司書課程、社会教育主事課程）に登録していない学生は、各講座で開講されている科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[H] 重複履修不可	この科目は、単位修得後に再び履修登録することが認められていません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[J] 同一内容科目履修不可	履修要項の規定を確認してください。 ①科目名が異なっている科目の間で「同時に履修登録することはできない」場合 ⇒一方の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。 ②「すでに修得済の場合は、もう一方の科目を履修登録できない」場合 ⇒登録できませんので、エラー表示科目を削除してください。
[K] 同一科目（担当）不可	すでに修得した科目（科目名・担当教員ともに同じ科目）について再度の履修が認められない場合は、該当科目を履修登録することができません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[L] グループ科目の超過	この科目群は登録できる単位数が制限されていますので、履修要項の規定を確認してください。 ⇒現在エラー表示中の科目を含めて再度確認し、指定の単位数になるように科目を選択しなおして、超過している単位数分の科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、同じグループに該当する他の科目を削除してください。
[N] 履修科目上限オーバー	学科・学年により全学共通カリキュラムと専門教育科目等の合計の履修登録単位数に上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。 ★ [Q] エラーも同時に表示されている場合の注意★ 全カリ総合教育科目（総合自由科目を除く。科目コードFA***～F****）の上限単位数も超過している場合は、まず、全カリ総合教育科目のうち、科目コード登録により登録した科目から、削除してください。
[O] 専門教育上限オーバー	専門教育科目について履修登録できる上限単位数（科目数）が決まっています。それより多い単位数（科目数）の履修登録はできません。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
[P] 内部科目コードの重複	開講曜日・時限あるいは担当者などが異なる場合でも、同一内容の科目として規定されている科目は、1科目しか履修登録することはできません。 ⇒同一科目となるいずれかの科目を削除してください。現在エラー表示中の科目を登録したい場合は、もう一方の科目を削除してください。
[Q] 全学共通（全カリ）総合系科目上限オーバー	全学共通カリキュラムの総合教育科目（総合自由科目を除く。科目コードFA***～F****）は、各学期の登録上限単位数（*）が決まっています。 *2006年度以降入学者は合計6単位までです。 ⇒科目コード登録により登録した科目の中から選択しなおし、超過した単位数分削除してください。
[R] 今年度休講	この科目は今年度休講です。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[S] 科目コードなし	この科目コードの開講科目はありません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[T] 曜日・時限の重複	同じ曜日・時限に開講されている科目は、同時に1科目しか履修登録することができません。 ※G5限・G6限は5限・6限と授業時間が一部重複しているため注意すること。 ⇒科目コード登録により登録した科目を削除してください。
[U] 必修科目未届け	今年度または今学期（まで）に修得しなければならない必修科目が、履修登録されていません。 ⇒履修要項で確認し、科目コード登録で登録する科目の場合は、画面上から追加してください。科目コード登録以外の登録方法が指示されている場合は、所属キャンパスの教務窓口で質問してください。



## V 履修登録

履修登録状況画面 「エラー科目」欄の表示	エラーメッセージへの対応について
[V] 登録時期エラー	9月期に登録する科目（秋学期科目）は、4月期に履修登録できません。同様に、4月期に登録する科目（通年科目、春学期科目）は、9月期に履修登録できません。履修要項で学期を確認してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください（科目コードを誤って入力していた場合は、確認して入力しなおしてください）。
[W] 外部科目コードの重複	同じ科目コードを複数届け出することはできません。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[X] 講座履修条件エラー	学校・社会教育講座において、その科目を履修するために必要な条件が定められていますが、その条件を満たしていません。もう一度履修要項と登録内容を確認してください。不明な点がある場合は、学校・社会教育講座事務室窓口で質問してください。 ⇒エラー表示科目を削除してください。
[Y] 履修許可条件エラー	この科目を履修するためには履修要項に示されている必要な条件を満たす必要があります。 ⇒要件（別の特定の科目を履修中または修得済でなければ登録できない等）を満たすことができるか確認し、対処（追加・変更・削除）してください。

## 6 必修科目履修辞退制度

### 1. 必修科目履修辞退制度とは

休学や単位修得状況により、前提として必要な学習経験を経ないまま、後で学べき必修科目（低年次配当科目と高年次配当科目であれば高年次配当科目、春学期科目と秋学期科目であれば、秋学期科目）が自動登録され、学習効果があがらないことがある。このような場合、順を追って必修科目を履修したり、他の科目を履修したりする方がより効果的な場合もあるため、本人の願い出にもとづき、学部が必要と認めた場合に、後で学べき必修科目の当該年度の履修辞退を認めることがある。

### 2. 対象科目

学科等	対象となる必修科目
基幹科目	対象科目なし
キリスト教学科 文学科（フランス文学専修） 文学科（日本文学専修）	対象科目なし
文学科（英米文学専修） 文学科（ドイツ文学専修）	指定科目Aの全ての科目
文学科（文芸・思想専修） 史学科	「卒業論文（制作）予備演習」
教育学科	教育学専攻：指定科目Aの全ての科目 初等教育専攻：指定科目A1・A2の全ての科目

### 3. 申出方法

必修科目の履修辞退を希望する者は、「必修科目履修辞退届」（池袋キャンパス教務事務センター窓口で配付）を持参して、各学科・専修の教務委員と面談を行うこと。教務委員の指導のもと履修を辞退する科目を決定し、「必修科目履修辞退届」に必要事項を記入の上、下記期日までに池袋キャンパス教務事務センター窓口へ提出すること。

提出された「必修科目履修辞退届」にもとづき文学部が審議を行い、承認された場合に必修科目の履修辞退が認められる。

（春学期・通年科目）

（秋学期科目）

2019年4月6日（土）12：30締切

2019年9月18日（水）17：00締切

### 4. 結果通知

下記の日時に池袋キャンパス教務事務センター窓口にて結果を通知する。

（春学期・通年科目）

（秋学期科目）

2019年4月9日（火）9：00～

2019年9月21日（土）9：00～

### 5. 必修科目以外の科目の追加登録

必修科目の履修辞退が認められた場合、当該時間は空き時間となり、全学的な履修登録日程に従い、履修登録上限の範囲内で新たな科目を登録できる。

## 1 試験に関する規定

他学部、全学共通カリキュラムおよび学校・社会教育講座科目の試験に関しては、その科目が設置されている学部等の履修要項および掲示に従うこと。

## 1. 試験の種類と実施時期

## (1) 定期試験

講義終了後に期間を定めて行う試験。

- ① 春学期末試験——春学期科目に対する試験  
※春学期1開講科目は筆記試験を実施しない。
- ② 秋学期末・学年末試験——秋学期科目および通年科目に対する試験  
※秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。  
\*通年科目の試験を、定期試験（中間試験）として春学期末に実施する場合がある。

◎全学の定期試験期間は、以下のとおり定められている。

■ 専門教育科目、全学共通カリキュラム科目、学校・社会教育講座科目とも、同一の定期試験期間で行う。

■ 1日5時限の試験を実施し、各時限とも、全科目同一時刻に試験を開始する。（各時限の試験終了時刻は、科目の設置学部等により、また科目により異なる。）

☞試験は授業と同じ曜日・時限に実施されるとは限らない。

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）をよく確認すること。

## 〈2019年度 定期試験期間（全学）〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年7月20日（土）～7月31日（水）	2020年1月23日（木）～2月3日（月）

## (2) 最終授業時試験

春学期末、秋学期末・学年末の最終授業時に行う試験。

※春学期1開講科目、秋学期1開講科目は筆記試験を実施しない。

\*通年科目の試験を、最終授業時試験（中間試験）として春学期末に実施する場合がある。

## (3) 追試験

入院その他やむを得ない事由によって、最終授業時試験および定期試験を受験できなかった場合に実施する試験（いずれも試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された場合に限る）。

☞ 6 追試験 の項を参照のこと。

## (4) 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）に実施する試験。

☞ 7 試験時間重複特別試験 の項を参照のこと。

## 2. 受験資格・受験資格の喪失・出校停止

## (1) 受験資格

在学中の者であって、かつ当該科目について履修登録を完了している者のみ、受験資格がある。

## (2) 受験資格の喪失

次のいずれかに該当する者は、受験資格を喪失し、受験した場合はその答案、レポート等は無効となる。

- ① 学生証または臨時学生証のいずれも不携帯の者\*<sup>1</sup>
- ② 当該試験期間中に休学中・停学中の者

- ③ 出席その他、当該科目の担当教員があらかじめ指示した受験資格要件を欠く者
- ④ 派遣留学・認定校留学中の者<sup>\*2</sup>
- \*1 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された受験に関してのみ適用される。
- \*2 ケント州立大学およびセントクラウド州立大学の秋学期派遣留学生は、秋学期末・学年末試験を受験することはできない。また同様に、当該科目の授業期間中に派遣留学・認定校留学し、定期試験期間に帰国していた場合においても、受験資格が無い派遣留学・認定校留学がある。詳細は所属キャンパスの教務窓口へ問い合わせること。

(3) 出校停止による受験不可

次に該当する者は、出校停止となるため、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問と発表された試験の受験はできない。追試験の受験を希望する場合は、追試験の申請をすること。出校停止期間中に受験した場合、その試験は無効となる。

試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、レポート試験と発表された試験については「5 レポート 2 提出方法 (1)レポート試験」の項を参照すること。

インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症）第1種または第2種に罹患中の者（「II 授業（学習生活）6 学校感染症に罹患した場合の措置について」の項を参照）。

## 2 試験方法

### 1. 試験方法

(1) 試験は、筆記、レポートあるいは口頭試問によって実施する。ただし科目によっては、試験によらず平常点によって成績評価する場合もある。

△各科目の成績評価方法・基準は、シラバスの記載内容によるが、履修者数、教室などの条件により、やむを得ず変更する場合もある。シラバスの変更については、変更内容を各学部等掲示板およびホームページ上のシラバスにも示すので、確認すること。

試験（筆記・レポート・口頭試問）についての詳細は、「2. 試験方法発表」における発表内容が最終的な試験方法の指示となるので、必ず確認すること。

△試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）において発表された、筆記試験を欠席した場合、または「レポート試験」と発表されているレポート（「5 レポート」の項を参照）を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

(2) 次の科目は、試験を行わず評価するものとし、試験方法発表掲示（「2. 試験方法発表」の項を参照）を行わない。

〈文学部専門教育科目〉

全学科・専修：卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習

基幹科目：インターンシップ、海外フィールドスタディ〈1. 海外EAP〉・〈2. 海外ASD〉・〈3. 海外SLV〉、ケンブリッジ・サマープログラム、書道1・2

ドイツ文学専修：ドイツ文学・文化演習4（日独比較文化タンデム）

日本文学専修：研究小論文1・2、卒業論文（制作）予備研究1・2

史学科：入門演習G1・G2、フィールドワークH1・H2

教育学科（初等教育専攻）：初等教育実習

(3) 次のテスト等は、平常点として扱う。

① 学期中随時実施される、筆記による小テスト・中間テスト、学期末の最終テスト（学期末に実施されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては筆記試験とは発表されないもの）

② 学期中随時課されるレポート、学期末に課されるレポート（学期末に課されるが、試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においてはレポート試験とは発表されないもの）

## VI 試験・成績

- ③ 学期中に随時実施される口頭試問，学期末の口頭試問（学期末に実施されるが，試験方法発表（「2. 試験方法発表」の項を参照）においては口頭試問とは発表されないもの）

### 2. 試験方法発表

試験方法は，下記の日程で掲示（11号館1階エントランスホール，新座キャンパスは1号館2階），ならびに，SPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 試験方法発表（予定）〉

春学期1末	2019年5月18日（土）10：00
春学期末・春学期2末	2019年7月2日（火）10：00
秋学期1末	2019年10月30日（水）10：00
秋学期末・秋学期2末・学年末	2019年12月12日（木）10：00

## 3 筆記試験

筆記試験には，定期試験期間内に行われるもの，および最終授業時に行われるものがある。

### 1. 試験の時間割 ・試験時間

- (1) 文学部専門教育科目の定期試験時間は，通常の授業とは異なり70分である。

〈定期試験期間内筆記試験 試験時間〉

時限	1	2	3	4	5
試験時間	9：10 }	11：00 }	13：20 }	15：10 }	17：00 }
	10：20	12：10	14：30	16：20	18：10

\* 科目によっては，試験時間が変更される場合がある。

\* 他学部科目，全学共通カリキュラム科目，学校・社会教育講座科目の試験時間は，当該学部等の履修要項，試験時間割発表掲示を確認すること。

〈最終授業時筆記試験 試験時間〉

通常授業時間内（Ⅱ授業（学習生活）**2** 授業時間 の項を参照）で行われる。

\* 科目によっては，試験時間が変更される場合がある。

\* 他学部科目，全学共通カリキュラム科目，学校・社会教育講座科目の試験時間は，当該学部等の履修要項，試験時間割発表掲示を確認すること。

- ☞ 交通機関の遅れなどにより，試験の開始・終了時刻が遅くなることもあるので，試験当日の行動予定を立てるに際して，そのことを考慮しておくこと。

- (2) 試験方法等

- ① 試験方法・試験日程・時間割・試験場は，掲示（11号館1階エントランスホール，新座キャンパスは1号館2階）ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。（「**2** 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）
- ② 試験日程には，予備日が設けられている。予備日とは，定期試験期間内筆記試験および最終授業時筆記試験において，災害等，突発的な事情により試験を実施することができなくなった場合の代替日を示す。予備日に代替された科目，予備日の試験日程については，随時試験掲示およびホームページ上で発表するので，必ず確認すること。
- ③ 受験者は，必ず指定された教室で受験すること。
- ④ 試験は，授業時の教室と異なる教室で行うことがあるので注意すること。

### 2. 筆記試験受験時の学生証携帯義務

- (1) 学生証（または臨時学生証）を携帯しない場合は，いかなる理由があっても受験できない。
- (2) 受験中は，学生証（または臨時学生証）を机上の試験監督者の見やすい位置に明示しておかなければならない。
- (3) 学生証を紛失・破損した場合や，劣化により顔写真が不鮮明となった場合は，直ちに所属キャンパスの教務窓口で再交付を受けること。

- (4) 試験当日、学生証を忘れた者は所属キャンパスの教務窓口で「臨時学生証」の発行を受けること。  
**臨時学生証** 発行手数料500円・2日間有効・写真不要  
 ＊試験当日に入金できない場合は、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

### 3. 試験場への入退室

- (1) 定期試験期間内筆記試験の受験者は試験時間開始の10分前までに試験場に入室すること。また、最終授業時筆記試験の受験者は授業開始時刻までに試験場に入室すること。  
 (2) 試験開始後15分までの遅刻については、試験監督者が許可した場合に受験を認める。  
 (3) 交通機関等の遅延による遅刻者であって、交通機関発行の遅延証明書を持参した者は、試験開始後15～30分までの遅刻については試験監督者が許可した場合に限り、受験を認める。  
 (4) 上記(3)において、やむを得ず「遅延証明書」を持参しなかった者については、試験場で「交通機関遅延受験許可申請書」に必要事項を記入した上で、試験監督者の許可を得て受験することができる。(監督者から指定された期日までに、交通機関発行の遅延証明書の提出が必要となる)  
 (5) 試験開始後30分を経過しなければ退室することができない。また、原則として試験終了前10分間は、退室することができない。  
 (6) 交通機関の大幅な遅延、事件、事故などのため試験時間に遅れそうな場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。

### 4. その他

- (1) 解答用紙および試験出席票に記入する所属、学年、学生番号、氏名は、特に指示のないかぎりペンまたはボールペンで記入すること。  
 (2) 学生番号・氏名が未記入の答案は無効とする。  
 (3) 当該科目の履修登録を行わない者は、受験資格を持たない。万一受験した場合は、その答案は無効とする。  
 (4) 受験した科目の解答用紙および試験出席票、試験問題は、白紙であっても氏名等を記入して、必ず提出すること。  
 (5) 携帯電話等の通信機器類は、試験場での使用を認めない(試験方法に「すべて持込可」とされた科目の場合も使用不可)。また、同機器類の時計・電卓としての使用も認めない。  
 (6) 筆記用具は筆入れから出すこと。筆記用具・学生証(臨時学生証)以外のものは、当該科目について特に許可されているものを除き、かばん等に入れて、指定された場所に、試験開始前におくこと。  
 (7) 受験中は、学生同士の会話、物の貸借を一切禁ずる。

## 4 口頭試問

定期試験として行う口頭試問の詳細については、掲示(11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは1号館2階)ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する試験方法発表にて確認すること。(「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照)

本学部は実施しない

## 5 レポート

レポートを作成する場合の注意事項は後述の「レポート・論文作成時のルールについて」も参照すること。

### 1. レポート

- (1) レポートには下記の2種類がある。
- ① 試験方法発表(「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照)において「レポート試験」と発表され、レポート提出期間に提出するレポート
  - ② 最終授業時など、①以外の方法・時期に提出するレポート
- (2) 上記(1)～①におけるレポートの提出日時、提出場所、題目の発表  
 提出日時、提出場所、題目は、試験方法と同時に、掲示(11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは1号館2階)、ならびに、SPIRIT 教務部ページに発表する。(「**2 試験方法** 2. 試験方法発表」の項を参照)



## 2. 提出方法

## (1) レポート試験

試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）で指定された期日・場所に、専用のレポート表紙を綴じ付け、レポート提出証を添えて提出すること。※一部webで受付する場合もある。試験方法発表にて詳細を発表するので注意すること。

- ① 指定期日後は、理由の如何にかかわらず一切受けないので十分注意すること。（後述「レポート・論文等の提出に際しての注意」も参照）
- ② レポートは、同一科目につき複数提出することはできない。万一、複数提出された場合は、最初の1件のみを採点の対象とする。また、一度提出されたレポートの返却はしないので、不備がないか十分確認のうえ提出すること。
- ③ レポートの用紙は、特に指定のない限りA4判の用紙を使用すること。
- ④ レポート表紙とレポート提出証（いずれも専用のもの）の配付開始時期は、試験方法発表（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）により指示する。  

レポート表紙	……A4サイズで科目設置学部等により色が異なる
レポート提出証	…レポート表紙と同色
- ⑤ レポート表紙、レポート提出証は、ペンまたはボールペンで必要事項を記入すること。
- ⑥ レポートとレポート表紙はホチキスで2箇所以上綴じること。
- ⑦ 提出されたレポートは、レポート表紙の整理記号欄の記入内容により採点されるので、記入間違いや他科目と表紙を付け間違えないよう十分注意すること。
- ⑧ レポート表紙に、学生番号・氏名が未記入のレポートは無効とする。
- ⑨ 当該科目の履修登録を完了していない者はレポート提出資格を持たない。万一レポートが提出された場合は、そのレポートを無効とする。
- ⑩ 病気、その他やむを得ない事情により本人が提出できない場合には、代理人による提出を認める（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。
- ⑪ 学校感染症第1種または第2種に罹患した場合は、速やかに所属キャンパスの教務窓口連絡をして指示を受けること（以下「レポート・論文等の提出に際しての注意」参照）。

## \*\*\*レポート・論文等の提出に際しての注意\*\*\*

レポート・論文等は、指定された提出期限後は受理しないので時間厳守のこと。交通機関等の遅延も予測されるので、提出にあたっては十分余裕をもって臨み、本人が提出できない場合は、信頼できる代理人に依頼する等の措置を講ずること。ただし、締切日当日、不測の事態により、本人または代理人が提出期限までにレポート・論文等の提出に来られない場合は、当日の締め切り時刻以前にその対応について所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせ、指示を受けること。不測の事態とは、事件・事故や交通機関等の大幅な遅延などの場合を言う。

\*プリンター等、機器の故障は不測の事態に含まれないので注意すること。

**学校感染症のため出校停止となった学生のレポート・卒業論文・修士論文の提出について**

上記に該当した場合は、以下の指示に従うこと。

1. 上記の提出物の提出期間において本人が出校停止中である場合は、代理人を立て、当該の期間内に提出することを原則とする。

代理人による不備は、依頼した本人の責任となる。

2. 1. において代理人を立てることができない場合は、締め切り時刻以前に所属キャンパスの教務窓口連絡し、指示を受けること。

(以下のすべてに該当する場合、後日の提出を認めることがある)

- ① 上記2. に該当する学生であること。
- ② 医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」の提出によって、締切日当日に学校感染症に罹患して出校停止中であった事実が証明できること。
- ③ 「出校可能となった日の翌日（窓口対応可能日）」に提出すること。

## (2) レポート試験以外のレポート

- ① 各自で表紙をつけ、表紙には、必要事項（科目名・科目担当教員名・所属学部・学科・年次・学生番号・氏名）を必ず記入すること。
- ② 紙媒体以外の提出方法による場合も、上記必要事項を必ず明記すること。
- ③ その他の提出方法については、科目担当教員の指示に従うこと。科目担当教員へ提出するよう指示されたレポートは直接科目担当教員に手渡すこと。

## レポート・論文作成時のルールについて

皆さんは、さまざまな授業でレポートや論文を書く機会があると思います。授業の中で指示されて書くレポートや期末試験の代わりに書くレポート、討論会のために作成する論文や卒業論文など、その性質はさまざまですが、どのレポートや論文にも共通なルールがいくつかあります。その一つが、他人が書いたものを写して、あたかも自分が書いたかのように装ってはいけない、というルールです。

これは、元の文章や図表が書物のものであっても、Web上のデータのものであっても、友人のレポートであっても同じです。たとえその文章が著作権を放棄したもので、リンクフリーのサイトに載っているものでも同じです。問題は、元の文章の性格ではなく、他の人の成果を自分の成果であるかのように装ってはいけない、ということなのです。このような他人の成果を盗む行為は「盗用」や「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれます。

もちろん、他の人がこれまで積み重ねてきた研究の業績を自分のレポートや論文に全く利用してはいけないということではありません。独りよがりにならないためには、従来の研究の成果に大いに学ばなければなりません。他人の業績のアイデアを利用することもあるでしょうし、他人の作った文章や図表などを引用して説明を行う場合もあるでしょう。

ただし、こうした利用や引用にはルールがあります。他の人のアイデアや文章、図表などを用いるときには、それがもともと誰の成果なのかを明記するというルールです。このルールをないがしろにすれば、悪気のあるなしにかかわらず「盗用」や「剽窃」になってしまうのです。

具体的な表記の仕方については授業で学びますが、一般的には次の通りです。

- ・引用対象が文章なら、その文章を「 」で囲み、他の部分と区別する。
- ・その対象の出典を明記する。

【例】【図書の場合】 著者名、『書名』、出版社、発行年、ページ

【雑誌論文、記事の場合】 筆者名、「論文名」、『雑誌名』、巻、号、発行年月、ページ

【ホームページの場合】 URL、取得年月日

【新聞記事の場合】 新聞紙名、朝夕刊の区別、号数、第何面か

これ以外にも表記の仕方にはいろいろなバリエーションがあります。そうした表記の方法や、そもそも論文やレポートでどのくらいの引用をすべきなのかといった点については教員の指導に従ってください。

盗用や剽窃は文章を書く場合にはもっとも恥ずべき行為のひとつであり、研究者がこうしたことを行えば研究者生命を失いかねない程の大問題になります。皆さんのレポートや論文についてもこうした盗用・剽窃がなされないように適切に指導することと、こうした行為が行われたときには厳しく対処することが全学の教員で合意されています。

レポートや論文は他の人の成果を調べて書き写したり、カットアンドペーストのみで作ったりするものではありません。さまざまな研究成果やデータをルールに則って利用しつつ、最終的に自分の考えや主張を論じることで完成するものです。他者の成果には十分に敬意を払い、ルールを守って論文やレポートを作成するようにしましょう。



## 6 追試験

入院その他やむを得ない事由によって春学期末試験または秋学期末・学年末試験を受験できなかった者で、追試験受験申請書を提出した者に対しては、審査の上追試験の受験を許可することがある。

## 1. 対象科目

追試験の対象となる科目は、試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、筆記試験もしくは口頭試問として発表され、追試験対象科目に指定された、最終授業時試験科目および定期試験科目である。

- \* 試験方法発表時（「2 試験方法 2. 試験方法発表」の項を参照）に、追試験対象科目として指定されなかった科目は、追試験の対象とはならない。
- \* その他授業時間内に科目担当教員が任意に実施する小テスト・中間テスト・最終テストは、追試験の対象とはならない。それらが実施された授業日に欠席した場合は、科目担当教員の指示に従うこと。

## 2. 受験申請書

追試験受験申請書を、履修登録状況画面のコピーと別表の証明書を添付の上、試験実施日の翌日から1週間以内（翌週の同じ曜日まで。締切日が窓口業務を行わない日の場合はその翌日まで）に所属キャンパスの教務窓口に提出すること。

追試験受験申請書は、所属キャンパスの教務窓口で交付する。

（SPIRIT 教務部ページからもダウンロード可能。）

- \* 入院等により期間内に追試験受験申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口に連絡し、指示に従うこと。特に、学校感染症（第1種または第2種）に罹患した場合は、速やかに連絡し、指示を受けること。
- \* 所属キャンパスとは異なるキャンパスで履修した科目の追試験受験申請書は、当該科目の開講キャンパス窓口に提出すること。ただし、所属キャンパスで履修した科目を同時に申請する場合はその限りではないので、事前に所属キャンパスの教務窓口に相談すること。

## 3. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは7号館1階教務事務センター内移動掲示板）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 追試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年8月27日（火）10：00	2020年2月18日（火）10：00

\* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

## 4. 追試験実施期間

追試験は、次の期間に実施する。

〈2019年度 追試験 実施期間〉

追試験実施方法	春学期末	秋学期末・学年末
筆記試験 口頭試問	実施期間： 2019年9月5日（木）～12日（木）	実施期間： 2020年3月2日（月）～7日（土）
レポートによる追試験	提出期間： 2019年9月5日（木） ～10日（火）16：00	提出期間： 2020年3月2日（月） ～4日（水）17：00

\* 追試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

5. 追試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3 筆記試験** に準じる。

なお、追試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

〈別表：追試験受験申請書添付書類〉

	試験欠席事由	添付するべき証明書類 <small>事由によっては、立教大学が記入用紙を作成する場合がある</small>
(1)	入院またはそれに準ずる登校不能（風邪・下痢等の一時的な疾病は含まない）ただし、必修科目、先修科目については欄外*を参照	入院先機関の発行する入院証明書 <sup>注1)</sup>
(2)	インフルエンザ、麻しん等、学校保健安全法の定める学校感染症（学校において予防すべき感染症） <b>第1種または第2種</b> の罹患による登校不能 <sup>注2)</sup>	医療機関の発行する罹患期間と登校可能日が記載された「診断書」 <sup>注3)</sup> 、または医療機関が記載した本学所定の書式である「治癒証明書」 <sup>注4)</sup>
(3)	忌引（保証人、配偶者および3親等以内の血族または姻族に限る）（法事は含まない） <sup>注5)</sup>	本人と保証人の署名・捺印のある書類（様式は自由、本人との続柄を明記）およびその事実を明らかにするもの（死亡に関する公的証明書もしくは会葬礼状等）
(4)	交通機関の30分以上の遅延	交通機関発行の遅延証明書
(5)	重大な災害による登校不能	官公庁発行の被災証明書
(6)	学校・社会教育講座の各種実習・体験等	実習・体験期間証明書
(7)	就職試験（就職試験の日程が変更できない場合に限る。セミナー、複数企業の合同説明会、OB・OG訪問等は含まない）	本人が受験したことを証明する受験先機関発行の証明書（就職試験の場所、日時を明記、社印が押印されていること）
(8)	他大学大学院入学試験	受験票のコピー
(9)	日本代表としてのスポーツ公式競技への参加	派遣元団体が大学に宛てた公文書
(10)	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭、または裁判員に選任された公判のための裁判所への出頭	裁判員選任手続期日における裁判所への出頭の場合、出頭した裁判所での出頭日の証明を受けた「選任手続期日のお知らせ（呼出状）」、裁判員に選任された場合、裁判員職務従事期間についての「証明書」
(11)	上記10事項に準ずる事由 <sup>注6)</sup>	

\* 先修科目については、医師の診断書がある病気・けがによる登校不能についても欠席事由とする。

先修科目とは、ある科目を履修するための条件として、先立って単位を修得しておくことが必要な科目をいう。具体的には、科目設置学科等の規定を参照すること。

注1) 上記(1)の場合の入院証明書・医師の診断書は、試験を欠席した日の入院・病気・けがを証明する内容であること。

注2) 上記(2)に該当した場合には、速やかに所属キャンパスの教務窓口ご連絡し指示を受けること。なお、罹患中に試験を受験した場合には、その試験は無効となる。

注3) 上記(2)に該当した場合の医師の診断書において、罹患時と治癒時の受診医療機関が異なった場合は、治癒時の医療機関において「罹患期間についての証明」が受けられない場合があるので注意が必要である。受診医療機関を変更する場合は、罹患時に受診した医療機関が発行する「罹患日記載がある『診断書』」を必ず取得しておくこと。こうすることにより、罹患時に取得した「診断書」と治癒時に受診した医療機関が発行する『治癒日と登校可能日の記載がある「診断書」』の2種類をもって「罹患期間についての証明」とすることが可能となる。

注4) 上記(2)に該当した場合の「治癒証明書」の書式は、SPIRIT 教務部ページからダウンロードすること。

注5) 3親等以内の血族または姻族とは次を指す。

血族一父母・子、祖父母・兄弟姉妹・孫、曾祖父母・伯叔父母・甥姪・曾孫

姻族一配偶者の父母・子の配偶者・配偶者の子（配偶者の前婚における子など）、配偶者の祖父母・配偶者の兄弟、姉妹・孫の配偶者・配偶者の孫（配偶者の前婚における孫など）・兄弟姉妹の配偶者、配偶者の曾祖父母・配偶者の伯叔父母・配偶者の甥姪・曾孫の配偶者・配偶者の曾孫（配偶者の前婚における曾孫など）・甥姪の配偶者・伯叔父母の配偶者

注6) 原則として、事前の届出に対して審査を行うので、所属キャンパスの教務窓口にお問い合わせのこと。

## 7 試験時間重複特別試験

試験時間に重複が生じた場合（池袋・新座キャンパス間の移動時間不足を含む）は、試験時間重複特別試験を実施する。その場合は、原則として、他学部等の科目を定期試験期間内で受験し、自学部科目を特別試験において受験すること。

## 1. 受験申請書

受験希望者は、試験日時発表後から試験実施期間開始の1週間前までに、試験時間重複特別試験受験申請書を履修登録状況画面のコピーを添付の上、所属キャンパスの教務窓口に提出すること。ただし、試験時間が変更されたことによって試験時間に重複が生じた場合は、試験実施日の翌日から2日以内に試験時間重複特別試験受験申請書を所属キャンパスの教務窓口に提出すること。

## 2. 対象者・試験方法・時間割の発表

対象者・試験方法・時間割は、下記の日程で掲示（11号館1階エントランスホール、新座キャンパスは7号館1階教務事務センター内移動掲示板）、ならびにSPIRIT 教務部ページに発表する。

〈2019年度 試験時間重複特別試験対象者・試験方法・時間割発表〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年8月27日（火）10：00	2020年2月18日（火）10：00

\* 掲示による発表は当該科目の開講キャンパスにて行う。

## 3. 実施期間

試験時間重複特別試験は、次の期間に実施する。

〈2019年度 試験時間重複特別試験 筆記試験・口頭試問実施期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年9月5日（木）～12日（木）	2020年3月2日（月）～7日（土）

〈2019年度 試験時間重複特別試験 レポート提出期間〉

春学期末	秋学期末・学年末
2019年9月5日（木）～10日（火）16：00	2020年3月2日（月）～4日（水）17：00

\* 試験時間重複特別試験の実施は当該科目の開講キャンパスにて行う。

## 4. 試験時間重複特別試験（筆記試験）受験についての注意事項

実施要領は **3** 筆記試験 に準じる。

なお、試験時間重複特別試験を受験できなかった場合の特別措置は一切行わない。

## 8 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認する趣旨のものであり、その趣旨に反する行為は不正行為とみなす。

## 1. 退室命令

試験中に不正行為とみなされる行為が発見された場合、不正行為者は、試験場から直ちに退出を命ぜられる。

## 2. 受験資格の喪失

- (1) 受験中に不正行為を行った者は、不正行為以降の全学共通カリキュラム科目、他学部科目等を含むその期の全科目の受験資格（レポート提出資格等を含む）を失う。
- (2) 全学共通カリキュラム英語単位認定試験（以下「全カリ英語単位認定試験」）を受験中に不正行為を行った者は、同日に行われる試験を含め、当該試験期間（6月実施：春学期末試験終了まで、11月実施：秋学期末・学年末試験終了まで）の筆記試験全科目の受験資格を失い、その成績はすべて不合格となる。

## 3. 当該試験期間の成績

不正行為者の当該試験期間の成績は以下の通りとする。

- (1) 定期試験期間内筆記試験科目、最終授業時筆記試験科目については、すでに受験した科目を含む全科目の成績を不合格とする。

## VI 試験・成績

- (2) 春学期末または秋学期末・学年末試験期間に不正行為を行った場合、6月または11月に受験した全カリ英語単位認定試験の受験資格をさかのぼって失い、合格は取り消される。
- (3) レポート試験科目、平常点科目、口頭試問科目等、原則として定期試験期間内筆記試験、最終授業時筆記試験以外の方法のみによって成績評価を実施する科目については、不正行為以前の成績評価は有効とする。

### 4. 処分の決定

- (1) 不正行為者の処分は、その者の所属する学部教授会がこれを決定する。
- (2) 処分は、訓告・停学・退学の3種類とする。不正行為の処分は、原則として停学とする。
- (3) 処分決定後は、不正行為以降全ての受験資格を喪失する。

## 9 成績

### 1. 成績評価

授業科目の成績は以下の基準に従い、S、A、B、Cを合格、D、欠を不合格とする。

⊖単位を修得した科目の評価を取り消すことはできない。

〈成績の評価〉

評価		評価基準	成績証明書の表示
合格	S (100~90点)	当該科目の目標をほぼ完全に達成していると認められる	S
	A (89~80点)	当該科目の目標を十分に達成していると認められる	A
	B (79~70点)	当該科目の目標の基幹部分は達成しているものと認められる	B
	C (69~60点)	当該科目の目標のうち最低限は達成していると認められる	C
不合格	D (59~0点)	当該科目の目標に及ばない	表示 されない
	欠席	試験未受験等により評価できないもの <sup>注1)</sup>	

注1) 筆記試験・口頭試問を欠席した場合、また試験発表掲示にレポート試験と発表されているレポート(5レポート)の項を参照)を提出しなかった場合は、シラバスに記載された成績評価の割合にかかわらず、成績評価は「欠席」となる。

次のように表示される科目もある。

評価	成績証明書
合格	合
不合格	表示されない
認定	認
Q <sup>注1)</sup>	表示されない

注1) 成績確定前に、休学したものおよび在学留学したものの

## VI 試験・成績

### 2. 成績の発表

成績は下記の日程で成績参照システムに発表する。電話・メールによる成績の問い合わせには一切応じない。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

#### 〈成績の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を含む)	2019年9月5日(木)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金)
	2020年度在籍者	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者 (2020年度の新年次での発表)	2020年3月28日(土)

#### 〈追試験結果の発表〉

春学期科目	2019年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を含む)	2019年9月23日(月)
秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年3月13日(金)
	2020年度在籍者	

### 3. 成績評価調査の申請

成績評価調査制度は、成績評価が間違っていると思われる十分な理由がある場合に、科目担当教員に成績評価に間違いがないか、の確認を求めるとのものであり、成績の再考を求めるとのものではない。調査の申請にあたっては、「成績評価調査申請書」にその理由を詳しく記入し、下記の期間内に所属キャンパスの教務窓口へ提出すること。

\* 「成績評価調査申請書」は所属キャンパスの教務窓口で配付する。

#### 〈成績評価調査申請書提出期間〉

2019年度 春学期科目	特別卒業〔9月卒業〕申請者	2019年9月5日(木) ～9日(月) 16:00
	2019年度在籍者 (特別卒業〔9月卒業〕申請者を除く)	2019年9月5日(木) ～10日(火) 16:00
2019年度 秋学期科目 通年科目	卒業合格発表対象者 (在学8学期以上の者)	2020年2月28日(金) ～3月2日(月) 17:00
	2020年度在籍者 (2019年度卒業合格 発表対象者を除く)	2020年3月13日(金) ～17日(火) 17:00

申請期限は遵守すること。

入院等により、期間内に成績評価調査申請書を提出できない場合は、必ず提出期間内に所属キャンパスの教務窓口へ連絡し、指示に従うこと。

## 1 卒業および学位に関する規定

文学部に4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上）、所定の単位を修得した者には、学士（文学）の学位を授与する。

なお、本学の卒業年月日は、当該年度3月31日付とする。

\*休学などによる学修中断の期間は、この在学年数には数えられない。詳細は、「Ⅷ 学生証・学籍・学費 2 学籍」を参照。

## 2 最長在学年数

本学における最長在学年数は8年とする。これを超えて在学することはできない。なお、3年次に編入学または転部・転科・転専修した者は6年とする。

## 3 卒業合否の発表

卒業合否は2020年2月28日（金）に成績参照システムにて発表する。在学8学期目以降の4年次生は必ず本人が卒業の合否を確認すること。発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

☎電話や電子メールなどでの問い合わせには一切応じない。

## 4 卒業の延期（希望留年）

1. 希望留年とは
 

卒業に必要な所定の単位を修得した後も本学に留まり、勉学を継続するため在学（留年）を希望する場合、所定の受付期間に、所定の書式（希望留年願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて留年することができる。この場合、卒業は翌年度末まで認められない。この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。許可された場合、当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入することになる。なお、特別卒業を申請し、許可された場合、9月19日付で卒業となる。特別卒業に関しては次頁「5 特別卒業」を参照。
2. 希望留年願の配付
 

**配付期間** 2019年12月2日（月）8：50～2020年3月13日（金）17：00  
**配付場所** 教務窓口（巻頭参照）
3. 希望留年願の受付と許可者発表
 

**受付期間** 2020年2月28日（金）10：00～3月13日（金）17：00  
 \*受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。  
 \*この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。  
**受付場所** 教務窓口（巻頭参照）  
**許可者発表** 2020年3月18日（水）  
 成績参照システムに発表する。  
 発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

## 5 特別卒業

1. 特別卒業（9月卒業）とは
 

「特別卒業（9月卒業）」とは、以下の6つの条件をすべて満たした学生が、所属学部が行う卒業判定で合格した場合、年度途中の9月19日付で卒業することができる制度である。



## Ⅶ 卒業に関する事項

### 〈特別卒業（9月卒業）申請条件〉

1. 所定の受付期間に、所定の書式（特別卒業願）によって保証人連署をもって願い出ていること
2. 学部学生であること
3. 申請時において、在学8学期目以降の学生であること<sup>\*1</sup>
4. 申請時において、所属学部の卒業に必要な単位を、修得または修得見込<sup>\*2</sup>であること
5. 申請学期において、在学中であること<sup>\*3</sup>
6. 申請時において、当該年次の「学費<sup>\*4</sup>その他の納入金」の全額または分納1を納めていること

この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。特別卒業願を提出し特別卒業を許可された場合の「学費<sup>\*4</sup>その他の納入金」は、学費<sup>\*4</sup>その他の納入金の2分の1額とする。

※1：休学中の期間は、在学年数ならびに在学学期数に含まれない。

※2：当該年度春学期科目の修得により、所属学部の卒業に必要な単位を修得する見込がある学生。

※3：休学中・停学中でないこと。

※4：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※5：特別卒業を許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が特別卒業の申請条件として納入すべき金額に不足する場合は、特別卒業願を受理しない。

### 2. 特別卒業願の 配付

**配付期間** 2019年6月1日（土）8：50～7月15日（月）17：30

**配付場所** 教務窓口（巻頭参照）

### 3. 特別卒業申請 受付と許可者 発表

**受付期間** 2019年7月1日（月）8：50～7月15日（月）17：30

\* 受付期間以外の申請はいっさい受け付けないので注意すること。

\* この願い出は、原則として取り下げることができないので慎重に行うこと。

**受付場所** 教務窓口（巻頭参照）

**許可者発表** 2019年9月5日（木）

成績参照システムに発表する。

発表時刻等の詳細は成績参照システムで確認すること。

### 4. 特別卒業式

2019年9月19日（木）

時間については、許可者発表日にあわせて成績参照システムに発表する。



## 1 学生証

## 1. 学生証

学生証は、立教大学の学生であることを証明するものである。学生証は、プラスチックカードと通学定期乗車券発行控がセットになっている。請求があった場合にはいつでも提示できるよう、常に携帯すること。

## 2. 学生番号について

学生番号は固有の番号で、在籍中および卒業後も変わることはない。各種手続きの際に必要なもので正確に覚えること。

1 9 A A		1 2 3 Z	
入学年度	入学時の 学部・学科 (研究科・専攻)	個人番号	

## 3. 有効期間

学生証の有効期限は在籍期間中である。ただし次の場合は学生証（プラスチックカードと通学定期乗車券発行控）を返却しなければならない。

- (1) 卒業・修了・退学・除籍などで学籍を失ったとき。
- (2) 紛失等により再交付を受けたのち、前の学生証が見つかったとき（前の学生証を返却すること）。

## 4. 貸与・譲渡の禁止

学生証は学生本人を証明する大変重要なものである。学生証を他人に貸与、または譲渡することは固く禁止されており、違反した学生は本学では懲戒の対象となる。なお、複写物の貸与・譲渡についても同様の扱いとなる。

## 5. 紛失・破損したとき

学生証を紛失・破損した場合や劣化により顔写真が不鮮明な場合は、直ちに教務窓口（巻頭参照）へ届け出ること。

再交付（再交付手数料2,000円<sup>\*</sup>）は2日後（窓口閉室日を除く）になる。

※劣化により顔写真が不鮮明な場合は、現在の学生証と交換（再交付手数料は不要）。

## 2 学籍

## 1. 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得されるものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味する。本学を卒業・修了・退学・除籍となった場合は学籍を喪失する。

## 2. 在籍と在籍期間

在籍とは、本学に学籍が存在することをいい、その期間を在籍期間という。休学期間は在学年数に算入されないため、在籍期間は、在学状態の期間（在学期間）に休学状態の期間（休学期間）を加えた期間となる。

## 3. 修業年限と最長在学年数

本学を卒業・修了するために必要な年数（大学院学生の場合は標準的な年数）のことを修業年限という。学部学生が本学を卒業するためには、4年以上在学して（3年次編入学または転部・転科・転専修した場合は2年以上、2年次に転部・転科した場合は3年以上）、所定の単位を修得しなければならない。ただし、最長在学年数を超えて在学することはできない。修業年限と最長在学年数は次頁の表のとおりである。

	修業年限	最長在学年数 <sup>*1</sup>
学部学生	4年 <sup>*2</sup>	8年 <sup>*2</sup>
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	2年	4年
博士課程後期課程の大学院学生	3年	6年
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	3年	6年

※1：休学期間は最長在学年数には算入されない。休学については「3 休学・復学」を参照すること。

※2：編入学、学内転部、転科または転専修制度を利用した学生については、教務窓口にて確認すること。

4. 在学年数と在学学期数

学部学生の修業年限である「4年以上在学して」を学期に置き換えると、「8学期以上在学して」となり、以下の表のとおりである。

大学院学生についても、所属研究科が定める学位授与の要件において必要とされる在学年数を在学学期数に置き換える場合は、学部学生に準ずる。

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期

**注意** 2009年度以前に休学している学生の2019年4月時点の在学学期数については、教務窓口にて確認すること。

3 休学・復学

1. 休学とは

病気その他やむを得ない事由により満2ヶ月以上就学することができないときは、所定の受付期間に、所定の書式（休学願）により、保証人連署をもって願い出て、許可を受けて当該学期間休学することができる。休学中の期間は在学年数に算入しない。なお、休学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

休学期間は理由の如何を問わず、休学願を提出した時期により以下の表のとおりとする。2学期以上にわたって休学するときは、学期ごとに定められた休学願提出期間内に改めて休学願を提出することが必要である。

休学学期	休学願提出時期	休学期間
2019年度春学期	2019年2月1日（金）～5月31日（金）	2019年9月19日（木）まで
2019年度秋学期	2019年8月1日（木）～12月3日（火）	2020年3月31日（火）まで

2. 復学について

休学した者は、休学期間終了後、自動的に復学となる。なお、復学の時期は以下のとおりである。

復学時期

- 2019年度春学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2019年9月20日
- 2019年度秋学期を休学した場合の復学日 ⇒ 2020年4月1日

3. 休学学期と年次の扱いについて

休学中の期間は在学年数に算入しないと同時に、在学学期数にも算入しない。ただし、2010年度以降に休学制度を利用した場合、在学学期数にかかわらず年次は学部学生の場合4年次まで自動的に進む。

## Ⅷ 学生証・学籍・学費

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次 <sup>※3</sup>	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 <sup>※2</sup>	9学期 <sup>※1</sup>

※1・2：卒業の時期については、「4. 卒業の時期について」を参照すること。

※3：学部学生が4年次に卒業できなかった場合は、再度4年次生として在籍することとなる。

**注意** 2009年度以前の休学は、休学期間にかかわらず年度単位の休学なので注意すること。

2010年度以降は学期単位の休学となるが、2009年度以前に休学した年度について、遡って学期単位の休学とはみなさない。

2009年度以前に休学している学生の2019年4月時点の在学学期数については、教務窓口にて確認すること。

### 4. 卒業の時期について

休学した学生の卒業も、原則として3月31日付となる。ただし春学期で8学期以上在学となる場合は、特別卒業を申請し許可を受けることにより9月19日付で卒業することができる。詳細は「Ⅶ卒業に関する事項 **5 特別卒業**」を参照すること。

なお、休学中に卒業・特別卒業はできないので注意すること。

〈1学期休学した場合〉～3学期目を休学し、2年次秋学期に復学した場合の例～

年次 学期	1年次		2年次		3年次		4年次		4年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学学期	1学期	2学期	休学	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期 <sup>※2</sup>	9学期 <sup>※1</sup>

※1：通常の卒業時期は秋学期の終了日である。

※2：特別卒業を申請し許可された場合の卒業時期は春学期の終了日である。

### 5. 利用回数の上限について

休学制度の利用回数には上限が設けられている。いかなる理由においても上限回数を超えて休学することはできない。学期の初めから休学した場合でも学期の途中から休学した場合でも、いずれも1回として計算される。なお、上限回数は通算の休学回数である。2学期間連続して休学した場合や、1学期以上の在学期間をはさみ2学期間休学した場合は、休学回数は2回となる。

	休学制度を利用できる回数	2007年度以前に休学制度を利用した回数
学部学生	8回	上限回数に算入しない
修士課程・博士課程前期課程の大学院学生	4回	
博士課程後期課程の大学院学生	6回	
専門職学位課程の大学院学生（法務研究科）	4回	

※1：学内転部、転科または転専修制度を利用し、学部、学科または専修が変更になった場合、変更前の休学回数は変更後の学部、学科または専修に引き継がれる。なお、転部、転科または転専修前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※2：本学を退学後、再入学した場合、退学前の休学回数は引き継がれる。なお、退学前の休学が2007年度以前の場合はその限りではない。

※3：本学を卒業・修了・退学した後、選抜試験に合格し、入学（※2の再入学を除く）した場合は、過去に休学した回数は引き継がれない。

**注意** 2008年度と2009年度に休学した学生の上限回数について

2008年度と2009年度の休学については、2010年度より休学が従来の年度単位から学期単位の制度に変更されたことにともない、年度単位の回数を学期単位の回数に換算する。2008年度または2009年度のいずれかの年度を休学した場合は2回、2008年度と2009年度の両方を休学した場合は4回となるので注意すること。

6. 休学願の配付  
・提出先について

**提出時期**

■2019年度春学期を休学する場合

⇒ 2019年2月1日（金）9：00～5月31日（金）17：30

■2019年度秋学期を休学する場合

⇒ 2019年8月1日（木）9：00～12月3日（火）17：30

**配付・提出場所**

教務窓口（巻頭参照）

7. 休学許可通知  
について

休学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して休学許可通知を郵送する。休学の許可についてはこの通知で確認すること。在籍料（「9. 休学中の学費について」参照）等、休学中にかかる諸経費の支払いは、休学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

8. 就学の問い合わせ  
について

休学している学生に対して、「就学問い合わせ」を郵送する<sup>\*1</sup>。引き続き休学を希望する場合は同封の休学願を、退学を希望する場合は同封の退学願を、必ず締切期日までに提出すること。締切期日は同封の書簡にて指示する。休学願または退学願を提出しない場合は、休学期間終了後、「2. 復学について」に示す日付をもって自動的に復学となるので注意すること。

休学学期	就学問い合わせの 送付時期 <sup>*3</sup>	就学問い合わせの 回答締切	回答時の提出書類		
			休学	退学	復学
2019年度春学期	2019年7月末	2019年8月下旬	休学願	退学願	手続不要
2019年度秋学期	2020年1月末 <sup>*4</sup>	2020年2月中旬			

※1：保証人住所宛に郵送する。

※2：兵役のために休学する場合は例外措置が適用になる場合があるので、休学する前に必ず兵役による休学であることを申し出ること。

※3：自己都合で休学した学期の後、間をあげずに派遣留学又は認定校留学に出発する場合は就学問い合わせを送付しない。

※4：2020年1月末時点で当該年次に納入すべき学費及び在籍料の全額または一部が未納の場合、就学問い合わせは当該年次に納入すべき所定の学費及び在籍料の全額を納入した後に発送する。

9. 休学中の学費  
について

休学願を提出し休学を許可された場合、当該休学学期間の在籍料を除く学費<sup>\*1</sup>を免除する。在籍料は、在籍保証、在籍管理事務の経費として所属学部（学科・専修）・研究科に係らず1学期につき60,000円を、休学した学期ごとに徴収する。なお、休学が許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が休学時に納入すべき金額に満たない場合は、これを徴収する。

## Ⅷ 学生証・学籍・学費

休学期	学費		
	春学期	秋学期	当該年次
春学期	在籍料 (60,000円)	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	学費の1/2 (在籍料含む) + 在籍料 (60,000円)
秋学期	学費の1/2 (在籍料含む) ※2	在籍料 (60,000円)	
春学期・秋学期	在籍料 (60,000円)	在籍料 (60,000円)	在籍料 (120,000円)

※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※2：学費の1/2（在籍料含む）とは、1年間に支払う学費の1/2額を意味する。

※3：授業料は在籍料120,000円（半期60,000円）を含むものとする。

※4：その他の納入金は、休学を許可された場合であっても所定の金額を徴収する。

### 4 退学

#### 1. 退学とは

病気その他の事由により退学しようとする場合は、所定の受付期間に、所定の書式（退学願）により、保証人連署をもって願出で、許可を受けなければならない（学生証を返却のこと）。なお、退学の理由によっては、その事実を証明する書面の提出を求める場合があるので指示に従うこと。

#### 2. 提出時期と学費の減免について

退学願を提出し退学を許可された場合、退学願を提出した時期により学費<sup>※1</sup>その他の納入金の一部を次のとおり減免する。なお、退学が許可された場合、許可された時点の学費の納入状況により返金を行うことがある。学費の納入額が退学願を提出した時点で退学時に納入すべき金額に不足する場合は、退学願を受理しない。

退学願提出時期	減免額
2019年5月31日（金）まで	学生健康保険互助組合費を除く全額（在籍2年目以上） <sup>※2</sup>
2019年12月3日（火）まで	学費その他の納入金の1/2（在籍料含む）
2020年3月31日（火）まで	無し <sup>※3</sup>

※1：学費とは、授業料（在籍料を含む）、教育充実費、実験・実習費をいう。

※2：法務研究科の大学院学生については学生健康保険互助組合費および法科大学院生教育研究賠償責任保険を除く全額（在籍2年目以上）。

※3：当該年次に納入すべき所定の学費その他の納入金の全額を納入しなければならない。

#### 3. 退学願の配付・提出先について

配付・提出場所  
教務窓口（巻頭参照）

#### 4. 退学許可通知について

退学願を提出し各学部等教授会又は各研究科委員会で許可された場合、本人及び保証人に対して退学許可通知を郵送する。退学の許可についてはこの通知で確認すること。学費の減免に関する手続きが生じる場合は、退学許可通知の発送後、別途郵送にて通知するのでその指示に従うこと。

### 5 希望留年（学部4年次生のみ）

希望留年については「Ⅶ卒業に関する事項 4 卒業の延期（希望留年）」を参照すること。

## 6 特別卒業

特別卒業（9月卒業）については「VII卒業に関する事項 5 特別卒業」を参照すること。

## 7 再入学

1. 再入学とは 病気その他の理由で退学した者が再入学を希望するときは、所定の書式により、保証人連署をもって願い出て、年度の始め（4月1日付）に再入学を許可されることがある。再入学を申し出る場合は、再入学する前年度の10月初日（初日が窓口閉室の場合は直後の窓口開室日）から11月末日（末日が窓口閉室の場合は直前の開室日）までに所定の書式を提出すること。再入学に必要な所定の書式及び手続の詳細については下記まで問い合わせること。
2. 再入学に関する問合せ先 教務窓口（巻頭参照）

## 8 学費

1. 学費通知の発送
- (1) 口座振替の場合  
5月中旬に学費の口座振替のお知らせを、原則保証人宛に発送する。分納1回目分を通知するので、振替日の前金融機関営業日までに資金を準備すること。また、分納1回目納付者には9月上旬<sup>\*1</sup>に分納2回目の口座振替のお知らせを発送する。
- (2) 振込の場合  
学費振替口座の登録がない場合は、振込による納入となる。5月中旬に学費の振込用紙を、原則保証人宛に発送する。分納1回目の振込用紙を同封するので、期限までに納入すること。また、分納1回目納付者には9月上旬<sup>\*1</sup>に分納2回目の振込用紙を発送する。  
※1：春学期休学者へは発送が1ヶ月ほど遅れ、10月中旬に発送する。
2. 延納制度  
経済的な事情により、定められた期限までに納入ができない場合、もしくは資金の用意が難しい場合には、事前に本学SPIRIT学費・奨学金ページから「学費延納願」を申請すること。「学費延納願」を申請し認められた場合には、納入期限を一定の範囲で延期することができる。延納願の提出は、定められた期間のみ認められる。詳細は、各学期に財務部経理課から送付される学費案内を参照すること。
3. 滞納した場合  
当該年次に学費の未納がある場合は、除籍となる。



f-Campusとは学習院大学，学習院女子大学，日本女子大学，早稲田大学，本学の5大学間における単位互換制度である。他大学の提供科目一覧，時間割，シラバス（講義内容），学年暦等は，f-Campusホームページ (<https://www.f-campus.org>)にて確認すること。

## 1 履修登録

### 1. 履修資格

2年次生以上の学部学生（正規学生のみ）。

※ただし，編入学（転部・転科・転専修を除く）した者については，編入学した年度の履修登録はできない。

### 2. 登録可能単位

本学を除く他の4大学合計で年間12単位まで。ただし，4月期の科目登録において選外となった科目の単位数は，9月期の科目登録における登録可能単位に含まれない。

### 3. 科目登録・登録結果発表

#### (1) 科目登録手順

すべてWebサイトにて行う。具体的な科目登録の手順は，f-Campusホームページで確認のこと。

#### (2) 科目登録期間（2019年度）

時期	登録対象科目	登録期間	結果発表
4月期	春学期科目（春クォーター科目，夏クォーター科目含む*）+通年科目+集中講義科目	3月26日（火）18：00～ 4月1日（月）9：30	4月2日（火） 9：30～
9月期	秋学期科目（秋クォーター科目，冬クォーター科目含む*）+集中講義科目	9月2日（月）12：00～ 9日（月）9：30	9月10日（火） 9：30～

※春クォーター科目，夏クォーター科目，秋クォーター科目，冬クォーター科目はf-Campusシステム上の4半期科目の名称であり，本学の春学期1科目，春学期2科目，秋学期1科目，秋学期2科目がそれに相当する。ただし，授業期間については，その科目を提供している大学の学年暦に従う。

#### (3) 登録結果発表

f-Campusホームページ上で行う。

※応募者が定員を超過した場合は抽選を行う。

### 4. 登録の取消

科目登録後の取り消しはできない。万が一本学の登録科目と時限重複した場合は，原則として他大学の科目が優先され，本学の科目は取り消される。実習費等が必要な科目は，履修を放棄した場合であっても納金する必要がある。

### 5. 履修先大学の特別聴講学生番号の通知

f-Campusホームページによって，登録結果とともに履修先大学の特別聴講学生番号を発表する。他大学での授業出席票や試験等では，この番号が必要となるので，自分で番号を控えるなどして管理すること。

## 2 授業

授業科目の休講・試験等，授業に関する通知は，f-Campusホームページあるいは掲示板にて確認すること。通知方法は大学によって異なるので注意すること。

交通機関のストライキ・気象警報等にもなう授業の扱いは，履修先大学の基準による。



## 3 試験・成績・単位認定

他大学履修科目と本学の履修科目の筆記試験時間に重複が生じた場合、原則として他大学履修科目の筆記試験を優先して受験し、本学の履修科目については所定の期間内に試験時間重複特別試験受験申請の手続きを行ったうえで試験時間重複特別試験を受験すること。試験時間重複特別試験受験申請については「Ⅵ 試験・成績 7 試験時間重複特別試験」を参照のこと。

ただし、本学の都合により試験時間重複特別試験を受験できない場合は、科目設置大学の追（未済）試験等を受験できるよう配慮する場合がある。

成績結果は、成績参照システムにて本学科目とあわせて発表する。

他大学で修得した単位は、所属学部の単位認定方法に従い卒業要件単位として認められる場合があるので、各学科の履修規程で確認すること。

## 4 学費等

協定に基づき、他大学の提供科目を履修する場合、授業料は免除される。ただし、科目により実習費等が必要な場合は自己負担となり、履修を放棄した場合であっても納金する必要がある。

## 5 その他

## 1. f-Campus証

科目登録の結果、他大学の履修許可を受けた学生は、所属キャンパスの教務窓口でf-Campus証を受け取る。f-Campus証が、他大学でのf-Campusの学生であることを証明するものとなる。

## 2. 施設の利用

協定による特別聴講学生は、履修期間中は履修先大学の定める範囲において、図書館、売店、学生食堂を利用することができる。図書の貸し出しはできない。

その他利用方法等詳細は、各大学の図書館で確認すること。

パソコン教室やLIL自習室、体育施設、保養施設等の施設、および許可された科目の履修に関する事項以外の学生サービス等は利用できない。



学科・専修  
ごとの  
履修規定  
カリキュラム

2010～2015年度 1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

文学部専門教育課程について

文 学 部 基 幹 科 目

キ リ ス ト 教 学 科

文 学 科

史 学 科

教 育 学 科

## 1 文学部専門教育科目の構成について

文学部の専門教育課程は、次の2つからなっている。

**文学部基幹科目**：学部共通の導入的・基礎的科目

**文学部指定科目**：「文学部基幹科目」の履修を基礎とし、学科・専修がその専門性に基づいて設置している科目

## 2 文学部卒業要件単位数について

文学部の卒業要件単位数は下表のとおりである。

〈卒業要件単位数〉

学科等	単位数
キリスト教学科・文学科・史学科・教育学科（教育学専攻課程）	94
教育学科（初等教育専攻課程）	104

※このほかに全学共通カリキュラム科目30単位が必要である。

なお、各学科・専修の詳細については各学科・専修の「卒業要件単位」を参照のこと。

## 3 各履修区分および科目の種類について

〈履修区分〉

履修区分	科目の種類	
	基幹科目	指定科目
必修科目	基幹科目A	指定科目A (教育学科初等教育専攻課程はA1・A2)
選択科目	基幹科目B	指定科目B1・B2
	基幹科目C	指定科目C
	基幹科目D	指定科目C (教育学科初等教育専攻課程はC1・C2)

上記のほか「自由科目」および「随意科目」がある。

**必修科目** 「基幹科目A」 大学での勉学の意味を問い直し、仕事や職業に対する興味・関心を高めることを目的とする。2年次秋学期に、必ず履修しなければならない。

「指定科目A」 文学部の学生が4年間の課程で科目履修を進めるうえで、必ず修得しておかなければならない、基礎的かつ重要な科目群である。

**選択科目** 「基幹科目B」 文学部基礎教養を滋養する実践的な科目群である。  
※以下の科目は、1学期に1科目しか履修できない。また、単位修得後、同一科目を履修することはできない。

- ・「情報処理3 a～d」の4科目
- ・「情報処理4 a～d」の4科目

「指定科目B1・B2」 文学部各学科・専修の専門的教育の根幹をなす科目群である。

[基幹科目C]	文学部学生に必要な、導入的・基礎的講義科目群である。
[指定科目C]	バリエーションに富んだ専門講義群で、学科・専修の枠を越えて自由に選択することができる。履修にあたっては、学科・専修が示す科目内容も参照のこと。「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」については、「Ⅲ-2 履修規定 <b>2</b> 卒業論文（制作）各種規定」を参照のこと。
[基幹科目D]	<p>古典語の初歩や既習外国語の文献講読など、言語学習を基軸として文学部基礎教養を深化させる科目群である。</p> <p>「ドイツ語文献講読1・2」を履修するためには、全カリ言語B（ドイツ語）必修科目もしくは全カリ言語自由科目のドイツ語科目から4単位修得済みであること。</p> <p>「フランス語文献講読1・2」を履修するためには、全カリ言語B（フランス語）必修科目もしくは全カリ言語自由科目のフランス語科目から4単位修得済みであること。</p> <p>「英語文献講読1～16」は、「文学」（1・2・9・10）「歴史」（3・4・11・12）「思想」（5・6・13・14）「現代社会」（7・8・15・16）に関連する文献を扱う。全カリ言語A（英語）必修科目単位修得者のみ履修が認められ、修得した単位は英語副専攻の修了要件にも算入することができる。</p> <p>「英語文献講読1～13・15」は、比較的平易な英語で書かれた概説書・入門書・エッセイ等を講読する。</p> <p>「英語文献講読14・16」は、高度な内容を含む英語文献を精読するので、履修には以下の基準を設けている。</p> <p>基準点：</p> <p>TOEFL<sup>®</sup> iBT 76点、</p> <p>TOEFL<sup>®</sup> iTP（Level 1）540点、</p> <p>TOEIC<sup>®</sup>（またはTOEIC<sup>®</sup> IP）700点、</p> <p>GTEC 300点、IELTS 6.0</p> <p>GLAP併置科目は、すべて英語で行われ、履修にあたってはIELTS6.0程度の英語力が求められる。各科目、抽選登録（定員10名）。</p>
自由科目	<p>学生の自発的な学習計画に従って自身の学習を進めるために設定されている科目の区分として「自由科目」がある。</p> <p>具体的には指定科目について卒業要件単位数を超えて修得した分や全学共通カリキュラム・文学部基幹科目の超過履修分、および文学部他学科・他専修科目、教職関連科目としての他学部科目、その他の他学部科目、5大学単位互換制度利用による他大学科目（「Ⅸ 5大学間単位互換制度」参照）がこれに相当する。履修の方法については、「Ⅲ-2 履修規定」ならびに各学科・専修における「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>また、4年次生に限り大学院文学研究科およびキリスト教学研究科の科目を自由科目として履修することができる。手続きの詳細については、「Ⅲ-2 履修規定 <b>3-4</b> 大学院科目の履修（学部4年次生のみ）」を参照すること。</p>
随意科目	<p>卒業要件とはならないが、教職免許取得のための科目として使用するため設置されている科目である。</p> <p>注意）「随意科目」（世界史・日本史）について</p> <p>随意科目はキリスト教学科・史学科・教育学科教育学専攻の学生の教職免許取得に関わる科目で、履修しても卒業要件単位とはならない。</p>

## 4 基幹科目に関する注意

基幹科目のうち以下の科目は、集中して授業を実施する、あるいは所定の活動の活動内容の報告書をもとに単位を認定する科目であり、履修登録方法などが他の科目と異なるので注意すること。

### 基幹科目B「海外フィールドスタディ」・「ケンブリッジ・サマープログラム」

「海外フィールドスタディ」および「ケンブリッジ・サマープログラム」は、文学部の認める海外の大学、もしくはそれに準じる機関でのプログラムを受講し、修了書を受け、後日レポートや報告書の提出、発表を行い、単位を修得するものである。

単位修得にあたっては、事前準備段階での取り組み、海外での活動内容への取り組み、およびその報告会の発表や報告書の内容を評価する。

尚、海外フィールドスタディ〈2. 海外ASD〉を1年次で履修する場合は、ドイツ語既習者に限る。海外フィールドスタディ〈3. 海外SLV〉を1年次で履修する場合は、フランス語既習者に限る。

本年度の開講科目の詳細はシラバスを参照すること。

### 基幹科目B「インターンシップ」

就業体験を通して社会・企業の実情を知り、仕事や職業に対する興味・関心を高め、また大学における勉学の意味を自ら問い直し学習意欲の向上にも結びつけることを目的とする。インターンシップは「基幹科目A」（人文学とキャリア形成）の単位修得者を対象とし、単位認定にあたっては、活動報告書のほかに所定の課題についてレポートを提出し、報告会で発表することが求められる。

詳細は、本年度のシラバスで確認すること。

### 基幹科目B「書道1・2」

「書道1・2」は国語の教職免許取得者のための必修科目であり、文学科日本文学専修および文芸・思想専修の学生のみ履修が認められる。履修登録は4月初旬に受付を行い、人数制限（24名）を行う。また、授業は夏季休業期間中に5日間集中して行う。

当該学科・専修の学生であっても教職課程に登録していない者、および他学科、他専修の学生は履修することができない。

## 5 文学部指定科目Cの履修計画について

文学部指定科目Cは、それぞれの学科や専修にとらわれずに各自の関心や興味のあり方に応じて、幅広く履修することが可能である。

シラバスをよく読んで自らテーマを設定し、各学科・専修の講義を横断して履修計画を立てることが望ましい。このような履修のしかたは、各学科・専修の専門領域の学習・研究にも大きく寄与するであろう。

履修計画を立てるときは、隔年開講科目もあるので、配当年次・学期に注意すること。また、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。

### 指定科目C「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」について

2006年度以降のカリキュラムでは、「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」を履修する場合、所属学科・専修で卒業論文（制作）を執筆・作成できるが、所属学科・専修以外で卒業論文（制作）を執筆・作成することも可能である。すなわち、自らのテーマに最もふさわしい学科・専修のもので、卒業論文（制作）の執筆・作成に取り組むことができる。

詳細については、「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文（制作）各種規定」を確認すること。

2010~2015年度1年次入学者に適用

以下に文学部指定科目Cの一覧を示す。

キリスト教学入門講義1・2 (聖書)	史学講義1・2 (地中海世界)	史学講義27・28 (古代日本とアジア)	超域文化学講義1・2 (文化人類学)	教育方法学 情報教育論
キリスト教学入門講義3・4 (キリスト教史)	史学講義3・4 (前近代ヨーロッパ)	史学講義29・30 (律令制国家論)	超域文化学講義3・4・5 (地域研究論)	特別活動の理論と方法 生徒指導・進路指導
キリスト教学講義1・2 (旧約聖書学)	史学講義5・6 (近代ヨーロッパ)	史学講義31・32 (中世日本史論)	超域文化学講義7・8・9 (アメリカ社会史)	教育相談 カウンセリング
キリスト教学講義3・4 (新約聖書学)	史学講義7 (グローバルヒストリー)	史学講義33 (中世日本と世界)	超域文化学講義11・12 (イスラーム複合社会史)	道徳教育の理論と方法 幼児教育学
キリスト教学講義5・6 (キリスト教思想史)	史学講義8 (地域からの歴史)	史学講義34 (中世国家と民衆)	超域文化学講義13・14 (イスラーム複合社会論)	比較教育学1・2 キリスト教と教育1・2
キリスト教学講義7・8 (比較宗教学)	史学講義9・10 (前近代東アジア・ユーラシア)	史学講義35 (近世日本史論)	超域文化学講義15・16 (文化環境学)	教育心理学2 教育社会学2
キリスト教学講義9・10 (神学思想)	史学講義11 (前近代における法と国家)	史学講義36 (伝統社会史論1)	超域文化学講義17 (農耕牧畜論)	教育哲学2 社会教育・生涯学習論
キリスト教学講義11・12 (キリスト教倫理学)	史学講義13・14 (近代東アジア・ユーラシア)	史学講義37 (近世日本と世界)	超域文化学講義18 (考古学)	教育課程論 国際教育論
キリスト教学講義13 (宗教社会学)	史学講義15・16 (アジア海域)	史学講義38 (日本社会史論1)	超域文化学講義19 (都市空間論)	環境教育論 現代教育の諸問題1・2・3・4
キリスト教学講義14 (宗教心理学)	史学講義17 (世界大戦とヨーロッパ)	史学講義39・40 (近代日本史論)	超域文化学講義20 (文化ダイナミクス論)	教育臨床論 教育臨床心理学
キリスト教学講義15・16 (キリスト教と教育)	史学講義18 (世界大戦とアジア)	史学講義41 (近代日本と世界)	超域文化学講義21・22 (フォークロア)	発達心理学 超域文化学講義23
キリスト教学講義17・18 (アジアのキリスト教)	史学講義19 (近現代における法と社会)	史学講義42 (日本女性史)	超域文化学講義24 (人類生態学)	哲学的人間学 国語科教育論
キリスト教学講義19・20 (アジアの宗教)	史学講義21 (社会史の方法)	史学講義43 (現代日本史論)	地理学概説1・2 地誌学1・2	社会科教育論 算数科教育論
キリスト教学講義21・22 (キリスト教と美術)	史学講義22 (マイノリティと境界)	史学講義44 (現代日本と世界)		理科教育論 生活科教育論
キリスト教学講義23・24 (キリスト教と音楽)	史学講義23 (人間と都市)	史学講義45 (伝統社会史論2)		家庭科教育論 体育実技
キリスト教学講義25・26 (キリスト教美術史)	史学講義24 (人間と環境)	史学講義46 (日本社会史論2)		人間と哲学1・2
キリスト教学講義27・28 (キリスト教音楽学)	史学講義25・26 (信仰と知の歴史)	史学講義47・48 (戦争と平和の歴史)		
キリスト教学講義31・32 (キリスト教と映画)	自然地理学1・2 比較政治学1・2	史学講義49 (都市と村落)		
キリスト教学講義33・34 (キリスト教の礼拝)		史学講義50 (日本の思想・文化)		
キリスト教学講義35・36 (キリスト教と現代社会)		史学講義51 (日本変動期史論)		
キリスト教学講義37 (日本キリスト教史)		史学講義54 (史料学)		
キリスト教学講義38 (日本宗教史)				
文学講義1・2 (英語学概説)	文学講義101 (ドイツの言語)	文学講義201 (仏中世・ルネサンス文学)	文学講義301・302・303・304 (日本文学史・古代)	文学講義401・402 (文明批評論)
文学講義3・4 (イギリス文学概説)	文学講義104 (ドイツの言語論)	文学講義202 (仏中世・ルネサンス思想)	文学講義305・306 (日本文学史・中世)	文学講義403・404 (文芸評論)
文学講義5・6 (アメリカ文学概説)	文学講義105 (インド・ゲルマン語の歴史)	文学講義203 (仏古典主義文学)	文学講義307・308・309・310 (日本文学史・和歌・俳諧)	文学講義405・406 (文化翻訳論)
文学講義7・8 (イギリス散文)	文学講義103 (ドイツの思想論)	文学講義204 (仏近代社会)	文学講義311・312 (日本文学史・近世)	文学講義407・408 (マンガ/アニメ表現論)
文学講義9・10 (アメリカ散文)	文学講義106 (ドイツの文学論)	文学講義205・206 (仏近・現代小説)	文学講義313・314 (日本文学史・近現代)	文学講義409・410 (小説創作論)
文学講義11・12 (英米詩)	文学講義107 (ドイツのメディア論)	文学講義207 (フランス語圏文学)	文学講義315・316 (日本語学)	文学講義411・412 (詩創作論)
文学講義13・14 (シェイクスピア)	文学講義157 (ドイツの学術文化)	文学講義208 (フランス哲学)	文学講義317・318・319・320 (古代日本文学)	文学講義413 (ジェンダー論)
文学講義15・16 (文学批評・理論)	文学講義108 (日独文化交流)	文学講義209 (フランス思想)	文学講義321・322・323・324 (中世日本文学)	文学講義414 (広告文芸論)
文学講義17・18 (英米演劇)	文学講義109 (日独比較文化)	文学講義210 (表象文化論)	文学講義325・326・327・328 (和歌・俳諧)	文学講義415 (文芸編集論)
文学講義19 (中世英文学)	文学講義110 (ドイツのメルヘン)	文学講義211 (フランス美術)	文学講義329・330 (近世日本文学)	文学講義416 (演劇)
文学講義20 (児童文学)	文学講義160 (ドイツの児童文学)	文学講義212 (日仏比較)	文学講義331・332・333・334・335・336 (近現代日本文学)	文学講義417 (現代歌謡論)
文学講義21・22 (比較文学)	文学講義111 (ゲーテの世界)	文学講義213 (ヨーロッパとフランス)	文学講義337・338・339・340・341・342 (日本語学)	文学講義418・419 (世界文学論)
文学講義23・24 (英語圏文学)	文学講義161 (ロマン派時代の文学)	文学講義214 (仏詩・戯曲)	文学講義343・344 (書誌学)	哲学講義1 (西洋哲学) 哲学講義2 (東洋哲学)
文学講義25・26 (表象芸術)	文学講義112 (ドイツの身体文化)	文学講義215 (フランス文化史)	文学講義345・346 (文献解読)	哲学講義3・4 (芸術論) 哲学講義5・6 (現代思想の諸問題)
文学講義27・28 (英語発達史)	文学講義162 (ドイツの表象文化)	文学講義216 (仏現代社会)		哲学講義7 (死生論) 哲学概論1・2 現代倫理
文学講義29・30 (英語構造論)	文学講義113 (ドイツの都市文化)	文学講義217・218 (フランス語学概説)		
文学講義31・32 (音声学)	文学講義115 (ドイツの生活文化)			
文学講義33・34 (英米事情)	文学講義114 (ドイツの音楽・舞台芸術)			
文学講義35・36 (イギリス文化)	文学講義164 (ドイツの映像文化)			
文学講義37・38 (アメリカ文化)	文学講義116 (ドイツのユダヤ系文化)			
文学講義39・40 (英語圏文化)	文学講義117 (ハプスブルク帝国の文化)			
文学講義41・42 (比較文化)	文学講義118 (ドイツ中世の文学・文化)			
	文学講義168 (ドイツ近世の文学・文化)			



## 基幹科目 学科課程

2010年～2015年度 1 年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>必修科目 (基幹科目A)</b>				
自動登録	人文学とキャリア形成a	2	2	2016年度まで「職業と人文学」
自動登録	〃 b	2	2	
<b>選択科目 (基幹科目B)</b>				
その他	インターンシップ	2	3・4	
その他	海外フィールドスタディ 〈1. 海外EAP〉	4	1・2・3・4	定員30名 2018年度より4単位に変更
その他	海外フィールドスタディ 〈2. 海外ASD〉	4	1・2・3・4	定員15名 2018年度より配当年次変更
その他	海外フィールドスタディ 〈3. 海外SLV〉	4	1・2・3・4	定員17名 2018年度より配当年次変更
その他	ケンブリッジ・サマープログラム	6	2・3・4	定員20名 2017年度より6単位に変更
抽選登録	音楽学演習1	2	2・3・4	定員30名
抽選登録	〃 2	2	2・3・4	定員30名
その他	書道1	1	2・3・4	文学科日本文学専修、文芸・思想専修の教職課程登録者のみ履修可、(夏季集中) 各定員24名
その他	〃 2	1	2・3・4	
抽選登録	実作・実践研究1	2	3・4	定員30名
抽選登録	〃 2	2	3・4	定員30名
抽選登録	情報処理 (PCプレゼンテーション) 3a	2	1・2・3・4	定員70名
抽選登録	〃 (PCプレゼンテーション) 3b	2	1・2・3・4	定員70名
抽選登録	〃 (PCプレゼンテーション) 3c	2	1・2・3・4	定員70名
抽選登録	〃 (PCプレゼンテーション) 3d	2	1・2・3・4	定員70名
抽選登録	〃 (PCプレゼンテーション) 4a	2	1・2・3・4	定員70名
抽選登録	〃 (PCプレゼンテーション) 4b	2	1・2・3・4	定員70名
抽選登録	〃 (PCプレゼンテーション) 4c	2	1・2・3・4	定員70名
抽選登録	〃 (PCプレゼンテーション) 4d	2	1・2・3・4	定員70名
<b>選択科目 (基幹科目C)</b>				
AL103	合同講義1	2	1・2・3・4	
AL104	〃 2	2	1・2・3・4	
AL111	実作・実践講義1	2	1・2・3・4	
AL112	〃 2	2	1・2・3・4	
AL201	心理学1	2	1・2・3・4	
AL202	〃 2	2	1・2・3・4	
抽選登録	情報処理1	2	1・2・3・4	定員190名
抽選登録	〃 2	2	1・2・3・4	定員190名
AL211	宗教思想1 (キリスト教と「知」)	2	1・2・3・4	
AL212	〃 2 (欧米のキリスト教)	2	1・2・3・4	
AL213	倫理思想	2	1・2・3・4	
AL214	英米文学概論	2	1・2・3・4	
AL231	ドイツ語圏文化概論1	2	1・2・3・4	
AL232	〃 2	2	1・2・3・4	
AL216	フランス文学・文化概論	2	1・2・3・4	
AL217	日本語学概論1	2	1・2・3・4	
AL218	〃 2	2	1・2・3・4	
AL219	漢文学概論	2	1・2・3・4	
抽選登録	日本文学概論	2	1・2・3・4	定員250名 日本文学専修3,4年次、文芸・思想専修3,4年次生は科目コード(AL233)登録
AL221	文芸・思想概論	2	1・2・3・4	
AL222	世界史概論1 (海域・海洋世界)	2	1・2・3・4	
AL223	〃 2 (大陸世界)	2	1・2・3・4	

履修可  
1科目のみ

履修可  
1科目のみ

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
AL224	日本史概論1	2	1・2・3・4	
AL225	〃 2	2	1・2・3・4	
AL226	超域文化概論	2	1・2・3・4	
AL227	教育制度・政策論	2	1・2・3・4	
AL228	家庭教育論	2	1・2・3・4	
AL229	教育と福祉	2	1・2・3・4	
AL230	教育と宗教	2	1・2・3・4	
<b>選択科目（基幹科目D）</b>				
AL351	ヘブライ語1	2	1・2・3・4	
AL352	〃 2	2	1・2・3・4	
AL207	ギリシア語1	2	1・2・3・4	
AL208	〃 2	2	1・2・3・4	
AL209	ラテン語1	2	1・2・3・4	
AL210	〃 2	2	1・2・3・4	
AL353	ドイツ語文献講読1	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL354	〃 2	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL355	フランス語文献講読1	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL356	〃 2	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL371	英語文献講読1	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL372	〃 2	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL373	〃 3	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL374	〃 4	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL375	〃 5	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL376	〃 6	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL377	〃 7	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL378	〃 8	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL379	〃 9	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL380	〃 10	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL381	〃 11	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL382	〃 12	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL383	〃 13	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL384	〃 14	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL385	〃 15	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
AL386	〃 16	2	3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更
抽選登録	Japan in Asian Context	2	3・4	定員10名 GLAP併置科目
抽選登録	Traditional Arts in Japan	2	3・4	定員10名 GLAP併置科目
抽選登録	Postmodern Turn in Japanese Arts	2	3・4	定員10名 GLAP併置科目
抽選登録	Development of Gender Studies	2	3・4	定員10名 GLAP併置科目
抽選登録	Intellectual History of Japan	2	3・4	定員10名 GLAP併置科目

# キリスト教学科 履修規定

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

## 専門教育科目の特色

文学部キリスト教学科では、キリスト教の歴史と文化について広く深い理解を持ち、キリスト教と社会の関連性を洞察する能力を身につけた人を育成する。そのためにまず、入門的科目群等を通して、広く複合的学問体験を持たせ、各自の学問的関心を喚起し、その知的主体性を涵養する。並行して、外国語文献の読解及び現場での体験を反省的に言語化する訓練を積む。更に、聖書・歴史、神学・思想、アジアと日本、芸術・文化各領域に関する専門的科目群を通して、包括的かつ具体的・個別的観点から、キリスト教関連事象を分析し理解することを学ぶ。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通カリキュラム			
<b>必修科目(基幹科目A)</b> ●人文学とキャリア形成 (旧：職業と人文学)			
<b>選択科目(基幹科目B)</b> ●海外フィールドスタディ ●インターンシップなど			
<b>選択科目(基幹科目C)</b> ●合同講義 ●宗教思想1・2 ●倫理思想など			
<b>選択科目(基幹科目D)</b> ●ヘブライ語 ●ギリシア語 ●ラテン語 ●ドイツ語文献講読 ●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
<b>必修科目(指定科目A)</b> ●入門演習 ●キリスト教学基礎演習			
<b>選択科目(入門講義)</b> ●聖書 ●キリスト教史			
<b>選択科目(講義・フィールドワーク・文献講読・演習)</b> ●聖書学 ●キリスト教思想史 ●比較宗教学 ●キリスト教倫理学 ●キリスト教美術史 ●キリスト教音楽学 ●フィールドワーク ●文献講読 ●演習など			
*文学部指定科目Cは原則としてすべての科目を選択履修できます。			<b>●卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習</b>
自由科目			

## 1 キリスト教学科における4年間の学習の進め方について

学科での学習生活は卒業論文（制作）の提出を目指し、講義・演習科目を中心に進められる。

## 1年次の履修について

1年次には、「入門演習」（必修・自動登録）で、学問上のルールや基礎的な技術的知識を学びます。また、1～4年次配当の指定科目C「キリスト教学入門講義1～4」は1年次生が専門教育科目の入り口に立ち、基本的な事項を身につけるために開講される科目で、4科目中1年次生のうちに2科目以上修得することを推奨します。基幹科目の「宗教思想1・2」「倫理思想」等と合わせて学んでください。

## キリスト教学科におけるカリキュラムについて

講義系科目群（キリスト教学講義等）は基本的に、キリスト教学の諸分野（聖書・歴史分野、神学思想分野、アジア分野、芸術・文化分野）を顧慮して配置されています。そこでは、キリスト教の諸相を広く一般的に探求することによって、キリスト教に関する基礎的知識を獲得することを、そしてそれに基づき、より深化された専門的知識へと導かれていくことを狙っています。また、フィールドワークでは、机上の知識をさまざまな現場で問い直すことを目指します。さらに、原典講読では、キリスト教学を学んでいく上で不可欠の、原典・外国語のテキストを綿密に読解する能力を身につけていきます。

## 演習および卒業論文の選択について

演習は、研究の領域や対象が狭くならないように、できるだけ異なった担当者の演習を履修するように気をつけてください。演習の履修については、次頁を参照してください。

4年次に卒業論文の作成に辿り着けるように、予め4年間の履修計画を立て、3年次秋学期には、卒業論文の方向性を決めておくようにしてください。

## 教職免許について

宗教、社会、地歴、公民の教員免許の取得を目標にする者は、学校・社会教育講座の履修要項を参照してください。

## 2 履修上の注意（「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと）

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

### 1. 基幹科目の履修について

基幹科目は卒業までに必修科目2単位（基幹科目A「人文学とキャリア形成」（旧：職業と人文学）2年次履修）のほか10単位修得することが必要である。ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

### 2. キリスト教学科の科目の履修について

特に指示のない科目については、学科課程の記載に従って履修すること。

#### (1) 指定科目A

全科目とも配当年次・学期にクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合も各学期に自動登録される。

#### (2) 指定科目B1

原則的に3年次春学期より1学期に1科目ずつ履修すること。

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

なお、前年度秋学期中に次年度の希望を受けつけ、履修科目を指定する。各学期に大学が登録を行う。

#### (3) 指定科目B2

卒業までに6単位修得することが必要である。単位修得後に、重複して履修することを認める。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

#### (4) 指定科目C

キリスト教学科の学科課程に掲載されている科目のほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修を認める。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について **5** 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

#### (5) 教職関連科目について

教育職員免許状取得のための科目である。教職課程登録者のみ履修が認められる。単位を修得した場合、自由科目の単位となる。

注)「社会学原論」の単位を修得済の者は、「社会学原論1」および「社会学原論2」を履修することはできない。

#### (6) 随意科目について

「日本史」「世界史」は教職課程登録者のための科目だが、随意科目であり、修得しても卒業要件単位にならない。

キリスト教学科2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計			卒業要件 単位数	履修年次		
全学共通カリキュラム	必修科目	10	言語教育科目 言語A		6	1	
			言語教育科目 言語B		4	1	
	選択科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教A (講義系) 立教B (立教ゼミナール)		6	1～4	
			総合教育科目 領域別科目群 領域別A (講義系) 領域別B (文献系)				
選択科目	20	総合教育科目 主題別科目群 主題別A (1, 2, 3, 4, 5) 主題別B		14	1～4		
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ					
専門教育科目	必修科目	10	基幹科目A (人文学とキャリア形成)		2	2	
			指定科目A	入門演習		4	1
				キリスト教学基礎演習		4	2
	選択科目	58	基幹科目B, C, D		10	1～4	
			指定科目B	指定科目B 1 (演習)		8	3～4
				指定科目B 2 (フィールドワーク, 原典講読)		6	2～4
			指定科目C	指定科目C (講義)		34	1～4
	指定科目C (卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習)			4			
	自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)		6以上	1～4	
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】 言語自由科目				
			文学部他学科科目, 教職関連科目				
他学部科目 (*), 5大学間単位互換制度科目 (最大12単位)			0～12				
大学院開講科目 (4年次生のみ) (最大8単位) (**)			0～8				
合計	124以上						

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

キリスト教学科2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次		
	区分名	卒業要件 単位数計				
全学共通カリキュラム	必修科目	10	言語教育科目 言語 A	6	1	
			言語教育科目 言語 B	4	1	
	選択科目	20	総合教育科目 総合 A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1~4	
			総合教育科目 総合 A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1~4	
		総合教育科目全体 【総合 A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合 A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合 B 領域別 A (講義系) 領域別 B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1~4		
専門教育科目	必修科目	10	基幹科目 A (人文学とキャリア形成)	2	2	
			指定科目 A	入門演習	4	1
				キリスト教学基礎演習	4	2
	選択科目	58	基幹科目 B, C, D	10	1~4	
			指定科目 B	指定科目 B 1 (演習)	8	3~4
				指定科目 B 2 (フィールドワーク, 原典講読)	6	2~4
			指定科目 C	指定科目 C (講義)	34	1~4
				指定科目 C (卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習)		4
	自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)	6以上	1~4	
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】 言語自由科目			
			文学部他学科科目, 教職関連科目			
他学部科目 (*), 5大学間単位互換制度科目 (最大12単位)			0~12			
大学院開講科目 (4年次生のみ) (最大8単位) (**)			0~8			
合計	124以上					

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。



# キリスト教学科 学科課程

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
<b>必修科目（指定科目A）</b>					
自動登録	入門演習A1a	2	1	必修 定1 クラス 指	
自動登録	〃 A1b	2	1		
自動登録	〃 A2a	2	1	必修 定1 クラス 指	
自動登録	〃 A2b	2	1		
自動登録	キリスト教学基礎演習A1a	2	2	必修 定1 クラス 指	
自動登録	〃 A1b	2	2		
自動登録	〃 A2a	2	2	必修 定1 クラス 指	
自動登録	〃 A2b	2	2		
<b>選択科目（指定科目B1）</b>					
その他	演習A1	2	3・4		
その他	〃 A2	2	3・4		
その他	〃 A3	2	3・4		
その他	〃 A4	2	3・4		
その他	〃 A5	2	3・4		
その他	〃 A6	2	3・4		
その他	〃 A7	2	3・4		
その他	〃 A8	2	3・4		
その他	〃 A9	2	3・4		
その他	〃 A10	2	3・4		
<b>選択科目（指定科目B2）</b>					
AA201	フィールドワークA1	2	2・3・4	旧科目名「キリスト教学文献講読1～5」	
AA202	〃 A2	2	2・3・4		
AA211	キリスト教学原典講読1	2	2・3・4		
AA212	〃 2	2	2・3・4		
AA213	〃 3	2	2・3・4		
AA214	〃 4	2	2・3・4		
AA215	〃 5	2	2・3・4		
AA216	ヘブライ語原典講読	2	2・3・4		旧科目名「ヘブライ語文献講読」
AA217	ギリシア語原典講読	2	2・3・4		旧科目名「ギリシア語文献講読」
AA218	ラテン語原典講読	2	2・3・4		旧科目名「ラテン語文献講読」
<b>選択科目（指定科目C）</b>					
AA351	キリスト教学入門講義1 (聖書1)	2	1・2・3・4		
AA352	〃 2 (聖書2)	2	1・2・3・4		
AA353	〃 3 (キリスト教史1)	2	1・2・3・4		
AA354	〃 4 (キリスト教史2)	2	1・2・3・4		
AA355	キリスト教学講義1 (旧約聖書学1)	2	2・3・4	隔年開講	
AA356	〃 2 (旧約聖書学2)	2	2・3・4		
AA357	〃 3 (新約聖書学1)	2	2・3・4	隔年開講	
AA358	〃 4 (新約聖書学2)	2	2・3・4		

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
AA359	キリスト教学講義5 (キリスト教思想史1)	2	2・3・4		隔年開講
AA360	〃 6 (キリスト教思想史2)	2	2・3・4		
AA361	〃 7 (比較宗教学1)	2	2・3・4		隔年開講
AA362	〃 8 (比較宗教学2)	2	2・3・4		
AA363	〃 9 (神学思想1)	2	2・3・4		隔年開講
AA364	〃 10 (神学思想2)	2	2・3・4		
AA365	〃 11 (キリスト教倫理学1)	2	2・3・4		隔年開講
AA366	〃 12 (キリスト教倫理学2)	2	2・3・4		
AA367	〃 13 (宗教社会学)	2	2・3・4	旧科目名「キリスト教学講義13(宗教人間学1)」	隔年開講
AA368	〃 14 (宗教心理学)	2	2・3・4	旧科目名「キリスト教学講義14(宗教人間学2)」	
AA369	〃 15 (キリスト教と教育1)	2	2・3・4	AE323「キリスト教と教育1」と同一科目。重複履修不可(2014年度より)。教育学科の学生はAE323で登録すること。	隔年開講
AA370	〃 16 (キリスト教と教育2)	2	2・3・4	AE324「キリスト教と教育2」と同一科目。重複履修不可(2014年度より)。教育学科の学生はAE324で登録すること。	
AA371	〃 17 (アジアのキリスト教1)	2	2・3・4		隔年開講
AA372	〃 18 (アジアのキリスト教2)	2	2・3・4		
AA373	〃 19 (アジアの宗教1)	2	2・3・4		隔年開講
AA374	〃 20 (アジアの宗教2)	2	2・3・4		
AA375	〃 21 (キリスト教と美術1)	2	2・3・4		隔年開講
AA376	〃 22 (キリスト教と美術2)	2	2・3・4		
AA377	〃 23 (キリスト教と音楽1)	2	2・3・4		隔年開講
AA378	〃 24 (キリスト教と音楽2)	2	2・3・4		
AA379	〃 25 (キリスト教美術史1)	2	2・3・4		隔年開講
AA380	〃 26 (キリスト教美術史2)	2	2・3・4		
AA381	〃 27 (キリスト教音楽学1)	2	2・3・4		隔年開講
AA382	〃 28 (キリスト教音楽学2)	2	2・3・4		
	〃 29 (キリスト教と文学1)	2	2・3・4	2019年度以降廃止	
	〃 30 (キリスト教と文学2)	2	2・3・4		
AA385	〃 31 (キリスト教と映画1)	2	2・3・4		隔年開講
AA386	〃 32 (キリスト教と映画2)	2	2・3・4		
AA387	〃 33 (キリスト教の礼拝1)	2	2・3・4		隔年開講
AA388	〃 34 (キリスト教の礼拝2)	2	2・3・4		

2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
抽選登録	キリスト教学講義35 (キリスト教と現代社会1)	2	2・3・4	定員250名
抽選登録	〃 36 (キリスト教と現代社会2)	2	2・3・4	定員250名
AA391	〃 37 (日本キリスト教史)	2	2・3・4	旧科目名「日本宗教史1 (日本のキリスト教)」
AA392	〃 38 (日本宗教史)	2	2・3・4	旧科目名「日本宗教史2 (日本の宗教)」
上記以外の文学部指定科目C				
AA781	卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習	10	4	
AA782	〃	10	4	
AA783	〃	10	4	
AA784	〃	10	4	
AA785	〃	10	4	
AA786	〃	10	4	
AA787	〃	10	4	
AA788	〃	10	4	
<b>自由科目</b>				
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目 (自由科目)	} 超過履修分		
	文学部基幹科目			
	指定科目B1, B2, C			
	文学部他学科科目	} 12単位以内		
	他学部科目			
	5大学間単位互換制度による科目			
<b>自由科目：教職関連科目 (教職課程登録者のための設置科目)</b>				
※教職課程登録者以外に履修を認める科目もある。Ⅲ-2履修規定「3-1他学部科目の履修」にて履修の可否を確認すること。				
BX303	民法1	2	1・2・3・4	履修希望者は希望届 (教務事務センターにて配付) を2019年4月6日 (土) 12:30までに教務事務センターレポートBOXに提出すること。 ※「社会学原論1・2」は、 ①春学期・秋学期セットで履修すること。 ②クラスは大学が指定する。 ③「社会学原論2」のみ履修を希望する場合および履修登録の取消を希望する場合は、秋学期授業開始前までに教務事務センター履修・成績窓口に申し出ること。
BX304	〃 2	2	1・2・3・4	
BX162	社会政策論1	2	2・3・4	
BX163	〃 2	2	2・3・4	
EX240	国際政治	4	2・3・4	
	経済原論A	4	2・3・4	
	〃 B	4	2・3・4	
	社会学原論1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
<b>随意科目 (教職課程登録者のみ履修可 卒業要件とはならない)</b>				
AA501	世界史	2	1・2・3・4	
AA502	日本史	2	1・2・3・4	

# 文学科（英米文学専修）履修規定

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

## 専門教育科目の特色

本専修では、まず初年次において、英語学・英米文学研究の基礎を習得・実践する。さらに、卒業年次まで配した演習科目によって、これを発展させる。また、外国人教員による英語の演習により、英語運用能力の涵養にも備える。これに併行して、文学部基幹科目や学科専修を横断する講義科目において、英語学・英米文学の専門的知見を核とした該博な人文学的学識を構築する。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通カリキュラム			
<b>必修科目(基幹科目A)</b> ●人文学とキャリア形成 (旧：職業と人文学)			
<b>選択科目(基幹科目B)</b> ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
<b>選択科目(基幹科目C)</b> ●合同講義●英米文学概論●ドイツ語圏文化概論●フランス文学・文化概論 ●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論●文芸・思想概論など			
<b>選択科目(基幹科目D)</b> ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
<b>必修科目(指定科目A)</b> ●入門講義●入門演習●基礎演習●英語基礎演習			
		<b>選択科目(指定科目B1)</b> ●演習	
		<b>選択科目(指定科目B2)</b> ●英語表現演習	
<b>選択科目(指定科目C)</b> ●文学講義(英語学概説, イギリス文学概説, アメリカ文学概説, イギリス散文, アメリカ散文, 英米詩, シェイクスピア, 文学批評・理論, 英米演劇, 中世英文学, 児童文学, 比較文学, 英語圏文学, 表象芸術, 英語発達史, 英語構造論, 音声学, 英米事情, イギリス文化, アメリカ文化, 英語圏文化, 比較文化) など			
*文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。			
		<b>卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習</b>	
自由科目			

## 1 英米文学専修の4年間の学習の進め方についての案内

## 1年次

春学期は「入門演習B1」（指定科目A）を1科目履修し、英語で英米文学を読み、演習形式で作品について議論する方法を学ぶとともに、「入門講義1」（指定科目A）を履修し、英語という言語の学問的基礎を固める。原則として入門演習B1クラスの担当教員は、1年次のアカデミックアドバイザーを兼ねる。秋学期は「入門演習B2」（指定科目A）を1科目履修し、英語で英米文学を正確に読む方法を学びつつ、「入門講義2」（指定科目A）を履修し、英米文学の学問的基礎を押さえる。

全カリ言語教育科目は必修。そのほか、全カリ総合教育科目、文学部基幹科目から選択して履修する。基幹科目C「英米文学概論」は1年次で履修するのが望ましい。

## 2年次

「基礎演習1」「基礎演習2」（指定科目A）をそれぞれ春学期と秋学期に1科目履修し、1年次「入門演習」の成果を踏まえて、原語による英米文学作品の読解をさらに深め、クラスでの議論を通して自己表現方法に磨きをかける。さらに、ネイティブ教員による「英語基礎演習1」「英語基礎演習2」（指定科目A）をそれぞれ春学期と秋学期に1科目履修し、文献、資料などを英語で理解するだけでなく、英語で自己表現する方法の基礎を学ぶ。

全カリ総合教育科目、文学部基幹科目から選択して履修できるのは1年次と同じ。ただし、「人文学とキャリア形成」（旧職業と人文学）（基幹科目）は2年次全員必修。それに加えて全カリ言語自由科目、文学部指定科目Cの履修が可能になる。指定科目Cはすべて選択科目だが、「文学講義1」から「文学講義6」は、英語学、英文学、米文学について、その後の発展の基礎をしっかりと身につける重要科目なので、この6科目については2年次にできるだけたくさん履修することが望ましい。それによって3、4年次の学習の充実度が大きく向上する。

## 3年次

演習科目の総仕上げとなる学生生活後半の最重要科目「演習B」（指定科目B1）を原則として春学期と秋学期に1科目ずつ履修し、さらに英語作品や英語文献に接することで、高度な鑑賞・批評、分析方法を学ぶ。春学期秋学期続けて同じ教員の演習に参加することが望ましい。

2年次の「英語基礎演習」よりもさらに自由で多様な題材を扱うネイティブ教員による「英語表現演習」（指定科目B2）を卒業までの2年間に、各学期1科目、全体で2科目を選んで4単位履修する。ただし、超過履修として4単位以上を履修することもできる。

そのほか、全カリ言語自由科目及び総合教育科目、文学部基幹科目、文学部指定科目Cのなかから選択して履修する。なお、4年次に卒業論文執筆を希望する学生は、3年次の秋に「卒業論文指導申請」を行なって、指導教授の助言を受けることができる。

## 4年次

3年次に引き続いて「演習B」を原則として春学期と秋学期に1科目ずつ履修する。「英語表現演習」は、3年次での履修単位数に応じて、必要な数の科目を選んで各学期1科目履修する。ただし、超過履修として合計4単位以上を履修することもできる。

そのほかの科目の履修は3年次と同じだが、指定科目Cから「卒業論文（制作）」の選択を希望する学生は、3年次に既に「卒業論文指導申請」を行なっても、4年次4月にあらためて「卒業論文履修登録票（4年次生）」を提出する。それによって窓口となる指導教授が確定し、論文執筆上の様々な問題を解決し論文を完成させるのに役立つような助言・指導を受けられるようになる。論文は必修ではないが、4年間の学習の総仕上げとして「卒業論文（制作）」の執筆を強く推奨する。

## 2 履修上の注意 (「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

## 1. 基幹科目の履修について

基幹科目は卒業までに必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」(旧:職業と人文学)2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## 2. 英米文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、専修課程の記載に従って履修すること。

## (1) 指定科目A

全科目とも配当年次に自動登録される。「入門演習B1・2」,「基礎演習1・2」,「英語基礎演習1・2」は履修するクラスを指定される。

## (2) 指定科目B1

3年次以後に履修する。3月中の指定する期日に履修希望を提出し、調整の結果、原則として各学期に1科目ずつ履修科目が振り分けられる。発表された結果はすべて大学が登録を行う(履修登録方法の詳細は「V 履修登録 3 履修届出方法 2.「その他」登録」参照)。

前年度修得した科目を重複して履修することもできる。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## (3) 指定科目B2

3年次以後に履修する。3月中の指定する期日に履修希望を提出し、調整の結果、原則として各学期に1科目ずつ履修科目が振り分けられる。発表された結果はすべて大学が登録を行う(履修登録方法の詳細は「V 履修登録 3 履修届出方法 2.「その他」登録」参照)。

前年度修得した科目を重複して履修することもできる。また、合計で4単位を超えて履修することもできる。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## (4) 指定科目C

指定科目Cは「文学講義1～42」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について 5 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

また、「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」については、下記のとおり登録すること。

## 履修登録について

(1) 卒業論文は、まず履修前年度の10月に卒業論文指導を申請することによって、指導を受け始めることができる。ガイダンスで配布される「卒業論文指導申請票(3年次生)」を指定された期日に池袋キャンパス教務事務センターレポートBOXへ提出すること。

(2) 上記(1)の指導申請票を提出しなかった場合でも、履修年度の4月にあらたに下記(3)の履修登録票を提出することによって、指導を受け始めることができる。また、上記(1)の指導申請票を提出した場合でも、履修年度の4月には、あらためて下記(3)の履修登録票を提出しなければならないので注意すること。

(3) 履修年度の登録については、ガイダンスで配布される「卒業論文履修登録票(4年次生)」を、池袋キャンパス教務事務センターレポートBOXで受け付ける。登録結果は指定の方法で発表され、大学が履修登録を行う。登録内容は履修登録状況画面で必ず確かめること。

☞ 「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文(制作)各種規定」参照



文学科（英米文学専修）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名		卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次
全学 共通 カリ キュ ラム	必修 科目	10	言語教育科目 言語A	6	1
			言語教育科目 言語B	4	1
	選択 科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6	1～4
			総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）	14	1～4
総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B					
総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ					
<b>専門教育科目</b>					
区分名		卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次
必修 科目	18	基幹科目A（人文学とキャリア形成）		2	2
		指定科目A	入門講義	4	1
			入門演習	4	1
			基礎演習	4	2
			英語基礎演習	4	2
選択 科目	50	基幹科目B, C, D		10	1～4
		指定科目B	指定科目B1（演習）	8	3～4
			指定科目B2（英語表現演習）	4	
		指定科目C	指定科目C（講義）	28	2～4
指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）	4				
自由 科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）		6以上	1～4
		全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】 言語自由科目			
		文学部他学科・他専修科目			
		他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）		0～12	
		大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）		0～8	
合 計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。



文学部（英米文学専修）2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
	必修科目	選択科目			
全学共通カリキュラム	10	言語教育科目 言語 A	6	1	
		言語教育科目 言語 B	4	1	
	20	総合教育科目 総合 A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1～4	
		総合教育科目 総合 A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1～4	
	総合教育科目全体 【総合 A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合 A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合 B 領域別 A (講義系) 領域別 B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1～4		
専門教育科目	18	基幹科目 A (人文学とキャリア形成)		2	2
		指定科目 A	入門講義	4	1
			入門演習	4	1
			基礎演習	4	2
			英語基礎演習	4	2
	50	基幹科目 B, C, D		10	1～4
		指定科目 B	指定科目 B 1 (演習)	8	3～4
			指定科目 B 2 (英語表現演習)	4	
		指定科目 C	指定科目 C (講義)	28	2～4
	指定科目 C (卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習)		4		
	26以上	専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)		6以上	1～4
		全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】 言語自由科目			
		文学部他学科・他専修科目			
他学部科目 (*), 5 大学間単位互換制度科目 (最大12単位)		0～12			
大学院開講科目 (4 年次生のみ) (最大 8 単位) (**)		0～8			
合計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別 A」「領域別 B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

## 文学科 英米文学専修 専修課程

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備 考
<b>必修科目（指定科目A）</b>				
自動登録	入門講義1	2	1	
自動登録	〃 2	2	1	
自動登録	入門演習B1a	2	1	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 B1b	2	1	
自動登録	〃 B1c	2	1	
自動登録	〃 B1d	2	1	
自動登録	〃 B1e	2	1	
自動登録	〃 B1f	2	1	
自動登録	〃 B1g	2	1	
自動登録	〃 B2a	2	1	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 B2b	2	1	
自動登録	〃 B2c	2	1	
自動登録	〃 B2d	2	1	
自動登録	〃 B2e	2	1	
自動登録	〃 B2f	2	1	
自動登録	〃 B2g	2	1	
自動登録	基礎演習1a	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 1b	2	2	
自動登録	〃 1c	2	2	
自動登録	〃 1d	2	2	
自動登録	〃 1e	2	2	
自動登録	〃 1f	2	2	
自動登録	〃 1g	2	2	
自動登録	〃 2a	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 2b	2	2	
自動登録	〃 2c	2	2	
自動登録	〃 2d	2	2	
自動登録	〃 2e	2	2	
自動登録	〃 2f	2	2	
自動登録	〃 2g	2	2	
自動登録	英語基礎演習1a	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 1b	2	2	
自動登録	〃 1c	2	2	
自動登録	〃 1d	2	2	
自動登録	〃 1e	2	2	
自動登録	〃 1f	2	2	
自動登録	〃 1g	2	2	
自動登録	〃 2a	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 2b	2	2	
自動登録	〃 2c	2	2	
自動登録	〃 2d	2	2	
自動登録	〃 2e	2	2	
自動登録	〃 2f	2	2	
自動登録	〃 2g	2	2	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>選択科目（指定科目B1）</b>				
その他	演習B1 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B2 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B3 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B4 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B5 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B6 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B7 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B8 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B9 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B10 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B11 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B12 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B13 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B14 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B15 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B16 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B17 (英語学)	2	3・4	
その他	〃 B18 (英語学)	2	3・4	
その他	〃 B19 (英語学)	2	3・4	
その他	〃 B20 (英語学)	2	3・4	
その他	〃 B21 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B22 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B23 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B24 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B25 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B26 (英語文学)	2	3・4	
その他	〃 B27 (英語学)	2	3・4	
その他	〃 B28 (英語学)	2	3・4	
その他	〃 B29	2	3・4	
その他	〃 B30	2	3・4	

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>選択科目（指定科目B2）</b>				
その他	英語表現演習1	2	3・4	
その他	〃 2	2	3・4	
その他	〃 3	2	3・4	
その他	〃 4	2	3・4	
その他	〃 5	2	3・4	
その他	〃 6	2	3・4	
その他	〃 7	2	3・4	
その他	〃 8	2	3・4	
その他	〃 9	2	3・4	
その他	〃 10	2	3・4	
その他	〃 11	2	3・4	
その他	〃 12	2	3・4	
その他	〃 13	2	3・4	
その他	〃 14	2	3・4	
その他	〃 15	2	3・4	
その他	〃 16	2	3・4	
その他	〃 17	2	3・4	
その他	〃 18	2	3・4	
その他	〃 19	2	3・4	
その他	〃 20	2	3・4	
<b>選択科目（指定科目C）</b>				
AM301	文学講義1 (英語学概説1)	2	2・3・4	
AM302	〃 2 (英語学概説2)	2	2・3・4	
AM303	〃 3 (イギリス文学概説1)	2	2・3・4	
AM304	〃 4 (イギリス文学概説2)	2	2・3・4	
AM305	〃 5 (アメリカ文学概説1)	2	2・3・4	
AM306	〃 6 (アメリカ文学概説2)	2	2・3・4	
AM307	〃 7 (イギリス散文1)	2	2・3・4	
AM308	〃 8 (イギリス散文2)	2	2・3・4	
AM309	〃 9 (アメリカ散文1)	2	2・3・4	
AM310	〃 10 (アメリカ散文2)	2	2・3・4	
AM311	〃 11 (英米詩1)	2	2・3・4	
AM312	〃 12 (英米詩2)	2	2・3・4	
AM313	〃 13 (シェイクスピア1)	2	2・3・4	
AM314	〃 14 (シェイクスピア2)	2	2・3・4	
AM315	〃 15 (文学批評・理論1)	2	2・3・4	隔年開講
AM316	〃 16 (文学批評・理論2)	2	2・3・4	
AM317	〃 17 (英米演劇1)	2	2・3・4	
AM318	〃 18 (英米演劇2)	2	2・3・4	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考			
AM319	文学講義19 (中世英文学)	2	2・3・4				
AM320	〃 20 (児童文学)	2	2・3・4				
AM321	〃 21 (比較文学1)	2	2・3・4	隔年開講			
AM322	〃 22 (比較文学2)	2	2・3・4				
AM323	〃 23 (英語圏文学1)	2	2・3・4	隔年開講			
AM324	〃 24 (英語圏文学2)	2	2・3・4				
AM325	〃 25 (表象芸術1)	2	2・3・4	隔年開講			
AM326	〃 26 (表象芸術2)	2	2・3・4				
AM327	〃 27 (英語発達史1)	2	2・3・4	2019年度より「科目コード登録」に変更			
AM328	〃 28 (英語発達史2)	2	2・3・4				
AM329	〃 29 (英語構造論1)	2	2・3・4				
AM330	〃 30 (英語構造論2)	2	2・3・4				
AM331	〃 31 (音声学1)	2	2・3・4				
AM332	〃 32 (音声学2)	2	2・3・4				
AM333	〃 33 (英米事情1)	2	2・3・4				
AM334	〃 34 (英米事情2)	2	2・3・4				
AM335	〃 35 (イギリス文化1)	2	2・3・4				
AM336	〃 36 (イギリス文化2)	2	2・3・4				
AM337	〃 37 (アメリカ文化1)	2	2・3・4				
AM338	〃 38 (アメリカ文化2)	2	2・3・4				
AM339	〃 39 (英語圏文化1)	2	2・3・4				
AM340	〃 40 (英語圏文化2)	2	2・3・4				
AM341	〃 41 (比較文化1)	2	2・3・4				
AM342	〃 42 (比較文化2)	2	2・3・4				
	上記以外の文学部指定科目C						
その他	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10	4				
その他	〃	10	4				
その他	〃	10	4				
その他	〃	10	4				
その他	〃	10	4				
その他	〃	10	4				
その他	〃	10	4				
その他	〃	10	4				
その他	〃	10	4				

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>自由科目</b>				
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目（自由科目）	}		超過履修分
	文学部基幹科目			
	指定科目B1, B2, C			
	文学部他学科・他専修科目	}		12単位以内
	他学部科目			
	5大学間単位互換制度による科目			

# 文学科（ドイツ文学専修）履修規定

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

## 専門教育科目の特色

ドイツ文学専修では、必修科目において読み書き・聞く話すためのドイツ語の基礎知識とスキルを養うことから始め、ジャーナリズム、文学、科学のドイツ語文献資料を扱えることを目標とする。同時に演習において、情報収集、分析、提示、情報発信の基礎的なスキルを身につけ実践的に訓練する。文学講義において、ドイツ語圏の言語、文学、思想、社会と文化の諸問題や日独文化の比較についてを扱い学び、異文化に対する理解や関心、そして異文化対応力を涵養する。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通カリキュラム			
<b>必修科目(基幹科目A)</b> ●人文学とキャリア形成 (旧：職業と人文学)			
<b>選択科目(基幹科目B)</b> ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
<b>選択科目(基幹科目C)</b> ●合同講義●ドイツ語圏文化概論●英米文学概論●フランス文学・文化概論 ●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論●文芸・思想概論など			
<b>選択科目(基幹科目D)</b> ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
<b>必修科目(指定科目A)</b> ●入門演習●ドイツ語入門●ドイツ語基礎演習			
		<b>選択科目(指定科目B1)</b> ●演習C	
		<b>選択科目(指定科目B2)</b> ●ドイツ語表現演習 ●ドイツ文学・文化演習	
		<b>選択科目(指定科目C)*</b> ●文学講義(ドイツの言語、ドイツの文学論、ドイツの思想論、ドイツの言語論、インド・ゲルマン語の歴史、ドイツのメディア論、ドイツの学術文化、日独文化交流、日独比較文化、ドイツのメルヘン、ドイツの児童文学、ゲーテの世界、ロマン派時代の文学、ドイツの身体文化、ドイツの表象文化、ドイツの都市文化、ドイツの音楽・舞台芸術・ドイツの映像文化、ドイツの生活文化、ドイツのユダヤ系文化、ハプスブルク帝国の文化、ドイツ中世の文学・文化、ドイツ近世の文学・文化)	
		*文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。	
		<b>卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習</b>	
自由科目			



## 1 ドイツ文学専修における4年間の学習の進め方についての案内

**1年次**

指定科目Aでは、「入門演習」でドイツ語圏の文学、文化、言語の歴史に関する基礎知識を学ぶことを通じて関心を持とう。同時に、情報収集、口頭発表、レポート作成の方法も実践的に学ぼう。そのためには文学部基幹科目C「ドイツ語圏文化概論」は必ず履修しよう。「ドイツ語入門」では全学共通カリキュラムで必修のドイツ語科目とあわせてドイツ語能力のいっそうの向上をめざそう。

**2年次**

指定科目Aの「ドイツ語基礎演習」においてドイツ語の基礎的なスキルの継続的な向上を図る一方、2年次からは新たに指定科目Bにおいて、B1の「演習C」で、各分野の具体的研究テーマに取り組み、専門的知識の情報収集、口頭発表、論文作成の練習をしよう。また、B2の「ドイツ語表現演習」では、ドイツ語の運用能力やドイツ語情報の収集能力の向上をめざそう。2年次まではドイツ語の語学スキルを身につけることが中心となるが、3・4年次においてドイツ語を駆使して興味追求ができるよう、指定科目Cの「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」においてさまざま専門領域の知識を学び始めよう。

**3年次**

指定科目B2の「ドイツ語表現演習」では、2年次に引き続きドイツ語の運用能力やドイツ語情報の収集能力の向上をめざそう。「ドイツ文学・文化演習」では各ジャンルのドイツ語文献講読を中心に研究対象に関する学習を深め、ドイツ語読解能力の向上をめざそう。その一方で、卒業論文も視野にいれながら、自分の関心や研究課題を見極めるためにも、指定科目Cの「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」でドイツの文学、文化、言語の各分野に関する専門的知識の拡大と深化に取り組もう。

**4年次**

指定科目B2の「ドイツ文学・文化演習」と指定科目Cの「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」を学ぶことで語学スキルと専門知識をさらに深めよう。「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」は、4年間の学習の総仕上げとして是非とも挑戦したい。4年次では、大学院の科目の履修も可能（許可制）であるため、より一層語学スキルや知識を向上させたい人には勧めたい。

## 2 履修上の注意 (「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

## 1. 基幹科目の履修について

基幹科目は、卒業までに必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」(旧:職業と人文学)2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## 2. ドイツ文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、専修課程の記載に従って履修すること。

いずれの授業に関しても、合計3回の無断欠席をもって成績評価の対象とならない。

## (1) 指定科目A

全科目とも配当年次にクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合も各開講学期に自動登録される。

## (2) 指定科目B1・B2

「ドイツ語表現演習1A・1B」「同2A・2B」以外の科目は、単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## 指定科目B1

指定科目B1は1学期に1科目ずつ選択できる。原則として春・秋学期同一教員のもとで継続して履修する。11月～12月中に次年度の履修希望調査を行い、あらかじめ指定された科目を大学が登録する。

## 指定科目B2

指定科目B2のうち以下の科目は、6月中に履修希望調査を行い、A・Bの2科目を同時に履修するよう指定する。指定された科目は大学が登録する。履修辞退および履修クラスの変更は認められない。また、以下の科目は同一科目であるため、「ドイツ語表現演習1A・1B」の単位を既に修得した者は、「ドイツ語表現演習2A・2B」を、「ドイツ語表現演習2A・2B」の単位を既に修得した者は、「ドイツ語表現演習1A・1B」を履修することはできない。

ドイツ語表現演習1A	ドイツ語表現演習2A
ドイツ語表現演習1B	ドイツ語表現演習2B

「ドイツ文学・文化演習4(日独比較文化タンデム)」の履修については、7月中に説明会を開催するので、その説明会に参加すること。

指定科目B2のその他の科目は、11月下旬～12月中に次年度の履修希望調査を行い、あらかじめ指定された科目を大学が登録する。

## &lt;2年次生への注意&gt;

指定科目B2のうち、「ドイツ語表現演習(小論文)6」と「ドイツ文学・文化演習8(検定ドイツ語)」を2年次生が履修する場合は、最初にプレースメントテストを受けて合格することが必要である。

プレースメントテスト 実施日:7月3日(水) 18:55より

場 所:X103教室

## (3) 指定科目C

指定科目Cは、「文学講義101～118, 157, 160～162, 164, 168」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について 5 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」は「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文(制作)各種規定」を参照。

3. 繰上履修

- (1) ドイツ語において一定以上の段階を達成した者には、本人の希望により、指定された履修年次に達していなくても繰上履修を認めることがあるので、4月のガイダンス時に申し出ること。
- (2) 全カリ「初習言語必修科目履修特別免除制度」により、全カリのドイツ語の全必修科目を履修免除される学生のうち、全カリ自由科目の「ドイツ語中級1・2」修了程度の能力があると全カリセンタードイツ語教育研究室により判定された者は、指定科目A、指定科目B2の中から許可された科目を1年次より履修できることとする。
- (3) 2年次以降も、繰上履修を希望する学生は、必ず4月のガイダンス時に申し出ること。

4. 教育職員免許  
状の取得につ  
いて

教育職員免許状を取得しようとする者は、学校・社会教育講座の履修要項を参照すること。

文学科（ドイツ文学専修）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
	必修科目	選択科目			
全学共通カリキュラム	10	言語教育科目 言語 A	6	1	
		言語教育科目 言語 B	4	1	
	20	総合教育科目 立教科目群 立教 A（講義系） 立教 B（立教ゼミナール）	6	1～4	
		総合教育科目 領域別科目群 領域別 A（講義系） 領域別 B（文献系）	14	1～4	
総合教育科目 主題別科目群 主題別 A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別 B					
総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ					
専門教育科目	24	基幹科目 A（人文学とキャリア形成）	2	2	
		指定科目 A	入門演習	4	1
			ドイツ語入門	8	1
			ドイツ語基礎演習	10	2
	44	基幹科目 B, C, D	10	1～4	
		指定科目 B	指定科目 B 1（演習）	14	2～4
			指定科目 B 2（ドイツ語表現演習, ドイツ文学・文化演習）		
		指定科目 C	指定科目 C（講義）	20	2～4
	指定科目 C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）		4		
	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1～4	
全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】 言語自由科目					
文学部他学科・他専修科目					
他学部科目（*）, 5大学間単位互換制度科目（最大12単位）		0～12			
大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）	0～8				
合計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

文学科（ドイツ文学専修）2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
全学 共通カリ キュラム	必修科目	言語教育科目 言語A	6	1	
		言語教育科目 言語B	4	1	
	選択科目	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1~4	
		総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1~4	
	20	総合教育科目全体 【総合A（1, 2, 3）】6単位を超えて修得した単位 【総合A（4, 5）】4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1~4	
専門教育科目	必修科目	基幹科目A（人文学とキャリア形成）	2	2	
		指定科目A	入門演習	4	1
			ドイツ語入門	8	1
			ドイツ語基礎演習	10	2
	選択科目	基幹科目B, C, D	10	1~4	
		指定科目B	指定科目B1（演習）	14	2~4
			指定科目B2（ドイツ語表現演習, ドイツ文学・文化演習）		
		指定科目C	指定科目C（講義）	20	2~4
	指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）		4		
	自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1~4
全学共通カリキュラム 【総合教育科目】卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】言語自由科目					
文学部他学科・他専修科目					
他学部科目（*）, 5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			0~12		
大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）			0~8		
合 計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

## 文 学 科 ドイツ文学専修 専修課程

2010年～2015年度 1 年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科 目 コード	科 目 名	単位数	配当年次	備 考
<b>必修科目 (指定科目 A)</b>				
自動登録	入門演習C1a	2	1	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 C1b	2	1	
自動登録	〃 C1c	2	1	
自動登録	〃 C2a	2	1	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 C2b	2	1	
自動登録	〃 C2c	2	1	
自動登録	ドイツ語入門1a	2	1	「ドイツ語入門1」と「ドイツ語入門2」は同一 クラスにて、合わせて週2回受講する。
自動登録	〃 1b	2	1	
自動登録	〃 1c	2	1	
自動登録	〃 2a	2	1	
自動登録	〃 2b	2	1	
自動登録	〃 2c	2	1	
自動登録	〃 3a	2	1	「ドイツ語入門3」と「ドイツ語入門4」は同一 クラスにて、合わせて週2回受講する。
自動登録	〃 3b	2	1	
自動登録	〃 3c	2	1	
自動登録	〃 4a	2	1	
自動登録	〃 4b	2	1	
自動登録	〃 4c	2	1	
自動登録	ドイツ語基礎演習1a	2	2	「ドイツ語基礎演習1」と「ドイツ語基礎演習 2」は同一クラスにて、合わせて週2回受講す る。
自動登録	〃 1b	2	2	
自動登録	〃 1c	2	2	
自動登録	〃 2a	2	2	
自動登録	〃 2b	2	2	
自動登録	〃 2c	2	2	
自動登録	〃 3a	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 3b	2	2	
自動登録	〃 3c	2	2	
自動登録	〃 3d	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 4a	2	2	
自動登録	〃 4b	2	2	
自動登録	〃 4c	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 5a	2	2	
自動登録	〃 5b	2	2	
自動登録	〃 5c	2	2	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 5d	2	2	
<b>選択科目 (指定科目 B 1)</b>				
その他	演習 (日独比較文化) C1	2	2・3・4	演習C1～C12より春・秋学期指定された各1科目のみ履 修する。
その他	〃 C2	2	2・3・4	
その他	演習 (身体文化・表象文化) C3	2	2・3・4	
その他	〃 C4	2	2・3・4	
その他	演習 (メディア文化) C5	2	2・3・4	
その他	〃 (ユダヤ文化) C6	2	2・3・4	
その他	演習 (言語文化) C7	2	2・3・4	
その他	〃 C8	2	2・3・4	
その他	演習 (伝承・物語) C9	2	2・3・4	
その他	〃 C10	2	2・3・4	
その他	演習 (比較文化) C11	2	2・3・4	
その他	〃 C12	2	2・3・4	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
<b>選択科目（指定科目B2）</b>					
その他	ドイツ語表現演習（討論1） 1A	2	2・3・4	指定された2科目のみ履修可・重複履修不可	ABを同時に履修する
その他	〃 1B	2	2・3・4		
その他	ドイツ語表現演習（討論1） 2A	2	2・3・4		
その他	〃 2B	2	2・3・4		
その他	ドイツ語表現演習（討論2） 3A	2	3・4	指定されたAまたはBのどちらかを履修	
その他	〃 3B	2	3・4		
その他	ドイツ語表現演習（討論3） 4A	2	3・4	指定されたAまたはBのどちらかを履修	
その他	〃 4B	2	3・4		
その他	ドイツ語表現演習（小論文） 5	2	3・4		
その他	〃 6	2	2・3・4	※2年次生はプレースメントテストの受験が必要	
その他	ドイツ文学・文化演習1（韻文）	2	3・4		
その他	〃 2（思想・評論）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習12（思想・評論）」	
その他	〃 3（児童文学）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習13（児童文学）」	
その他	〃 4（日独比較文化タンデム）	4	1・2・3	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習5（音楽・造形芸術）」 2018年度まで「ドイツ文学・文化演習4（音楽・造形芸術）」 2019年度より4単位に変更、配当年次変更	
その他	〃 5（ドイツ文化論）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習6（ドイツ文化論）」	
その他	〃 6（中・近世ドイツ語研究）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習17（中・近世ドイツ語研究）」	
その他	〃 7（メディアのドイツ語）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習8（メディアのドイツ語）」	
その他	〃 8（検定ドイツ語）	2	2・3・4	旧科目名「ドイツ文学・文化演習9（検定ドイツ語・中級）」※2年次生はプレースメントテストの受験が必要	
	〃 19（検定ドイツ語・上級）	2		2017年度以降廃止	
その他	〃 101（日独比較文化）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習16（ドイツ文化遺産研究）」	
その他	〃 103（身体文化・表象文化）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習4（身体文化・表象文化）」	
その他	〃 105（メディア文化・ユダヤ文化）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習18（ニュースのドイツ語）」	
その他	〃 107（言語文化）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習7（現代ドイツ語研究）」	
その他	〃 109（伝承・物語）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習3（メルヘン）」	
その他	〃 111（比較文化）	2	3・4	2017年度まで「ドイツ文学・文化演習2（散文）」	
<b>選択科目（指定科目C）</b>					
AN301	文学講義101（ドイツの言語）	2	2・3・4		
AN304	〃 104（ドイツの言語論）	2	2・3・4	隔年開講	
AN305	〃 105（インド・ゲルマン語の歴史）	2	2・3・4		
AN303	〃 103（ドイツの思想論）	2	2・3・4		
AN306	〃 106（ドイツの文学論）	2	2・3・4	隔年開講	
AN337	〃 107（ドイツのメディア論）	2	2・3・4		
AN357	〃 157（ドイツの学術文化）	2	2・3・4	隔年開講	
AN308	〃 108（日独文化交流）	2	2・3・4		
AN309	〃 109（日独比較文化）	2	2・3・4		



## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
AN340	文学講義110 (ドイツのメルヘン)	2	2・3・4		隔年開講
AN360	〃 160 (ドイツの児童文学)	2	2・3・4		
AN341	〃 111 (ゲーテの世界)	2	2・3・4		隔年開講
AN361	〃 161 (ロマン派時代の文学)	2	2・3・4		
AN342	〃 112 (ドイツの身体文化)	2	2・3・4		隔年開講
AN362	〃 162 (ドイツの表象文化)	2	2・3・4		
AN313	〃 113 (ドイツの都市文化)	2	2・3・4		隔年開講
AN315	〃 115 (ドイツの生活文化)	2	2・3・4		
AN344	〃 114 (ドイツの音楽・舞台芸術)	2	2・3・4		隔年開講
AN364	〃 164 (ドイツの映像文化)	2	2・3・4		
AN316	〃 116 (ドイツのユダヤ系文化)	2	2・3・4		隔年開講
AN317	〃 117 (ハプスブルク帝国の文化)	2	2・3・4		
AN348	〃 118 (ドイツ中世の文学・文化)	2	2・3・4		隔年開講
AN368	〃 168 (ドイツ近世の文学・文化)	2	2・3・4		
	上記以外の文学部指定科目C				
その他	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10	4		
その他	〃	10	4		
その他	〃	10	4		
その他	〃	10	4		
その他	〃	10	4		
<b>自由科目</b>					
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目(自由科目)			} 超過履修分	
	文学部基幹科目				
	指定科目B1, B2, C				
	文学部他学科・他専修科目				
	他学部科目			} 12単位以内	
	5大学間単位互換制度による科目				



# 文学科（フランス文学専修）履修規定

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

## 専門教育科目の特色

本専修の目的は、フランス語という新しい窓から世界を見ることにある。語学の基礎訓練と多様な演習科目を通じて、読解力（フィクション、エッセー、時事、映像文化）と表現力（会話、作文、パフォーマンス）の向上を目指す。さらに文学・思想・文化・歴史・社会に関する専門的知識を修得させた上で、留学の機会も提供する。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通カリキュラム			
<b>必修科目(基幹科目A)</b> ●人文学とキャリア形成 (旧：職業と人文学)			
<b>選択科目(基幹科目B)</b> ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
<b>選択科目(基幹科目C)</b> ●合同講義●フランス文学・文化概論●英米文学概論●ドイツ語圏文化概論 ●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論●文芸・思想概論など			
<b>選択科目(基幹科目D)</b> ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
<b>必修科目(指定科目A)</b> ●フランス語入門 ●入門演習●フランス語基礎演習			
		<b>選択科目(指定科目B1)</b> ●演習	
	<b>選択科目(指定科目B2)</b> ●フランス語表現演習 ●フランス文学・文化演習		
	<b>選択科目(指定科目C)</b> ●文学講義（仏中世・ルネサンス文学・思想、仏古典主義文学、仏近代社会、 仏近・現代小説、フランス語圏文学、フランス哲学・思想、フランス美術、表 象文化論、日仏比較、ヨーロッパとフランス、仏詩・戯曲、フランス文化史、 仏現代社会、フランス語学概説）		
	*文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。		<b>●卒業論文(制作)・            卒業論文(制作)指導演習</b>
自由科目			

## 1 フランス文学専修における4年間の学習の進め方についての案内

専修での学習生活はフランス語を修得し、フランス語という窓から世界を見ることを第一の目的にしている。

### 1年次

「フランス語入門」(指定科目A:クラス指定必修科目)と全カリ言語教育科目を通し、フランス語を集中的に学習する。このフランス語科目は2年次以降の科目を履修するうえで極めて重要である。原則的に「フランス語入門1・3」の担当教員が、その学期のアカデミックアドバイザーとなる。

さらに「入門演習D1」「入門演習D2」(指定科目A:クラス指定必修科目)を春・秋学期履修する。この科目ではフランス文学・文化研究の基礎形成を目的とした訓練を行う。これらに加え、総合教育科目、文学部基幹科目を履修する。

### 2年次

「フランス語基礎演習1～5」(指定科目A)を履修する。この科目は、1年次で身に付けたフランス語能力をさらに多角的に(会話力・読解力・作文力へと)発展させることを目的とした科目である。読解力については、秋学期から履修が可能になる「フランス文学・文化演習」によって、さらに強化することが望まれる。それは後に履修することになる「演習D」「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」において不可欠である。

全カリ言語教育科目と総合教育科目、文学部基幹科目に加えて文学部フランス文学専修専門科目(指定科目Cの講義科目)や文学部他専修専門科目の履修が始まる。フランス文学・文化についての全般的な知識を得るために、「文学講義201～218」を広く履修することが望ましい。「海外フィールドスタディ〈3.海外SLV〉」(基幹科目B)参加による短期のフランス留学も望ましい。

### 3年次

「演習D」(指定科目B1)の履修が望ましい。この科目では卒業までの学習の基軸となる専門性を磨くための訓練を行う。自分の関心にもっとも近いクラスを選び、そこでフランス文学・文化研究の方法を学ぶ。原則的に春秋学期続けて同じ教員の演習を履修することになる。

また、「フランス語表現演習1～10」(指定科目B2)では、より高度なフランス語運用能力を身に付ける。フランス語で自らの思考を表現できるようになることを目的としている。フランス文学専修の専門科目の履修が本格化する。

3年次から派遣留学生としてフランス・カナダで学習することが可能になる。留学を希望する学生は、1年次からそれに必要なフランス語運用能力を養っておく必要がある。

### 4年次

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」(指定科目C)を履修することが望ましい。この科目は卒業論文(制作)作成を支援する指導を行う。卒業論文(制作)は必修ではないが、執筆を強く推奨する。そのためには、はやくから卒業論文(制作)のイメージをある程度まで明確しておく必要がある。

引き続き、「演習D」(指定科目B1)「フランス文学・文化演習1～8」「フランス語表現演習1～10」(ともに指定科目B2)を履修する。特に「演習D」については、積極的な参加が求められる。

### 須山奨励賞について

須山奨励賞は文学部フランス文学専修の学生に対して、本学校友である故須山岳彦氏から寄贈された資金をもとに、2018年度から年度ごとに最も優秀な成績の卒業論文執筆者を表彰し、奨学を意図し、奨学金を贈呈するものである。

受賞資格:本専修の在学学生の中で、当該年度最も優秀な成績の卒業論文を執筆した者。

選考:本専修の専任教員で構成される須山奨励賞選考委員会が行う。

奨学金の金額:3万円

授与方法:卒業式当日、文学部フランス文学専修学位記等配布会場で表彰並びに奨学金の授与を行う。

## 2 履修上の注意 (「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

## 1. 基幹科目の履修について

基幹科目は卒業までに必修科目(基幹科目A「人文学とキャリア形成」(旧:職業と人文学)(2単位)2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## 2. フランス文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、専修課程の記載に従って履修すること。

指定科目A, B1, B2において配当年次が2年次以上の科目については、全カリ言語B必修科目およびフランス語入門1～4の単位修得者のみ履修が認められる。

## (1) 指定科目A

全科目とも配当年次にクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合も各開講学期に自動登録される。

## (2) 指定科目B1

1学期に1科目ずつ選択できる。春・秋学期同一の担当者を継続して履修することになる。前年度中に希望を受け付け、あらかじめ指定された科目を大学が登録する。

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## (3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## (4) 指定科目C

指定科目Cは「文学講義201～218」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

㊦ 文学部専門教育課程について 5 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

## 3. 必修科目に関する特別措置

以下の(1)あるいは(2)に該当する者は、必ずガイダンス時に申し出ること。なお、全カリ言語必修科目の単位認定・履修免除については、別途手続きが必要である。全カリの履修要項を参照のこと。

(1) すでにフランス語の一定の学習歴があり、かつ、入学(または3年次編入学、学内転部・転科・転専修)前に以下のいずれかの認定試験における所定の等級またはスコアを取得している者(既習者)。

㊦ その等級またはスコアおよびガイダンス時の面談をもって、「フランス語入門」の単位を認定し(評価はSとする)、履修を免除する場合がある。フランス文学専修のガイダンスに際して、等級またはスコアを認定する証明書(コピー不可)を必ず持参すること。なお、申請基準は以下の通りとする。

実用フランス語技能検定試験準2級以上

DELF/DALF A2以上

TCF250点以上

(2) 所定の等級もしくはスコアを取得していない場合

入学（または3年次編入学，学内転部・転科・転専修）前に上記(1)で指定された認定試験における所定の等級またはスコアを取得していない学生でも，フランス語圏における長期の学習経験があることが認められた場合は，指定された期日までに等級またはスコアを取得することを条件に，当該科目の単位認定を行うことがある。フランス文学専修のガイダンス時に，担当教員の指示に従うこと。

4. 繰上履修

(1) 全カリ「初習言語必修科目履修特別免除制度」により，フランス語の全必修科目を履修免除される学生は，繰上履修を申請できる。個別に面接をしたうえで，指定科目A，指定科目B2の中から許可された科目を1年次より履修できることとする。

(2) 2年次以降も，繰上履修を希望する学生は，必ず4月のガイダンス時に申し出ること。

文学科（フランス文学専修）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次		
	区分名	卒業要件 単位数計				
全学共通カリキュラム	必修科目	10	言語教育科目 言語 A	6	1	
			言語教育科目 言語 B	4	1	
	選択科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教 A（講義系） 立教 B（立教ゼミナール）	6	1～4	
			総合教育科目 領域別科目群 領域別 A（講義系） 領域別 B（文献系）			
		総合教育科目 主題別科目群 主題別 A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別 B	14	1～4		
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ				
専門教育科目	必修科目	24	基幹科目 A（人文学とキャリア形成）	2	2	
			指定科目 A	入門演習	4	1
				フランス語入門	8	1
				フランス語基礎演習	10	2
	選択科目	44	基幹科目 B, C, D	10	1～4	
			指定科目 B	指定科目 B 1（演習）	8	3～4
				指定科目 B 2（フランス文学・文化演習）	6	2秋～4
				指定科目 B 2（フランス語表現演習）		3～4
			指定科目 C	指定科目 C（講義）	20	2～4
	指定科目 C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）	4				
	自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1～4	
全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】 言語自由科目						
文学部他学科・他専修科目						
他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			0～12			
		大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）	0～8			
合計	124以上					

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。



文学科（フランス文学専修）2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
全学 共通 カリ キュ ラム	必修 科目	言語教育科目 言語A	6	1	
		言語教育科目 言語B	4	1	
	選択 科目	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1~4	
		総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1~4	
	20	総合教育科目全体 【総合A（1, 2, 3）】6単位を超えて修得した単位 【総合A（4, 5）】4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1~4	
専門 教育 科目	必修 科目	基幹科目A（人文学とキャリア形成）	2	2	
		指定 科目 A	入門演習	4	1
			フランス語入門	8	1
			フランス語基礎演習	10	2
	選択 科目	44	基幹科目B, C, D	10	1~4
		指定 科目 B	指定科目B1（演習）	8	3~4
			指定科目B2（フランス文学・文化演習）	6	2秋~4
				指定科目B2（フランス語表現演習）	6
		指定 科目 C	指定科目C（講義）	20	2~4
	指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）		4		
	自由 科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1~4
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】言語自由科目		
文学部他学科・他専修科目					
他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			0~12		
		大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）	0~8		
合 計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、（\*）は履修登録後に開講学部の教授会で、また（\*\*）は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

## 文学科 フランス文学専修 専修課程

2010年～2015年度 1 年次入学者に適用

※担当者，開講学期，履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>必修科目（指定科目A）</b>				
自動登録	入門演習D1a	2	1	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 D1b	2	1	
自動登録	〃 D1c	2	1	
自動登録	〃 D2a	2	1	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 D2b	2	1	
自動登録	〃 D2c	2	1	
自動登録	フランス語入門1a	2	1	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 1b	2	1	
自動登録	〃 1c	2	1	
自動登録	〃 2a	2	1	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 2b	2	1	
自動登録	〃 2c	2	1	
自動登録	〃 3a	2	1	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 3b	2	1	
自動登録	〃 3c	2	1	
自動登録	〃 4a	2	1	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 4b	2	1	
自動登録	〃 4c	2	1	
自動登録	フランス語基礎演習1a	2	2	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 1b	2	2	
自動登録	〃 1c	2	2	
自動登録	〃 2a	2	2	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 2b	2	2	
自動登録	〃 2c	2	2	
自動登録	〃 3a	2	2	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 3b	2	2	
自動登録	〃 3c	2	2	
自動登録	〃 4a	2	2	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 4b	2	2	
自動登録	〃 4c	2	2	
自動登録	〃 5a	2	2	1 科目 必修  クラス 指定
自動登録	〃 5b	2	2	
自動登録	〃 5c	2	2	
<b>選択科目（指定科目B1）</b>				
その他	演習D1	2	3・4	
その他	〃 D2	2	3・4	
その他	〃 D3	2	3・4	
その他	〃 D4	2	3・4	
その他	〃 D5	2	3・4	
その他	〃 D6	2	3・4	
その他	〃 D7	2	3・4	
その他	〃 D8	2	3・4	
その他	〃 D9	2	3・4	
その他	〃 D10	2	3・4	
その他	〃 D11	2	3・4	
その他	〃 D12	2	3・4	

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>選択科目（指定科目B2）</b>				
AS201	フランス語表現演習1 (資格のためのフランス語1)	2	3・4	
AS202	〃 <sup>2</sup> (資格のためのフランス語2)	2	3・4	
AS203	〃 <sup>3</sup> (コミュニケーション1)	2	3・4	
AS204	〃 <sup>4</sup> (コミュニケーション2)	2	3・4	
AS225	〃 <sup>5</sup> (コミュニケーション3)	2	3・4	
AS226	〃 <sup>6</sup> (コミュニケーション4)	2	3・4	
AS227	〃 <sup>7</sup> (ライティング1)	2	3・4	
AS208	〃 <sup>8</sup> (ライティング2)	2	3・4	
AS229	〃 <sup>9</sup> (パフォーマンス1)	2	3・4	
AS230	〃 <sup>10</sup> (パフォーマンス2)	2	3・4	
AS209	フランス文学・文化演習1 (フィクション1)	2	3・4	
AS210	〃 <sup>2</sup> (フィクション2)	2	2・3・4	
AS211	〃 <sup>3</sup> (エッセー1)	2	3・4	
AS212	〃 <sup>4</sup> (エッセー2)	2	2・3・4	
AS213	〃 <sup>5</sup> (時事フランス語1)	2	3・4	
AS214	〃 <sup>6</sup> (時事フランス語2)	2	2・3・4	
AS215	〃 <sup>7</sup> (映像文化1)	2	3・4	
AS216	〃 <sup>8</sup> (映像文化2)	2	2・3・4	
<b>選択科目（指定科目C）</b>				
AS301	文学講義201 (仏中世・ルネサンス文学)	2	2・3・4	隔年開講
AS302	〃 <sup>202</sup> (仏中世・ルネサンス思想)	2	2・3・4	
AS303	〃 <sup>203</sup> (仏古典主義文学)	2	2・3・4	隔年開講
AS304	〃 <sup>204</sup> (仏近代社会)	2	2・3・4	
AS305	〃 <sup>205</sup> (仏近・現代小説1)	2	2・3・4	隔年開講
AS306	〃 <sup>206</sup> (仏近・現代小説2)	2	2・3・4	
AS307	〃 <sup>207</sup> (フランス語圏文学)	2	2・3・4	
AS308	〃 <sup>208</sup> (フランス哲学)	2	2・3・4	隔年開講
AS309	〃 <sup>209</sup> (フランス思想)	2	2・3・4	
AS310	〃 <sup>210</sup> (表象文化論)	2	2・3・4	開講 隔年
AS311	〃 <sup>211</sup> (フランス美術)	2	2・3・4	

## 2010~2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
AS312	文学講義212 (日仏比較)	2	2・3・4		隔年開講
AS313	〃 213 (ヨーロッパとフランス)	2	2・3・4		
AS314	〃 214 (仏詩・戯曲)	2	2・3・4		
AS315	〃 215 (フランス文化史)	2	2・3・4		開年
AS316	〃 216 (仏現代社会)	2	2・3・4		
AS317	〃 217 (フランス語学概説1)	2	2・3・4		
AS318	〃 218 (フランス語学概説2)	2	2・3・4		
	上記以外の文学部指定科目C				
AS781	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10	4		
AS782	〃	10	4		
AS783	〃	10	4		
AS784	〃	10	4		
AS785	〃	10	4		
<b>自由科目</b>					
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目(自由科目)	} 超過履修分			
	文学部基幹科目				
	指定科目B1, B2, C				
	文学部他学科・他専修科目	} 12単位以内			
	他学部科目				
	5大学間単位互換制度による科目				



# 文学科（日本文学専修）履修規定

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

## 専門教育科目の特色

1年次は入門演習・研究法を学ぶほかに、概説・文学史など基礎的な知識や調査・研究法を学び、2年次からはそれらに加えて専門的な講義・演習を履修し、特に3・4年次には卒業論文の執筆へと導く論文演習が設定されている。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通カリキュラム			
<b>必修科目(基幹科目A)</b> ●人文学とキャリア形成 (旧：職業と人文学)			
<b>選択科目(基幹科目B)</b> ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
<b>選択科目(基幹科目C)</b> ●合同講義●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論●英米文学概論 ●ドイツ語圏文化概論●フランス文学・文化概論●文芸・思想概論など			
<b>選択科目(基幹科目D)</b> ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
<b>必修科目(指定科目A)</b> ●入門演習●日本文学研究法			
<b>選択科目(指定科目B1)</b> ●演習			
<b>選択科目(指定科目B2)</b> ●日本文学講読, 漢文学講読●研究小論文(1年次秋学期～2年次秋学期) ●卒業論文(制作) 予備研究(3年次春学期・秋学期)			
<b>選択科目(指定科目C)</b> ●文学講義(日本文学史・古代, 日本文学史・中世, 日本文学史・和歌・俳諧, 日本文学史・近世, 日本文学史・近現代, 日本語史, 古代日本文学, 中世日本文学, 和歌・俳諧, 近世日本文学, 近現代日本文学, 日本語学) など			
*文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。			
<b>●卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習</b>			
自由科目			

## 1 日本文学専修における4年間の学習の進め方について

専修での学習は卒業論文（制作）の提出を目指し、演習科目を中心に進められる。

### 1年次の履修について

1年次には、「入門演習」「日本文学研究法」（ともに必修・自動登録）で、学び方、調べ方などの基礎的な技術的知識を学ぶ。また、基幹科目の「日本文学概論」、「漢文学概論」、「日本語学概論1・2」は、1・2年次に履修することを勧める。

### 研究小論文の履修について

1年次秋学期より2年次秋学期まで各学期に「研究小論文」を執筆する機会があたえられているので、各自の問題意識に従って積極的に取り組んでほしい。学期ごとに窓口となる教員が設定されており、各自のテーマに沿った教員のアドバイスを受けることができる。

### 2年次以降の履修について

2年次以降は、「演習」「講読」「講義」を中心に学んでいく。専門内容を深めるために、同一年度には同じ教員の「演習E」を春学期・秋学期継続して履修することを勧める。講読、講義科目を含め、古典・近代文学、日本語学、漢文学など幅広く履修することが望ましい。

「国語」の教職をとる者は教職課程の履修要項を参照すること。

### 卒業論文について

4年次において卒業論文を作成するつもりで各年度の履修計画をたてることが望ましい。3年次の「卒業論文（制作）予備研究1・2」はそのテーマを決める準備を行う科目として設定されている。

ただし、3年次に上記科目を履修しない学生にも卒業論文（制作）作成への道は開かれている。



## 2 履修上の注意 (Ⅲ-2 履修規定) も合わせて確認のこと)

## 1. 基幹科目の履修について

## 「書道1・2」の履修登録

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

基幹科目は、卒業までに必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」(旧:職業と人文学)2年次履修)のほか、10単位修得すること。

## ① 基幹科目B「書道1・2」について

「書道1・2」は「国語」の教育職員免許状取得のために設置された教科に関する専門科目である。従って、教職課程登録者以外は履修を認めない。

夏季休業期間中に集中して行いが、4月の指定日に希望を受け付け、履修クラスの指定を行う。希望者が多い場合は学年が上である者を優先するため履修できない場合もある。指定されたクラスの変更は認めない。重複履修はできない。

## ② 上記以外の科目の履修

配当年次その他の規定に従い、各自の履修計画に沿って必要な単位を修得すること。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 「V 履修登録 3 履修届出方法 2. 「その他」登録」参照

## 2. 日本文学専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、専修課程の記載に従って履修すること。

## (1) 指定科目A(必修)

「入門演習E1・E2」はクラスを指定して、「日本文学研究法」は全員が1年次に自動登録される。「入門演習E1・E2」は再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。

## (2) 指定科目B1

2年次以降1学期に1科目ずつ履修する。単位修得後、同一科目を重複履修できる。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。4年次生に限り、各学期3科目まで履修を認める。

## (3) 指定科目B2

「日本文学講読」「漢文学講読」は各学期に希望する科目を履修登録すること。

「研究小論文」「卒業論文(制作)予備研究」の履修を考えている者は、4月のガイダンスに必ず出席すること。各履修希望届(用紙は4月のガイダンス時に配布する)に所定事項を記入し、指導を希望する教員に申し出て、承認を得た上で計画書を、春学期:4月2日(火)9:00~4月16日(火)17:30/秋学期:9月12日(木)9:00~9月26日(木)17:30に池袋キャンパス教務事務センター窓口へ提出すること。「卒業論文(制作)予備研究」については7月にもガイダンスを行うので、秋学期からの履修を希望する者は必ず出席すること。7月のガイダンスの日時・教室は追って掲示する。

履修登録は各学期に大学が行なう。個別指導や論文の提出に関する詳細は、指導教員の指示に従うこと。

## (4) 指定科目C

指定科目Cは「文学講義301~346」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について 5 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

文学科（日本文学専修）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
全学共通カリキュラム	必修科目	言語教育科目 言語A	6	1	
		言語教育科目 言語B	4	1	
	選択科目	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6	1～4	
		総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）	14	1～4	
総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B					
総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ					
区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
専門教育科目	必修科目	基幹科目A（人文学とキャリア形成）	2	2	
		指定科目A	入門演習	4	1
			日本文学研究法	2	1
	選択科目	指定科目B	基幹科目B, C, D	10	1～4
			指定科目B1（演習）	12	2～4
			指定科目B2（講読）	8	
			指定科目B2（研究小論文）		1～2
		指定科目B2（卒業論文（制作）予備研究）	3		
		指定科目C	指定科目C（講義）	30	2～4
	指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）		4		
	自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1～4
全学共通カリキュラム 【総合教育科目】選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】言語自由科目					
文学部他学科・他専修科目					
他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			0～12		
大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）	0～8				
合計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、（\*）は履修登録後に開講学部の教授会で、また（\*\*）は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

文学部（日本文学専修）2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
	必修科目	選択科目			
全学共通カリキュラム	10	言語教育科目 言語 A	6	1	
		言語教育科目 言語 B	4	1	
	20	総合教育科目 総合 A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1～4	
		総合教育科目 総合 A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1～4	
	総合教育科目全体 【総合 A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合 A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合 B 領域別 A (講義系) 領域別 B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1～4		
専門教育科目	8	基幹科目 A (人文学とキャリア形成)		2	2
		指定科目 A	入門演習	4	1
			日本文学研究法	2	1
	60	基幹科目 B, C, D		10	1～4
		指定科目 B	指定科目 B 1 (演習)	12	2～4
			指定科目 B 2 (講読)	8	
			指定科目 B 2 (研究小論文)		8
			指定科目 B 2 (卒業論文 (制作) 予備研究)		3
		指定科目 C	指定科目 C (講義)	30	2～4
	指定科目 C (卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習)		4		
	26以上	専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)		6以上	1～4
		全学共通カリキュラム 【総合教育科目】卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】言語自由科目			
		文学部他学科・他専修科目			
他学部科目 (*), 5 大学間単位互換制度科目 (最大12単位)		0～12			
大学院開講科目 (4 年次生のみ) (最大 8 単位) (**)		0～8			
合計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別 A」「領域別 B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

## 文学科 日本文学専修 専修課程

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者，開講学期，履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備 考
<b>必修科目 (指定科目A)</b>				
自動登録	入門演習E1a	2	1	
自動登録	〃 E1b	2	1	
自動登録	〃 E1c	2	1	
自動登録	〃 E1d	2	1	
自動登録	〃 E1e	2	1	
自動登録	〃 E2a	2	1	
自動登録	〃 E2b	2	1	
自動登録	〃 E2c	2	1	
自動登録	〃 E2d	2	1	
自動登録	〃 E2e	2	1	
自動登録	日本文学研究法	2	1	
<b>選択科目 (指定科目B1)</b>				
AT101	演習E1	2	2・3・4	
AT102	〃 E2	2	2・3・4	
AT103	〃 E3	2	2・3・4	
AT104	〃 E4	2	2・3・4	
AT105	〃 E5	2	2・3・4	
AT106	〃 E6	2	2・3・4	
AT107	〃 E7	2	2・3・4	
AT108	〃 E8	2	2・3・4	
AT109	〃 E9	2	2・3・4	
AT110	〃 E10	2	2・3・4	
AT111	〃 E11	2	2・3・4	
AT112	〃 E12	2	2・3・4	
AT113	〃 E13	2	2・3・4	
AT114	〃 E14	2	2・3・4	
AT115	〃 E15	2	2・3・4	
AT116	〃 E16	2	2・3・4	
AT117	〃 E17	2	2・3・4	
AT118	〃 E18	2	2・3・4	
AT119	〃 E19	2	2・3・4	
AT120	〃 E20	2	2・3・4	
AT121	〃 E21	2	2・3・4	
AT122	〃 E22	2	2・3・4	
AT123	〃 E23	2	2・3・4	
AT124	〃 E24	2	2・3・4	
AT125	〃 E25	2	2・3・4	
AT126	〃 E26	2	2・3・4	
AT127	〃 E27	2	2・3・4	
AT128	〃 E28	2	2・3・4	
AT129	〃 E29	2	2・3・4	
AT130	〃 E30	2	2・3・4	
AT131	〃 E31	2	2・3・4	
AT132	〃 E32	2	2・3・4	
AT133	〃 E33	2	2・3・4	
AT134	〃 E34	2	2・3・4	
AT135	〃 E35	2	2・3・4	
AT136	〃 E36	2	2・3・4	

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>選択科目（指定科目B2）</b>				
AT201	日本文学講読1 (古代)	2	2・3・4	
AT202	〃 2 (古代)	2	2・3・4	
AT203	〃 3 (中世)	2	2・3・4	
AT204	〃 4 (中世)	2	2・3・4	
AT205	〃 5 (近世)	2	2・3・4	
AT206	〃 6 (近世)	2	2・3・4	
AT207	〃 7 (和歌・俳諧)	2	2・3・4	
AT208	〃 8 (和歌・俳諧)	2	2・3・4	
AT209	漢文学講読1 (漢文)	2	2・3・4	
AT210	〃 2 (漢文)	2	2・3・4	
AT211	〃 3 (漢文)	2	2・3・4	
AT212	〃 4 (漢文)	2	2・3・4	
その他	研究小論文1b	2	1	
その他	研究小論文2a	2	2	
その他	研究小論文2b	2	2	
その他	卒業論文（制作）予備研究1	2	3・4	
その他	卒業論文（制作）予備研究2	2	3・4	
<b>選択科目（指定科目C）</b>				
AT301	文学講義301 (日本文学史・古代1)	2	2・3・4	
AT302	〃 302 (日本文学史・古代2)	2	2・3・4	
AT303	〃 303 (日本文学史・古代3)	2	2・3・4	
AT304	〃 304 (日本文学史・古代4)	2	2・3・4	
AT305	〃 305 (日本文学史・中世1)	2	2・3・4	
AT306	〃 306 (日本文学史・中世2)	2	2・3・4	
AT307	〃 307 (日本文学史・和歌・俳諧1)	2	2・3・4	隔年開講
AT308	〃 308 (日本文学史・和歌・俳諧2)	2	2・3・4	
AT309	〃 309 (日本文学史・和歌・俳諧3)	2	2・3・4	隔年開講
AT310	〃 310 (日本文学史・和歌・俳諧4)	2	2・3・4	
AT311	〃 311 (日本文学史・近世1)	2	2・3・4	
AT312	〃 312 (日本文学史・近世2)	2	2・3・4	
AT313	〃 313 (日本文学史・近現代1)	2	2・3・4	
AT314	〃 314 (日本文学史・近現代2)	2	2・3・4	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
AT315	文学講義315 (日本語史1)	2	2・3・4		隔年開講
AT316	〃 316 (日本語史2)	2	2・3・4		
AT317	〃 317 (古代日本文学1)	2	2・3・4		隔年開講
AT318	〃 318 (古代日本文学2)	2	2・3・4		
AT319	〃 319 (古代日本文学3)	2	2・3・4		隔年開講
AT320	〃 320 (古代日本文学4)	2	2・3・4		
AT321	〃 321 (中世日本文学1)	2	2・3・4		隔年開講
AT322	〃 322 (中世日本文学2)	2	2・3・4		
AT323	〃 323 (中世日本文学3)	2	2・3・4		
AT324	〃 324 (中世日本文学4)	2	2・3・4		
AT325	〃 325 (和歌・俳諧1)	2	2・3・4		隔年開講
AT326	〃 326 (和歌・俳諧2)	2	2・3・4		
AT327	〃 327 (和歌・俳諧3)	2	2・3・4		隔年開講
AT328	〃 328 (和歌・俳諧4)	2	2・3・4		
AT329	〃 329 (近世日本文学1)	2	2・3・4		
AT330	〃 330 (近世日本文学2)	2	2・3・4		
AT331	〃 331 (近現代日本文学1)	2	2・3・4		
AT332	〃 332 (近現代日本文学2)	2	2・3・4		
AT333	〃 333 (近現代日本文学3)	2	2・3・4		隔年開講
AT334	〃 334 (近現代日本文学4)	2	2・3・4		
AT335	〃 335 (近現代日本文学5)	2	2・3・4		
AT336	〃 336 (近現代日本文学6)	2	2・3・4		
AT337	〃 337 (日本語学1)	2	2・3・4		
AT338	〃 338 (日本語学2)	2	2・3・4		
AT339	〃 339 (日本語学3)	2	2・3・4		
AT340	〃 340 (日本語学4)	2	2・3・4		
AT341	〃 341 (日本語学5)	2	2・3・4		隔年開講
AT342	〃 342 (日本語学6)	2	2・3・4		
AT343	〃 343 (書誌学1)	2	2・3・4		隔年開講
AT344	〃 344 (書誌学2)	2	2・3・4		

## 2010~2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
AT345	文学講義345 (文献解読1)	2	2・3・4		隔年開講
AT346	〃 346 (文献解読2)	2	2・3・4		
上記以外の文学部指定科目C					
AT781	卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習	10	4		
AT782	〃	10	4		
AT783	〃	10	4		
AT784	〃	10	4		
AT785	〃	10	4		
AT786	〃	10	4		
AT787	〃	10	4		
AT788	〃	10	4		
<b>自由科目</b>					
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目(自由科目)	} 超過履修分			
	文学部基幹科目				
	指定科目B1, B2, C				
	文学部他学科・他専修科目	} 12単位以内			
	他学部科目				
	5大学間単位互換制度による科目				





# 文学科（文芸・思想専修）履修規定

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

## 専門教育科目の特色

本専修では、学生各自が思索力ある表現者として成長することを目標とする。そのために、さまざまなジャンルの読書機会を提供することから始める。その後、分析力を深めたり表現力を磨いたりするための各種演習、文学部の多彩な講義科目により、深さと広さを兼ね備えた専門性を鍛える。卒業論文（制作）への取り組みが強く推奨される。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通カリキュラム			
<b>必修科目(基幹科目A)</b> ●「人文学とキャリア形成」 (旧：職業と人文学)			
<b>選択科目(基幹科目B)</b> ●海外フィールドスタディ●インターンシップなど			
<b>選択科目(基幹科目C)</b> ●合同講義●文芸・思想概論●英米文学概論●ドイツ語圏文化概論 ●フランス文学・文化概論●日本語学概論●漢文学概論●日本文学概論など			
<b>選択科目(基幹科目D)</b> ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
<b>必修科目(指定科目A)</b> ●入門演習 ●卒業論文(制作) 予備演習			
<b>選択科目(指定科目B1)</b> ●演習			
<b>選択科目(指定科目B2)</b> ●文芸・思想文献講読			
<b>選択科目(指定科目C)</b> ●文学講義(文明批評論, 文芸評論, 文化翻訳論, マンガ/アニメ表現論, 小説創作論, 詩創作論, ジェンダー論, 広告文芸論, 文芸編集論, 演劇, 現代歌謡論, 世界文学論) ●哲学講義(西洋哲学, 東洋哲学, 芸術論, 現代思想の諸問題, 死生論) ●哲学概論●現代倫理など			
*文学部指定科目Cは、原則として全ての科目を選択履修できます。			
<b>卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習</b>			
自由科目			

## 1 文芸・思想専修における4年間の学習の進め方についての案内

専修での学習生活は卒業論文（制作）の提出を目指し、演習科目を中心に進められる。

### ★1年次

「入門演習F1」「入門演習F2」（指定科目A・クラス指定必修科目）を春・秋学期履修する。この科目は文芸・思想専修学習の基礎形成を目的とした訓練を行う。多くの作品を読み、考え、書くことが、真に自分らしい文芸・思想の表現につながることを学習する。入門演習クラスの担当教員はその学期のアカデミックアドバイザーとなる。

全カリ言語教育科目と総合教育科目、文学部基幹科目を履修する。

### ★2年次

「演習F1～12」（指定科目B1）を履修する。この科目は文芸・思想の表現内容をより豊かにするため厳選された基礎的な文献をじっくりと分析するかたちでの本格的な「読む」訓練を行う。

「文芸・思想文献講読」（指定科目B2）の履修が可能になる。この科目は中国語・スペイン語等の外国語で書かれた文献を読みながら、文芸・思想への多角的な理解力を養う。3年次、4年次でも履修できる。

全カリ言語教育科目と総合教育科目、文学部基幹科目に加えて文学部指定科目Cの講義科目の履修が始まる。「文学講義401～419」,「哲学講義1～7」等を広く履修してほしい。

### ★3年次

「演習F17～32」（指定科目B1）の履修が始まる。この科目は卒業までの学習の基軸となる専門性を磨くための訓練を行う文芸・思想専修の中核をなすものである。各自が表現することを目指す内容とその手法を本格的に学ぶ。4年次にも引き続き履修することができる。

「卒業論文(制作)予備演習」（指定科目A・クラス指定必修科目）を秋学期に履修する。この科目は4年次の卒業論文(制作)を準備するための指導を行う。卒業論文あるいは卒業制作補助論文に必要な論理的な説明文の訓練を行いながら、卒業論文(制作)のイメージを、ある程度まで明確に形成することを目指す。

文芸・思想専修を初めとする文学部専門科目の履修が本格化する。

### ★4年次

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」（指定科目C）を履修する。この科目は卒業論文(制作)作成を支援する指導を行う。「卒業論文(制作)予備演習」でのイメージ形成を引き継ぎ、本格的に完成形態としての表現に至る彫琢を行う。文芸・思想専修における学習の総仕上げの作業である。

## 2 履修上の注意 (Ⅲ-2 履修規定) も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

## 1. 基幹科目の履修について

基幹科目は必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」(旧:職業と人文学)2年次生履修)のほか、10単位修得すること。

## ① 基幹科目B「書道1・2」について

「書道1・2」は「国語」の教育職員免許状取得のために設置された教科に関する専門科目である。従って、教職課程登録者以外は履修を認めない。

## 「書道1・2」の履修登録

夏季休業期間中に集中して行うが、4月の指定期日に希望を受け付け、履修クラスの指定を行う。希望者が多い場合は学年が上である者を優先するため履修できない場合もある。指定されたクラスの変更は認めない。重複履修できない。

## ② 上記以外の科目の履修

配当年次その他の規定に従い、各自の履修計画に沿って必要な単位を修得すること。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

㊦ 「V 履修登録 3 履修届出方法 2. 「その他」登録」参照

## 2. 文芸・思想専修の科目の履修について

特に指示のない科目については、専修課程の記載事項に従って履修すること。

## (1) 指定科目A

「入門演習F1・F2」はクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。

「卒業論文(制作)予備演習」はクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。

## (2) 指定科目B1

2年次より4年次までに8単位修得すること。

2年次配当の科目(「演習F1～F12」)と3・4年次配当の科目(「演習F17～F32」)がある。それぞれ最低2単位を修得すること。2年次春学期より配当年次に従って1学期に1科目ずつ履修すること(ただし、3年次以上については2年次演習の未修得者に限り、2年次演習と3・4年次演習の1学期2科目の同時履修を認める)。単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

2年次配当科目、3・4年次配当科目ともそれぞれ前学期に希望を受け付け、専修より履修科目を指定される(「その他」登録)。

## (3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。指定科目Cと合わせて卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## (4) 指定科目C

指定科目Cは、「文学講義401～419」,「哲学講義1～7」,「哲学概論1・2」,「現代倫理」のほか、文学部他学科・他専修の指定科目Cも各自の履修計画にしたがって履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。指定科目B2と合わせて卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

㊦ 文学部専門教育課程について 5 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習

「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」は、論文提出の前年度1月に予備論文と履修希望届を提出し、それにもとづいて履修登録される（「その他」登録）。派遣留学生でこの科目の履修を希望する者については、その都度指示するので申し出ること。

文芸・思想専修以外で卒業論文（制作）を希望する者は、そのための所定の申請を行う以外に、文芸・思想専修でも上記の手続きにより卒業論文（制作）の履修を申請してよい。その場合、所属学科・専修以外での卒業論文（制作）の履修が認められなくても、文芸・思想専修での履修登録が有効となる。ただし、両方を履修することはできない。

卒業論文（制作）履修に関する詳細は3年次のガイダンス時に指示する。

☞ 「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文（制作）各種規定」参照

文学科（文芸・思想専修）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次		
	区分名	卒業要件 単位数計				
全学共通カリキュラム	必修科目	10	言語教育科目 言語 A	6	1	
			言語教育科目 言語 B	4	1	
	選択科目	20	総合教育科目 立教科目群 立教 A（講義系） 立教 B（立教ゼミナール）	6	1～4	
			総合教育科目 領域別科目群 領域別 A（講義系） 領域別 B（文献系）			
		総合教育科目 主題別科目群 主題別 A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別 B	14	1～4		
		総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ				
専門教育科目	必修科目	8	基幹科目 A（人文学とキャリア形成）	2	2	
			指定科目 A	入門演習	4	1
				卒業論文（制作）予備演習	2	3
	選択科目	60	基幹科目 B, C, D	10	1～4	
			指定科目 B	指定科目 B 1（演習）	8	2～4
				指定科目 B 2（文芸・思想文献講読）	42	2～4
			指定科目 C	指定科目 C（講義）		1～4
				指定科目 C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）		4
	自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1～4	
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】言語自由科目			
			文学部他学科・他専修科目			
他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			0～12			
大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）			0～8			
合計	124以上					

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

文学科（文芸・思想専修）2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

	区分名		卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数	履修年次	
	全学 共通 カリ キュ ラム	必修 科目	10	言語教育科目 言語A	6	1
言語教育科目 言語B				4	1	
選択 科目		20	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1~4	
			総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1~4	
	総合教育科目全体 【総合A（1, 2, 3）】6単位を超えて修得した単位 【総合A（4, 5）】4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習		10	1~4		
専門 教育 科目	必修 科目	8	基幹科目A（人文学とキャリア形成）	2	2	
			指定科目A	入門演習	4	1
				卒業論文（制作）予備演習	2	3
	選択 科目	60	基幹科目B, C, D	10	1~4	
			指定科目B	指定科目B1（演習）	8	2~4
				指定科目B2（文芸・思想文献講読）	42	2~4
			指定科目C	指定科目C（講義）	42	1~4
				指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）	4	4
	自由 科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1~4	
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】言語自由科目			
文学部他学科・他専修科目						
他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			0~12			
大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）			0~8			
合 計	124以上					

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。



## 文学科 文芸・思想専修 専修課程

2010年～2015年度 1 年次入学者に適用

※担当者，開講学期，履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>必修科目（指定科目A）</b>				
自動登録	入門演習F1a	2	1	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 F1b	2	1	
自動登録	〃 F1c	2	1	
自動登録	〃 F1d	2	1	
自動登録	〃 F2a	2	1	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃 F2b	2	1	
自動登録	〃 F2c	2	1	
自動登録	〃 F2d	2	1	
自動登録	卒業論文（制作）予備演習	2	3	1 クラス 指定 科目 必修
自動登録	〃	2	3	
自動登録	〃	2	3	
自動登録	〃	2	3	
自動登録	〃	2	3	
自動登録	〃	2	3	
自動登録	〃	2	3	
自動登録	〃	2	3	
<b>選択科目（指定科目B1）</b>				
その他	演習F1	2	2	
その他	〃 F2	2	2	
その他	〃 F3	2	2	
その他	〃 F4	2	2	
その他	〃 F5	2	2	
その他	〃 F6	2	2	
その他	〃 F7	2	2	
その他	〃 F8	2	2	
その他	〃 F9	2	2	
その他	〃 F10	2	2	
その他	〃 F11	2	2	
その他	〃 F12	2	2	
その他	〃 F17	2	3・4	
その他	〃 F18	2	3・4	
その他	〃 F19	2	3・4	
その他	〃 F20	2	3・4	
その他	〃 F21	2	3・4	
その他	〃 F22	2	3・4	
その他	〃 F23	2	3・4	
その他	〃 F24	2	3・4	
その他	〃 F25	2	3・4	
その他	〃 F26	2	3・4	
その他	〃 F27	2	3・4	
その他	〃 F28	2	3・4	
その他	〃 F29	2	3・4	
その他	〃 F30	2	3・4	
その他	〃 F31	2	3・4	
その他	〃 F32	2	3・4	

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
<b>選択科目（指定科目B2）</b>					
AU221	文芸・思想文献講読1	2	2・3・4		開 隔 講 年
AU222	〃 2	2	2・3・4		
AU223	〃 3	2	2・3・4		開 隔 講 年
AU224	〃 4	2	2・3・4		
<b>選択科目（指定科目C）</b>					
AU301	文学講義401 (文明批評論1)	2	2・3・4		
AU302	〃 402 (文明批評論2)	2	2・3・4		
AU303	〃 403 (文芸評論1)	2	2・3・4		
AU304	〃 404 (文芸評論2)	2	2・3・4		
AU305	〃 405 (文化翻訳論1)	2	2・3・4		
AU306	〃 406 (文化翻訳論2)	2	2・3・4		
抽選登録	〃 407 (マンガ／アニメ表現論1)	2	2・3・4	定員200名 2018年度より「抽選登録」に変更	
抽選登録	〃 408 (マンガ／アニメ表現論2)	2	2・3・4	定員150名 2018年度より「抽選登録」に変更	
AU309	〃 409 (小説創作論1)	2	2・3・4		
AU310	〃 410 (小説創作論2)	2	2・3・4		
AU311	〃 411 (詩創作論1)	2	2・3・4		
AU312	〃 412 (詩創作論2)	2	2・3・4		
AU313	〃 413 (ジェンダー論)	2	2・3・4		
AU314	〃 414 (広告文芸論)	2	2・3・4		隔 年 開 講
AU315	〃 415 (文芸編集論)	2	2・3・4		
AU316	〃 416 (演劇)	2	2・3・4		隔 年 開 講
抽選登録	〃 417 (現代歌謡論)	2	2・3・4	定員150名 2017年度より「抽選登録」に変更	
AU368	〃 418 (世界文学論1)	2	2・3・4		
AU369	〃 419 (世界文学論2)	2	2・3・4		
AU318	哲学講義1 (西洋哲学)	2	2・3・4		
AU319	〃 2 (東洋哲学)	2	2・3・4		
AU320	〃 3 (芸術論1)	2	2・3・4		隔 年 開 講
AU321	〃 4 (芸術論2)	2	2・3・4		
AU322	〃 5 (現代思想の諸問題1)	2	2・3・4		
AU323	〃 6 (現代思想の諸問題2)	2	2・3・4		
AU324	〃 7 (死生論)	2	2・3・4		

2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
AU325	哲学概論1	2	1・2・3・4	
AU326	〃 2	2	1・2・3・4	
AU327	現代倫理	2	2・3・4	
	上記以外の文学部指定科目C			
その他	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
<b>自由科目</b>				
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目（自由科目）			} 超過履修分
	文学部基幹科目			
	指定科目B1, B2, C			
	文学部他学科・他専修科目			
	他学部科目			} 12単位以内
	5大学間単位互換制度による科目			

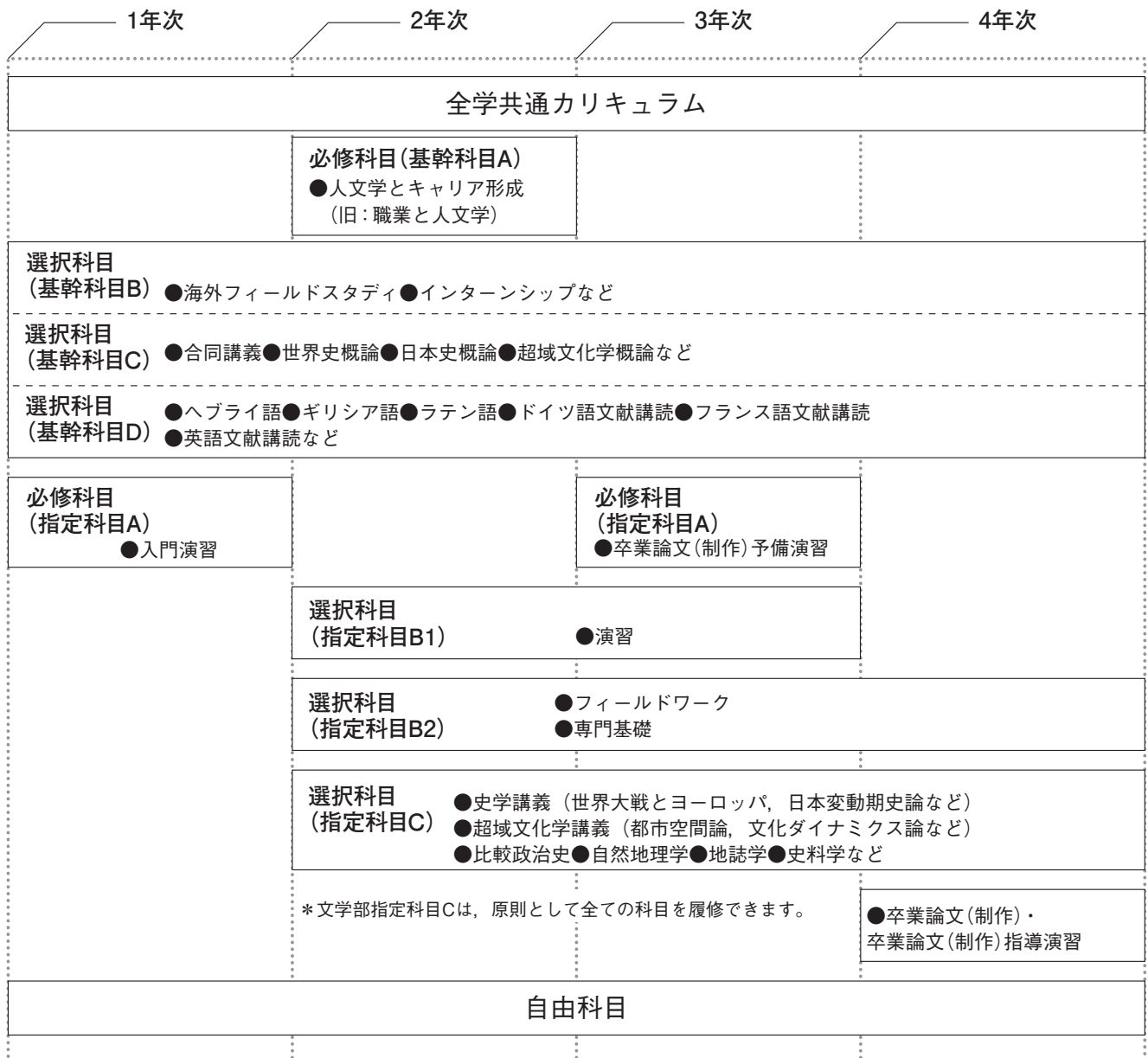


**史学科** { (世界史学専修)  
(日本史学専修) 履修規定  
(超域文化学専修)

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

**専門教育科目の特色**

史学科は、私たち自身の歴史的・文化的背景を理解することによって、現代社会やその中にある自らの位置づけをより良く認識することに努める。本学科は、世界史学専修・日本史学専修・超域文化学専修の3つの専修よりなる。専門研究は、1年次の入門演習から始まる。この基礎演習では、3専修の学問的基礎を学ぶ。2年次から、演習を履修して専修に所属し、教員の指導のもとで、各自の関心にしたがって研究計画を立てる。それにのっとり、史学講義や超域文化学講義、フィールドワークさらには専門基礎などの専門科目群を履修する。



## 1 史学科における4年間の学習の進め方について

専修での学習生活は卒業論文（制作）の提出を目指し、演習科目を中心に進められる。

### 1年次の履修について

1年次には、「入門演習」（必修・自動登録）で、学問上のルールや基礎的な技術的知識を学ぶ。また、基幹科目の「世界史概論」、「日本史概論」、「超域文化学概論」は、1年次で履修することを勧める。

### 2年次以降の履修について

2年次以降は、「演習」が教育の中心となる。専門内容を深めるために、同一教員の「演習」を継続して履修することを原則とする。これに加えて、「史学講義」、「超域文化学講義」、さらに文学部各学科・専修が提供する専門科目を、各人の興味と実力に応じて履修することができる。学科では別紙のような履修計画例を設定している。教員とも相談しつつ、アレンジしてほしい。

### 専修の選択について

2年次に進級する際に、「演習」科目を登録することで3専修（世界史学専修、日本史学専修、超域文化学専修）に分かれる。各専修の選択は、原則として学生個人の希望による。2年次「演習」科目は、1年次「入門演習」秋学期の後半時に、学生個人の関心について各担当教員が確認し、登録する。

### 卒業論文（制作）について

学科では卒業論文（制作）の作成を強く勧める。3年次の「卒業論文（制作）予備演習」は必修科目であり、卒業論文（制作）を作成するための準備となる科目である。この科目では、卒論を書くための基礎的作業を進めることが要求され、これを通じて、個別の専門研究への関心を深め、卒論作成に結びつけることが期待される。

2010～2015年度1年次入学者に適用

履修計画例

テーマ1：古代の文化と歴史	テーマ2：ヨーロッパ文化の歴史	テーマ3：東アジア世界論
史学講義1・2（地中海世界） 史学講義9・10（前近代東アジア・ユーラシア） 史学講義23（人間と都市） 史学講義27・28（古代日本とアジア） 史学講義54（史料学） 超域文化学講義18（考古学） 専門基礎11・12（古文書）  フィールドワーク	史学講義5・6（近代ヨーロッパ） 史学講義17（世界大戦とヨーロッパ） 史学講義19（近現代における法と社会）	史学講義9・10（前近代東アジア・ユーラシア） 史学講義11（前近代における法と国家） 史学講義13・14（近代東アジア・ユーラシア） 史学講義15・16（アジア海域） 史学講義29・30（律令制国家論） 史学講義35（近世日本史論） 史学講義37（近世日本と世界） 史学講義44（現代日本と世界） 史学講義50（日本の思想・文化） フィールドワーク
文学講義301～304（日本文学史・古代） 文学講義317～320（古代日本文学）	文学講義35・36（イギリス文化） 文学講義113（ドイツの都市文化） 文学講義117（ハプスブルク帝国の文化） 文学講義201（仏中世・ルネサンス文学） 文学講義203（仏古典主義文学） 文学講義213（ヨーロッパとフランス） 文学講義413（ジェンダー論）	文学講義315・316（日本語史）
哲学講義7（死生論）	哲学講義1（西洋哲学）	哲学講義2（東洋哲学）
キリスト教学講義1・2（旧約聖書学） キリスト教学講義21・22（キリスト教と美術）	キリスト教学講義23・24（キリスト教と音楽） キリスト教学講義31・32（キリスト教と映画）	キリスト教学講義17・18（アジアのキリスト教） キリスト教学講義37（日本キリスト教史）
		教育史2

テーマ4：歴史と現代世界	テーマ5：多文化の世界	テーマ6：中世という世界
史学講義18（世界大戦とアジア） 史学講義43（現代日本史論） 比較政治史2 超域文化学講義7・8・9（アメリカ社会史） 超域文化学講義13・14（イスラーム複合社会論） 超域文化学講義19（都市空間論）  フィールドワーク	史学講義19（近現代における法と社会） 史学講義21（社会史の方法） 史学講義22（マイノリティと境界） 史学講義45（伝統社会史論2） 超域文化学講義3・4・5（地域研究論） 超域文化学講義11・12（イスラーム複合社会史） 超域文化学講義15・16（文化環境学） 超域文化学講義20（文化ダイナミクス論） フィールドワーク 専門基礎1・13 （アジア・アフリカ系言語）	史学講義3・4（前近代ヨーロッパ） 史学講義11（前近代における法と国家） 史学講義21（社会史の方法） 史学講義31・32（中世日本史論） 史学講義34（中世国家と民衆） 史学講義45（伝統社会史論2） 史学講義54（史料学）  専門基礎11・12（古文書） フィールドワーク
文学講義33・34（英米事情） 文学講義39・40（英語圏文化） 文学講義107（ドイツのメディア論） 文学講義213（ヨーロッパとフランス） 文学講義331～336（近現代日本文学） 文学講義417（現代歌謡論）	文学講義39・40（英語圏文化） 文学講義207（フランス語圏文学） 文学講義405・406（文化翻訳論）	文学講義19（中世英文学） 文学講義118（ドイツ中世の文学・文化） 文学講義201（仏中世・ルネサンス文学） 文学講義305・306（日本文学史・中世） 文学講義321～324（中世日本文学）
キリスト教学講義9・10（神学思想） キリスト教学講義19・20（アジアの宗教） キリスト教学講義35・36（キリスト教と現代社会）	キリスト教学入門講義1・2（聖書） キリスト教学入門講義3・4（キリスト教史） キリスト教学講義25・26（キリスト教美術史）	キリスト教学入門講義3・4（キリスト教史） キリスト教学講義5・6（キリスト教思想史）
教育社会学2 社会教育・生涯学習論 国際教育論	比較教育学1・2 環境教育論 哲学的人間学	



## 2 履修上の注意 (「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと)

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

## 1. 基幹科目の履修について

基幹科目は必修科目2単位(基幹科目A「人文学とキャリア形成」(旧:職業と人文学)2年次履修)のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

## 2. 史学科の科目の履修について

特に指示のない科目については、各専修課程の記載事項に従って履修すること。

## (1) 指定科目A

「入門演習G1・G2」はクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。再履修者は、自らのクラス指定を授業開始前にWebサイトの履修登録状況画面で確認すること。

「卒業論文(制作)予備演習」については登録している3年次配当演習秋学期が専任教員担当である場合、その教員が担当者に含まれている授業に登録となる(自動登録)。登録している3年次配当演習秋学期が兼任教員担当である場合、登録は、専修の専任教員間で相談し、これを定める(自動登録)。春学期中に掲示するので、掲示板に注意すること。

また、「入門演習G1・G2」未修得者は、「卒業論文(制作)予備演習」を登録できない。

## (2) 指定科目B1

2年次配当演習は、1年次秋学期に「入門演習G2」を通じて各自が「演習カルテ」を提出して申し込んだ科目を履修すること(自動登録)。各年次において履修した科目が不合格となった場合は、翌年度に同一科目を履修する(自動登録)。3年次配当演習は、2年次配当演習と同じ演習分野の科目を履修する(自動登録)。

なお、演習の変更を希望する者は、その旨を教務委員の教員に申し出、その指示に従うこと。学科で審査のうえ、変更を認めることがある。

同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。また、卒業要件単位数を超えて履修することもできない。

## (3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

以下の科目は、1学期に1科目しか履修できない。

{ 「フィールドワークH1 a」	{ 「フィールドワークH2 a」
{ 「フィールドワークH1 b」	{ 「フィールドワークH2 b」

## (4) 指定科目C

指定科目Cは「史学講義1～54」、「超域文化学講義1～24」などのほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について 5 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」については以下のとおりとする。

「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」の履修を希望する者は、「卒業論文(制作)予備演習」の担当教員と相談の上、秋学期末試験のレポート提出期間に「卒業論文登録届」を所定の用紙にて、サポートセンター2(ロイドホール5階)へ提出すること。留学などの理由で提出できない者は指導教員に相談すること。なお、「卒業論文登録届」を提出するためには、原則として、秋学期末試験のレポート提出期間に「卒業論文(制作)予備演習」のレポートを提出していなければならない。詳細については、初回の授業で説明するので、必ず出席すること。

☞ 「Ⅲ-2 履修規定 2 卒業論文(制作)各種規定」参照

(5) 教職関連科目および随意科目について

教育職員免許状取得のための科目である。教職課程登録者のみ履修が認められる。「教職関連科目」として開講されている科目を修得した場合、自由科目の単位として認める。

注)「社会学原論」の単位を修得済の者は、「社会学原論1」および「社会学原論2」を履修することはできない。

「日本史」「世界史」は随意科目であり、修得しても卒業要件単位にならない。

履修相談について

履修相談は、4月2日(火)・3日(水)、7月17日(水)、1月22日(水)に行う。詳細は「Ⅳ 学習計画の立て方・アドバイザー」を参照すること。

史学科（世界史学・日本史学・超域文化学専修共通）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名		卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数	履修年次	
全学 共通 カリ キュ ラム	必修科目	言語教育科目 言語A	6	1	
		言語教育科目 言語B	4	1	
	選択科目	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6	1～4	
		総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）	14	1～4	
専門 教育 科目	必修科目	基幹科目A（人文学とキャリア形成）	2	2	
		指定科目A	入門演習	4	1
			卒業論文（制作）予備演習	2	3
	選択科目	基幹科目B, C, D	10	1～4	
指定科目B		指定科目B1（演習）	8	2～4	
		指定科目B2（専門基礎, フィールドワーク）	2		
指定科目C		指定科目C（講義）	40	1～4	
	指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）	4			
自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1～4	
		全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】 言語自由科目			
		文学部他学科科目, 教職関連科目			
		他学部科目（*）, 5大学間単位互換制度科目（最大12単位）	0～12		
		大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）	0～8		
合 計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

史学科（世界史学・日本史学・超域文化学専修共通）2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
	必修科目	選択科目			
全学共通カリキュラム	10	言語教育科目 言語 A	6	1	
		言語教育科目 言語 B	4	1	
	20	総合教育科目 総合 A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1～4	
		総合教育科目 総合 A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1～4	
	総合教育科目全体 【総合 A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合 A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合 B 領域別 A (講義系) 領域別 B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1～4		
専門教育科目	8	基幹科目 A (人文学とキャリア形成)	2	2	
		指定科目 A	入門演習	4	1
			卒業論文 (制作) 予備演習	2	3
	60	基幹科目 B, C, D	10	1～4	
		指定科目 B	指定科目 B 1 (演習)	8	2～4
			指定科目 B 2 (専門基礎, フィールドワーク)	2	
		指定科目 C	指定科目 C (講義)	40	1～4
			指定科目 C (卒業論文 (制作)・卒業論文 (制作) 指導演習)		4
	26以上	専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)	6以上	1～4	
		全学共通カリキュラム 【総合教育科目】 卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】 言語自由科目			
		文学部他学科科目, 教職関連科目			
		他学部科目 (*), 5大学間単位互換制度科目 (最大12単位)	0～12		
大学院開講科目 (4年次生のみ) (最大8単位) (**)		0～8			
合計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

## 史学科 世界史学専修 専修課程

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備 考	
<b>必修科目 (指定科目A)</b>					
自動登録	入門演習G1a	2	1	} 全専修共通	1 クラス指定 1 科目必修
自動登録	〃 G1b	2	1		
自動登録	〃 G1c	2	1		
自動登録	〃 G2a	2	1	} 全専修共通 クラス指定はG1を継承する	1 クラス指定 1 科目必修
自動登録	〃 G2b	2	1		
自動登録	〃 G2c	2	1		
自動登録	卒業論文 (制作) 予備演習	2	3		1 クラス指定 1 科目必修
自動登録	〃	2	3		
<b>選択科目 (指定科目B1)</b>					
自動登録	演習G1	2	2		
自動登録	〃 G2	2	2		
自動登録	〃 G3	2	2		
自動登録	〃 G4	2	2		
自動登録	〃 G5	2	2		
自動登録	〃 G6	2	2		
自動登録	〃 G7	2	2		
自動登録	〃 G8	2	2		
自動登録	〃 G9	2	2		
自動登録	〃 G10	2	2		
自動登録	〃 G11	2	2		
自動登録	〃 G12	2	2		
自動登録	〃 G13	2	3		
自動登録	〃 G14	2	3		
自動登録	〃 G15	2	3		
自動登録	〃 G16	2	3		
自動登録	〃 G17	2	3		
自動登録	〃 G18	2	3		
自動登録	〃 G19	2	3		
自動登録	〃 G20	2	3		
自動登録	〃 G21	2	3		
自動登録	〃 G22	2	3		
自動登録	〃 G23	2	3		
自動登録	〃 G24	2	3		
<b>選択科目 (指定科目B2)</b>					
AC231	専門基礎1 (アジア・アフリカ系言語1)	2	2・3・4	旧科目名「専門基礎1 (インドネシア語)」	隔年開講
AC232	〃 2 (アジア・アフリカ系言語2)	2	2・3・4	旧科目名「専門基礎2 (中国語)」	
AC233	〃 3 (ヨーロッパ系言語1)	2	2・3・4	旧科目名「専門基礎3 (基礎英語)」	
AC234	〃 4 (イングリッシュ・コンプリヘンション)	2	2・3・4	旧科目名「専門基礎4 (中級英語)」	隔年開講
AC235	〃 5 (アカデミックライティング)	2	2・3・4		
AC236	〃 6 (ヨーロッパ系言語2)	2	2・3・4	旧科目名「専門基礎6 (フランス語)」	
AC237	〃 7 (ヨーロッパ系言語3)	2	2・3・4	旧科目名「専門基礎7 (ロシア語)」	隔年開講
	〃 8 (オランダ語)	2	/	2014年度以降廃止	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>選択科目（指定科目C）</b>				
AC301	史学講義1 (地中海世界1)	2	2・3・4	
AC302	〃 2 (地中海世界2)	2	2・3・4	隔年開講
AC303	〃 3 (前近代ヨーロッパ1)	2	2・3・4	隔年開講
AC304	〃 4 (前近代ヨーロッパ2)	2	2・3・4	隔年開講
AC305	〃 5 (近代ヨーロッパ1)	2	2・3・4	隔年開講
AC306	〃 6 (近代ヨーロッパ2)	2	2・3・4	隔年開講
AC307	〃 7 (グローバルヒストリー)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義7（近代世界システム1）」
AC308	〃 8 (地域からの歴史)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義8（近代世界システム2）」
AC309	〃 9 (前近代東アジア・ユーラシア1)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義9（古代中華帝国1）」
AC310	〃 10 (前近代東アジア・ユーラシア2)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義10（古代中華帝国2）」
AC311	〃 11 (前近代における法と国家)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義11（中世東アジア）」
AC313	〃 13 (近代東アジア・ユーラシア1)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義13（近代中国1）」
AC314	〃 14 (近代東アジア・ユーラシア2)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義14（近代中国2）」
AC315	〃 15 (アジア海域1)	2	2・3・4	隔年開講
AC316	〃 16 (アジア海域2)	2	2・3・4	隔年開講
AC317	〃 17 (世界大戦とヨーロッパ)	2	2・3・4	隔年開講
AC318	〃 18 (世界大戦とアジア)	2	2・3・4	隔年開講
AC319	〃 19 (近現代における法と社会)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義19（東ヨーロッパとロシア）」
AC321	〃 21 (社会史の方法)	2	2・3・4	隔年開講
AC322	〃 22 (マイノリティと境界)	2	2・3・4	隔年開講
AC323	〃 23 (人間と都市)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義23（比較都市史論）」
AC324	〃 24 (人間と環境)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義24（比較農村史論）」
AC325	〃 25 (信仰と知の歴史1)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義25（精神とマンタリテの歴史1）」
AC326	〃 26 (信仰と知の歴史2)	2	2・3・4	旧科目名「史学講義26（精神とマンタリテの歴史2）」
	イタリア語1	2		2017年度以降廃止
	〃 2	2		
AC403	自然地理学1	2	2・3・4	
AC405	比較政治史1	2	2・3・4	
	上記以外の文学部指定科目C			

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
その他	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
<b>自由科目</b>				
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目（自由科目）	} 超過履修分		
	文学部基幹科目			
	指定科目B2, C			
	文学部他学科科目	} 12単位以内		
	他学部科目			
	5大学間単位互換制度による科目			
<b>自由科目：教職関連科目（教職課程登録者のための設置科目）</b>				
※教職課程登録者以外に履修を認める科目もある。Ⅲ-2履修規定「3-1他学部科目の履修」にて履修の可否を確認すること。				
BX303	民法1	2	1・2・3・4	
BX304	〃 2	2	1・2・3・4	
BX162	社会政策論1	2	2・3・4	
BX163	〃 2	2	2・3・4	
EX240	国際政治	4	2・3・4	
	経済原論A	4	2・3・4	履修希望者は希望届（教務事務センターにて配付）を2019年4月6日（土）12：30までに教務事務センターレポートBOXに提出すること。
	〃 B	4	2・3・4	
	社会学原論1	2	1・2・3・4	※「社会学原論1・2」は、 ①春学期・秋学期セットで履修すること。 ②クラスは大学が指定する。 ③「社会学原論2」のみ履修を希望する場合および履修登録の取消を希望する場合は、秋学期授業開始前までに教務事務センター履修・成績窓口に申し出ること。
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
<b>随意科目（教職課程登録者のみ履修可 卒業要件とはならない）</b>				
AC501	世界史	2	1・2・3・4	
AC502	日本史	2	1・2・3・4	



## 史学科 日本史学専修 専修課程

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
<b>必修科目（指定科目A）</b>					
自動登録	入門演習G1d	2	1	} 全専修共通	1 クラス指定 科目必修
自動登録	◇ G1e	2	1		
自動登録	◇ G1f	2	1		
自動登録	◇ G2d	2	1	} 全専修共通 クラス指定はG1を継承する	1 クラス指定 科目必修
自動登録	◇ G2e	2	1		
自動登録	◇ G2f	2	1		
自動登録	卒業論文（制作）予備演習	2	3		1 クラス指定 科目必修
自動登録	◇	2	3		
<b>選択科目（指定科目B1）</b>					
自動登録	演習H1	2	2		
自動登録	◇ H2	2	2		
自動登録	◇ H3	2	2		
自動登録	◇ H4	2	2		
自動登録	◇ H5	2	2		
自動登録	◇ H6	2	2		
自動登録	◇ H7	2	2		
自動登録	◇ H8	2	2		
自動登録	◇ H9	2	2		
自動登録	◇ H10	2	2		
自動登録	◇ H11	2	2		
自動登録	◇ H12	2	2		
自動登録	◇ H13	2	3		
自動登録	◇ H14	2	3		
自動登録	◇ H15	2	3		
自動登録	◇ H16	2	3		
自動登録	◇ H17	2	3		
自動登録	◇ H18	2	3		
自動登録	◇ H19	2	3		
自動登録	◇ H20	2	3		
自動登録	◇ H21	2	3		
自動登録	◇ H22	2	3		
自動登録	◇ H23	2	3		
自動登録	◇ H24	2	3		
<b>選択科目（指定科目B2）</b>					
AC201	フィールドワークH1a	2	2・3・4	学外集中講義含む30時間	
AC251	◇ H1b	2	2・3・4		
AC202	◇ H2a	2	2・3・4		
AC256	◇ H2b	2	2・3・4		
AC239	専門基礎9 (近代史料論)	2	2・3・4		隔年 開講
AC240	◇ 10 (現代史料論)	2	2・3・4		
AC241	◇ 11 (古文書1)	2	2・3・4		
AC242	◇ 12 (古文書2)	2	2・3・4		隔年 開講

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>選択科目（指定科目C）</b>				
AC327	史学講義27 (古代日本とアジア1)	2	2・3・4	隔年開講
AC328	〃 28 (古代日本とアジア2)	2	2・3・4	
AC329	〃 29 (律令制国家論1)	2	2・3・4	隔年開講
AC330	〃 30 (律令制国家論2)	2	2・3・4	
AC331	〃 31 (中世日本史論1)	2	2・3・4	隔年開講
AC332	〃 32 (中世日本史論2)	2	2・3・4	
AC333	〃 33 (中世日本と世界)	2	2・3・4	隔年開講
AC334	〃 34 (中世国家と民衆)	2	2・3・4	
AC335	〃 35 (近世日本史論)	2	2・3・4	隔年開講
AC336	〃 36 (伝統社会史論1)	2	2・3・4	
AC337	〃 37 (近世日本と世界)	2	2・3・4	隔年開講
AC338	〃 38 (日本社会史論1)	2	2・3・4	
AC339	〃 39 (近代日本史論1)	2	2・3・4	隔年開講
AC340	〃 40 (近代日本史論2)	2	2・3・4	
AC341	〃 41 (近代日本と世界)	2	2・3・4	隔年開講
AC342	〃 42 (日本女性史)	2	2・3・4	
AC343	〃 43 (現代日本史論)	2	2・3・4	隔年開講
AC344	〃 44 (現代日本と世界)	2	2・3・4	
AC345	〃 45 (伝統社会史論2)	2	2・3・4	隔年開講
AC346	〃 46 (日本社会史論2)	2	2・3・4	
AC347	〃 47 (戦争と平和の歴史1)	2	2・3・4	隔年開講
AC348	〃 48 (戦争と平和の歴史2)	2	2・3・4	
AC349	〃 49 (都市と村落)	2	2・3・4	隔年開講
AC350	〃 50 (日本の思想・文化)	2	2・3・4	
AC351	〃 51 (日本変動期史論1)	2	2・3・4	隔年開講
AC354	〃 54 (史料学)	2	2・3・4	
AC404	自然地理学2	2	2・3・4	
AC406	比較政治史2	2	2・3・4	
	上記以外の文学部指定科目C			

2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
その他	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
<b>自由科目</b>				
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目（自由科目）	} 超過履修分		
	文学部基幹科目			
	指定科目B2, C			
	文学部他学科科目	} 12単位以内		
	他学部科目			
	5大学間単位互換制度による科目			
<b>自由科目：教職関連科目（教職課程登録者のための設置科目）</b>				
※教職課程登録者以外に履修を認める科目もある。Ⅲ-2履修規定「3-1他学部科目の履修」にて履修の可否を確認すること。				
BX303	民法1	2	1・2・3・4	
BX304	〃 2	2	1・2・3・4	
BX162	社会政策論1	2	2・3・4	
BX163	〃 2	2	2・3・4	
EX240	国際政治	4	2・3・4	
	経済原論A	4	2・3・4	履修希望者は希望届（教務事務センターにて配付）を2019年4月6日（土）12：30までに教務事務センターレポートBOXに提出すること。
	〃 B	4	2・3・4	
	社会学原論1	2	1・2・3・4	※「社会学原論1・2」は、 ①春学期・秋学期セットで履修すること。 ②クラスは大学が指定する。 ③「社会学原論2」のみ履修を希望する場合および履修登録の取消を希望する場合は、秋学期授業開始前までに教務事務センター履修・成績窓口に申し出ること。
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
<b>随意科目（教職課程登録者のみ履修可 卒業要件とはならない）</b>				
AC501	世界史	2	1・2・3・4	
AC502	日本史	2	1・2・3・4	

## 史学科 超域文化学専修 専修課程

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備 考	
<b>必修科目 (指定科目A)</b>					
自動登録	入門演習G1g	2	1	全専修共通	1 クラス指定 科目必修
自動登録	〃 G1h	2	1		
自動登録	〃 G1i	2	1		
自動登録	〃 G2g	2	1	全専修共通 クラス指定はG1を継承する	1 クラス指定 科目必修
自動登録	〃 G2h	2	1		
自動登録	〃 G2i	2	1		
自動登録	卒業論文 (制作) 予備演習	2	3		1 クラス指定 科目必修
自動登録	〃	2	3		
<b>選択科目 (指定科目B1)</b>					
自動登録	演習 I 1	2	2		
自動登録	〃 I 2	2	2		
自動登録	〃 I 3	2	2		
自動登録	〃 I 4	2	2		
自動登録	〃 I 5	2	2		
自動登録	〃 I 6	2	2		
自動登録	〃 I 7	2	2		
自動登録	〃 I 8	2	2		
自動登録	〃 I 9	2	2		
自動登録	〃 I 10	2	2		
自動登録	〃 I 11	2	2		
自動登録	〃 I 12	2	2		
自動登録	〃 I 13	2	3		
自動登録	〃 I 14	2	3		
自動登録	〃 I 15	2	3		
自動登録	〃 I 16	2	3		
自動登録	〃 I 17	2	3		
自動登録	〃 I 18	2	3		
自動登録	〃 I 19	2	3		
自動登録	〃 I 20	2	3		
自動登録	〃 I 21	2	3		
自動登録	〃 I 22	2	3		
自動登録	〃 I 23	2	3		
自動登録	〃 I 24	2	3		
<b>選択科目 (指定科目B2)</b>					
その他	フィールドワーク I 1	2	2・3・4	定員20名程度	
その他	〃 I 2	2	2・3・4	2017年度より「その他登録」に変更	
AC243	専門基礎13 (アジア・アフリカ系言語3)	2	2・3・4	旧科目名「専門基礎13 (トルコ語)」	開 講 年
	〃 14 (スワヒリ語)	2	/	2018年度以降廃止	
抽選登録	〃 15 (カルトグラフィ)	2	2・3・4	定員200名	隔 年 開 講
AC246	〃 16 (フィールドワーク方法論)	2	2・3・4		

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>選択科目（指定科目C）</b>				
AC355	超域文化学講義1 (文化人類学1)	2	2・3・4	隔年開講
AC356	〃 2 (文化人類学2)	2	2・3・4	
AC357	〃 3 (地域研究論1)	2	2・3・4	隔年開講
AC358	〃 4 (地域研究論2)	2	2・3・4	
AC359	〃 5 (地域研究論3)	2	2・3・4	隔年開講
AC361	〃 7 (アメリカ社会史1)	2	2・3・4	
AC362	〃 8 (アメリカ社会史2)	2	2・3・4	隔年開講
AC363	〃 9 (アメリカ社会史3)	2	2・3・4	
AC365	〃 11 (イスラーム複合社会史1)	2	2・3・4	隔年開講
AC366	〃 12 (イスラーム複合社会史2)	2	2・3・4	
AC367	〃 13 (イスラーム複合社会論1)	2	2・3・4	隔年開講
AC368	〃 14 (イスラーム複合社会論2)	2	2・3・4	
AC369	〃 15 (文化環境学1)	2	2・3・4	隔年開講
AC370	〃 16 (文化環境学2)	2	2・3・4	
AC371	〃 17 (農耕牧畜論)	2	2・3・4	隔年開講
AC372	〃 18 (考古学)	2	2・3・4	
AC373	〃 19 (都市空間論)	2	2・3・4	隔年開講
AC374	〃 20 (文化ダイナミクス論)	2	2・3・4	
AC375	〃 21 (フォークロア1)	2	2・3・4	隔年開講
AC376	〃 22 (フォークロア2)	2	2・3・4	
AC377	〃 23 (比較技術論)	2	2・3・4	隔年開講
AC378	〃 24 (人類生態学)	2	2・3・4	
AC407	地理学概説1	2	1・2・3・4	
AC408	〃 2	2	1・2・3・4	
AC409	地誌学1	2	1・2・3・4	
AC410	〃 2	2	1・2・3・4	
	上記以外の文学部指定科目C			
その他	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	
その他	〃	10	4	

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>自由科目</b>				
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目（自由科目）	}	}	超過履修分
	文学部基幹科目			
	指定科目B2, C			
	文学部他学科科目	}	}	12単位以内
	他学部科目			
	5大学間単位互換制度による科目			
<b>自由科目：教職関連科目（教職課程登録者のための設置科目）</b>				
※教職課程登録者以外に履修を認める科目もある。Ⅲ-2履修規定「3-1他学部科目の履修」にて履修の可否を確認すること。				
BX303	民法1	2	1・2・3・4	履修希望者は希望届（教務事務センターにて配付）を2019年4月6日（土）12：30までに教務事務センターレポートBOXに提出すること。  ※「社会学原論1・2」は、 ①春学期・秋学期セットで履修すること。 ②クラスは大学が指定する。 ③「社会学原論2」のみ履修を希望する場合および履修登録の取消を希望する場合は、秋学期授業開始前までに教務事務センター履修・成績窓口に申し出ること。
BX304	〃 2	2	1・2・3・4	
BX162	社会政策論1	2	2・3・4	
BX163	〃 2	2	2・3・4	
EX240	国際政治	4	2・3・4	
	経済原論A	4	2・3・4	
	〃 B	4	2・3・4	
	社会学原論1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
<b>随意科目（教職課程登録者のみ履修可 卒業要件とはならない）</b>				
AC501	世界史	2	1・2・3・4	
AC502	日本史	2	1・2・3・4	

# 教育学科履修規定

2010～2015年度1年次入学者に適用  
(2012～2017年度3年次編入学者に適用)

## 専門教育科目の特色

本学科では、多様な教育現象を考えるための幅広い学問領域を総合的に学習することを目指す。3年次に教育学専攻と初等教育専攻のどちらかの課程を選択する。教育心理学、教育社会学、教育史、教育哲学、比較教育学、教育方法学、社会教育など多彩な科目が用意され、生きた教育の場に目を向けるよう、実習や実践研究など、フィールドへ出かけていく機会も重視している。

1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通カリキュラム			
<b>必修科目(基幹科目A)</b> ●人文学とキャリア形成 (旧：職業と人文学)			
<b>選択科目(基幹科目B)</b> ●海外フィールドスタディ ●インターンシップなど			
<b>選択科目(基幹科目C)</b> ●合同講義●教育制度・政策論●家庭教育論●教育と福祉●教育と宗教など			
<b>選択科目(基幹科目D)</b> ●ヘブライ語●ギリシア語●ラテン語●ドイツ語文献講読●フランス語文献講読 ●英語文献講読など			
<b>必修科目(指定科目A)</b> ●入門演習 ●教育学	●教育心理学1●教育史1 ●教育哲学1●教育社会学1	<b>選択科目(指定科目B1)</b> ●演習	<b>選択科目(指定科目C)</b> ●卒業論文(制作)・ 卒業論文(制作)指導演習
	<b>選択科目(指定科目B2)</b> ●教育実践研究	●教育調査実習	
	<b>選択科目(指定科目C)</b> ●比較教育学●社会教育・生涯学習論●国際教育論●教育臨床論 ●教育臨床心理学●現代教育の諸問題●子ども文化論など		
	<b>必修科目(指定科目A2)(初等)</b> ●生徒指導・進路指導 ●道徳教育の理論と方法など		
	●各教科教育法 ●教職研究●音楽実技 ●造形表現	●初等教育実習 ●教職実践演習	
自由科目			



## 1 教育学における4年間の学び方

教育学の学科課程は、学生の自主的学習を尊重し、教育学の研究方法を中心に理論と実践の統合をめざした構成をとっている。学生はその趣旨を生かしながら、以下に述べる学科課程の構成や各科目の講義内容をよく理解したうえで、計画的に履修してほしい。

本学科の学生は、3年次\*から教育学専攻課程と初等教育専攻課程の二つに分かれる。

1年次では、教育学の基礎について学ぶ「入門演習」と「教育学」とが必修である。入門演習の担当教員がクラス担任（アカデミックアドバイザー）の役割を担う。基幹科目として、教育学関連では「教育制度・政策論」「家庭教育論」「教育と福祉」「教育と宗教」を履修することができる。

2年次では教育学の方法を学ぶための「教育心理学1」「教育社会学1」「教育史1」「教育哲学1」が必修になっている。

指定科目B2、Cの科目の履修が可能となる。教育の専門科目について2年次で積極的に履修することが望ましい。

2年次には課程選択ガイダンスが行われる。このガイダンスで示された所定の手続に従って学生は希望する専攻を決定し、届け出る。

3年次\*からは教育学専攻課程と初等教育専攻課程に分かれる。

両課程とも共通して指定科目B1の「演習J」が必修となる。演習では指導教授のもとで個別のテーマについて深く追究する。教育学専攻課程では、「教育調査実習」が必修である。卒業論文を除くすべての科目が履修可能となる。初等教育専攻課程では、指定科目A2と指定科目C1の科目については、3年次までにできるだけ多く履修することが望ましい。

4年次には「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」が開講される。4年間の学修成果の集大成として卒業論文に積極的に取り組んでほしい。「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」を履修しない学生は「教育実践研究」を4年次で履修することが望ましい。

★ 初等教育専攻課程では4年次に初等教育実習を行う。

\* 在学5学期目以降の4月

## 1 履修上の注意（「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと）

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

### 1. 基幹科目の履修について

基幹科目は必修科目2単位（基幹科目A「人文学とキャリア形成」（旧：職業と人文学）2年次履修）のほか、10単位修得すること。

ただし、基幹科目B「書道1・2」は履修できない。

卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

### 2. 教育学科の科目の履修について

特に指定のない科目については学科課程の記載事項に従って履修すること。

#### (1) 指定科目A

「入門演習J1・J2」はクラスを指定して自動登録される。再履修となった場合もクラスを指定して各学期に自動登録される。その他の科目も配当年次と開講学期に従って自動登録される。

#### (2) 指定科目B1

3年次以後配当年次に従って1学期に1科目ずつ指定された科目を、履修すること。履修登録の詳細については、2年次に「課程選択ガイダンス」と同時に開かれる「3年次演習選択ガイダンス」で指示する。

4年次で履修する場合には、当該年度の授業開始前に行われる4月の学科ガイダンスにて必ず学科に申し出て、学科の指示に従って履修登録をすること。

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

#### (3) 指定科目B2

単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

「教育実践研究」は、学生が個人または共同で、以下の2つの内のひとつのテーマについて、指導教員の指導・助言を受けつつ自発的に取り組む科目である。期日までに報告書を提出することが求められる。

① 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動

② 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追究する活動

希望者は、秋学期に他の科目と同様に履修登録すること。

#### (4) 指定科目C

指定科目Cは学科課程に記載してある科目のほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

㊦ 文学部専門教育課程について **5** 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

① 基幹科目「倫理思想」と指定科目C「哲学的人間学」は、中学校「社会」・高等学校「公民」1種免許状取得の際、教科専門科目の一部として認められる。

#### ② 「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」

「卒業論文（制作）」は「卒業論文（制作）指導演習」を通して書くため、両方をあわせて10単位と考えること。「卒業論文（制作）」を提出し、合格と認められた場合のみ単位を修得できる。「卒業論文（制作）指導演習」は「卒業論文（制作）」を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、単位修得できないので、注意すること。

③ 初等教育専攻課程の指定科目A2の科目の履修は2年次配当科目のみ履修することが認められ、指定科目Cとして履修することになる。

(5) 教職関連科目および随意科目について

教育職員免許状取得のための科目である。教職課程登録者のみ履修が認められる。「教職関連科目」として開講されている科目を修得した場合、自由科目の単位として認める。

注)「社会学原論」の単位を修得済の者は、「社会学原論1」および「社会学原論2」を履修することはできない。

「随意科目」として開講される「日本史」「世界史」は修得しても卒業要件単位にならない。

### 3. 教育職員免許 以外の諸資格 について

(1) 社会教育主事課程に必要な科目は、教育学科設置の科目を履修することによって充当される場合があるので、学校・社会教育講座履修要項の記述によく注意して履修すること。

(2) 講座設置科目を履修して修得した単位は、たとえそれが「教育心理学」など、教育学科の同一科目名、同一担当者によるものであっても、教育学科卒業に必要な単位としては認められない。

教育学学科（教育学専攻課程）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名		卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数	履修年次	
全学共通カリキュラム	必修科目	言語教育科目 言語A	6	1	
		言語教育科目 言語B	4	1	
	選択科目	総合教育科目 立教科目群 立教A（講義系） 立教B（立教ゼミナール）	6	1～4	
		総合教育科目 領域別科目群 領域別A（講義系） 領域別B（文献系）	14	1～4	
総合教育科目 主題別科目群 主題別A（1, 2, 3, 4, 5） 主題別B					
総合教育科目 スポーツ実習科目群 スポーツプログラム スポーツスタディ					
区分名		卒業要件 単位数計	卒業要件 単位数	履修年次	
専門教育科目	必修科目	基幹科目A（人文学とキャリア形成）	2	2	
		指定科目A	入門演習，教育学	6	1
			教育心理学1，教育社会学1，教育史1，教育哲学1	8	2
	選択科目	基幹科目B，C，D	10	1～4	
		指定科目B	指定科目B1（演習）	4	3
			指定科目B2（教育調査実習1～4，教育実践研究）	4	2～4
		指定科目C	指定科目C（講義）	34	2～4
			指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）		4
	自由科目	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1～4
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】言語自由科目		
文学部他学科科目，教職関連科目					
他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			0～12		
大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）			0～8		
合計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち，全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については，文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において，（\*）は履修登録後に開講学部の教授会で，また（\*\*）は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り，履修が認められる。

教育学科（教育学専攻課程）2010・2011年度以降1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
	必修科目	選択科目			
全学 共通 カリ キュ ラム	10	言語教育科目 言語A	6	1	
		言語教育科目 言語B	4	1	
	20	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1~4	
		総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1~4	
	総合教育科目全体 【総合A（1, 2, 3）】6単位を超えて修得した単位 【総合A（4, 5）】4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A（講義系） 領域別B（文献系） 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1~4		
専門 教育 科目	16	基幹科目A（人文学とキャリア形成）	2	2	
		指定科目A	入門演習，教育学	6	1
			教育心理学1，教育社会学1，教育史1，教育哲学1	8	2
	52	基幹科目B，C，D	10	1~4	
		指定科目B	指定科目B1（演習）	4	3
			指定科目B2（教育調査実習1~4，教育実践研究）	4	2~4
		指定科目C	指定科目C（講義）	34	2~4
	指定科目C（卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習）		4		
	26以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）	6以上	1~4	
		全学共通カリキュラム 【総合教育科目】卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】言語自由科目			
文学部他学科科目，教職関連科目					
他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）		0~12			
大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）		0~8			
合 計	124以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

## 教育学科・(教育学専攻課程)

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者，開講学期，履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>必修科目 (指定科目A)</b>				
自動登録	入門演習J1a	2	1	1 クラス 指定
自動登録	〃 J1b	2	1	
自動登録	〃 J1c	2	1	
自動登録	〃 J1d	2	1	
自動登録	〃 J2a	2	1	1 クラス 指定
自動登録	〃 J2b	2	1	
自動登録	〃 J2c	2	1	
自動登録	〃 J2d	2	1	
自動登録	教育学	2	1	必修
自動登録	教育心理学1	2	2	
自動登録	教育社会学1	2	2	
自動登録	教育史1	2	2	
自動登録	教育哲学1	2	2	
<b>選択科目 (指定科目B1)</b>				
その他	演習J1	2	3	
その他	〃 J2	2	3	
その他	〃 J3	2	3	
その他	〃 J4	2	3	
その他	〃 J5	2	3	
その他	〃 J6	2	3	
その他	〃 J7	2	3	
その他	〃 J8	2	3	
その他	〃 J9	2	3	
その他	〃 J10	2	3	
その他	〃 J11	2	3	
その他	〃 J12	2	3	
その他	〃 J13	2	3	
その他	〃 J14	2	3	
その他	〃 J15	2	3	
その他	〃 J16	2	3	
その他	〃 J17	2	3	
その他	〃 J18	2	3	
<b>選択科目 (指定科目B2)</b>				
AE221	教育調査実習1	2	3・4	
AE222	〃 2	2	3・4	
AE223	〃 3a	2	3・4	
AE224	〃 4a	2	3・4	
AE225	〃 3b	2	3・4	
AE226	〃 4b	2	3・4	
AE251 ～AE259	教育実践研究	2	2・3・4	
<b>選択科目 (指定科目C)</b>				
AF001	教育方法学	2	2・3・4	
AE301	情報教育論	2	2・3・4	
AF012	特別活動の理論と方法	2	2・3・4	旧科目名「特別活動の研究」
AF013	生徒指導・進路指導	2	2・3・4	
AF004	教育相談	2	2・3・4	
AE302	カウンセリング	2	2・3・4	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
AF005	道徳教育の理論と方法	2	2・3・4	旧科目名「道徳教育の研究」	
AE303	幼児教育学	2	2・3・4		
AE304	比較教育学1	2	2・3・4		
AE305	〃 2	2	2・3・4		
AE323	キリスト教と教育1	2	2・3・4		AA369「キリスト教学講義15（キリスト教と教育1）」 と同一科目。重複履修不可（2014年度より）。
AE324	〃 2	2	2・3・4	AA370「キリスト教学講義16（キリスト教と教育2）」 と同一科目。重複履修不可（2014年度より）。	
AE321	教育心理学2	2	2・3・4		
AE322	教育社会学2	2	2・3・4		
AE306	教育史2	2	2・3・4		
AE307	教育哲学2	2	2・3・4		
AE308	社会教育・生涯学習論	2	2・3・4		
AE309	教育課程論	2	2・3・4		
AE310	国際教育論	2	2・3・4		
AE311	環境教育論	2	2・3・4		
抽選登録	教育と表現	2	2・3・4		定員60名
AE313	教育臨床論	2	2・3・4		
AE314	教育臨床心理学	2	2・3・4		
AE315	発達心理学	2	2・3・4		
AE316	現代教育の諸問題1	2	2・3・4		
AE317	〃 2	2	2・3・4	2020年度以降廃止予定	
AE318	〃 3	2	2・3・4		
AE325	〃 4	2	2・3・4		
AE319	子ども文化論	2	2・3・4		
AE320	哲学的人間学	2	2・3・4		
AF251	国語科教育論	2	2・3・4		
AF202	社会科教育論	2	2・3・4		
AF253	算数科教育論	2	2・3・4		
AF254	理科教育論	2	2・3・4		
AF255	生活科教育論	2	2・3・4		
AF206	家庭科教育論	2	2・3・4		
	上記以外の文学部指定科目C				
AE781	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	4		
AE782	〃	10	4		
AE783	〃	10	4		
AE784	〃	10	4		
AE785	〃	10	4		
AE786	〃	10	4		
AE787	〃	10	4		
AE788	〃	10	4		
AE789	〃	10	4		
<b>自由科目</b>					
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目（自由科目）	} 超過履修分			
	文学部基幹科目				
	指定科目B1, B2, C				
	文学部他学科科目	} 12単位以内			
	他学部科目				
	5大学間単位互換制度による科目				



2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>自由科目：教職関連科目（教職課程登録者のための設置科目）</b>				
<b>※教職課程登録者以外に履修を認める科目もある。Ⅲ-2履修規定「3-1他学部科目の履修」にて履修の可否を確認すること。</b>				
BX303	民法1	2	1・2・3・4	履修希望者は希望届（教務事務センターにて配付）を2019年4月6日（土）12：30までに教務事務センターレポートBOXに提出すること。 ※「社会学原論1・2」は、 ①春学期・秋学期セットで履修すること。 ②クラスは大学が指定する。 ③「社会学原論2」のみ履修を希望する場合および履修登録の取消を希望する場合は、秋学期授業開始前までに教務事務センター履修・成績窓口に申し出ること。
BX304	〃 2	2	1・2・3・4	
BX162	社会政策論1	2	2・3・4	
BX163	〃 2	2	2・3・4	
EX240	国際政治	4	2・3・4	
	経済原論A	4	2・3・4	
	〃 B	4	2・3・4	
	社会学原論1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
<b>随意科目（教職課程登録者のみ履修可 卒業要件とはならない）</b>				
AE501	世界史	2	1・2・3・4	
AE502	日本史	2	1・2・3・4	



## 1 履修上の注意（「Ⅲ-2 履修規定」も合わせて確認のこと）

特に定める場合を除き、同一名称の科目を重複履修することはできない。

### 1. 基幹科目の履修について

- (1) 基幹科目は必修科目2単位（基幹科目A「人文学とキャリア形成」（旧：職業と人文学）2年次履修）のほか、10単位修得すること。
- (2) その他の基幹科目の履修について  
基幹科目B「書道1・2」は履修できない。  
卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

### 2. 教育学科の科目の履修について

特に指示のない科目については、学科課程の記載事項に従って履修すること。

初等教育専攻課程に進むことを希望している者は、2年次からの履修科目に注意すること。

- (1) 指定科目A1（必修）  
「入門演習J1・J2」はクラスが指定されて自動登録される。再履修となった場合もクラスが指定されて各学期に自動登録される。その他の科目も配当年次と開講学期に従って自動登録される。
- (2) 指定科目A2（必修）
  - ① 全科目42単位が必修科目である。3年次以上の配当科目は初等教育専攻課程以外の学生の履修を認めない。
  - ② 「音楽実技」, 「造形表現」を履修するためには、以下の5科目中4科目以上の単位を修得していなければならない。ただし、3年次編入学生は除く。  
「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」
  - ③ 「音楽実技1・2」, 「造形表現1・2」各「教育法」の授業は履修クラスが指定される。(自動登録)
  - ④ 「初等教育実習」, 「教職実践演習(小学校)」を履修するためには、以下の単位を修得していなければならない。  
「教育学」, 「教育哲学1」, 「教育史1」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」, 教育法7科目以上（「教職研究」を含む）  
(ただし、3年次編入学生は「教育学」, 「教育社会学1」, 「教育心理学1」, および「教職研究」を含む教育法5科目以上)
  - ⑤ 「教職実践演習(小学校)」は、「初等教育実習」を履修中もしくは単位修得済みの者のみ履修可とする。
- (3) 指定科目B1  
3年次以後配当年次に従って1学期に1科目ずつ指定された科目を履修すること。履修登録の詳細については、2年次に「課程選択ガイダンス」と同時に開かれる「3年次演習選択ガイダンス」で指示する。  
4年次で履修する場合には、当該年度の授業開始前に行われる4月の学科ガイダンスにて必ず学科に申し出て、学科の指示に従って履修登録をすること。  
単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。
- (4) 指定科目B2  
単位修得後に同一科目を重複履修することを認める。所定の単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位として算入する。  
「教育実践研究」は、学生が個人または共同で、以下の2つの内のひとつのテーマについて、指

導教員の指導・助言を受けつつ自発的に取り組む科目である。期日までに報告書を提出することが求められる。

- ① 大学内外での地域活動、福祉・文化・教育施設や団体での活動
  - ② 学生が受講した授業や演習のテーマをより深く追究する活動
- 希望者は、秋学期に他の科目と同様に履修登録すること。

(5) 指定科目C

指定科目CはC1とC2に分かれており、C1より4単位、C1として修得した科目以外の科目とC2を合わせて指定された科目より10単位以上修得しなければならない。指定科目C2として、学科課程に記載の開講科目のほか、文学部他学科の指定科目Cも各自の履修計画に従って履修できる。ただし、同一科目を単位修得後に重複して履修することはできない。卒業要件単位数を超えて修得した場合は、自由科目の単位となる。

☞ 文学部専門教育課程について 5 文学部指定科目Cの履修計画について 参照

- ① 指定科目C1「体育実技」を履修するためには、以下の5科目中4科目以上の単位を修得していなければならない。ただし、3年次編入学生は除く。  
「教育学」、「教育哲学1」、「教育史1」、「教育社会学1」、「教育心理学1」
- ② 指定科目C2「卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習」について  
「卒業論文(制作)」は「卒業論文(制作)指導演習」を通して書くため、両方をあわせて10単位と考えること。「卒業論文(制作)指導演習」は「卒業論文(制作)」を提出し、合格と認められた場合のみ単位を修得できる。「卒業論文(制作)」を未提出あるいは提出しても不合格となった場合は、単位修得できないので、注意すること。

3. 小学校教育職員免許状取得について

- (1) 初等教育専攻課程に在籍し、所定の単位を修得することによって、小学校教諭1種免許状を取得することができる。
- (2) 以下に該当する者は、「初等教育実習」への参加および(1)の免許状の取得をすることができない。
  - ① 伝染のおそれのある疾病、若しくは教育実習を行ううえで妨げとなる精神障害等のある者
  - ② 公立学校の正常な教育活動を妨げる恐れのある者
- (3) 教育学科の専門教育科目とは別に、「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める科目として、以下の単位を修得しておく必要がある。

日本国憲法 2単位(全カリ科目)、スポーツ実習 2単位(全カリ科目)  
情報処理(\*) 2単位(文学部基幹科目)

(\*) 情報処理について

文学部基幹科目の「情報処理1・2・3a～d・4a～d」のみが対象となる。ただし、2011年度以前に全学共通カリキュラムの「情報科学A・B」、「情報処理1～4」、「情報科学入門」の単位を修得した場合、これも対象となる。

- (4) 「教職実践演習(小学校)」は事前の準備として、各人が「履修カルテ」に1年次から履修などについて記入する必要がある。教育学科Webサイトおよび2年次の「課程選択ガイダンス」の指示に従うこと。
- (5) 「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教員職員免許法の特例等に関する法律」(通称、介護等体験に関する特例法)(1998年4月1日施行)により、以下の証明書を提出しなければならない。なお、介護等体験については 2 介護等体験 を参照すること。体験の内容、施設の説明、施設への申し込みなどに関して、2年次に介護等体験ガイダンス(登録)を行う。
  - ① 証明書の内容  
法に定められた施設において7日以上介護等体験を行った旨、施設長が発行した証明書
  - ② 提出の時期  
小学校教諭一種免許状の申請時

4. 「初等教育実習」の履修にあたって
- 「初等教育実習」は、3年次、4年次の事前・事後指導（2単位）と小学校での教育実習（4単位）計6単位で構成される。履修登録は、4年次生の4月期のみ登録する。
5. 「初等教育実習」の履修日程について
- 3年次生**（実習前年度）
- 2020年度に教育実習を希望する者は2019年度に次の手続きをしなければならない。これらを満たしていない者は2020年度に教育実習に参加できない。
- (1) 初等教育実習事前指導への出席
- 第1回目実施日 2019年5月11日（土）時間は追って掲示する。
- 3年次での事前指導に関しては、数回の講話、参観などを行うが、具体的な日程、内容についてはロイドホール5階教育学科研究資料準備室掲示板に発表する。
- (2) 教育実習生健康診断
- 実習では児童・生徒に接するため、教育実習生は事前に健康診断を受けなければならない。実習校・教育委員会等に提出する「身体に関する証明書」を作成するための検査でもある。2019年4月上旬に学内で実施する。
- 4年次生**（実習年度）
- 実習年度には、次のような手順に従って実習を行う。
- (1) 履修登録
- 自動登録により、実習年度春学期に登録する。
- (2) 直前指導
- 原則として4月土曜日に実施する（掲示に注意）。なお、春学期土曜日の1～2時限には他の科目の履修は認めない。
- (3) 教育実習
- 実習校における実習の期間は、4週間とする。実習は全期間出席しなければならない。（なお特例として、埼玉県教師養成セミナーの学校体験実習を終えた場合は、通常の教育実習を行ったものとして読み替える。）
- (4) 事後指導
- 7月と12月に、計2回行う。詳細は掲示する。
- (5) 「教育実習の記録」の提出
- 所定の期日にロイドホール5階教育学科研究資料準備室に提出すること。
6. 教育職員免許以外の諸資格について
- (1) 社会教育主事課程に必要な科目は、教育学科設置の科目を履修することによって充当される場合があるので、学校・社会教育講座履修要項の記述によく注意して履修すること。
- (2) 講座設置科目を履修して修得した単位は、たとえそれが「教育心理学」など、教育学科の同一科目名、同一担当者によるものであっても、教育学科卒業に必要な単位としては認められない。

## 2 介護等体験

1. 介護等体験の義務づけ
- 「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（通称：介護等体験に関する特例法）（1998年4月1日施行）により、小・中学校免許取得希望者は、都道府県教育委員会への免許申請時に、介護等体験を行った旨の証明書を添付することが義務づけられた。
2. 体験の趣旨
- 法律では体験の趣旨について次のように規定している。
- 「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めるために、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる。（要旨）」

3. 体験の施設と期間  
体験を行う施設の種別は、法律で細かく規定されており、期間は7日以上とされている。一般的には、老人ホームなどの社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間の計7日間である。
4. 対象学生  
下記(1)～(3)を除く、学部学生。  
(1) 既に介護等体験を行った者で、『介護等体験証明書』原本（写しは不可）を本学に提出可能な者。  
(2) 以下の免許・資格既取得者  
小学校または中学校の教育職員免許状（1種・2種・専修）、保健師、助産師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、義肢装具士、社会福祉士、介護福祉士、特別支援学校教員  
(3) 身体障害者手帳1級から6級所持者
5. 体験の失格  
定められた事務手続きを所定の期限内に行わない等、手続き上不備があった場合には、当該年度の介護等体験は失格となる。
6. 2019年度体験予定の学生  
2018年度に「介護等体験ガイダンス（登録）」に出席し、必要な手続きを完了している者は、以下の指示に従って手続きを進めること。  
(1) 書類提出・費用納入  
すでに対象者に告知済みの日程（3月下旬）において、書類提出および社会福祉施設体験費用（10,260円）の納入を受け付ける。  
(2) 「介護等体験ガイダンス（事前指導）」への出席  

<p>日 時 2019年6月22日（土）〔午後〕</p> <p>*日時・場所の詳細については、決定次第、研究資料準備室掲示板に発表する。</p>
--

無断欠席・遅刻・早退は認めない。この場合は、2019年度の介護等体験への参加を放棄したものと見なす。  
このガイダンスでは、体験先、期間の発表や実際の体験に際して必要な指導等を行う。
- (3) 介護等体験証明書の提出  
介護等体験終了後に提出するが、提出先・提出期間については上記「介護等体験ガイダンス（事前指導）」で指示する。
7. 2020年度体験予定の学生  
一主に2年生  
(1) 希望者は、「介護等体験ガイダンス（登録）」に必ず出席すること。  

<p>日 時 2019年11月〔予定〕</p> <p>*日時・場所の詳細については、決定次第、研究資料準備室掲示板に発表する（11月上旬の予定）。</p>
---

無断欠席・遅刻・早退は認めない。この場合は2020年度の介護等体験への参加を放棄したものと見なす。
- (2) 申込手続  
介護等体験に伴う手続きは、研究資料準備室を窓口として学校・社会教育講座事務室が行う。  
学生がとらなくてはならない手続きについては、「介護等体験ガイダンス（登録）」にて詳細を説明する。
8. 3年次編入学生への注意  
2019年度の介護等体験に参加することはできない。ただし、2018年度に参加申込手続きをし、所定の手続きを完了している場合はこの限りではない。  
2020年度の介護等体験については前項7. を参照し、ガイダンスの出席、申込手続きをとること。

教育学科（初等教育専攻課程）2012～2015年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
	全学共通カリキュラム	必修科目	言語教育科目 言語 A	6	1
言語教育科目 言語 B			4	1	
選択科目		総合教育科目 立教科目群 立教 A（講義系） 立教 B（立教ゼミナール）	6	1～4	
		総合教育科目 領域別科目群 領域別 A（講義系） 領域別 B（文献系）	14	1～4	
区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
	必修科目	基幹科目 A（人文学とキャリア形成）		2	2
指定科目 A 1		入門演習，教育学		6	1
		教育心理学 1，教育社会学 1，教育史 1，教育哲学 1		8	2
指定科目 A 2		初等必修科目		42	2～4
選択科目	基幹科目 B，C，D		10	1～4	
	指定科目 B	指定科目 B 1（演習）		4	3
	指定科目 C	指定科目 C 1（講義）		4	2～4
		※	指定科目 C 1（4単位を超えて修得した分） 指定科目 C 2（「現代教育の諸問題1～4」，「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」，「文学部他学科指定科目 C」を除く）	10	2～4
	指定科目 B，C	指定科目 B 2（教育調査実習 1～4，教育実践研究）		6	2～4
		指定科目 C 1・C 2（※を超えて修得した分） その他の指定科目 C 2（「現代教育の諸問題 1～4」，「卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習」，「文学部他学科指定科目 C」）			
自由科目	12以上	専門教育科目の選択科目（卒業要件単位数を超えて修得した単位）		制限なし	1～4
		全学共通カリキュラム 【総合教育科目】選択科目の卒業要件単位数を超えて修得した単位および総合自由科目 【言語教育科目】言語自由科目			
		文学部他学科科目，教職関連科目			
		他学部科目（*），5大学間単位互換制度科目（最大12単位）			
		大学院開講科目（4年次生のみ）（最大8単位）（**）			
合計	134以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別 A」「領域別 B」のうち，全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については，文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において，（\*）は履修登録後に開講学部の教授会で，また（\*\*）は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り，履修が認められる。



教育学科（初等教育専攻課程）2010・2011年度1年次入学者 卒業要件単位

区分名	卒業要件 単位数計		卒業要件 単位数	履修年次	
全学共通カリキュラム	必修科目	言語教育科目 言語A	6	1	
		言語教育科目 言語B	4	1	
	選択科目	総合教育科目 総合A 1. 人間の探究 2. 社会への視点 3. 芸術・文化への招待	6	1~4	
		総合教育科目 総合A 4. 心身への着目 5. 自然の理解	4	1~4	
	20	総合教育科目全体 【総合A (1, 2, 3)】 6単位を超えて修得した単位 【総合A (4, 5)】 4単位を超えて修得した単位 総合B 領域別A (講義系) 領域別B (文献系) 立教生の学び方 情報実習 スポーツ実習	10	1~4	
合計	134以上				
専門教育科目	必修科目	基幹科目A (人文学とキャリア形成)	2	2	
		指定科目A 1	入門演習, 教育学	6	1
			教育心理学1, 教育社会学1, 教育史1, 教育哲学1	8	2
		指定科目A 2	初等必修科目	42	2~4
	選択科目	34	基幹科目B, C, D	10	1~4
		指定科目B	指定科目B 1 (演習)	4	3
		指定科目C	指定科目C 1 (講義)	4	2~4
			※ 指定科目C 1 (4単位を超えて修得した分) 指定科目C 2 (『現代教育の諸問題1~4』, 『卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習』, 『文学部他学科指定科目C』を除く)	10	2~4
		指定科目B, C	指定科目B 2 (教育調査実習1~4, 教育実践研究)	6	2~4
			指定科目C 1・C 2 (※を超えて修得した分) その他の指定科目C 2 (『現代教育の諸問題1~4』, 『卒業論文(制作)・卒業論文(制作)指導演習』, 『文学部他学科指定科目C』)		
	自由科目	12以上	専門教育科目の選択科目 (卒業要件単位数を超えて修得した単位)	制限なし	1~4
			全学共通カリキュラム 【総合教育科目】卒業要件単位数を超えて修得した単位 【言語教育科目】言語自由科目		
			文学部他学科科目, 教職関連科目		
他学部科目 (*), 5大学間単位互換制度科目 (最大12単位)			0~12		
		大学院開講科目 (4年次生のみ) (最大8単位) (**)	0~8		
合計	134以上				

注1) 全学共通カリキュラムの「領域別A」「領域別B」のうち、全学共通カリキュラム履修要項の開講科目・担当者一覧の備考欄に「文学部所属学生履修不可」とある科目については、文学部に所属する学生は履修できない。

注2) 専門教育科目の自由科目において、(\*)は履修登録後に開講学部の教授会で、また(\*\*)は履修登録に先立って文学部教授会で許可された場合に限り、履修が認められる。

## 教育学科・(初等教育専攻課程)

2010年～2015年度1年次入学者に適用

※担当者、開講学期、履修登録方法は当該年度のシラバス・時間割検索システムで確認すること。

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備 考
<b>必修科目 (指定科目A1)</b>				
自動登録	入門演習J1a	2	1	1 クラス 科目指定
自動登録	〃 J1b	2	1	
自動登録	〃 J1c	2	1	
自動登録	〃 J1d	2	1	
自動登録	〃 J2a	2	1	1 クラス 科目指定
自動登録	〃 J2b	2	1	
自動登録	〃 J2c	2	1	
自動登録	〃 J2d	2	1	
自動登録	教育学	2	1	必修
自動登録	教育心理学1	2	2	
自動登録	教育社会学1	2	2	
自動登録	教育史1	2	2	
自動登録	教育哲学1	2	2	
<b>必修科目 (指定科目A2)</b>				
自動登録	国語科教育法a	2	3	旧科目名「国語科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	社会科教育法a	2	3	旧科目名「社会科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	算数科教育法a	2	3	旧科目名「算数科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	理科教育法a	2	3	旧科目名「理科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	生活科教育法a	2	3	旧科目名「生活科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	家庭科教育法a	2	3	旧科目名「家庭科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	音楽科教育法a	2	3	旧科目名「音楽科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	図画工作科教育法a	2	3	旧科目名「図画工作科教材研究」
自動登録	〃 b	2	3	
自動登録	体育科教育法	2	3	旧科目名「体育教材研究」
自動登録	教職実践演習(小学校) a	2	4	1 クラス 科目指定
自動登録	教職実践演習(小学校) b	2	4	
自動登録	教職実践演習(小学校) c	2	4	
自動登録	教職研究	2	3	必修
自動登録	初等教育実習	6	4	
自動登録	音楽実技1a	1	3	1 クラス 科目指定
自動登録	〃 1b	1	3	
自動登録	〃 1c	1	3	
自動登録	〃 1d	1	3	
自動登録	音楽実技2a	1	3	1 クラス 科目指定
自動登録	〃 2b	1	3	
自動登録	〃 2c	1	3	
自動登録	〃 2d	1	3	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
自動登録	造形表現1a	1	3		1 クラス指定 科目必修
自動登録	〃 1b	1	3		
自動登録	〃 1c	1	3		
自動登録	〃 1d	1	3		
自動登録	造形表現2a	1	3		1 クラス指定 科目必修
自動登録	〃 2b	1	3		
自動登録	〃 2c	1	3		
自動登録	〃 2d	1	3		
自動登録	教育方法学	2	2・3・4	単位を修得していない3年次以上の者のみ自動登録 【2年次に履修希望する者は科目コード登録（教育学専攻課程科目表を参照）】	必修
自動登録	特別活動の理論と方法	2	2・3・4		
自動登録	生徒指導・進路指導	2	2・3・4		
自動登録	教育相談	2	2・3・4		
自動登録	道德教育の理論と方法	2	2・3・4		
<b>選択科目（指定科目B1）</b>					
その他	演習J1	2	3		
その他	〃 J2	2	3		
その他	〃 J3	2	3		
その他	〃 J4	2	3		
その他	〃 J5	2	3		
その他	〃 J6	2	3		
その他	〃 J7	2	3		
その他	〃 J8	2	3		
その他	〃 J9	2	3		
その他	〃 J10	2	3		
その他	〃 J11	2	3		
その他	〃 J12	2	3		
その他	〃 J13	2	3		
その他	〃 J14	2	3		
その他	〃 J15	2	3		
その他	〃 J16	2	3		
その他	〃 J17	2	3		
その他	〃 J18	2	3		
<b>選択科目（指定科目B2）</b>					
AE221	教育調査実習1	2	3・4		
AE222	〃 2	2	3・4		
AE223	〃 3a	2	3・4		
AE224	〃 4a	2	3・4		
AE225	〃 3b	2	3・4		
AE226	〃 4b	2	3・4		
AE251 ～AE259	教育実践研究	2	2・3・4		
<b>選択科目（指定科目C1）</b>					
AF251	国語科教育論	2	2・3・4		4 単位以上必修
AF202	社会科教育論	2	2・3・4		
AF253	算数科教育論	2	2・3・4		
AF254	理科教育論	2	2・3・4		
AF255	生活科教育論	2	2・3・4		
AF206	家庭科教育論	2	2・3・4		
抽選登録	体育実技	2	3・4	定員20名	

## 2010～2015年度1年次入学者に適用

科目コード	科目名	単位数	配当年次	備考	
<b>選択科目（指定科目C2）</b>					
AE301	情報教育論	2	2・3・4	指定科目C1超過履修分と合わせて10単位以上必修	
AE302	カウンセリング	2	2・3・4		
AE303	幼児教育学	2	2・3・4		
AE304	比較教育学1	2	2・3・4		
AE305	〃 2	2	2・3・4		
AE323	キリスト教と教育1	2	2・3・4		AA369「キリスト教学講義15（キリスト教と教育1）」と同一科目。重複履修不可（2014年度より）。
AE324	〃 2	2	2・3・4		AA370「キリスト教学講義16（キリスト教と教育2）」と同一科目。重複履修不可（2014年度より）。
AE321	教育心理学2	2	2・3・4		
AE322	教育社会学2	2	2・3・4		
AE306	教育史2	2	2・3・4		
AE307	教育哲学2	2	2・3・4		
AE308	社会教育・生涯学習論	2	2・3・4		
AE309	教育課程論	2	2・3・4		
AE310	国際教育論	2	2・3・4		
AE311	環境教育論	2	2・3・4		
抽選登録	教育と表現	2	2・3・4		定員60名
AE313	教育臨床論	2	2・3・4		
AE314	教育臨床心理学	2	2・3・4		
AE315	発達心理学	2	2・3・4		
AE319	子ども文化論	2	2・3・4		
AE320	哲学的人間学	2	2・3・4		
	指定科目C1	超過履修分			
AE316	現代教育の諸問題1	2	2・3・4	2020年度以降廃止予定	
AE317	〃 2	2	2・3・4		
AE318	〃 3	2	2・3・4		
AE325	〃 4	2	2・3・4		
	上記以外の文学部指定科目C				
AE781	卒業論文（制作）・卒業論文（制作）指導演習	10	4		
AE782	〃	10	4		
AE783	〃	10	4		
AE784	〃	10	4		
AE785	〃	10	4		
AE786	〃	10	4		
AE787	〃	10	4		
AE788	〃	10	4		
AE789	〃	10	4		
<b>自由科目</b>					
	全学共通カリキュラム総合教育科目 ・言語教育科目（自由科目）	} 超過履修分			
	文学部基幹科目				
	指定科目B1, B2, C1, C2				
	文学部他学科科目	} 12単位以内			
	他学部科目				
	5大学間単位互換制度による科目				

科目 コード	科目名	単位数	配当年次	備考
<b>自由科目：教職関連科目（教職課程登録者のための設置科目）</b>				
※教職課程登録者以外に履修を認める科目もある。Ⅲ-2履修規定「3-1他学部科目の履修」にて履修の可否を確認すること。				
BX303	民法1	2	1・2・3・4	履修希望者は希望届（教務事務センターにて配付）を2019年4月6日（土）12：30までに教務事務センターレポートBOXに提出すること。  ※「社会学原論1・2」は、 ①春学期・秋学期セットで履修すること。 ②クラスは大学が指定する。 ③「社会学原論2」のみ履修を希望する場合および履修登録の取消を希望する場合は、秋学期授業開始前までに教務事務センター履修・成績窓口に申し出ること。
BX304	〃 2	2	1・2・3・4	
BX162	社会政策論1	2	2・3・4	
BX163	〃 2	2	2・3・4	
EX240	国際政治	4	2・3・4	
	経済原論A	4	2・3・4	
	〃 B	4	2・3・4	
	社会学原論1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 1	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
	〃 2	2	1・2・3・4	
<b>随意科目（教職課程登録者のみ履修可 卒業要件とはならない）</b>				
AE501	世界史	2	1・2・3・4	
AE502	日本史	2	1・2・3・4	



# 諸規則

- 1 立教大学学則（抜粋）
- 2 立教大学学位規則（抜粋）  
学位規則第3条第4項に関する諒解事項
- 3 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・  
立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書
- 4 明治大学，立教大学及び国際大学による  
共同教育プログラムの履修等に関する覚書





# 1 立教大学学則（抜粋）

## 第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨とし、学校教育法（昭和22年法律第26号）により学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めることを目的とする。

2 学部ごとの、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表7のとおりとする。

(設置)

第2条 本大学に学部及び大学院を置く。

(学部、学科等)

### 第3条 略

(修業年限)

第4条 1年次から同一学部・学科・専修に在学する者の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

2 2年次に編入学又は転部・転科した者の当該学部・学科の修業年限は3年とする。ただし、在学年数は7年を超えることができない。

3 3年次に編入学又は転部・転科・転専修した者の当該学部・学科・専修の修業年限は2年とする。ただし、在学年数は6年を超えることができない。

(学士の学位)

第5条 1年次から同一学部・学科・専修に4年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

2 2年次に編入学又は転部・転科した場合、当該学部・学科に3年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

3 3年次に編入学又は転部・転科・転専修した場合、当該学部・学科・専修に2年以上在学して、所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者には学士の学位を授与する。

4 学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学 部	学 科	専攻分野名
文 学 部	キリスト教学科	文学
	史学	
	教育学科	文学
経 済 学 部	経済学科	経済学
	会計ファイナンス学科	
	経済政策学科	
理 学 部	数学科	理学
	物理学科	
	化学科	
	生命理学科	
社 会 学 部	社会学科	社会学
	現代文化学科	
	メディア社会学科	
法 学 部	法学科	法学
	政治学科	
	国際ビジネス法学科	
観 光 学 部	観光学科	観光学
コミュニティ福祉学部	福祉学科	コミュニティ福祉学
	コミュニティ政策学科	
	スポーツウエルネス学科	
経 営 学 部	経営学科	経営学
	国際経営学科	
現 代 心 理 学 部	心理学科	心理学
	映像身体学科	
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2期とする。

春学期 4月1日から9月19日まで

秋学期 9月20日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）で規定する休日

(3) 本大学創立記念日 5月5日

(4) 春季休業 2月上旬から3月下旬まで

(5) 夏季休業 7月下旬から9月中旬まで

(6) 冬季休業 12月下旬から翌年1月上旬まで

2 前項の休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることがある。

## 第2章 教育課程

### 第1節 単位

第9条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 輪講、実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第10条 学生は、第13条から第18条の6に定める所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

2 授業科目は、全学共通科目及び専門教育科目は配当年次の指定科目を除き全年次において履修させる。

第10条の2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

第10条の3 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第1項及び第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第10条の4 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に、大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本大学は、教育上有益と認めるときは、教授会の定めるところにより、学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転部等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第10条の2第1項及び第2項並びに前条第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第11条 小学校、中学校、高等学校教諭1種免許状取得希望者は、各学部・学科・専修に配置された教科に関する専門教育科目及び文学部教育学科に配置された小学校、中学校、高等学校教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門教育科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

2, 3, 4 略

第12条 学芸員の資格を取得しようとする者は、各学部・学科所定の単位のほか、第19条に定められた博物館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

博物館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

2 司書の資格及び司書教諭の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた図書館に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

図書館に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

3 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、第19条に定められた社会教育に関する科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

社会教育に関する科目及びその単位は、第10条に規定する授業科目及び単位には含まれない。

第13条～第19条 略

## 第3章 試験

## 第20条 削除

第21条 試験は、各授業科目について行い、合格、不合格を定める。

2 試験成績は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

3 試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

第22条 忌引その他の事由により試験を受けることができなかった者のために、追試験を行うことがある。

第23条 休学中は、試験を受けることができない。

## 第4章 入学、編入学、休学、復学、退学、再入学及び除籍

(入学)

### 第24条 略

第24条の2 立教新座高等学校、立教池袋高等学校及び日本聖公会関係の各高等学校又は本大学の推薦入学者制度の指定を受けた高等学校の卒業生中当該学校長の推薦した者については、前条の規定にかかわらず選抜試験の一部又は全部を免除することができる。

(編入学)

第25条 2年次以上に編入学又は転部・転科・転専修を許可する者は、別に定める本大学の編入学又は転部・転科・転専修の資格を有し、かつ、本大学で行う選抜試験に合格し所定の手続を完了した者とする。

第26条 第24条による入学資格を有しない外国人学生であって在外公館の推薦ある者は、審査の上、学修を許可することがある。

2 前項により学修を許可された者は、第5条を除き本学則を準用する。

(入学期)

第27条 入学期は、学年又は学期の初めとする。

2 第50条の2に規定する特別外国人学生の入学時期は、各年の4月1日又は9月1日とすることができる。

3 略

(入学志願手続)

第28条 入学志願者は、入学願書、出身学校長証明の調査書、写真を提出し、かつ、別表2の1若しくは別表2の2による入学検定料を納めなければならない。

(入学手続)

第29条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は、保証人を定め、所定の期日までに保証書を提出し、その他指定された手続をしなければならない。

2 本大学は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。

第30条 保証人は、本人在学中に係る一切の事項についてその責に任じ、本人の父母又はこれに代わるべき者でなければならない。

第31条 保証人が死亡し又は前条の要件を欠いた時は、遅滞なく新たな保証人を定め更に保証書を提出しなければならない。

(休学及び復学)

第32条 病気その他やむを得ない事由により満2か月以上就学することができないときは、保証人連署をもって願い出て許可を受け当該学期休学することができる。なお、その事実を証明する書面の提出を求めることがある。

2 休学中の期間は、在学年数に算入しない。

3 休学回数は、通算して8回を超えることができない。

4 休学者は、第1項により休学した期間終了後、学期の初めにおいて復学する。

(退学)

第33条 病気その他の事由により退学しようとする場合は、保証人連署をもって願い出て許可を受けなければならない。

(再入学)

第34条 願いにより退学した者が再入学を願い出るときは、学年又は学期の初めにおいて原年次に入学を許可することがある。

第35条 再入学を許可された者は、第29条に規定する手続をしなければならない。

(除籍)

第36条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 第4条各項のただし書に定める在学年数を超えた者

(2) 学費を納めない者

第36条の2 入学、編入学、休学、退学及び再入学の許可並びに除籍は、教授会の議を経て、総長が行う。

## 第5章 留学

第37条 本大学の学生が本大学との間にあらかじめ学生の相互交流を目的とする協定、又は本大学からの留学に関する協定が成立している外国の大学、又はこれに相当する高等教育機関等及び本学が認めた同等の大学、機関の授業科目を履修するため当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することがある。

2 前項による留学は、本大学における学籍上の扱いを在学のままとする留学（以下「在学留学」という。）及び休学とする留学（以下「休学留学」という。）の2種とする。

第38条 在学留学の許可を受けた者については、その許可を受けた期間を本大学における在学年数に算入する。

第39条 在学留学の許可を得た者が、留学した大学等において修得した単位

又は成果のうち、教授会が適当と認めたものは、第10条の2第2項に基づき、本大学の卒業に必要な単位として認定することがある。

第40条 第32条の規定は、休学留学のための休学に準用する。

## 第6章 学費その他

第41条 選抜試験に合格した者で本大学に入学しようとする者は、別表2の3及び別表2の4による学費を指定された入学手続期間内に納めなければならない。

2 学生は、別表2の4による学費を毎学年授業開始後の指定の期日までに納めなければならない。

3 第1項及び前項に定める学費のうち授業料、教育充実費及び実験・実習費は、春学期・秋学期に分納するものとする。

第42条 学費とは、入学金、授業料（在籍料を含む。）、教育充実費及び実験・実習費をいう。

第43条 学費は、休学中も別に定める額を納めなければならない。

第44条 学年の途中で退学する場合も、学費は別に定める額を納めなければならない。

第45条 既に納めた学費その他の納入金は、次項及び第3項に定めた場合を除いて、返還しない。

2 選抜試験に合格し学費その他の納入金を納めた者のうち、やむを得ない事由により、所定の手続きに則り入学辞退願を提出した者については、入学金を除く学費その他の納入金を返還するものとする。

3 出願時に卒業見込みや所定単位修得見込みなどで選抜試験に合格し、学費その他の納入金を納めた後に、卒業不可や所定単位未修得などが確定し、入学資格要件を満たすことができなくなった者は、届け出により入学金を含む学費その他の納入金を返還するものとする。

第46条 在学中の学費その他について変更のあった場合には、新たに定められた額に基づいて納めなければならない。

第47条 教育職員免許状取得に必要な教職に関する専門科目及び学芸員・司書・司書教諭・社会教育主事の資格取得に必要な科目を履修する者は、別表3による受講料を納めなければならない。

第48条 削除

第49条 証明書等の交付を受ける者は、別表5による手数料を納めなければならない。

第50条 学費滞納者には、当該年次の単位認定、研究指導の認定及び学位の授与を行わない。

## 第6章の2 特別外国人学生

(特別外国人学生)

第50条の2 本大学と協定のある外国の大学から派遣される学生及び政府その他の機関から本大学に委託される外国人学生は、審査の上、特別外国人学生として入学を許可することがある。

第50条の3 入学を許可された特別外国人学生は、所定の手続をし、かつ、別に定める納入金を納めなければならない。

(単位の認定)

第50条の4 特別外国人学生が履修した授業科目については、所定の単位を与えることができる。

(学則の準用)

第50条の5 特別外国人学生については、第5条を除き本学則を準用する。

第50条の6 略

## 第7章 科目等履修生・特別聴講学生・短期プログラム受講生

(科目等履修生)

第51条 各学部及び全学共通科目所定の授業科目中その1授業科目又は数授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することがある。

2 教職課程、学芸員課程、司書課程及び社会教育主事課程の所定の授業科目の学修を願い出る者に対して、選考の上、科目等履修生として学修を許可することがある。

3 科目等履修生として学修を願い出る者は、別表6による選考料を納めなければならない。

4 科目等履修生が、その履修した授業科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

(特別聴講学生)

第51条の2 本大学と協定のある他大学学生及び他の教育機関の学生・生徒が、本大学の授業科目の学修を願い出るときは、特別聴講学生として許可することがある。

2 特別聴講学生が、その聴講した科目に合格した場合には、所定の単位を与える。

(短期プログラム受講生)

第51条の3 略

(登録料及び受講料)

第52条 第51条第1項及び第2項で科目等履修生として学修を許可された者は、別表6による登録料及び受講料を指定された期間内に納めなければならない。

第53条 削除

(学則の準用)

第54条 科目等履修生、特別聴講学生については、第5条を除き本学則を準用し、第51条、第51条の2及び第52条で規定した以外の事項については別に定める細則による。

第54条の2 略

## 第8章 賞罰

第55条 品行方正学業優等の者又は善行により本大学の名誉を揚げた者は、これを表彰する。

第56条 本大学の規則に違反し、又は本大学の教育方針に背いた者は、これを懲戒する。

2 懲戒は、訓告、停学及び退学の3種とする。

3 退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 学業を怠り成業の見込みのないと認められる者
- (2) 性行不良で改善の見込みのないと認められる者
- (3) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学は、行為により以下の各号が適用される場合がある。

- (1) 停学期間を在学年数に算入しない。
- (2) 当該年度の卒業を認めない。

5 停学中は以下の各号が適用される。

- (1) 停学中は、大学からの指示がある場合を除き、原則として大学に来ることはできない。
- (2) 当該科目の授業時数の2分の1以上の期間にわたって停学であった場合は、当該科目の単位修得は認められない。
- (3) 停学中は休学を願い出ることにはできない。
- (4) 停学中は第37条による留学はできない。

第57条 賞罰は、教授会の議を経て、総長がこれを行う。

## 第9章 教職員組織 略

## 第10章 教授会 略

## 第11章 附属施設

### 第1節 礼拝堂

第78条 礼拝堂は、本大学の建学精神の象徴であつて教職員及び学生が日本聖公会の信仰と法憲・法規に基づいてキリスト教生活を営むことを目的とする。

第79条 礼拝堂においては、次の行事を行う。

- (1) 礼拝
- (2) 本学の諸式典
- (3) キリスト教講演
- (4) 聖書研究
- (5) その他のキリスト教行事

### 第2節 図書館

第80条 本大学図書館は、池袋図書館、新座図書館、及び新座保存書庫をもつて構成する。

## 第81条～第84条 略

### 第3節 診療所

第85条 診療所は、教職員並びに学生の保健衛生思想の向上、疾病の予防並びに診療を行うことを目的とする。

第86条 本診療所の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 定時並びに不定時健康診断の実施
- (2) 治療の実施
- (3) 保健衛生に関する講演会の開催
- (4) その他必要と認められた事項

### 第4節 学生相談所

第87条 略

第88条 学生相談所は、学生が当面する問題について、カウンセリングを行うことを目的とする。

第89条 略

### 第5節 研究所等

第90条 この大学に、研究所、センターその他の附属教育研究機関（以下「研究所等」という。）を置く。

第91条 前条の研究所等については、別に定める。

附則 略



## 2 立教大学学位規則（抜粋）

（目的）

第1条 この規則は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第1項から第4項まで並びに学位規則（昭和28年文部省令第9号）並びに立教大学学則（以下「学則」という。）及び立教大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）に基づき、立教大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

（専攻分野の名称）

第2条 本学の学部・学科において授与する学士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

学部名	学 科	専攻分野名
文 学 部	キリスト教学科 史 学 科 教 育 学 科	文学
	文 学 科	文学 学術
経 済 学 部	経 済 学 科 会計ファイナンス学科 経 済 政 策 学 科	経済学
	数 学 科 物 理 学 科 化 学 科 生 命 理 学 科	理学
社 会 学 部	社 会 学 科 現 代 文 化 学 科 メ ディア 社 会 学 科	社会学
	法 学 科	法学
法 学 部	政 治 学 科 国 際 ビジネス 法 学 科	政治学 法学
	観 光 学 科 交 流 文 化 学 科	観光学
コミュニティ福祉学部	福 祉 学 科 コミュニティ政策学科	コミュニティ福祉学
	スポーツウエルネス学科	スポーツウエルネス学
経 営 学 部	経 営 学 科 国 際 経 営 学 科	経営学
	心 理 学 科 映 像 身 体 学 科	心理学 映像身体学
現代心理学部	映 像 身 体 学 科	映像身体学
異文化コミュニケーション学部	異文化コミュニケーション学科	異文化コミュニケーション学

2 本学大学院において授与する修士及び博士の学位の専攻分野名を次のとおりとする。

研究科名	専攻分野名	
	修 士	博 士
文 学 研 究 科	修士（文学）	博士（文学）
	修士（教育学）	博士（教育学）
	修士（比較文学）	博士（比較文学）
経 済 学 研 究 科	修士（経済学）	博士（経済学）
	修士（会計学）	博士（会計学）
理 学 研 究 科	修士（理学）	博士（理学）
社 会 学 研 究 科	修士（社会学）	博士（社会学）
法 学 研 究 科	修士（法学）	博士（法学）
	修士（政治学）	博士（政治学）
観 光 学 研 究 科	修士（観光学）	博士（観光学）
コミュニティ福祉学研究科	修士（コミュニティ福祉学）	博士（コミュニティ福祉学）
	修士（スポーツウエルネス学）	博士（スポーツウエルネス学）
ビジネスデザイン研究科	修士（経営管理学）	博士（経営管理学）
21世紀社会デザイン研究科	修士（社会デザイン学）	博士（社会デザイン学）
異文化コミュニケーション研究科	修士（異文化コミュニケーション学）	博士（異文化コミュニケーション学）

経 営 学 研 究 科	修士（経営学）	博士（経営学）
	修士（国際経営学）	
	修士（公共経営学）	
現 代 心 理 学 研 究 科	修士（心理学）	博士（心理学） 博士（臨床心理学） 博士（映像身体学）
	修士（臨床心理学）	
	修士（映像身体学）	
キリスト教学研究科	修士（神学）	博士（神学） 博士（文学）
	修士（文学）	
	修士（実践神学）	

3 本学専門職大学院において授与する学位を次のとおりとする。

研究科名	学位名
法務研究科	法務博士（専門職）

（学位授与の要件）

第3条 本学を卒業した者には、学則第5条第1項、第2項及び第3項の定めるところにより、前条所定の学士の学位を授与する。

2 本学大学院の修士課程又は前期課程を経た者には、大学院学則第5条第1項及び第2項の定めるところにより、前条所定の修士の学位を授与する。

3 本学大学院の後期課程を経た者には、大学院学則第6条第1項から第4項までの定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

4 本学大学院の後期課程を経ない者には、大学院学則第6条第5項の定めるところにより、前条所定の博士の学位を授与する。

5 本学専門職大学院の専門職学位課程を経た者には、立教大学専門職大学院学則第5条の定めるところにより、前条所定の学位を授与する。

（学位申請論文の提出）

第4条 修士の学位申請論文（以下「論文」という。）は、各研究科の定めるところにより、総長に提出するものとする。

2 本学大学院の後期課程に在学する者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添えて、論文を総長に提出するものとする。

3 本学大学院の後期課程を経ない者が、博士の学位の授与を申請するときは、学位申請書、研究業績一覧、論文の要旨、履歴書及び別に定める論文審査手数料を添え、学位の専攻分野名を指定して論文を総長に提出するものとする。

4 本学大学院の後期課程に3年以上在学して退学した者が、博士の学位の授与を申請する場合は、前項の規定によるものとする。

5 総長は、学位の授与の申請が前4項のうちの1項に規定する要件を具備するときは、これを受理する。受理した申請は原則として、その取下げを認めない。

6 第1項、第2項及び第3項の規定により提出した論文並びに論文審査手数料は、返還しない。

7 大学院学則第5条第2項で定める「特定の課題についての研究の成果」は、本規則及び本条第1項の規定を準用する。

（論文）

第5条 前条の規定により提出する主論文は1篇とし、修士の学位申請の場合は1部、博士の学位申請の場合は、PDF版1部・くみ製本版3部を提出することを原則とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

2 審査のため必要があるときは、審査委員会は、参考論文、論文の訳文、模型又は標本等の審査資料を提出させることができる。

（論文の審査付託）

第6条 第4条第5項の規定により論文が受理されたときは、総長は、申請された学位に該当する研究科委員会にその論文の審査を付託する。

（審査委員会）

第7条 前条の規定により論文の審査を付託された研究科委員会は、申請された学位に該当する専攻の教員を含む3名以上からなる審査委員会を設ける。

2 審査委員会は、主査1名と複数の副査により構成する。

3 審査委員会は、審査のため必要があると認めるときは、研究科委員会の議を経て、論文に関連する専門の教員等を審査委員会の副査に加えることができる。

4 審査委員会の主査は、申請された学位に該当する専攻に所属する教員から選出する。ただし、募集を停止した専攻においては別に定める。

（論文の審査及び試験）

第8条 審査委員会は、論文の審査並びに最終試験を行う。

2 最終試験は、論文、それに関連する科目並びに2種類の外国語について口頭又は筆答によって行う。

3 審査委員会は、論文の審査の結果、その内容が著しく不良であると認める

ときは、最終試験を行わない。

4 第3条第4項による審査の場合は、本条第2項のほかに専攻学術に関し本学大学院後期課程を経て学位を授与された者と同様の学識を有することを認定しなければならない。

(試験の免除)

第9条 第4条第1項、第2項及び第4項の規定により学位を申請する者は、前条第2項に規定する外国語の試験を免除する。

(審査期間)

第10条 審査委員会は、修士の学位についてはその学期末までに、第4条第2項によって申請される博士の学位については申請のあった学期末までに、第4条第3項又は第4条第4項によって申請される博士の学位については申請受理後1年以内に、それぞれの論文の審査及び最終試験を終了しなければならない。ただし、博士の学位については、特別の事由のあるときは、研究科委員会の議を経て、その期間を更に1年以内に限り延長することができる。

(審査委員会の報告)

第11条 審査委員会の主査は、論文の審査並びに最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、研究科委員会に文書で報告しなければならない。ただし、必要に応じて副査の1名に文書の起草を依頼することができる。

2 審査委員会は、第8条第3項の規定に従って最終試験を行わなかった場合は、その旨を研究科委員会に文書で報告しなければならない。

(研究科委員会の審議)

第12条 研究科委員会は、前条の報告に基づき、第3条第2項及び第3項によるものについては、大学院学則に従って、学位授与の可否を審議し、同条第4項によるものについては、その論文及び最終試験の合否並びに博士の学位授与の可否について審議し、議決をする。

2 前項の議決は、委員全員の3分の2以上の出席を必要とし、出席委員の4分の3以上の賛成がなければならない。ただし、公務又は出張のため出席することができない委員は、委員の数に算入しない。

(研究科委員長の報告)

第13条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、その研究科委員長は、論文とともに、論文の内容の要旨、論文審査の要旨及び最終試験の結果の要旨に学位授与の可否の意見を添え、文書で総長に報告しなければならない。

第13条の2 削除

(学位授与の決定)

第14条 総長は、前条の報告に基づいて大学院委員会を招集し、その審議を経て学位授与の可否を決定する。

2 大学院委員会において前項の審議の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(学位の授与)

第15条 総長は、前条の決定に基づいて学位を授与すべき者には、所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(学位論文の要旨等の公表)

第16条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3か月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査の結果の要旨を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を「立教大学学術リポジトリ」により公表しなければならない。ただし、既に公表したときは、この限りでない。

2 博士の学位を授与された者は、前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

なお、この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前項の規定により学位論文を公表する場合は、立教大学審査論文である旨を明記しなければならない。

(学位の名称の使用)

第18条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、本学名を「立教大学学士(〇〇学)」、「立教大学修士(〇〇学)」、「立教大学博士(〇〇学)」、「立教大学法務博士(専門職)」又は

「 $\left. \begin{array}{l} \text{学士(〇〇学)} \\ \text{修士(〇〇学)} \\ \text{博士(〇〇学)} \\ \text{法務博士(専門職)} \end{array} \right\}$  (立教大学)」のように付記するものとする。

(学位授与の取消)

第19条 学位を授与された者が、その名誉を活す行為をしたとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、大学院委員会の議を経て、学位の授与を取消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表しなければならない。

2 前項の議決をするには、第12条第2項を適用する。

(登録)

第20条 本学において博士の学位を授与したときは、総長は、学位簿に登録し、3か月以内に、別表1の様式による学位(博士)授与報告書を電子メールにより文部科学大臣に提出しなければならない。

(学位記の様式)

第21条 学位記の様式は、別表2のとおりとする。

学位規則第3条第4項に関する諒解事項

立教大学学位規則第3条第4項の規則により学位を申請する者に対しては、外国語については研究科委員会が特別の事由があると認めるときは、1種類若しくは2種類を免除することができる。

### 3 学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学学生交流に関する覚書

学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学及び早稲田大学は「学習院大学・学習院女子大学・日本女子大学・立教大学・早稲田大学大学間交流に関する協定書」に基づき、互恵の精神を以て相互に多様な授業科目を開放し、学生が相互履修することについて、本覚書を締結する。

1. 受入  
各大学は、協定大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、協定に基づき当該学生を受け入れることができる。
2. 受入学生の身分  
各大学は、前項によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。
3. 対象者  
各大学に在学する2年次以上の学部学生を対象とする。
4. 受入学生数  
この協定により各大学が受け入れる特別聴講学生数は、5大学で協議の上決定する。
5. 個人情報提供及び保護
  - (1) 各大学は、相互履修を希望する自大学の学生の学籍に関する必要情報を相互に提供するものとする。
  - (2) 前項により得た情報は、5大学間学生交流に関する目的以外に使用してはならない。
6. 履修期間  
特別聴講学生の履修期間は、当該学生の履修科目に必要と定められた期間とする。
7. 履修科目の範囲および単位数
  - (1) 各大学の提供科目数は、5大学で協議の上調整する。
  - (2) 各大学は、それぞれの大学が開講する科目のうち特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、相互に通知する。
  - (3) 各提供科目毎の特別聴講学生受入人数は、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
  - (4) 特別聴講学生が同一年度内に履修できる単位数の上限は、5大学で協議の上決定する。
8. 申請及び承認手続き  
特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、学生を受け入れる大学の許可を得るものとする。
9. 履修方法・成績評価等
  - (1) 特別聴講学生の履修方法、成績評価等については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。
  - (2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。
10. 図書館の相互利用に係る便宜  
各大学は、特別聴講学生の勉学に資するため、特別聴講学生の大学図書館の利用に関して配慮するものとする。
11. 施設・設備利用の便宜  
前条によるほか、特別聴講学生が提供科目を履修するに際し、当該科目を設置する大学の施設及び設備の利用が必要と認められる場合には、特別聴講学生に対し、当該大学の定めるところによりその利用について便宜を図るものとする。
12. 学費等
  - (1) 各大学は、特別聴講学生の授業履修に係る授業料等については、これを相互に免除するものとする。
  - (2) 授業の履修に必要な実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによる。
13. 協議  
本覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、5大学の協議により定める。
14. その他
  - (1) 本覚書の改廃は5大学の協議を経て行う。
  - (2) 本覚書は2001年4月1日から施行し、2004年3月31日まで有効とする。ただし、有効期限の6か月前までに申し出がない場合は、さらに1年間延長するものとし、以後についても同様とする。



## 4 明治大学、立教大学及び国際大学による共同教育プログラムの履修等に関する覚書

明治大学、立教大学及び国際大学（以下「3大学」という。）は、学長及び総長により締結した「国際協力人材の育成に関する協定」（以下「協定」という。）第3条に基づき、共同教育プログラムの履修等関連事項について、この覚書を締結する。

（受入）

**第1条** 各大学は、この覚書に基づき、3大学の学生が指定された授業科目の履修を希望するときは、当該学生を受け入れることができる。

（受入学生）

**第2条** 各大学は、前条によって受け入れた学生を、特別聴講学生と称する。ただし、受入大学において別に定める場合はこの限りでない。

（受入学生数）

**第3条** 各大学が受け入れる特別聴講学生数は、授業科目ごとに受入大学が決定する。

（個人情報提供及び保護）

**第4条** 特別聴講学生の個人情報提供及び保護は、次のとおりとする。

- (1) 各大学は、特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生の学籍に関する必要情報をそれぞれの大学に提供するものとする。
- (2) 前項により得た情報は、3大学間の単位互換に関する目的以外に使用してはならない。

（履修期間）

**第5条** 特別聴講学生の履修期間は、当該学生が履修する授業科目に必要と定められた期間とする。

（履修科目の範囲及び履修上限単位数）

**第6条** 特別聴講学生が履修できる授業科目の範囲及び履修できる単位の上限は、次のとおりとする。

- (1) 各大学が提供する授業科目数は、3大学で協議の上調整する。
- (2) 各大学は、共同教育プログラムのうち、特別聴講学生が履修できる授業科目を提供科目として選定し、互いに通知する。
- (3) 特別聴講学生が同年度内に履修できる単位数の上限は、3大学で協議の上決定する。

（履修申請）

**第7条** 特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生は、定められた期間に所定の申請手続きをとり、受入大学の許可を得るものとする。

（履修方法、試験方法及び成績評価等）

**第8条** 特別聴講学生の授業科目の履修方法、試験方法及び成績評価等は、次のとおりとする。

(1) 特別聴講学生の履修方法、試験方法及び成績評価については、当該科目を設置する大学の定めるところによる。

(2) 特別聴講学生が修得した単位の認定に関わる事項は、学生の所属大学が定めるところによる。

（授業料等）

**第9条** 特別聴講学生の授業料等は、徴収しない。ただし、実験・実習費等特別な経費については、当該授業科目を設置する大学の定めるところによりこれを徴収することができる。

2 前項の規定にかかわらず、国際大学が受け入れる特別聴講学生の授業料等については別途協議するものとする。

（授業担当教員に対する給与、手当、交通費等）

**第10条** 特別聴講学生の履修する授業科目を担当する教員の給与、手当及び交通費等については、原則として、当該科目を開講する大学の規程による。

（利用の施設）

**第11条** 特別聴講学生が履修に必要な施設・設備の利用については、受入大学の定めるところにより、その利用について便宜を図るものとする。

（この覚書の効力）

**第12条** この覚書の有効期間は、協定の有効期間満了の6か月前までに3大学のいずれかの大学から他方の大学に対して書面による覚書破棄通告を行わない限り、協定の有効期間に準ずるものとする。

2 この覚書の失効日時点で受入大学において授業科目を履修中の特別聴講学生は、当該失効日の影響を受けず、当初予定していた授業科目の履修期間を満了できるものとする。

（その他）

**第13条** この覚書に定めるもののほか、協定の実施に関する必要事項は、3大学の協議により定める。

2 この覚書3通を作成し、それぞれの当事者記名の上、それぞれ1通を保有する。

附 則

この覚書は、2013年（平成25年）4月1日から施行する。



# 個人情報 保護

プライバシーポリシー  
立教大学における個人情報の取扱いについて



## プライバシーポリシー

### 立教大学における個人情報の取扱について

最終更新日 2017年6月1日

#### 〈個人情報に関する基本的な考え方〉

立教大学（以下「大学」という。）では、個人情報保護の重要性を認識し、その適切な管理を行うことが重要な社会的責務であると考えています。個人情報に関する法令等を遵守すると共に、「立教大学個人情報保護規程」に基づいた、以下のプライバシーポリシーに従って個人情報の保護に努めております。

#### 1. 個人情報とは

現在大学に在籍している、及び過去において在籍した学生、大学院学生、受験生、保証人、教職員等に関する情報であって、個人が識別されるものをいいます。

#### 2. 個人情報の収集について

個人情報は適正かつ公正な手段によって収集し、不正な手段によっては情報を収集しません。また、収集にあたっては、自明の場合を除き、その利用目的を明らかにします。

#### 3. 個人情報の利用目的

大学の正課・正課外等教育研究活動及びそれに付随する必要なサービスの提供並びに校務のために利用します。より具体的な利用目的は、別表に定める他、情報収集の際に明示します。

#### 4. 情報の提供について

大学では、以下の場合を除き、情報を外部に提供することはありません。

- (1) 大学の業務に必要な不可欠な場合
- (2) 情報主体が同意している場合
- (3) 法令による場合
- (4) 情報主体の身体・生命等を保護するため、緊急かつ止むを得ない場合
- (5) 情報の同一性確認を求める公的機関からの依頼がある場合
- (6) 学術研究に利用する場合

#### 5. 情報の管理方法

立教大学では、個人情報を正確、最新のものにするよう適切な措置を講じています。また、個人情報の漏洩、紛失、誤用、改ざん、不正アクセス等を防止するための合理的な保護措置をとっています。

業務委託、事業継承及び共同利用にあたっては、機密保持条項を含む契約を締結し、委託先に対し、情報に関する厳重管理を求め、目的以外の利用を行わせないようにしています。

なお、上記の保護措置及び管理措置を実施するために、大学に「個人情報保護統括管理責任者」及び各部署・部署等に「個人情報管理責任者、個人情報取扱責任者」を定めています。

#### 6. 情報の開示・訂正

個人情報の開示は、「立教大学個人情報保護規程、同施行細則」に基づいて行われます。個人情報の内容に誤りがあった場合には速やかに訂正いたします。

#### 7. 不服の申し立て

大学の個人情報の取扱いについて不服がある場合は、「個人情報保護審査会」に申し立てることができます。個人情報保護審査会への申し立ては大学の主要窓口で受付いたします。

別表（「3. 個人情報の利用目的」関係）

利用区分	利用業務
教育研究	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 入学関係（出願・入学手続）</li> <li>2 学籍関係（学生証交付、名簿作成等の学籍管理、休学・復学・退学等の諸手続き等）</li> <li>3 授業関係（履修相談、履修登録・通知、授業・実習・試験運営、成績処理・通知*1・管理、学修効果確認、卒業判定、学位記授与等々）</li> <li>4 各種証明書等の発行</li> <li>5 図書館の利用及び各種図書館サービスの提供</li> <li>6 教学に関わる調査・統計資料作成*2</li> <li>7 学術研究に関わる調査*3・統計資料作成*2</li> <li>8 実習関係（教育実習、介護等体験、博物館実習、図書館実習等）</li> <li>9 教員免許状申請</li> <li>10 大学内への掲示等による大学各部署からの連絡・問い合わせ</li> <li>11 卒業後の学籍・成績関係情報の在籍記録保存、各種証明書等作成・発行</li> </ol>

教育学術交流・留学等支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 他大学・大学院との単位互換制度関係（国の内外を問わない）</li> <li>2 学生からの申し込みを受けて行う留学のための各種アテンド</li> <li>3 海外文化研修・海外語学研修、学部単位の留学制度を利用する学生の派遣及び受入の準備のための情報授受</li> <li>4 学生および保証人に送付する各種関係書類の発送</li> <li>5 学生および保証人に対し当該プログラム実施の為にを行う連絡・問合せ</li> <li>6 学生が希望する、私費外国人留学生奨学金の選考結果を利用する学内外の奨学金選考及び推薦資料の作成等に関する事務</li> </ol>
学生生活支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学生生活全般の指導・助言</li> <li>2 学生対象の各種福利厚生業務（奨学金・学生健康保険互助組合・留学生総合住宅補償・学生食堂・アルバイト紹介・部屋紹介・遺失物・臨時託児所等）</li> <li>3 学生団体及び個人の課外活動支援（クラブ・サークル活動、キャンプ等）</li> <li>4 学生生活支援（相談業務、オリエンテーション、課外教育プログラム、遺失物対応等）</li> <li>5 学生生活に係る調査・統計資料作成*2</li> <li>6 大学の教育活動への協力依頼(入試業務、ハンドブック作成等)</li> <li>7 学生の保険加入及び異動管理*4</li> </ol>
キャリア支援	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 進路・就職支援等の相談</li> </ol>
情報・通信	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 V・Campus等各種情報サービスの提供</li> <li>2 学内コンピュータ施設利用時の利用者認証及び利用者に応じたログオン環境の提供</li> </ol>
財務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学費納付のための業務</li> <li>2 経理処理に必要な手続き（内容確認及び証憑書類としての照合）</li> <li>3 給与等の振込口座登録</li> </ol>
人事・福利厚生	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 勤務員の人事管理</li> <li>2 給与の支給等、税・社会保険納付、福利厚生</li> <li>3 各種調査・統計資料作成*2</li> <li>4 立教学院年金諸事務</li> </ol>
保健・診療	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 診療所における診療関連業務</li> <li>2 診療所における日本医師会が医療機関に定める個人情報の利用</li> <li>3 診療所における学生健康保険互助組合加入者が補助を受ける場合の学生健康保険互助組合への請求</li> <li>4 保健室における救急対応</li> <li>5 保健室における健康診断を含む健康相談等の健康管理</li> <li>6 保健室における利用者が立教学院診療所利用時において必要なサービスを受けるための連携業務</li> <li>7 保健室における他部署からの健康診断受診状況照会への回答</li> <li>8 保健室における他部署からの健康診断証明書発行可否照会への回答</li> </ol>
広報・発信	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 卒業後の本学及び校友会に関する情報提供*5</li> <li>2 保証人への季刊誌の送付</li> <li>3 保証人への教育懇談会開催通知</li> <li>4 寄付に関するお知らせの送付</li> </ol>

\*1 入学時に提出いただいた同意書に基づき、学生本人（大学院学生含む。以下同じ）の学修効果の確認、休学・復学・退学等の確認のため、大学に届け出ている保証人に、個人情報を提供します。ただし、満年齢が20歳に達した学生については、保証人への情報提供を行わない場合があります。情報の提供を希望しない学生は、教務関係窓口\*にその旨申し出てください。

\*2 統計資料の作成に際しては、個人情報が特定できない形で数値化等の加工をした上で行います。

\*3 学術上の調査・研究にかかわると判断できる場合で、当該情報が生存する個人の個人情報に関係しないと判断できるときは、教務部内規により故人の個人情報を開示することがあります。

\*4 保険加入に際し、学外機関への個人情報の提供が必要な場合は、学生本人にその旨をお知らせし、同意を得て行います。

\*5 大学を通じた校友会関係情報の送付については、在学時は教務関係窓口\*、卒業後は校友会関係窓口\*で変更することができます。

#### ※各窓口の担当部署

教務関係窓口…教務事務センター、独立研究科事務室、法務研究科事務室  
校友会関係窓口…渉外課



# 各種案内

- 1 教務部案内
- 2 パソコン教室, 貸出パソコン利用案内
- 3 V-Campus案内
- 4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置
- 5 地震発生時の心得
- 6 台風の接近が予想される場合の措置
- 7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応
- 8 緊急連絡システムについて





# 1 教務部案内

## 1. 教務部事務

教務部は、以下の事項を取り扱う。

- (1) 学籍の管理
- (2) 入学・休学・退学・卒業に関する事項
- (3) 授業に関する事項
  - ① クラス編成
  - ② 時間割の作成
  - ③ 教室配当
  - ④ 履修科目の登録
- (4) 試験及び学業成績に関する事項
- (5) 所管事項に関する文書の受信・発信
  - ① 保証人・国籍の変更、氏名変更、住所変更届等の受理
  - ② 学生証、在学・卒業・修了・成績等各種証明書、学割等の発行
- (6) その他教務事務に関する一切の事項  
 教務部では、業務を次のように分担している。
  - ① 教務事務センター（池袋キャンパス：タッカーホール1階、新座キャンパス：7号館1階）  
 学部学生、大学院学生の履修・授業・成績・試験・休学・退学に関する事項、保証人・国籍の変更、氏名変更・住所変更届に関する事項、学生証、通学定期乗車券発行控に関する事項、在学・卒業・修了・成績等の各種証明書の発行
  - ② 学校・社会教育講座事務室（池袋キャンパス：2号館1階、新座キャンパス：7号館1階）  
 学部学生、大学院学生の教職課程・学芸員課程・司書課程（司書教諭を含む）・社会教育主事課程関係の受講登録、履修・授業・試験・成績、各課程における実習・体験、各課程資格取得・申請に関する事項、各課程修了・単位修得等の各種証明書の発行
  - ③ 独立研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）  
 ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科（2015年度以前異文化コミュニケーション専攻入学者）、経済学研究科（社会人コース）の大学院学生の履修・授業、試験・成績、休学・退学、保証人・国籍の変更、氏名変更届、住所変更届に関する事項
  - ④ 法務研究科事務室（池袋キャンパス：11号館4階）  
 法務研究科の大学院学生の履修・授業、試験・成績に関する事項

証（学割証）、健康診断証明書の各証明書は、教務事務センター内の証明書発行機により即時発行。それ以外の証明書は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は、翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。

注1）調査書の作成には多少日数がかかる。出願先の所定用紙を持参のうえ、教務事務センター窓口へ申し出ること。

注2）健康診断証明書の発行について

1. 発行開始日：（4月入学者）2019年5月10日（金）  
 （9月入学者）2019年10月15日（火）

※それ以前の発行はできない。

2. 下記に該当する場合は発行はできない。
  - ・本学が実施した定期健康診断を受けていない。
  - ・定期健康診断時に未検の検査項目がある、また保健室から指示された再検査、診察などを受けていない。

注3）学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）は1年間に1人10枚まで、有効期間は発行日から3ヶ月である。

注4）博士課程後期課程の成績証明書、修了見込証明書が必要な場合は、教務事務センター窓口へ申し出ること。発行は翌日（翌日が窓口閉室日の場合は翌日以降の窓口開室日）の12：00以降。

また、博士課程後期課程の英文成績証明書は原則作成していない。

※証明書発行機での交付には学生証が必要である。

※上記以外の証明書が必要な場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

（注）学生氏名文字（漢字）について

学生証に記載されている学生氏名の文字（漢字）は、原則としてJIS規格の文字を使用し、在学中発行の諸証明書及び学位記、卒業後の諸証明書などの発行に用いる。JISに無い文字については、JIS準拠のものに改めるが、不都合がある場合は、所属キャンパスの教務事務センター窓口へ申し出ること。

## 2. 諸届・各種証明書の発行

- (1) 諸届  
 諸届とも教務事務センター窓口にて所定の届出用紙がある。  
 所属キャンパスの教務事務センターに提出すること。
  - ① 保証人変更届  
 保証書を添え、保証人連署・捺印の上届出ること。
  - ② 国籍変更（帰化）届  
 詳細は前記窓口でたずねること。
  - ③ 氏名変更届  
 住民基本台帳記載事項の証明書若しくはそれに代わるものを添え、届出ること。
  - ④ 住所変更届  
 本人または保証人の住所、電話番号、本人のメールアドレス、通学区間（最寄駅）を変更した場合に届出ること。
- (2) 各種証明書の発行

証明書の種類	和文料金	英文料金	発行にかかる日数
在学証明書	300円	400円	即時
卒業（見込）証明書			
修了（見込）証明書			
成績証明書			
調査書			注1
健康診断証明書		400円	注2
学割証 注3	無料		即時

在学、成績（注4）、卒業見込、修了見込（注4）、学校学生生徒旅客運賃割引

## 2 パソコン教室、貸出パソコン利用案内

### <パソコン教室の利用について>

立教大学では池袋・新座キャンパスにそれぞれ、パソコン教室があります。

授業で使用されていない時間は、自由な自習利用が可能です。

開室時間などについては、以下のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/room>

	池袋キャンパス	新座キャンパス
場所	8号館3F 8301, 8302, 8303, 8304 4F 8402, 8403, 8404 5F 8501, 8502, 8503, 8504 8505, 8506	8号館2F N821, N822, N823, N824 3F N831, N832, N833, N834, N835, N836
開室時間	月～金曜日：8：35～21：00 土曜日：8：35～17：00 日曜・祝日、そのほか本学の定めた休日は閉室です。 長期休暇中など開室時間が上記と異なる場合、以下のURLでお知らせします。 <a href="https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/calendar">https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/calendar</a>	
利用環境	<p>パソコン教室のパソコンを使うには、V-Campus IDとパスワードが必要です。 パソコン教室では、以下のようなことが行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページで情報を収集する</li> <li>・レポートやプレゼンテーション資料を作成する</li> <li>・授業支援システムを使って予習・復習・課題を提出する</li> <li>・Webメールを使用する</li> <li>・自分のホームページを作成する</li> <li>・ファイルやホームページを印刷する</li> <li>・作成したデータを保管する</li> </ul> <p>設置台数 <a href="https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/SitePages/list.aspx">https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/SitePages/list.aspx</a></p> <p>ソフト OS（日・英） Windows 10 Windows 8.1 アプリケーションソフト Microsoft Office（Word, Excel, PowerPointなど）をはじめ、授業で使用するアプリケーションソフトがインストールされています。教室ごとに異なりますので、詳しくは下記のURLにてご確認ください。 <a href="https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/application">https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/application</a></p>	

### <貸出パソコンについて>

立教大学では、教育・研究活動を支援するため、学生向けにノートパソコン等の貸し出しを行っています。

貸出期間は当日内です。貸出場所、貸出時間などについては、下記のURLから確認することができます。

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/mc/pc/SitePages/rental.aspx>

### 3 V-Campus案内

パソコンやインターネット、メールなどのITに関するサービスは「メディアセンター（池袋8号館4F、新座8号館2F）」で管理を行っています。詳しい情報は以下のホームページでご覧になることができます。

「立教大学V-Campusポータルサイト SPIRIT (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/>)」

#### V-Campus IDとパスワードについて

メールや学内PCを利用する際には、ID（学生番号）とパスワードが必要です。  
このIDを「V-Campus ID」と呼んでいます。

#### V-Campus IDで利用できるサービス

V-Campus IDは、授業やゼミのほか、各種の教務関連情報を確認するためにも利用します。

- ・パソコン、ネットワークの利用
  - 1) 学内パソコン（パソコン教室、ラーニングスペース）の利用
  - 2) 学内無線LANへの接続
- ・V-Campus
  - 1) SPIRIT（ポータルサイト）
  - 2) SPIRIT Gmail
  - 3) メールングリストの作成
  - 4) Blackboard（授業支援システム）
  - 5) V-Campusアカウント設定
  - 6) V-Campusホームディレクトリ
  - 7) V-Campusホームページ（FTP接続）
  - 8) V-Campus Web設定
- ・英語教材
  - 1) Rikkyo English Online（REO）
  - 2) ALC NetAcademy
  - 3) 英語ディスカッション
- ・Eラーニング
  - 1) Blackboardセルフラーニング
- ・図書館関連
  - 1) MyLibrary
- ・教務関連
  - 1) 履修登録状況の確認
  - 2) 履修登録／成績参照システム
  - 3) 全学共通カリキュラム英語副専攻用Web
  - 4) 休講情報（自宅からの閲覧時）
- ・学修・キャリア支援
  - 1) 立教時間
- ・その他
  - 1) 学内イントラネットへのアクセス
  - 2) Mobile V-Campusの利用登録
  - 3) SPIRIT Mobile


#### V-Campus IDとパスワードの発行

入学時に学生証と一緒に配付しています。それ以外の方も、パソコン教室のカウンターで学生証を提示することで即時発行を行なっています。

V-Campus IDはさまざまな場面で利用されるものですから、パスワードの扱いは十分に注意してください。詳しくは立教大学 V-Campusポータルサイト SPIRITをご覧ください。

#### <このほかのパスワード>

上記のほか、f-Campus科目登録を利用する際には、別のパスワードが必要となります。

f-Campus科目登録  <http://www.f-campus.org/>

## 4 大規模地震の警戒宣言が発令された場合の措置

大学は、大規模な地震の発生が予想され、大規模地震対策特別措置法に基づき地震防災対策強化地域判定会の招集が確認された場合には、授業を休講とし、次の措置をとります。

1. 在宅中および通学途中の者は、登校を中止してください。
2. 在学中の者は、大学からの連絡及び指示に従ってください。
3. 警戒宣言解除後の授業の再開については、以下のとおりとします。
  - (1) 警戒宣言が午前5時までに解除された場合は、平常どおり授業を行います。
  - (2) 警戒宣言が午前9時までに解除された場合は、午前中の授業を休講と

し、午後からの授業を行います。

- (3) 警戒宣言が午前9時までに解除されない場合は、当日の授業を全日休講とします。なお、全日休講の場合は、大学の諸業務（窓口業務を含む）を行いません。

注：地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条1項に規定する地震防災対策強化地域に係る大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって招集される判定会をいう。

## 5 地震発生時の心得

建物は大きな地震にも耐えられる構造となっています。震災が発生した場合は次の事項に注意し、安全確認したうえで冷静に避難してください。

1. 地震が起きたら、すぐに外へ飛び出すことは危険です。慌てず指示があるまで教室内で待機するとともに、頭上からの落下物等に対して、頭を守る等の対応をして下さい。
  - ・机の下などに身を伏せ、しばらく様子を見て下さい。
  - ・固定してない机の下に身を隠す場合は、机の足をしっかり握ってください。
  - ・頭上からの落下物（蛍光灯・窓ガラスなど）に注意し、上着その他のもので頭をおおってください。
2. 火災により被害は倍増します。初期消火にできるだけ協力してください。

3. 避難の際は、ブロック塀の倒壊や商店の看板落下などに特に注意してください。

4. 本学院の小・中・高校生も同時に避難することになりますので、避難・救出に協力し、安全地帯を早く確認してください。
5. 交通機関の不通により、帰宅できないときは、本学の避難場所に於て、状況の判明するまで待機してください。
6. 本学の避難場所は建物内および構内空地（瓦やガラスなどの落下物に注意）です。
7. 学内の非常放送により連絡することもありますので注意してください。
8. 教職員や消防士などの指示に従ってください。

## 6 台風の接近が予想される場合の措置

台風の接近等により、授業を平常どおり行うことができないと判断された場合は、休講などの特別措置をとります。特別措置の内容については、掲示、ホームページ等または電話で確認してください。

[立教大学ホームページ](http://www.rikkyo.ac.jp/)

<http://www.rikkyo.ac.jp/>

[立教大学 Twitter](https://www.twitter.com/rikkyouniv)

<https://www.twitter.com/rikkyouniv>

[立教大学公式Facebookページ](https://www.facebook.com/RikkyoUniversity)

<https://www.facebook.com/RikkyoUniversity>

- \* 試験期間についても前記と同様の措置をとることがあります。
- \* 大学の窓口業務、諸施設の利用については、ホームページおよび掲示でお知らせします。

## 7 授業中にJアラートが作動した場合（弾道ミサイル発射時）の対応

授業中のキャンパスが警戒対象となった場合、身の安全確保を第一に行動してください。なお、大学からは避難行動等の混乱による事故防止を主目的として、直ちに一斉放送を行います。

なお、放送時間は、池袋キャンパス・新座キャンパス共に、①授業期間中の月～土及び祝日授業日は8：30～22：00、②休日及び休業期間中は8：30～19：00とします。

《参考》

内閣官房国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogo.go.jp/>

## 8 緊急連絡システムについて

### 1. 緊急連絡システム

(※本システムは本学学生および専任教職員を対象としています。)

緊急連絡システムとは、大規模地震が発生した際に、大学から自動的にみなさんの携帯電話等のメールアドレス宛てにメールを送信し、みなさんの安否を確認するシステムです。送信する宛先は、入学時または履修登録時に届け出ていただいたアドレスですが、在学中に変更した場合は、必ず教務関係窓口（教務事務センター〈池袋〉、教務事務センター〈新座〉、独立研究科事務室、セカンドステージ大学事務室）に届け出てください（教職員は人事部人事課に届け出てください）。

なお、この緊急連絡システムが正常に機能するかを確認するために、年1～2回のテストを実施します。

また、この緊急連絡システムを利用して、緊急時の全学休講など重要なお知らせをすることもあります。

### 2. 連絡方法

大規模地震が発生したら、次のいずれかの方法で安否の状況を大学に報告してください（下図参照）。

#### 携帯電話等が使用可能な場合

みなさんの携帯電話等に送られてきた大学からのメールに返信してください。

#### 携帯電話等が使用できない場合

- キャンパス内または周辺にいる場合……

防災のしおりの巻末にある「安否確認カード」を池袋キャンパス警備室、新座キャンパス門衛所に設置された「安否確認投入箱」に投函してください。

- キャンパス外にいる場合……

下記の「大規模災害時の大学内主要連絡先」に電話連絡してください（郵送も可）。

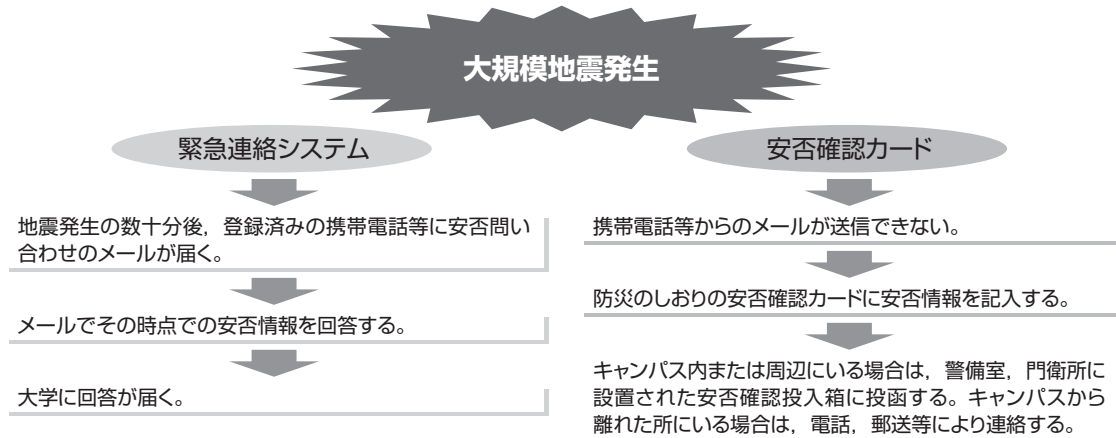
池袋キャンパス 東京都豊島区西池袋3-34-1

総務部総務課……………03-3985-2253  
学生部……………03-3985-2437  
警備室（24時間）……………03-3985-2288

新座キャンパス 埼玉県新座市北野1-2-26

総務部（新座）……………048-471-6674  
学生部……………048-471-6673  
新座キャンパス門衛所（24時間）……………048-471-6600

### 安否確認方法の流れ



#### 【災害時伝言板サービス】

携帯電話各社では「災害時伝言板サービス」の利用ができます。災害発生時に家族との連絡がとれるように準備しておくことをお勧めします。

※利用についての詳細は各社のホームページをご覧ください。

※毎月1日や防災週間等に体験版の利用ができます。

- NTT docomo

<https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>

- au

<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengen/>

- SoftBank

<http://www.softbank.jp/mobile/service/dengen/>

- Y!mobile

<http://www.ymobile.jp/service/dengen/>





# 教 員 一 覧

文学部担当専任教員一覧

## 文学部担当専任教員一覧（氏名アルファベット順）

○印は兼任者（研究室の欄には所属学部が表示されている）

文 学 部 長				西原 廉太（キリスト教学科）
<b>キリスト教学科（学科長：加藤 磨珠枝）</b>				
	氏名	研究室	電子メールアドレス	
	准教授 阿 部 善 彦	ロイドホール5階		
	教 授 長谷川 修 一	ロイドホール5階	shasegawa@rikkyo.ac.jp	
	教 授 廣 石 望	ロイドホール5階		
	教 授 加 藤 磨珠枝	ロイドホール5階	katomas@rikkyo.ac.jp	
	准教授 加 藤 喜 之	ロイドホール5階		
	教 授 西 原 廉 太	ロイドホール5階	renta@rikkyo.ac.jp	
	教 授 S H A W, S.	ロイドホール5階	shaw@rikkyo.ac.jp	
	教 授 SONNTAG, M. (2019年度春学期研究休暇)	ロイドホール5階	msonntag@rikkyo.ac.jp	
	教 授 梅 澤 弓 子 (2019年度秋学期研究休暇)	ロイドホール5階		
<b>文学科 英米文学専修（専修主任：藤巻 明）</b>				
	氏名	研究室	電子メールアドレス	
	特任教授 未 定	ロイドホール5階		
	教 授 藤 巻 明	ロイドホール6階	fujimaki@rikkyo.ac.jp	
	准教授 古 井 義 昭	ロイドホール6階		
	教 授 岩 田 美 喜	ロイドホール6階	mikiwata@rikkyo.ac.jp	
	教 授 唐 澤 一 友 (2019年度海外研究)	ロイドホール6階		
	教 授 小 山 太 一	ロイドホール6階	koyamataichi@rikkyo.ac.jp	
	助 教 中 村 麻 美	ロイドホール5階		
	教 授 新 田 啓 子	ロイドホール6階	knitta@rikkyo.ac.jp	
	助 教 小 椋 道 晃	ロイドホール5階		
	教 授 澤 入 要 仁	ロイドホール6階	ysawairi@rikkyo.ac.jp	
	准教授 YATES, M.H.	ロイドホール6階	yates@rikkyo.ac.jp	
	教 授 舌 津 智 之 (2019年度秋学期海外研究)	ロイドホール6階	zetsu@rikkyo.ac.jp	
<b>文学科 ドイツ文学専修（専修主任：坂本 貴志／井出 万秀）</b>				
	氏名	研究室	電子メールアドレス	
	助 教 馬 場 浩 平	ロイドホール6階		
	准教授 古 矢 晋 一	ロイドホール6階		
	教 授 井 出 万 秀	ロイドホール6階		
	教 授 前 田 良 三	ロイドホール6階		
	助 教 松 原 文	ロイドホール5階		
	教 授 坂 本 貴 志 (2019年度秋学期研究休暇)	ロイドホール6階		
	助 教 W E I S S, D.	ロイドホール6階		
<b>文学科 フランス文学専修（専修主任：坂本 浩也）</b>				
	氏名	研究室	電子メールアドレス	
	助 教 MANGIN, A.	ロイドホール5階	a-mangin@rikkyo.ac.jp	
	教 授 桑 瀬 章 二 郎	ロイドホール6階	skuwase@rikkyo.ac.jp	
	教 授 坂 本 浩 也	ロイドホール6階	h_sakamoto@rikkyo.ac.jp	
	教 授 澤 田 直 (2019年度海外研究)	ロイドホール6階	naosawada@rikkyo.ac.jp	

	教授	菅谷 憲興	ロイドホール6階	norio kis@rikkyo.ac.jp
	教授	横山 安由美	ロイドホール6階	ayumiy@rikkyo.ac.jp
<b>文学科 日本文学専修 (専修主任：水谷 隆之)</b>				
		氏名	研究室	電子メールアドレス
	准教授	平井 吾門	ロイドホール7階	
	助教	平澤 卓也	ロイドホール5階	
	教授	井野 葉子	ロイドホール7階	
	教授	石川 巧	ロイドホール7階	takumi@rikkyo.ac.jp
	教授	金子 明雄	ロイドホール7階	
	教授	加藤 睦 (2019年度研究休暇)	ロイドホール7階	mukato@rikkyo.ac.jp
	特任教授	川崎 賢子	ロイドホール5階	
	教授	水谷 隆之	ロイドホール7階	
	教授	鈴木 彰 (2019年度秋学期研究休暇)	ロイドホール7階	
<b>文学科 文芸・思想専修 (専修主任：菅野 聡美)</b>				
		氏名	研究室	電子メールアドレス
	准教授	福嶋 亮大	ロイドホール5階	r_fukushima@rikkyo.ac.jp
	教授	林 文孝	ロイドホール7階	fumitaka@rikkyo.ac.jp
	教授	林 みどり (2019年度秋学期研究休暇)	ロイドホール7階	green@rikkyo.ac.jp
	教授	菅野 聡美	ロイドホール7階	skanno@rikkyo.ac.jp
	准教授	大熊 玄	マキムホール5階	okuma-g@rikkyo.ac.jp
	教授	佐々木 一也	ロイドホール7階	sasaki@rikkyo.ac.jp
<b>史学科 (学科長：浦野 聡)</b>				
		氏名	研究室	電子メールアドレス
	教授	深津 行徳	ロイドホール7階	fukatsu@rikkyo.ac.jp
	教授	後藤 雅知 (2019年度春学期研究休暇)	ロイドホール7階	mgoto@rikkyo.ac.jp
	准教授	橋本 栄莉	ロイドホール6階	ehashimo715@rikkyo.ac.jp
	特任准教授	井出 匠	ロイドホール5階	idetak1976@gmail.com
	特任教授	木村 直也	ロイドホール5階	kimuran@rikkyo.ac.jp
	准教授	高林 陽展	ロイドホール7階	atakabayashi@rikkyo.ac.jp
	教授	丸山 浩明 (2019年度秋学期研究休暇)	ロイドホール6階	maruru@rikkyo.ac.jp
	教授	松原 宏之	ロイドホール7階	hiro-m@rikkyo.ac.jp
	教授	野中 健一	ロイドホール6階	nonaka@rikkyo.ac.jp
	教授	沼尻 晃伸	ロイドホール7階	numajiri@rikkyo.ac.jp
	教授	小野沢 あかね (2019年度秋学期研究休暇)	ロイドホール7階	nozawa@rikkyo.ac.jp
	教授	小澤 実	ロイドホール7階	m-ozawa@rikkyo.ac.jp
	准教授	佐藤 雄基	ロイドホール7階	yuki-sato@rikkyo.ac.jp
	教授	上田 信 (2019年度春学期研究休暇)	ロイドホール7階	ueda@rikkyo.ac.jp
	教授	浦野 聡	ロイドホール7階	uran@rikkyo.ac.jp
	教授	山下 王世 (2019年度春学期研究休暇)	ロイドホール6階	kim.yy@rikkyo.ac.jp
	准教授	四日市 康博	ロイドホール7階	yokka71@gmail.com

○印は兼任者（研究室の欄には所属学部が表示されている）

教育学科（学科長：伊藤 実歩子）			
	氏名	研究室	電子メールアドレス
	特任教授 秋 葉 まり子	ロイドホール5階	
	教授 秋 葉 昌 樹	ロイドホール5階	
	教授 有 本 真 紀	ロイドホール5階	arimaki@rikkyo.ac.jp
	教授 市 川 誠	ロイドホール5階	makorin@rikkyo.ac.jp
	教授 石 黒 広 昭	ロイドホール5階	ishiguro@rikkyo.ac.jp
	教授 伊 藤 実歩子	ロイドホール5階	m-ito@rikkyo.ac.jp
	教授 河 野 哲 也	ロイドホール5階	tetsuyakono@rikkyo.ac.jp
	特任教授 黒 澤 俊 二	ロイドホール5階	
	教授 前 田 一 男	ロイドホール5階	kmaeda@rikkyo.ac.jp
	特任教授 大 嶋 彰	ロイドホール5階	
○	教授 安 松 幹 展	コミュニティ福祉学部	
	准教授 和 田 悠 (2019年度研究休暇)	ロイドホール5階	yuwada@rikkyo.ac.jp
	准教授 渡 辺 哲 男 (2019年度研究休暇)	ロイドホール5階	watanabe-t@rikkyo.ac.jp

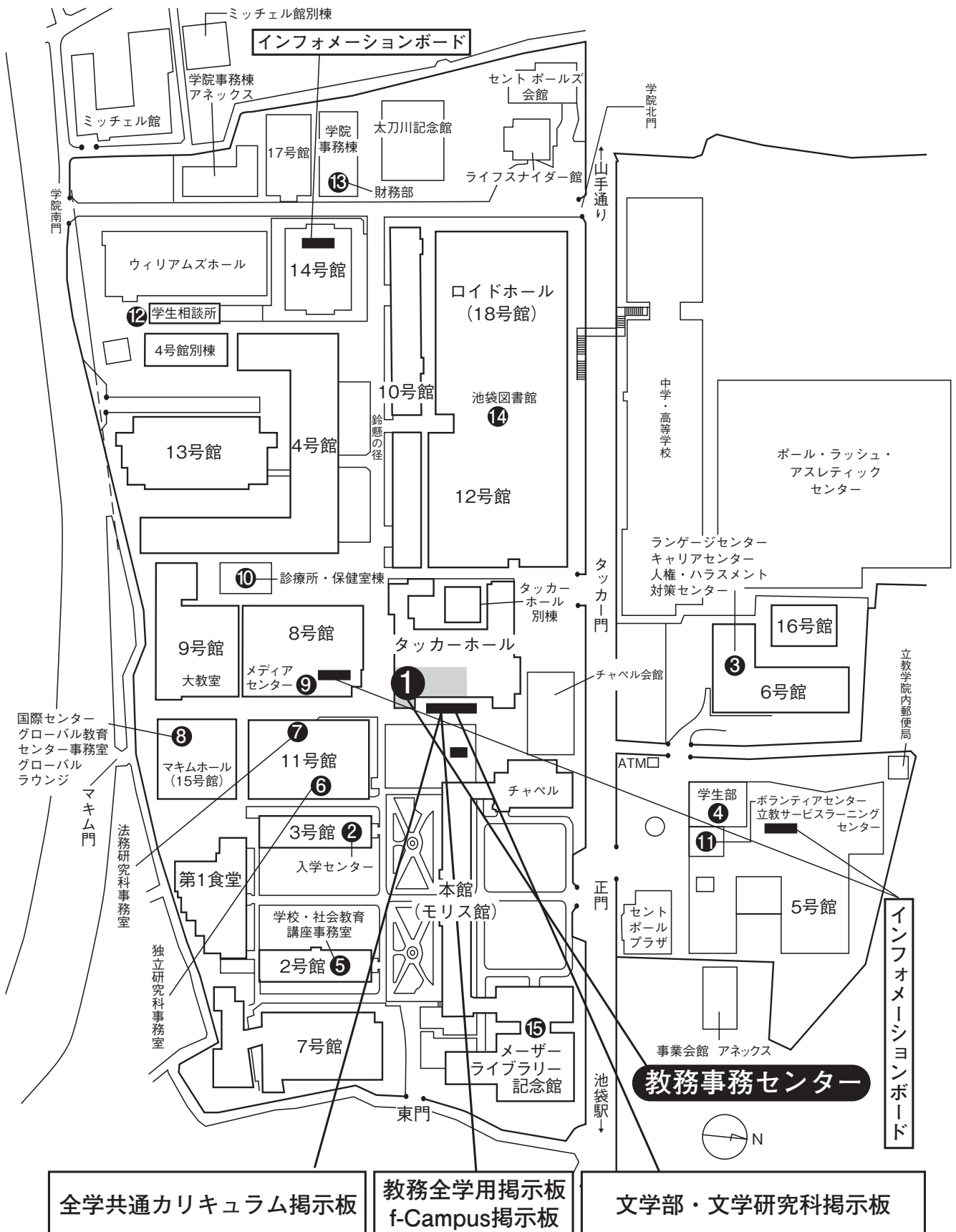
# 案内図

構内案内図・教室案内図  
(池袋キャンパス)

構内案内図・交通案内図・教室案内図  
(新座キャンパス)



# 池袋キャンパス構内案内図

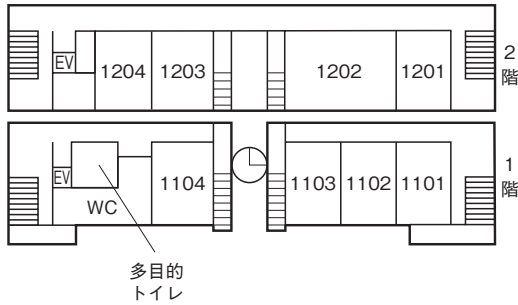


案内図



# 池袋キャンパス教室案内図

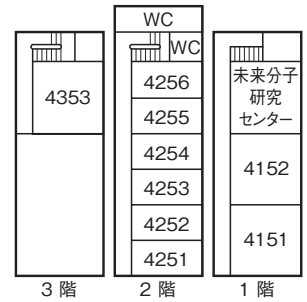
## 本館



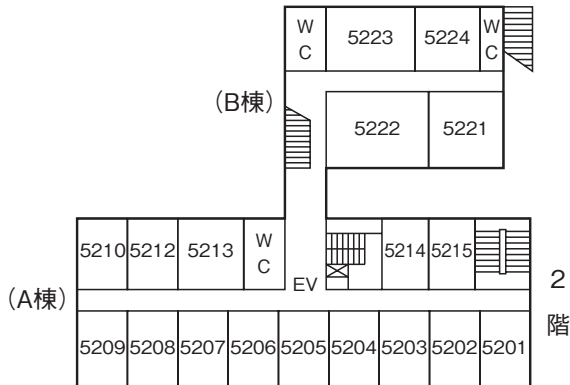
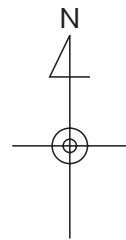
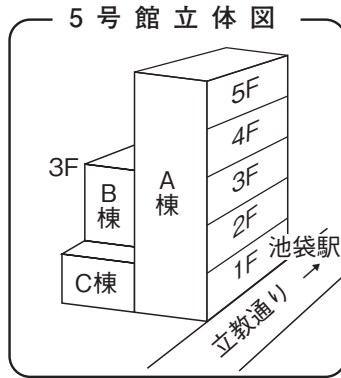
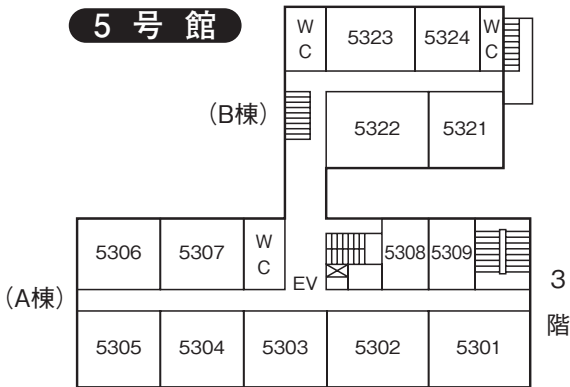
## 4号館



## 4号館別棟



## 5号館



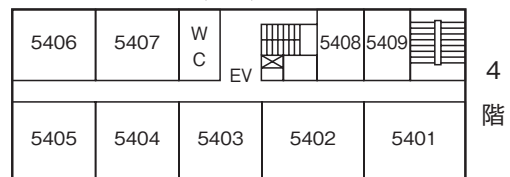
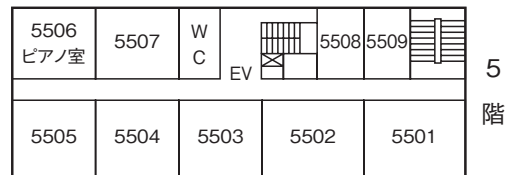
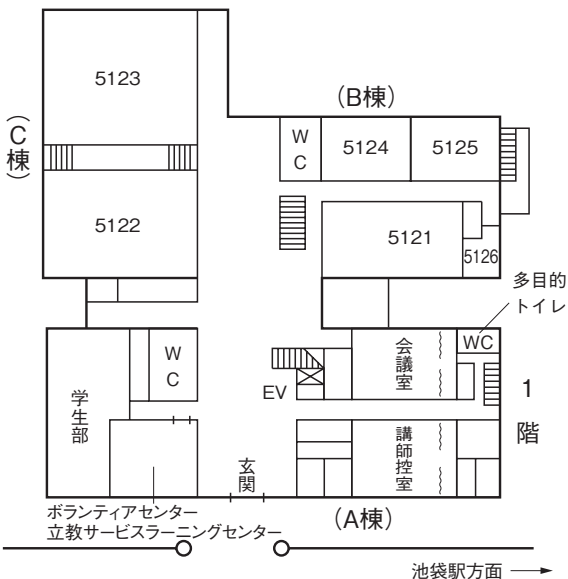
## 教室番号の見方



号館を示す。ただし 1…本館  
X…10号館  
A…11号館  
D…14号館  
M…マキムホール (15号館)  
S…事業会館 アネックス  
P…ポール・ラッシュ・アスレティックセンター  
(例……5323→5号館3階B棟)

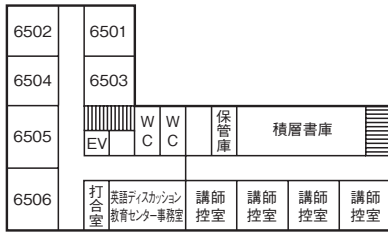
階を示す。

その階の東南隅の教室を01として右廻りの順に番号を与える。  
5号館 B棟 C棟について20番台で表示する。

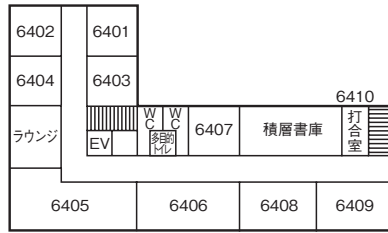


## 6号館

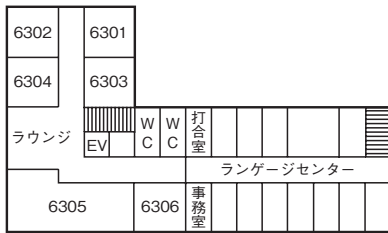
5階



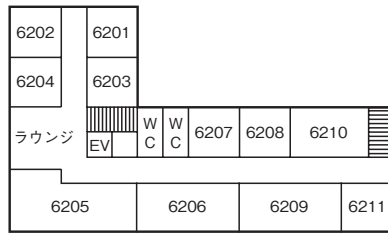
4階



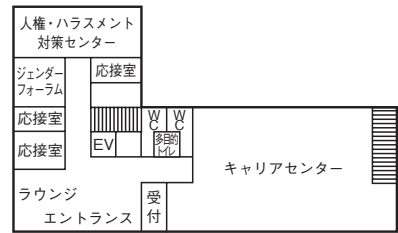
3階



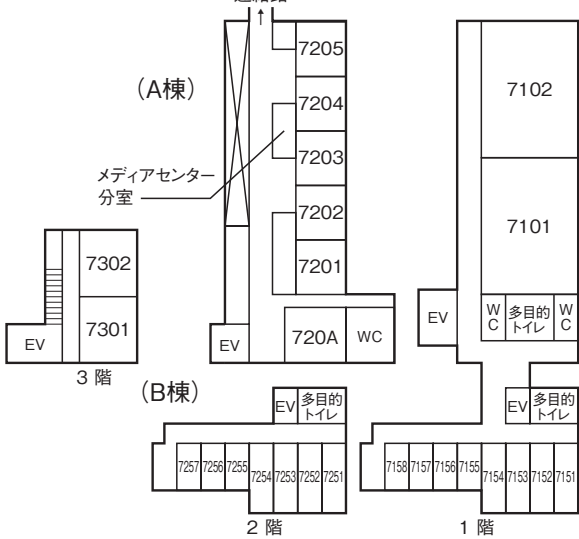
2階



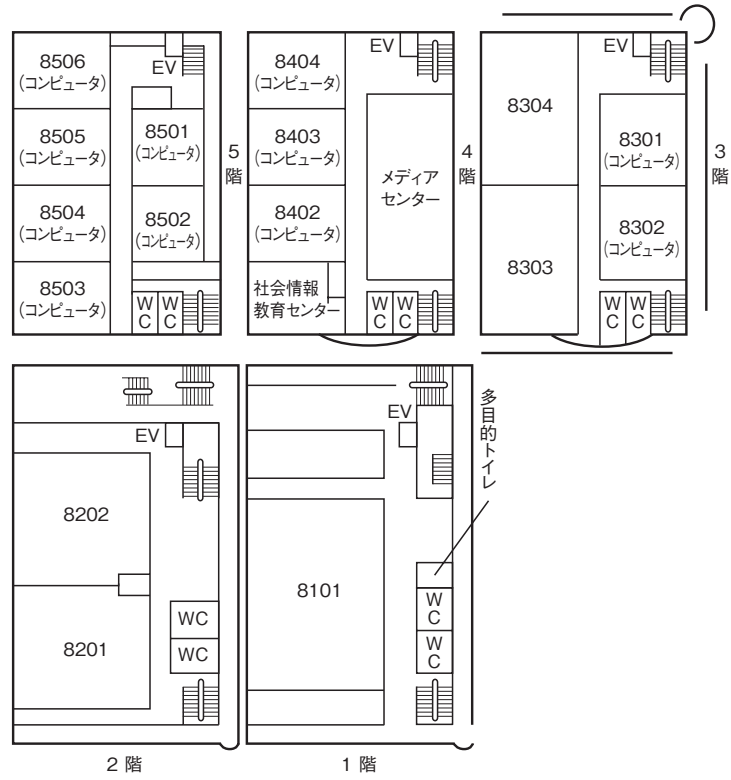
1階

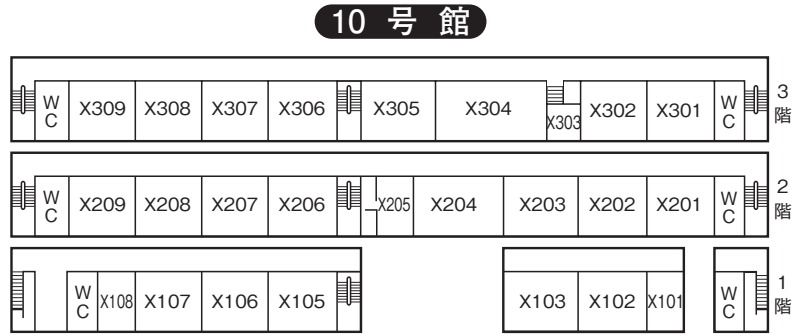
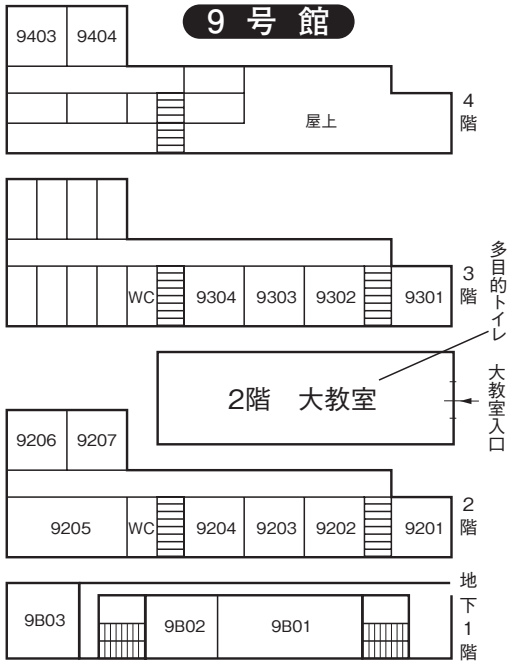


## 7号館

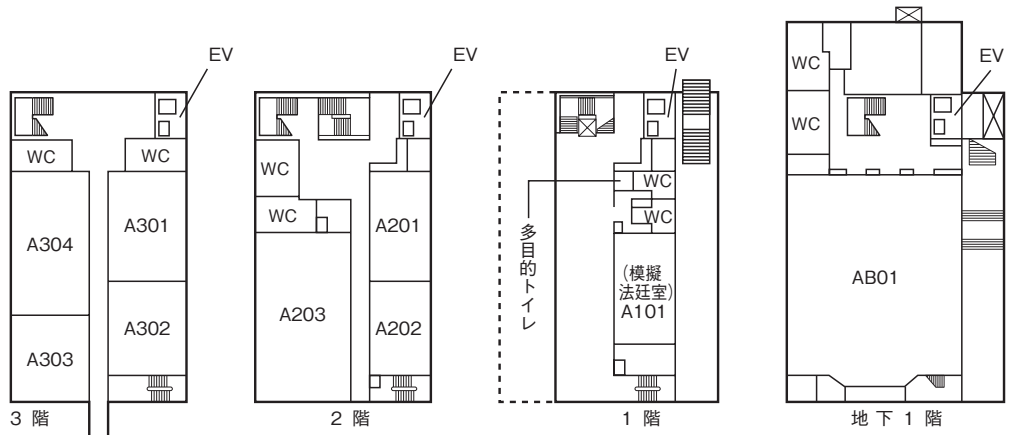


## 8号館

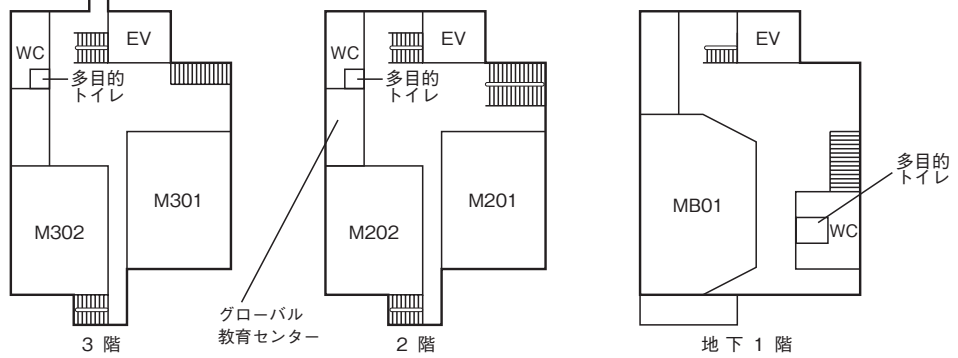




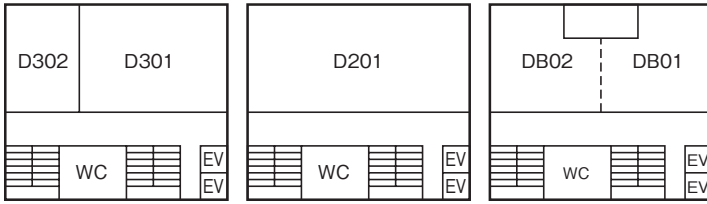
### 11号館



### マキムホール (15号館)



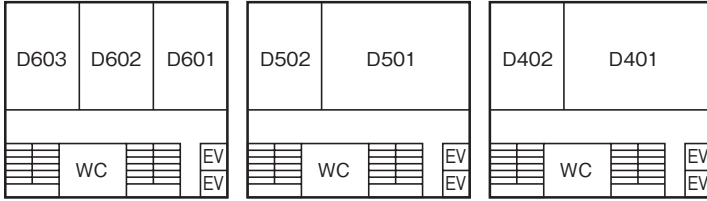
## 14号館



3階

2階

地下1階

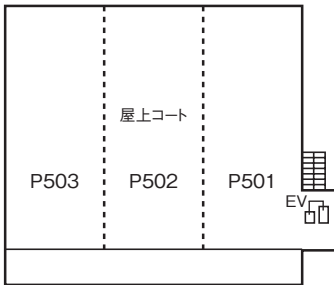


6階

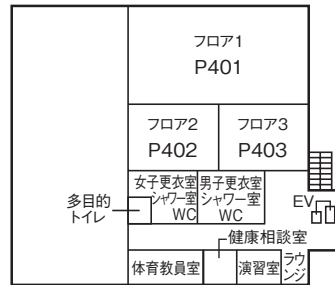
5階

4階

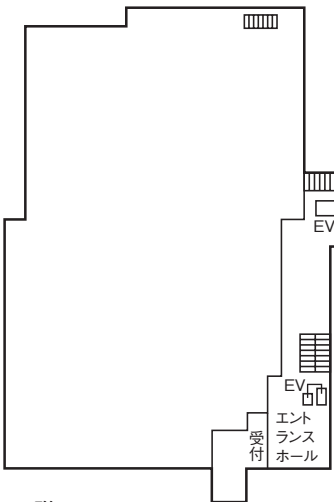
## ポール・ラッシュ・アスレティックセンター



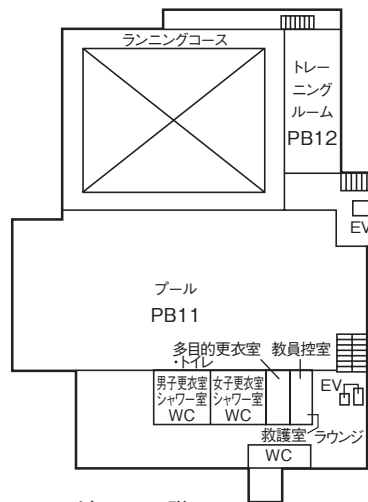
5階



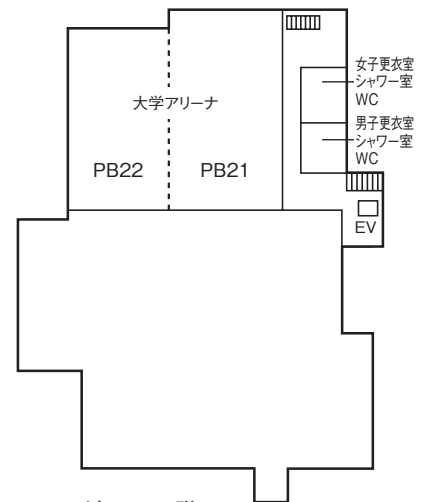
4階



1階



地下1階



地下2階



# 新座キャンパス教室案内図

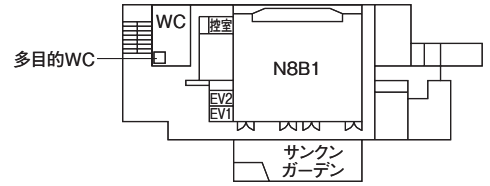
## 教室番号の見方



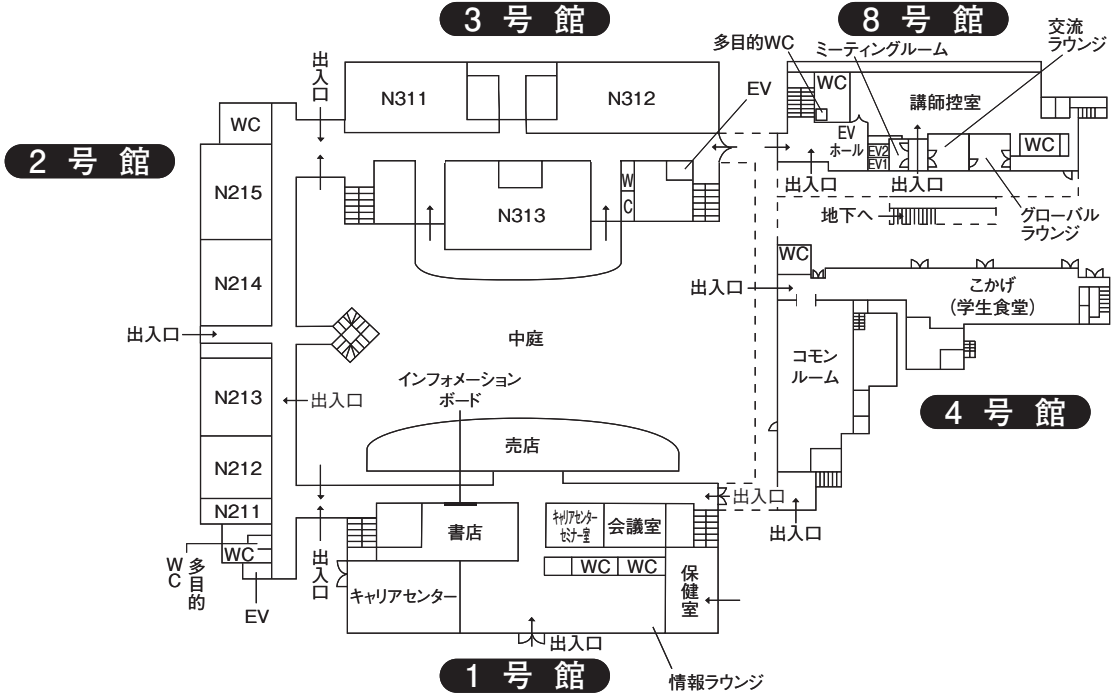
Nは新座を示す。階 番号  
号館  
※ただしTは体育館を示す。

## 地下1階

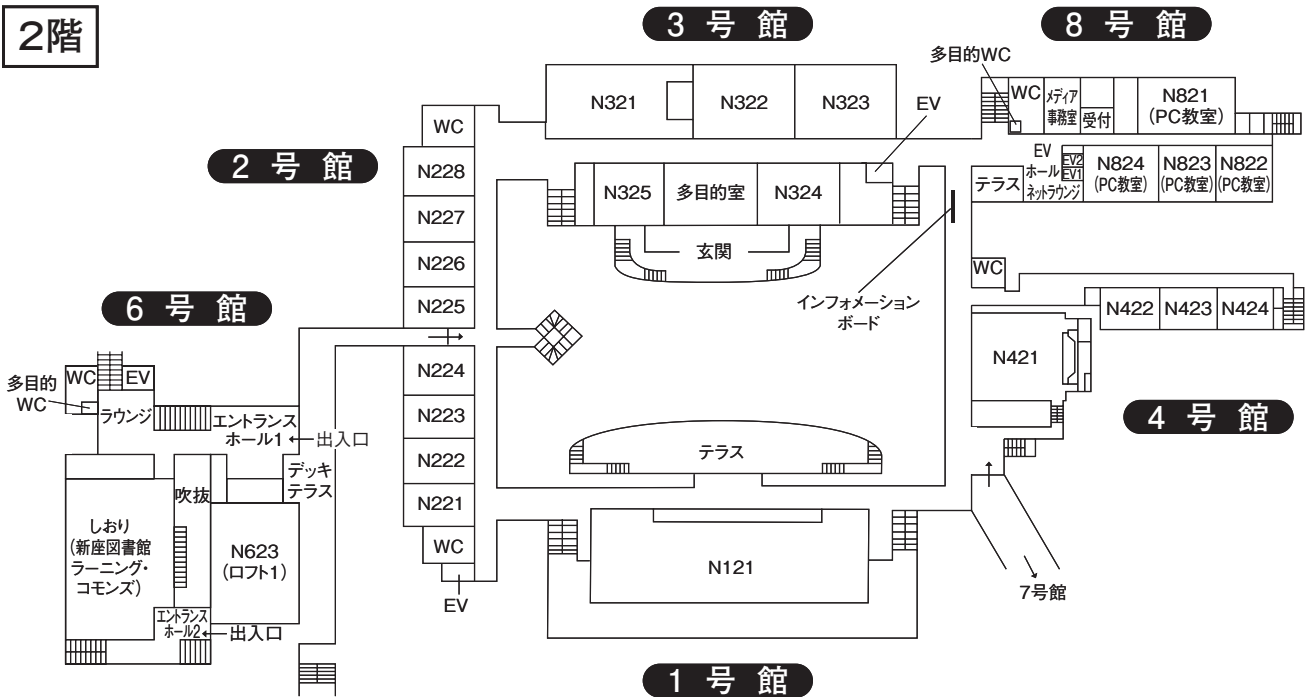
### 8号館



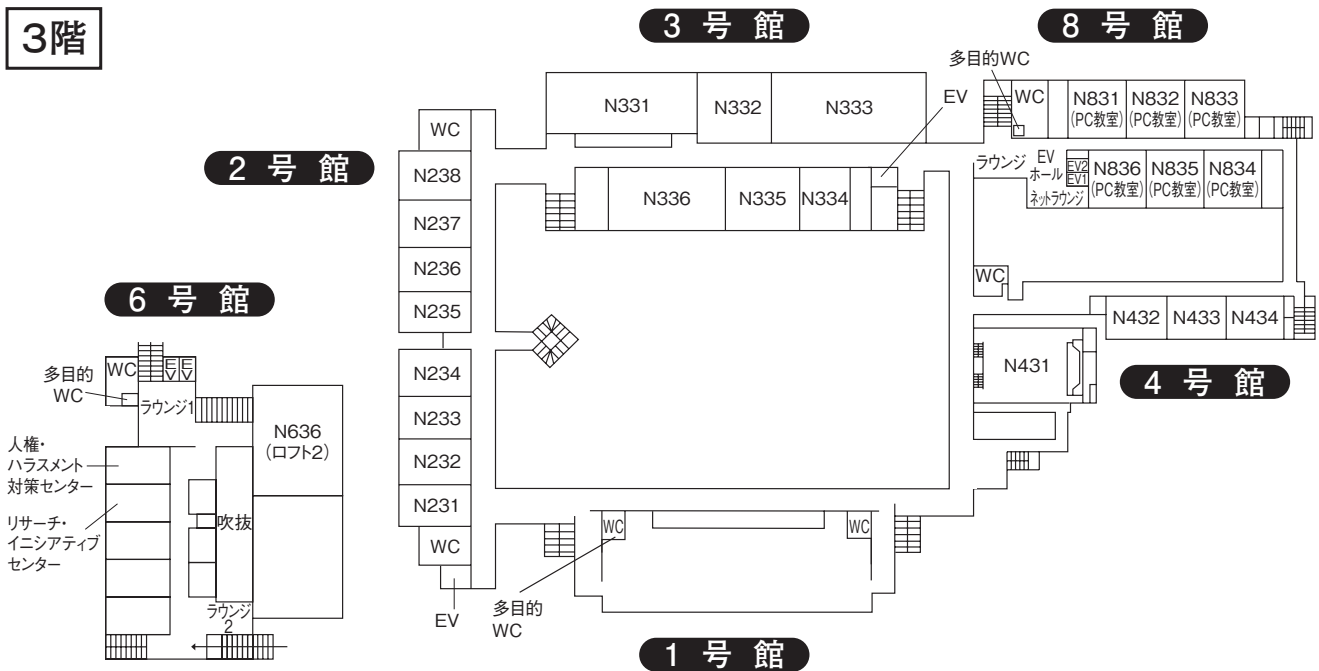
## 1階



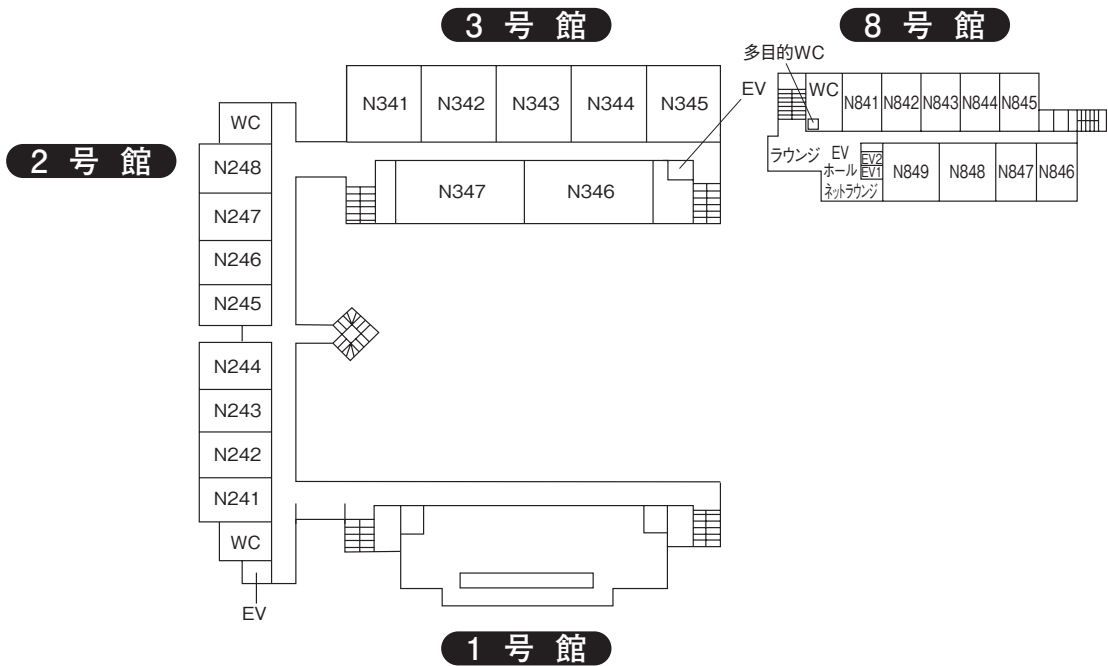
## 2階



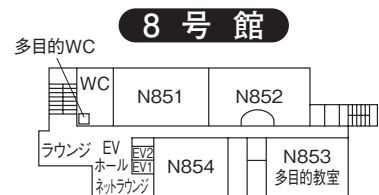
3階



4階



5階







**こんなときは** 黒丸の数字は☞池袋キャンパス構内案内図上の位置を示す

学籍事項（住所・電話番号・保証人・氏名等）に変更があった	教務事務センター（タッカーホール1階）①
奨学金を受けたい	学生部奨学金担当（5号館1階）④ 国際センター（マキムホール1階）⑧
落し物をした	メーザーライブラリー記念館（新館1階）⑮
学内で盗難にあった	学生部（5号館1階）④
進路・就職・インターンシップについて相談したい	キャリアセンター（6号館1階）③
転部・転科について知りたい 立教大学大学院への進学について知りたい	入学センター（3号館1階）②
学内でからだの具合が悪くなった	保健室・診療所⑩
大学での活動中にけがをした（学生健保・学研災の手続き等）	学生部福利厚生担当（5号館1階）④
パソコンやメールを使いたい	メディアセンター（8号館4階）⑨
学校・社会教育の資格を取得するには	学校・社会教育講座事務室（2号館1階）⑤
こまったとき、悩んだときは	学生相談所⑫
ハラスメントについて悩んだときは	人権・ハラスメント対策センター（6号館1階）③
学費について知りたい	財務部経理課（立教学院事務棟1階）⑬
留学制度について知りたい	国際センター（マキムホール1階）⑧
図書館を利用したい *シラバスに記載の参考書等は、原則として図書館で利用できる。	池袋図書館（12号館・ロイドホール）⑭

---

2019年4月

**立 教 大 学 文 学 部**

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1  
立教大学池袋キャンパス教務事務センター  
☎03-3985-2220



学生番号

---

氏 名

---

履修要項は再交付しないので保管に注意すること